

# 広島弁護士会沿革誌

(6) 昭和戦前編・下

広島修道大学「明治期の法と裁判」研究会

増田修

## 目次

- 一 はじめに
- 二 広島弁護士会の沿革
- 三 広島弁護士会の活動（以上、「修道法学」第三四卷第二号）
- 四 広島控訴院管内弁護士大会（「修道法学」第三五卷第二号）
- 五 司法官全国弁護士会長会同（以下、「修道法学」第三六卷第二号）
- 六 おわりに
- 1 「広島弁護士会沿革誌」編集の経緯
- 2 「増田修著作目録」
- (1) 古代史関係著作目録
- (2) 法律関係著作目録

## 五 司法官全国弁護士会長会同

明治三二（一八九九）年五月一日、全国の控訴院長、検事長、地方裁判所長、検事正を司法省に招致して会議を開いたのが、全国司法官会同の最初であろう（「司法沿革誌」一八七頁）。

日本弁護士協会は、司法部長官と弁護士会代表者とが、意思疎通を図り司法事務の円滑な発展を期するために、両者の会同を求めてきたが、大正一五（一九二六）年に至って、江木翼司法大臣は、初めて弁護士会長を同年度の全国司法官会同に招致した。それ以後、弁護士会長と司法部長官との合同協議会は、昭和一八（一九四三）年度まで継続した。

当初は、合同協議会において諮問された、陪審法の宣伝や実施準備が実際に法曹三者の協力の下に行われたり、昭和三二（一九二

八）年四月からは法曹三者間で各地方裁判所管内に法曹協議会が設立されて、裁判事務の改善進歩を図るために協定を締結するなどとして、期待を持たれた。

しかし、昭和八（一九三三）年四月には、「年々此の司法官、弁護士会長会共に附議せらるる協議事項、或は申合事項は極めて喫緊適切なるもので、司法事務の円滑なる促進発達に欠ぐべからざるものではあるが、弁護士側の希望や提出事項の中、果して幾部分が実現されたるやの跡を観るときは、思ひ半ばに過ぐるものがありはしないか。……希望事項として採択せられたるものがある場合には、之を慎重考究して、之が実現を期することが、会同一の目的でなければならぬ。又、会同協議事項にしても、司法省から協議事項として示されたものに対して、弁護士側の答申は極めて適切なものがあるに拘らず、其の内容が裁判所側に徹底しない為か、折角司法省よりの諮問に対して答申したものとさへも、実行されて居ないものすらあるとの声を聞くのである。」……、「其の実

績に徴するとき、数年後の今日では、ただ年中行事の一に過ぎざるの感を世人をして抱かしむるに至った」という（社長・主幹水野豊「司法官弁護士会長会共に就て」・「新報」昭和八・四・二五）。

そこで、弁護士会長側は、「従来の会共に於て既に提出したる事項は、其の実現に努力せられたきこと、就中左記事項は速に実行せられたし」という申入れを毎年したが、昭和一四（一九三九）年五月に至つても、「これら夥多の案件中、司法当局の採択したるものは、寥々暁天の星の如きであるは、吾人をして痛く失望を感じしむるものである。」という状況にあつた（法律新報社長・主幹森眞一郎「社説 司法部会同に対する要望」・「新報」昭和一四・五・二五）。

そして、昭和一二（一九三七）年七月七日、蘆溝橋事件を発端として日中戦争（注、支那事変）が勃発してからは、司法官弁護士会長会同は、戦争遂行のため銃後の治安を守る機能の一端を担つていたのである。

年度	司法省 諮問 事項	
大15	第一 陪審制度ノ宣伝其他実施準備ノ方法	
	第二 改正民事訴訟法ノ実施及運用ニ関スル希望如何	
	第三 期日ノ開始ヲ正確ニシテ訴訟手続ヲ遲滞ナカラシムル為メ採ル可キ方策	
昭2	第一 証人ニ関スル左ノ諸項ニ付改善ノ方策如何	
	一 証人義務ノ理解、一 証人ノ待遇、一 証人ニ対スル訊問ノ方法	

	第二 司法事務ノ改善進歩ヲ図ル為メ各地方ニ判検事及弁護士ノ協議会ヲ設クルノ可否
3	第一 陪審事件ノ公判準備手續ノ好果ヲ収ムルノ方策如何 第二 陪審事件ニ付弁護士ノ重複弁論ヲ避クル方策如何 第三 陪審事件ニ於テ弁護士カ証人ヲ公判期日ニ同行スルノ可否
4	一 準備手續並口頭弁論ニ於ケル審理ヲ迅速円滑ナラシムル為裁判所ト弁護士トノ協力ヲ必要トスル事項如何
5	一 改正民事訴訟法実施ノ実績ニ徴シ更ニ裁判所ト弁護士ト協力ヲ必要トスル事項如何
6	第一 前回ノ司法官弁護士合同協議会後ニ於ケル民事訴訟ノ成績ニ徴シテ改正法ノ精神ヲ徹底セシムル為ノ裁判所ト弁護士ト更ニ協力スヘキ事項如何 第二 民事裁判ノ執行ヲ確保スルニ就キ考慮スヘキ事項如何
7	第一 民事訴訟ノ現状ニ鑑ミ改善スヘキ点如何 第二 刑事事件ヲ迅速ニ終結セシムル方策如何
8	一 各地ノ判検事及弁護士協議会ノ実績ヲ挙クルニ付キ考慮スヘキ事項如何
9	一 弁護士試験補習制度ノ実施ニ付予メ考慮シ置クヘキ事項如何
10	一 改正弁護士法ノ施行ニ付予メ考慮シ置クヘキ事項如何
11	一 新弁護士法ノ施行ニ当リ裁判所、検事局ト弁護士会ト協力スヘキ事項如何
12	一 弁護士試験補習ノ経験ニ徴シ考慮スヘキ事項如何
13	一 遵法週間ノ実績ニ鑑ミ司法ニ関スル理解及協力ヲ増進スルニ付更ニ考慮スヘキ点如何
14	一 弁護士試験補習ヲシテ訴訟ニ関与セシムルノ可否並ニ若之ヲ可トスルモノトセハ其ノ限度如何
15	一 現下ノ時局ニ鑑ミ訴訟審理ノ促進ヲ図ル為考慮スヘキ事項如何
16	一 弁護士制度ノ改正ニ付考慮スヘキ事項如何

17	一 大東亜戦争下ニ於テ違法精神昂揚ノ必要一層緊切ナルモノアリト認ム之ニ付考慮スヘキ事項如何
18	一 現下重大時局ニ於テ弁護士制度ノ運用ニ付考慮スヘキ事項如何

（注1） 弁護士会長は司法省の諮問事項に対する答申の外に、希望事項を提出して協議を求めた。

（注2） 昭和一九年度は、臨時司法官会同が昭和一九年二月二八日同二九日に亘り、司法大臣官邸に於て開催されたが、弁護士会長は招致されなかった。

この会同では、同年二月二五日閣議決定された「決戦非常措置要項」の一項目である「裁判檢察の迅速化」を図るための協議がなされた（「新聞」昭和一九・三・五）。

## 大正一五（一九二六）年

①司法官弁護士会長合同協議会（「公論」第三〇巻第五号、大正一五年五月号）

我が日本弁護士協会多年の主張たる

司法官と弁護士代表者の会同

——江本法相初めて之を試み我が司法発達史を飾る——

我日本弁護士協会が長年主張し來つた、司法官と弁護士代表者の会同は、去月末から司法省に於て行はれた、大正十五年度司法官会議の第二日目、即ち同廿九日九時から、江本法相に依つて始めて試みられた。この会合は、独り日本弁護士協会の主唱許りでなく、全国の各弁護士会の希望するところであつたから、一度江本法相の名に依つて招集状が発せられるや、鳥取、那覇を除くの外、悉く司法省管轄区域の弁護士会長がこれに応ずることになった。

その列席諸君は、実に左の五十一名で、始めての試みとしては大成功である。

（東京）岸井辰雄（第一東京）副会長堀江專一郎、（第二東京）仁井田益太郎、（横浜）安村竹松、（浦和）畑義三、（千葉）杉山彌太郎、（水戸）中尾義幹、（宇都宮）佐久間渡、（前橋）伊藤昌春、（静岡）樫葉彦三郎、（甲府）中西松、（長野）小島相陽、（新潟）松井郡治、（京都）尾崎保、（大阪）川崎齋一郎、（神戸）副会長濱野徹太郎、（奈良）磯田桑三郎、（大津）山本福丸、（和歌山）山本佐一郎、（徳島）高津住胤、（高松）河西善太郎、（高知）大西正幹、（名古屋）齋藤最、（安濃津）貝増萬壽吉、（岐阜）森川玉三郎、（福井）彦坂矩雄、（金沢）廣瀬嘉一、（富山）深井龍太郎、（広島）副会長井上博、（山口）岡本勳治、（岡山）岡本佐市、（松江）大脇熊雄、（松山）仙波良太郎、（長崎）陣内惣三郎、（佐賀）船津常六、（福岡）三好彌六、（大分）大野貞雄、（熊本）小山令之、（鹿児島）竹崎季榮、（宮崎）河野清次郎、（仙台）村松山壽、（福島）湊芳藏、（山形）佐藤治三郎、（盛岡）萱場精一

郎、(秋田) 介川龍太郎、(青森) 川口榮之進、(函館) 高橋文五郎、(札幌) 濱田和三郎、(旭川) 峰末銀次郎、(釧路) 竹中多美造、(樺太) 竹本正業

#### ○法相の招待晩餐會

會議は廿九日であるが、江木法相はその前日即ち廿八日午後五時から、司法官と共に上野精養軒に招待してあったので、早きは廿五日頃からそれぐく上京し、招待会当日には殆んど顔が揃ひ、こゝに始めて多年の懸案であった司法官と弁護士との代表者が一堂に会するの歴史の場合が展開されたのである。定刻となるや、いの一番に駆けつけたのは、東京弁護士会長岸井辰雄君で、さすがはお膝下だけはある。それから少し遅れて、主人の江木法相が何時になき上機嫌で臨場したときは、朝野法曹のお歴々が殆ど全部星の如く参集してゐた。

斯くて、余興として典山の講談、旭樞の筑前琵琶などの余興があつて、一般の興趣をそゝつた。これが終ると食堂が開かれ、江木法相を正面に、和氣霽々裡に食事がすゝみ、デザートコースに入り、江木法相は起つて一場の挨拶を試みた。その要旨は、廿九日の会同当日の演述と殆んど大同小異であるから、こゝに紹介することは省略する。兎に角、最初の試みとしては、前記の如く二ヶ所の代表を除くその他、悉く参集されたので、法相余程の御機嫌で、挨拶中堪えず微笑を含み感激の態であつた。

斯くて、司法官側の代表者として広島控訴院長高橋文之助君の挨拶に次いで、弁護士側代表者の挨拶となつたが、各代表者は東

京の代表者にやつて貰ひ度いといふ議があり、抽籤の結果第二東京の仁井田博士謝辞を述べ、それから有志の演述に移つた。神戸弁護士会の副会長濱野徹太郎君は、「……今日の如く、司法官と弁護士の代表者が一堂の下に会する様になつたのは、司法機關の機能を發揮して、その運用を完全ならしむる為にあるとは云へ、その根本義が和衷協調にある。然るに、御膝下の東京の弁護士会は立法手段を弄して、会の分裂を來したのみか、事毎に鬭争し、役員選挙に際しても云々。」と、痛いところを刺さんと試みたが、これに対し東京弁護士会長岸井辰雄君は、「濱野氏の御説は、一応御尤もの様であるが、それは過去の事に属し、今日では我が東京弁護士会は和衷協調を旨としてゐる。現に私は、本日の役員選挙に立合つて來たのであるが、協調の結果会長副会長とも抽籤にすることに決し、次年度の会長には横山勝太郎君、副会長に上村進、山口直両君がなつた様な次第である。役員選挙然り、図書館の開放、暴力取締法案、民事訴訟法等の重大法案についても研究審議、之が修正意見を提出した結果、多くこれを採用されるが如きは、全く会内の和衷協調の賜物であらねばならぬ。」と述べ、次いで「第一」の堀江副会長の分裂に関する弁解等があり、意義ある司法大臣招待会は、九時過ぎ盛會裡に終つた。

#### ○会同当日の法相訓示

廿九日は、司法官會議の二日目である。此日こそは、實際に現行法を適用する司法官と弁護士の代表者が一堂の下に参集しての聯合協議会であるから、会場は何となく異常の緊張味を帯び、厳

肅の氣が溢れてゐる。定刻九時となるや、江木法相は左の如く演述した。

本日司法官の会同に際し、弁護士会を代表せる各位の参列を請ひ、朝野の法曹と一堂に相会するの機会を得たるは、余の深く欣幸とする所なり。

一、司法の職司は、非違を匡正し權利を確保し、国家の安寧と民生の慶福とを全ふるに在りて、其の公正適実は行はるると否とは個人の利害に関すること大なるは勿論、延いて国家の隆替に關す。此の職に在る者、深く其の重責に鑑み、至誠を以て其の使命を全せんことを期せざるべからず。

抑も、司法の実責を挙げんには、其の途固より一ならずと雖、司法の各機關協同一致して、之が目的の遂行に努力するを喫緊の要事とす。思ふに、判事検事弁護士の三者は、職に朝野の別あり又其の司る処各々其の趣を異にするものありと雖、司法機關として司法の運用に参与するに至りては、即ち一なり。此の三者相互に善く理解して、各其機能を發揮し、始めて善く司法の運用を全うすることを得るものなり。余は、夙に此の点に付き感ずる所あり、就任以来機会ある毎に、在京朝野の法曹と相会し意見の交換を為す所ありしが、之に因り裨益する所頗る大なるものあり。今回司法官会同を開催するに方り、特に弁護士会を代表せる各位の参列を請ひたる所以も、畢竟此の意に外ならず。惟ふに、司法の事務は、将来倍々繁雜を加ふるに至るべく、此の職に在る者の責任一層重大なりと謂ふべし。各位曩くは、余の意の存する所を諒とせられ、同心戮力し以て司法の改善向上を図り、之が威信を發揚することに尽力せられんことを。

一、弁護士法は、明治二十六年の制定に係り、時代の進運に適應せざる所

頗る多く、之が改正の議は夙に一般の与論たり。此に於て、当局は曩に朝野の法曹を集め、弁護士法改正委員会を設け之に改正の議を付し、今尚ほ同委員会に於て審議を継続せり。而して、同法改正の精神は、弁護士制度を改善し、司法機關として十分に其の機能を發揮せしめんとするに在り。惟ふに、弁護士の職司とする所は、毎に訴訟に關与して、一面には民人の權利の保護伸張を図り、他面に於ては司法權の行使を適正ならしめ、以て國務の遂行を円滑ならしむるに在り、其の職務の重且大なることは言を俟たざる所なり。故に其の地位に在るの人は、常に品位の向上を計り學識の増進に務め、以て国家の期待に背かざるの覺悟あるを要す。制度の改正を要望するの本旨亦之に外ならず。各位は、深く思を茲に致されんことを望む。

一、陪審法は、近く施行せられんとす。本法実施の曉に於ては、國民は司法手続に参与するの重責を負うに至るを以て、之が施行に先だち、善く予め國民を訓練して、同法の大意に通曉せしめ其の職責の重大なることを自覺せしめ、以て本法の成果を収むることに務めざるべからず。各位は互に協力して、國民の指導誘掖に尽力せられんことを望む。

一、今次民事訴訟法の改正成り、茲に吾国法典の改正略は全きを告ぐるを得たるは、慶賀に堪へざる所なり。而して、之が実施の曉に於て、能く所期の成果を収め得るや否やは、各位の努力に待つ所多きを以て、予め其の實施に關し各位と隔意なき意見の交換を為し、其の施行に際し万違算なきを期せんと欲す。

一、民事訴訟法の今次の改正に引続き、当局に於ては執行手続に關する法規の改正に著手せんとす。而して、執行手続に關する法規に付ては欠陥甚

だ多く、実際の運用上亦遺憾の点尠なからざるを以て、其の改正は一日を忽にするを許さず。各位は過般当局より提出の諮問に対し、此の實際業務上の経験に基き改正意見を可成速に答申せられん事を望む。

一、刑事訴訟法に於て、公判準備手続を設けたる所以は、公判の取調に付必要な関係人を召喚し、証拠の準備保全の爲適當なる処分を爲す等公判に於ける準備を整へ、以て公判手続の進行を敏活ならしめ、其の渋滞を防がんとするに在り、是れ同法改正の一要目なり。殊に陪審に於て、準備手続の欠くべからざること、既に各位の熟知せらるるところなり。而して、其の運用宜を得るには、弁護士各位の眞摯なる協力に俟たざるべからざるもの多きは言を須たす。客年既に訴訟促進に関しては、各位の考慮を煩すところありたるも、今や陪審法実施の期近からんとするに当り、特に重ねて各位の留意を請はんとす。

#### ○愈々聯合協議に入る

右終つて、林次官からも陪審制度に関し、即ち、一 陪審法実施の時期、二 実施に関する計画の概要、三 陪審事件の予想、判検事の増員、四 陪審法廷及陪審員領所の建造、五 陪審法の宣伝、の各項目に亘つて順次説明して、更に民事訴訟法につきても同法実施の時期、改正の要目及其運用に関する説明を爲して議題の参考に供し、現行司法制度開設以来の朝野法曹代表者の聯合協議会となつた。何しろ今回は始めての試みであり、如何なる程度まで審議してよろしきや鳥渡見当がつかぬが、兎に角目前に迫つた而も両者との交渉深き問題を捉へて協議することになった。

即ち

一、陪審制度の宣伝其他実施準備の方法

二、改正民事訴訟法の実施及運用に関する希望如何

三、期日の開始を正確にして、訴訟手続を遅滞ならしむる爲め、採る可き方策

の三項である。

江木法相議長席につき、先づ陪審制度の宣伝その他の実施の方法から審議に入り、東京の岸井、神戸の濱崎君等から希望や意見が出たが、その大要は、「原則的に即時実行しなければならぬことは、市町村長が名簿を作つて有資格者を決定するといふことになつてゐるが、司法当局はそれまでに市町村長に対し陪審法に関する一定の訓示を爲すと同時に諸般の注意を發して貰ひ度い。而して、その際は弁護士会からも出席した方が陪審法の精神に適合しはせぬか、又その訓示は陪審法の目標である即ち裁判に一般人民が参与するのは国民の権利であるといふ根本義を教へて貰ひ度いのである。」といふにあつた。

此時正午になつたので、午餐会を開き、大臣の挨拶、仁井田第二東京会長の答辞があり食堂閉ち、午後一時過ぎ再び協議に入り、民事訴訟法の実施及び運用に関する希望につき附議す。

今回の訴訟法は、期日変更の申立は第一回は之を許すが、第二回以後は許すとも許さぬとも明記して居ないが、申立てに依り第二回以後と雖もこれを許すや、と司法当局の意見を求めると、相

当の理由を疎明すれば、第一回以後とも之を許す方針である。

次いで、弁論事項の準備につき意見が出た後、弁護士会長側より、従来の例に依れば、偽証たることは歴然と分つてゐるにも拘はず、之を告発した例は少ないとて、偽証に対する制裁を嚴重にする様希望し、判決の遅延問題となつて、結局書記に奏任待遇者を置き、昇進の途を開くも一策ではなきやとの提案があつた。

そして、更に東京の岸井会長は、何れにしても、今日の如く訴訟事務を渋滞せしめては、如何に法律だけを改正しても何にもならぬ、これに携る人員を倍加すると同時に、その庁舎も倍加しなければならぬと建議し、時間勵行の問題に移る。これには、横浜、京都、広島等各地の弁護士会長の意見が出て、高橋広島控訴院長のこれに関する過去の失敗談などがあつて、和氣鶴々の中にも会場何となく緊張したが、最後に弁護士会長の会同は毎年勵行する事を申合せ、此処に予想以上の好結果を告げ、司法官と全国弁護士代表者との聯合協議会を終つたのは夕景であつた。

(注1) これに続く「全国弁護士代表者を招待し、歌舞伎座で支那劇を観る 日本弁護士協会と東京弁護士会が主催」は省略した。

(注2) 司法官弁護士代表会同に提供された参考資料「暴力行為等処罰に関する法律釈義、小作調停法概要、小作調停法事件調査表、小作争議に関する民事訴訟事件調査票」(「公論」第三〇巻第六号、大正一五年六月号)を参照されたい。

## ②司法官弁護士会長合同協議会(正義) 大正一五年六月号

司法官弁護士会長会議の状況

○大正十五年四月二十八日上野精養軒に於ける江木法相の招宴  
大正十五年四月二十八日より、司法省に於て開催せらるゝ、年次司法官會議に際し、本年は新例を作り、全国弁護士会長をも招集せられたり。但し、弁護士会長は、二日目なる二十九日だけ會議に參列したるのみ。

右會議の初日、二十八日に午後六時上野精養軒に於て、司法大臣招待に応じ司法官弁護士会長參集し、一、二弁護士会長(鳥取、那覇)の欠席を除き全部の出席あり。典山の講談、旭穰の筑前琵琶等の余興ありて、食堂を開きデザートコースに入りて、江木法相より左の趣旨の挨拶ありたり。

今夕は、今回合同の在朝法曹と今年始めて企たる明日招集の在野法曹とを一堂に會して、談話を交換する為め招きたる処、北は樺太、南は台灣、東は釧路、西に關東州に至る迄、我國家權力の及ぶ限の地方より來會せられ、又在野法曹は咄嗟の招集なるに殆んど残らず會同せられたること、主催者として非常なる光榮とする所に於て、又始めてのこと故、無限の欣幸を感ず次第なり。朝野法曹の合同の多年の希望なりしに、今年始めて之が實現を見たるは欣喜措く能はざる所なり。

惟ふに、判事檢事弁護士は、其職能に於て異なるも、司法權に参加し公益私權の保護に任するの目的に至ては其揆を一にし、三者均しく裁判所構成法が司法權行使の要件とする所なるに、從來公席に會同せざりしは、

寧ろ不可思議とせざるを得ず。今や始めて、此に会同し得たるを以て、協力同心司法権擁護なる共同の目的を達成することを図るは勿論なるが、共助緊密となり各司法部形成の一部分なることを念頭に置いて進むときは、一般より受くる批評芳しからざれば、共同の責任として辱を雪ぎ、之に反し一般に對し名譽を揚ぐれば、共同の名譽として共に之を誇ると云ふが如き、利害意思の共通ありて始めて、目的を達成することを得るに至るべし。朝野両方面の法曹、幸と微意を諒として協力あらんことを望む。

右に對し、高橋名古屋控訴院長は、左の趣旨の答辭を述べ。

今夕は、会同員一同法相の懇招を蒙り、在朝司法官一同を代表して謝辭を述べんとす。今回は、在朝法曹のみならず、在野法曹の首腦者を招集し、司法事務の打合を爲し懇談の機会を与へられたるは、我司法権の爲め欣喜に堪へず。以前在野法曹よりの希望もあり、在朝法曹は多年斯かる機会を待ち居りたるも行はれず、訴訟進行等に付ても任地に於ては打合会規約等を作り協調を図り来りしも、素より一地域限のことにして、全体を打て一丸となし、統一せらるることなかりしを遺憾とせり。然るに、今や有力なる大臣を迎ふると同時に、此宿題の解決に着手せられたるは、誠に感謝に堪へず。

近くは民事訴訟法も發布せられ、陪審法も遠からず行はるべく、朝野一致の必要大なり。此度の企は、誠に時宜に適應するものにして、一同は之を欣快とすると同時に、有意義に導くべく努力せんことを欲するものなり。

次に感謝すべきは、此度司法官待遇改善と司法研究の道を開かれたることとなり。此事独り司法官の爲のみならず、司法権向上の爲の一大企画と

して感謝措く能はず。近年民間法曹よりも、司法官待遇改善に付忠言あり、漸次此機運を作るに至りしならんも、財政緊肅の際此目的の爲め資を得られたる法相の骨折に對しては、謹謝に堪へず。加之司法官の素質と學術の改善の爲めの尽力は、未だ其類例を見ざる所なり。

吾々も帰任の上、職員を集め趣旨を伝へ、法相の誠意に答へ、他日の実行の準備をなさんことを誓ふ。

次に、仁井田益太郎博士は、在野法曹を代表して左の趣旨の答辭を述べ。

今夕は、吾々が在野法曹も御招待を受け、斯く迄鄭重なる響應に預り、物質的のみならず精神上の御欲待に對し、深く感謝する所なり。吾々弁護士会長の招集は、多年の希望なりしに、此に始めて其実現を見、之に對し如何に感銘したるかは、殆んど全部出席したることに依りても証拠十分なりと思料す。

今吾々の希望を一言せんとす、希望の一は、司法官の待遇改善に外ならず。法相は其一方法として増俸案を提出され、僅少ながら主義は貫かれたり。然れども、尚ほ之に満足せず、次にも之を提げて奮闘せられ度し、此叫は独り内部のみならず外部にもあり、實に天下の声なり。次の希望は、弁護士階級の爲に司法官権に對し、弁護士の利益をも考慮せられ度しと云ふにあり。實は、決して不平を懷くにはあらず、弁護士は単に之を圧迫するを以て足ると思料せらる、ことは、素より是なかるべきも、真に欲の上の欲として、斯く思料せられざんことを切望するものなり。

弁護士は、司法権に関与する者なり、待遇に付考慮を払はれ居るべきは

勿論なるべし。唯、弁護士は善からぬ者なりと思料せらるゝことなく、善き者なれども、其上尚ほも善かれと願ふの念慮を有せられん事を望んで止まざるなり。終に臨んで、今夕の物質的、精神的の厚き待遇を深謝する次第なり。

右終りて三、四のテーブルスピーチあり、一同歡を尽くして散会す。

○同年四月二十九日司法省に於ける協議會

翌四月二十九日午前九時半、司法省に於て弁護士會長參加の司法官會議を開き、劈頭江木法相より左（注、省略）の通り挨拶あり。

次に、林司法次官登壇、左の趣旨の演述をなせり。

只今大臣の演述中、民事訴訟法の改正に付、隔意なき意見の交換をなし、運用上遺憾なきを期すとあり、又陪審法に付、予め國民を訓練して、司法の大意に通曉せしめ云々とあり、一は民事、一は刑事なれども、共に訴訟手続の一大變革にして、司法部に取り重大なる問題なり。而して、此兩者に付十分の成績を挙ぐるには、朝野法曹の一大努力を要するは勿論なり。余は此機會に於て、実施に関する当局の大体の計画を略述せん。

陪審法は、大正十七年より実施する予定にて計画を進めつゝ、あり、之が爲めには、大正十六年中に陪審員の選定、名簿調製の手續を取らざる可らず、故に結局大正十六年より其一部を実施さるゝこととなるなり、又選任は、区裁判所判事の監督の下に、市町村長之を爲すものにして、其実行も既に間近に迫りたるものと

云ふべきを以て、区裁判所判事を指導し監督上遺憾なからしめんことを望む。

陪審法を大正十七年より施行せんが爲めには、種々なる準備を要するが故、一応之を説述すべし。本省に於ては、此事務に従事する爲め、專任書記官二名を置き、之に附屬員を配置し、諸般の調査計画を立つ。其一是、陪審裁判事件数の想定なり、法定陪審裁判事件は、從來の統計上稍想定し易く、一ヶ年約千三百七十一と見れば大差なかるべきも、請求による陪審裁判事件は、甚だ想定に苦しむ、併し此種事件の一ヶ年の統計平均數二千七百三十七件なるを以て、其約七割即千九百十六件と見れば蓋し大なる誤りなかるべく、合計一ヶ年三千二、三百件となる。其二是、此事件数を基礎とする建築に関する問題なり。大体の計画は、地方裁判所本庁のみに於て此制度を行ふものとして、庁舎の改造を計画せり。元來陪審制度は、直接審理を徹底せしむるものなれば、証人の數も自然多かるべし。陪審員は十二人にして、之が評議室を要し、一日一件を終るを原則とするも、事件に依りては或は數日に亘ることもあるべく、其間陪審員の交通遮斷を必要とするを以て、裁判所構内に宿舍を設けざる可らず。法律施行前全国に通じて此設備を爲すが爲めには、本年度より着手し、來年完成せざる可らず。其三是、職員増加なり。陪審裁判は、直接審理を旨とし、裁判長の説示、陪審員の評議等の新手續あり、弁論も從來のものに異なるを以て、一日多數の進行を期し難く、今日の職員數にては到

底不足するを免れず、増員は必然の数なり。従て、多数の司法官を採用せざる可らず。蓋し、弁護士の方面よりも採用するに至るべし。其四は、見学予習なり。陪審制度は、日本にては最初の試みにして、之が運用には深き攻究を要す。欧州にては、各国とも之を行ひつゝあるも、其内容は必ずしも一ならず。我国に於ては、欧州に例を見ざる制度手続を認めたるも、国民が司法権に参与するの精神は一なり。故に、彼国の運用の状況を視察見学するは、好個の参考資料たるを失はず。仍て、毎年或数の人を派遣し、視察見学に当らしめつゝあり、又弁護士の視察希望者に囑託したる者もあり、既に詳細なる報告書を提出したる人もあり。其五は、国民周知の方法なり。陪審制度の運用は、独り判事検事弁護士の銳意攻究に待つべきのみならず、国民一般が能く其精神と手続の大意に通じ、陪審員の任務責任を了解するにあらざれば、或は大弊を醸さん。故に、国民周知の方法を採るは、準備中の最重要事なり。是我国に於ける始めての制度なるが爲にして、又我國の如き制度に対して特に然るなり。蓋し、我国陪審員選任の方法は、欧州に於て見る所の銓衡主義に依らず、抽籤主義に依ることとしたる所以は、銓衡者の色彩傾向が自然に被銓衡者に伝染せしことを恐れたるが爲なり。既に抽籤主義を取る以上は、広く陪審の精神を鼓吹し、一般に徹底せしめ置くの要極めて大なるは論を俟たず。現に、本省は簡單平易なる出版物を配付し、新聞雜誌に記事掲載せしめ、国民の耳目に触しむることに努力しつつありと

雖ども、尚は実效ある方法を講ぜんことを欲するが故に、地方の事情に通ずる民間の法曹の意を承ることを得ば幸甚なり。

次に、改正民事訴訟法の実施に關して一言せん。

改正民事訴訟法実施の時期は、未定なれども、大体大正十七年頃なるべしと史料す。今次の改正は、民事訴訟法根本原則の改正なり。民事訴訟法は、手続法なるを以て、其效果は直ちに現実に顕はる。局に當る者、実施に先ち相當の攻究を遂げ置かざる可らず。

改正法を実施し、改正の趣旨を達するには、朝野法曹の協調を最も必要とす。一、二の事例を挙げれば、準備手続、弁論期日變更に關する規定の如き是なり。抑も、今次改正の趣旨は、現時の病弊たる手続の遅延を救済し、務めて直接審理の実を挙げ、裁判の適正を図るにあり。之が爲め最も重要なものは、即ち準備手続なり。然るに、此手続は、審理を促進し、準備を完全に行はざるときは、却て弊害を醸すべし。即ち、審理遅々たるときは、裁判所の構成變り屢々更新を要し、現実証拠調に關与せる判事が裁判を爲すこと却て稀となり、直接審理は有名無実に期すべし。而して、適當なる運用に依り、改正の実效を挙ぐるは、一に朝野法曹の協調に待たざる可らず。次に、期日變更の規定に付一言せんに、現時の实情を見るに訴訟手続遅延の原因は、期日變更自由に過ぐるにあるが如し。故に、改正法は準備手続併に口頭弁論の最初の期日のみ、合意延期を許すこと、なしたるなり。然れども、

爾後絶対に延期を許さざるにはあらず、顯著なる理由あるときは、申立に依て延期を許すなり。而して、所謂顯著なる理由の何物なるかは、實際運用上の問題なるも、裁判所が審理を急ぐときは、当事者の利害を無視して可なりと謂ふが如きは決して法の精神にあらざるなり。而かも、当事者が余りに利己的となり、過重に寛大を望むときは又法の精神を滅却するは勿論なるを以て、互に法の精神を尊重理解し実效を挙げざる可らず。

要之何れの点に付ても、朝野法曹相互の理解と協調とに待たざる可らざるなり。

右終て協議に移り、左の順序に依て意見を交換したり。

# （一）陪審制度

司法省側より、現にパンフレットを配布しつゝ、あるも、将来、講演、活動写真、教科書中に挿入、内外書籍の配付、判事説示集、説問集等の訳書配付、海外派遣員の報告書配付、陪審員心得書の配付等の方法を取るの腹案あることを述べ、之に裁判所側より、不取敢海外派遣員報告書の配付と派遣員の直接談話にて説明せられんこと、宣伝には検事当事者間同等主義を明にせられんことを望み、弁護士側より、在朝法曹も講演等に参加せられ度きこと、活動写真は脚本より組立つべきこと、文部省の協力を望むこと、宣伝の爲め弁護士団に補助を与ふること、陪審員評議の実況を示すに努力すること、制度の真相を誤りたる宣伝なき様注意すべきこと、模擬裁判に朝野法曹の協力を為すべきこと、徹底的に採用

理由を明にし、干与権と責任の本義を周知せしむること等の希望あり。

右にて陪審制度の協議は打切となり、各員昼食の饗を受け午後再び開會。

# （二）民事訴訟法施行準備

弁護士側より、不起訴書類を民事法廷に提出せしむるの必要あるを以て、検事局の態度を改められ度きこと、準備手続は陪席中心主義となり且非常に繁忙を加ふべきを以て、判事の増加と優遇に付考慮せられ度きこと、陪席判事の職務重要を加ふべく、受命裁判官たるべき陪席判事の少なくとも一人は新任日浅き人なるを、之をして準備手続に当らしむるは多少考慮を要し、配置上の難問たらざるを得ざるに依り、別に何等かの訓練方を案出するの要あるべく、結局待遇問題に帰すべきを以て、此方面を考究せられ度きこと、準備手続の受命判事は、相当経験ある人たる様計られ度きこと、示談中又は証人遠方に在る時等に、期日の延期を快く聽許せられ度きこと、実施期を成るべく遠くせられ度きこと、弁護士を相当地位高き司法官に採用せられ度きこと、書記を奏任官となり得る如くすること、裁判視察機關を設けられ度きこと、等の希望あり。

裁判所側より、準備手続にも優秀なる判事を要するが故に、自然増員の要起るべく、地方裁判所現員の二分一以上、区裁判所同三分一以上の増員を当然とすること、準備手続には少なくとも準

部長格の人を配給すること、書記も亦責任重きを加ふるが故に、優遇の道を講ずる必要あること、準備手続の施行に伴ひ公廷部室等の増加を要すること等に付希望あり。

(三) 期日の開始を正確にし、訴訟手続の遅延を防ぐ為採るべき方法

先づ、林次官より、時間の遵守は近來稍や正確となりたれども、未だ完全ならず、之れが正確なると否とは、訴訟の気分に関するものにして、最も重要なれども、未だ徹底せざるを遺憾とする旨を述べ。

之に対しては、裁判官弁護士より交々意見の開陳あり、或は毎朝早く開廷すべしと云ひ、或は判事は常に法廷に在りて、合議も法廷に於てなすべしと云ひ、或は事件の難易に依り一件当りに要する時間を定めて勵行するも一案ならんと云ひ、或は証人調ある事件は午後廻し是れなき事件を午前に済ますべしと云ひ、或は結局問題の基礎は裁判所弁護士間の協調の密度に依ると述べ、特に名案と称すべきものなく閉会となる。以上

(注) 横田秀雄「司法官会議席上演説」、花井卓藏外三四名「全国弁護士会長歓迎晩餐会席上演説」〔正義〕大正一五年七月号) 参照。

昭和二(一九二七)年

①司法官弁護士会長合同協議会〔新聞〕昭和二・六・一八

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

司法官弁護士会長連合協議会諮問案

東京弁護士会長 木内傳之助

去七日午前九時より午後四時まで司法省に於て開かれたる、司法官弁護士協議会に提出せられたる諮問案は、その数の少き割合に深みのあるものばかりでありました。従て、一問題に就き半日も費して討議するといふ状態で、議論は中々盛でありました。

諮問第一案は、法廷の証人に関するものでありましたが、(1)証人をしてその責任を自覚せしむるには、如何なる方法を取るべきかといふ意味のもので、議論百出しましたが、根本的方法としては結局、人民に証人たる素養を与ふるを以て素地とせねばならぬ。而して、その目的を達するには、国民一般の義務教育に待たねばならぬといふことに帰着し、証人の心得を小学校教科書に挿入して、之を教育するやう献策することとなつたのであります。此点に就て、小原司法事務官は、今の小学校教科書に、大体法廷のことが書いてはあるが、特に証人に就て記載する所がない。明年は、丁度右教科書の改正時期に當つて居るから、文部当局とも交渉して、此一事を適当に書込むやう努力すべく、之が為には司法省より委員を出して編纂に加はらしむる積りである旨を答弁したのであります。叙上の議に就ては、約半日を費して議論したやうな訳で、非常に大議論となつたのであります。(2)証人の待遇に就ても、可なり議論を沸騰させましたが、証人喚問の順序は必しも旧套に由つてその順序を墨守せずとも、實際証人の事情を斟酌して、

急に先にして喚問するやうにし、又証人の喚問されるまでの控所は、一室を開いて之に供給するやうにする説に一致しました。(3) 証人訊問の方法は、誘導訊問であつてはならぬ。お前はかく／＼の事を六月廿日になしたりやと訊問するのはいけない。お前はかく／＼したことを何時したかといふやうに訊問せねばならない。

訊問されたことに對して、然り又は否の二答で足ることによつて為されたる供述は証拠力がない。かうした証人調書を、外国ではその部分だけ抹消する例になつてゐるといふ論者が強かつたのであります。次に、証人訊問の方法が、威迫訊問であつてはならぬ。お前はさういふが、誰々はかういふでないかと詐術を用ひて威迫することや、そんなことをいふと偽証罪に問ふぞと威迫することや、又口でさういはずとも態度で威迫することなどは、總て不純であるといふのであります。尚ほ、証人への質問は、一々裁判長に願つてその許可を得たる後に非ざれば、直接弁護士から証人に對して之を為すを得ないのであるが、これは弁護士弁護士より裁判長に断れば、どし／＼質問されるやうにし、以て事実の真相を捉へることが必要であるといふことに衆議が一決したのであります。

諮問第二案は、総ての司法事務取扱又は法律の研究に對しては、司法官と弁護士の間に一会を組織し継続的に置いて、時々会合、双方意思の疎通を図り、以て法律の研究、事務の円滑を講ずることをするが、よいかどうかといふのであります。これは、

勿論よい事に違ひはないのでありますが、設置の方法として、地方裁判所の管轄内に限定するか、控訴院の管内に限定するか、考へねばならぬことでありますので、論議の結果両方に設置すること、し、それは弁護士会代表者と地方裁判所長、若くは弁護士会代表者と控訴院長とによりて決定するがよからうといふことになりました。

諮問案は大概こんなものでしたが、弁護士会長から提出した諸案もありました。その中で共通の案で、第一東京弁護士会より提出したる「検事局を裁判所より分離し、司法警察を検事局に隷属せしむる」案がありました。之に對して、東京弁護士会長から、此案には現在施行されてゐる官制を変更する意味がありや、裁判所から検事局を分離することは、司法大臣の監督も亦た分離する意志なりや、いづれにしても案の一定の基礎が確立して居らぬ以上は、賛成の意を表する訳に行かないと述べる所あり、提案者は之に答弁して、官制を変更せざる範圍程度に於て分離せしむるものであるとのことであります。しかし、これだけでは案の徹底的了解を見られないので、有耶無耶の間に終つたありました。

尚ほ、かういふ提案もありました。それは、弁護士法の改正を促進して、一日も早く実施せられたいといふ事であります。而して、その改正案中に、弁護士会を公法人として、司法大臣の直接監督の下に置くことであります。是も、東京弁護士会長より質問して、『弁護士法の改正は、実に数年の久しきに亘つて審査して居

りますが、未だに案の確定を見る能はざるを遺憾とする。今日は如何なる程度まで進捗して居るのか、此点に就て詳細なる御報告を願ひたい」と申しましたが、検事総長は該委員長として答弁し、『今までの審査を非常に緻密に報告し、斯の如く長日時を要せる原因は、司法省から具体的案を提出せずして、委員会に於て案を起草し、その起草に就ては種々なる案あり、それ〴〵審査を要するので、遂に長日時を費すに至つたのである。しかし、このまゝ進んで行けば、今二、三回委員会を開くと、案の確定を見るであらう。若し、尚ほ別案提出するものとせば、更に之を審査せねばならぬから、さうなると九月一杯位か、ることと思ふ。只今審査未了の分は、弁護士登録に関する条項であるが、是は可なりやかましい問題であるから、相当議論を費すことであらう。弁護士の登録をしても、その地の弁護士会は之が入会を拒絶せば、その拒絶決定に基いて、一の訴願をせねばならぬといふ手続問題も含まれて居るので、中々容易なものでない」と申して居りました。又、地方からは、各々弁護士会を開いて決定した案を提出しましたが、それは四、五ヶ所ありました。その中には、問題は小さいが実務上の問題として、甚だ有益なものもありました。それは、執達吏の役場を合同したことは百害あつて一利ないといふのであります。即ち、此合同以来弊害続出して、実務のあがらざること甚しく、特に不親切に流れたことが著しいといふのであります。故に、これは数ヶ所に分置して、事務の取扱を敏捷ならしめざれ

ば、訴訟法の運用を全うすること能はず、されば、此役場に対しましては、速かに改正を施されたいといふのであります。

②司法官弁護士会長合同協議会（公論）第三一巻第七号・創立滿三十年記念号、昭和二年七月号）

#### 司法官と弁護士の合同協議会

本年度に於ける司法官会議は、内閣更迭の爲め延期されてゐたが、いよいよ去る六月六日から十日まで、司法省に於いて開催された。その二日目の七日は、前年度より行はれた司法官と全国弁護士会長との合同協議会に当てられたが、全国弁護士会長側の出席者は、那覇の会長を除くの外、殆んど全国の会長の出席を見た、即ち

木内傳之助（東京）、岸清一（第一東京）、仁井田益太郎（第二東京）、井上八重吉（横浜）、田中千代松（浦和）、杉山彌太郎（千葉）、林賢之助（水戸）、江原三郎（宇都宮）、關口志行（前橋）、榊原周次郎（静岡）、山本保（甲府）、小島相陽（長野）、松井郡治（新潟）、淺田暢一（京都）、吉田音松（大阪）、岩佐權二（神戸）、峰本新太郎（奈良）、山本福丸（天津）、山本佐一郎（和歌山）、高津住胤（徳島）、松本貫一（高松）、高原伊三郎（高知）、浦部章三（名古屋）、濱田幹（安濃津）、桐山誠一（岐阜）、眞田一夫（福井）、大槻了（金沢）、深井龍太郎（富山）、香川秀作（広島）、岡本邦彦（山口）、藤田和孝（岡山）、君野順三（鳥取）、大脇熊雄（松江）、野本半三郎（松山）、陣内惣三郎（長崎）、田中虎三郎（佐賀）、三好彌六（福岡）、安東吉郎（大

分、小山令之（熊本）、佐野常倫（鹿児島）、副会長高山豊秀（宮崎）、佐藤讓（仙台）、湊芳藏（福島）、副会長縄野貞良（山形）、綿野玉次（盛岡）、中西徳五郎（秋田）、三上直吉（青森）、高橋文五郎（函館）、村田不二三（札幌）、別府賢吉（旭川）、副会長小林教二（釧路）、鶴岡徹一（樺太）の諸君である。劈頭、左の如き原法相の挨拶及小原次官の演述あり、直ちに協議会に移り、証人に関する改善事項として（一）証人義務の理解、（二）証人の待遇、（三）証人に対する訊問の方法、並に司法事務改善進歩を図る為各地方に判検事及弁護士協議会を設く可否に付協議を遂げ、各方面よりの意見発表あり、之れが具体策を講ずることに決し、尚第一東京弁護士会の提唱に係る検事局と裁判所を分離すること及弁護士会の監督を司法大臣直属とすること等を附議し、午後四時散会、同六時から東京会館に於ける原法相の招宴に臨んだ。

# 原法相の挨拶

今回司法官会同に際し、全国弁護士会長各位の御参列を乞ひましたところ、進で御来会を得ました事は、私の極めて欣快とするところであります。今日、司法官弁護士各位合同の協議会を開かれます劈頭に於きまして、先づ私より所見の一端を申述べて、御挨拶に代へたいと存するのであります。一、我國の諸法規及裁判制度が、既に相当長年月に亘る実施を経て居るに拘らず、其実績の未だ全きを得るに至らざるは、私の常に遺憾とするところであります。その主要の原因は、我國民一般が法律及裁判に対する理解に欠くところがある点に存すると思ふのであります。例へば、新刑事

訴訟法上、折角人權擁護の幾多規定を設けられたるに拘はらず、之を援用して其効果を發揮する者少なきが如き、或は法律上当然尽くすべき証人たるの義務に背き事実の真相を吐露せず、為に裁判の適正を衍るが如き、何れも國民が法律並に裁判の何たるかを解せざるに基くものであります。今や、新刑事訴訟法既に布かれ、陪審法並に改正民事訴訟法亦近く実施を見んとする際に當りまして、一般國民が依然旧態の如くなるに於ては、法律の改正も新制度の実施も、結局何等の利益を國民に齎さないことになるのを恐れるのであります。私が此際に於て、特に朝野の法曹各位に希ふ所は、一般國民に対し國家に法律を要する所以、裁判を要する所以を説述し、之をして克く法律の重んずべく、裁判の尊むべきものなることを理解せしめて、以て法治國の國民として恥ぢざる自覺を抱かしむるに力を致されんことであります。斯くして、初めて民事訴訟の円滑な進行を期待し得べく、又人權擁護の実績を挙ぐる事が出来るのであります。各位は、法律の基礎觀念並に司法機關の本質を國民に徹底せしむる為め、あらゆる機會を利用せられん事を望む次第であります。

一、陪審法智識の普及宣伝に関しては、朝野法曹力を協せて之に従事せられ、特に弁護士各位が多忙の時間を割いて熱心に援助を与へられました事に對しては、衷心感謝の意を表する次第であります。今や、同法実施の時期一層切迫致しましたに従ひ、更に従来に倍する御助力を御願ひ致さなければならぬのでありますから、何卒同法が実施の暁、完全に其効果を發揮致します様、全國一般に同法の趣旨を徹底せしめられん事を望むで止まない次第であります。

而して、将来陪審手続が円滑に行はるるが爲めには、公判準備手続の完全に行はるる事を要します。若し、右の準備が充分でなかつたならば、陪審の公判は無益に遷延する事となり、陪審員の迷惑は一方ならざるものがあると思ふのであります。私は、各位が今日よりして、現行刑事訴訟法の規定に依る公判準備手続を充分に活用せられんことを切望するものでありまして、其慣行を馴致することは、即陪審法実施の暁、同法をして克く所期の効果を挙げしむる所以であります。何卒朝野法曹相協力せられ、其勵行に付一層の配慮あらんことを望む次第であります。

一、民事訴訟の進行遅延に付ては、昨年の会同に於て既に熱心に論議せられた処であります。不幸にして依然其實績の完きを得ざることは、洵に各位と共に遺憾に堪へざるところであります。近く実施せらるべき、新民訴訟法は此弊害を除去することを主眼として制定せられたるものであります。要は運用の妙機に在つて、法規の条項に存しないのでありますから、若し訴訟渋滞の實情今日の如くにして、荏苒経過致しますならば、假令新法施行の後に於ても、依然其の風を遺して法典改正の実無く、民事裁判は永久に国民の信頼を失ふことを虞るるのであります。而して、此弊風を打破するには、朝野法曹の緊張せる覚悟を要することは勿論であります。切に各位一層の努力を望む次第であります。一面に於て一般公衆が訴訟に付て理解を欠くこと今日の如くであるますならば、到底完全に其実績を挙げ難いと考へますので、前段申述べました通り、各位は相当の機会に於て、広く公衆に民事訴訟の根本義を周知せしめ、理解を得せしむる様、努力あらん事を重ねて希望する次第であります。

一、昨年十月臨時法制審議会は、政府の諮問に対し、現行刑法改正の必要あることを認め、刑法改正の綱領を議決して、之を政府に答申されました。仍て、政府は右綱領の趣旨を体して、刑法の改正を爲すべき事を決し、尚刑法を改正するに就ては、刑罰執行の実体を定むる監獄法を改正するの要ある事を認めましたので、同時に其改正をも決し、本省に刑法及監獄法改正調査委員会を設け、右両法改正の事業に着手することとなりました。右両法の改正は、我国刑政の上に一大変革を來たすものであります。故に、右の事業には、朝野法曹挙つて之に力を致され、真に時代に適する新立法の生る様努めらるべきものと信ずる次第であります。各位は其蘊審經驗を披瀝せられ、若御意見あらば、之を本省に致されん事を希望します。又強制執行法の改正に付ては、既に各方面より意見の提出がありましたから、是亦委員会を設けて適當の改正案を審議立案することになりました。

一、最後に特に弁護士会長各位の御考慮に訴へたい一事があります。司法部職員は、過去二回の行政整理を経まして、其定員は極度に削減され、今日に於ては、御承知の如く、到る処人員不足を告げて居るのであります。其結果として、判検事の負担は年を追つて増加し、特に大都市に於ては、事件の堆積に苦しみ、事務の処理を急ぐ爲めに、靜に研究考慮して審理裁判を爲すの余裕を欠く有様であります。此狀態に對しまして、本省に於ては極力人員の増加に努力致してをりますが、不幸にして政府の財政上充分満足な結果を得ることが出来ないのを遺憾と致してをる次第であります。就きましては、各位に於て克く此辺の事情を御諒承あらせられまして、何卒判検事の負担を適當に軽減する様、此際特に御配慮あらんことを希望する次第

であります。固より、適法なる権利の伸張擁護に對しましては、司法部職員は假令如何なる事情がありましても、献身的に之に當るのは当然でありまして、毫末も之を回避する次第ではありませぬが、例へば訴追を求むる必要な事件に付、告訴を提出するとか、訴訟の大局に関係なき主張によつて事實を紛糾せしむるとかいふが如き事は、現下の裁判所の事情を考慮せられ、司法職員をして一層有用重要な裁判事務に全力を注がしむる為、弁護士各位の側に於て進んで適當なる程度に制限せしめらるゝ様希望致す次第であります。

### ③ 司法官全国弁護士会長合同協議会（正義）昭和二年七月号）

司法官弁護士合同協議会に就て

岸 清 一

第二回の司法官弁護士合同協議会は、本年六月七日を以て、司法省會議室に於て開催せらるることとなり。先是、全国弁護士会より司法省及裁判所に対する希望を統一し、且右協議会に於ける協議事項に対する全国弁護士会長の意見を統一結束して、其實徹を期せんが為め、六月六日正午より第一東京弁護士会館に於て、全国弁護士会長の會議を開催したるに、已を得ざる差支ありたる少数の弁護士会長（宇都宮、静岡、長野、奈良、天津、和歌山、岐阜、大分、鹿児島、那覇、山形、札幌、釧路、樺太）を除き、大多数の出席あり。種々協議の末、全会一致を以て、左の希望事項を決議せり。

一、検事局を裁判所より分離し且司法警察を検事局に隸屬せしむる事

一、弁護士法の改正を促進し弁護士会を公法人とし司法大臣の直接監督に移す事

尚ほ、検事座席問題に付ては、深く原司法大臣を信頼し、至大の希望を以て同大臣の施設に一任し、全国弁護士会よりは此際特に希望を提出せざる旨を決議せり。而て、右の決議の説明並に司法省よりの協議事項に対する意見は、便宜上第一東京弁護士会長（注、岸清一）に於て、全国の弁護士会長を代表して、発言すべきことを併せて決議せり。

六月七日午前九時、司法省會議室に於て、協議会は開催せられ、大臣の挨拶並に小原司法次官の演説ありたる後、司法省の提出に係る、左の協議事項に付協議を開始せり。

一、証人に関する左の諸項に付改善の方策如何

（一）証人義務の理解

（二）証人の待遇

（三）証人に対する訊問の方法

二、司法事務の改善進歩を図る為め各地方に判検事及弁護士の協議会を設くるの可否

全国弁護士会長を代表したる第一東京弁護士会長が、之れに對して陳述せる意見の概要左の如し。

（一）証言は公正なる裁判の基礎なれば、国民は証人として事実の

真相を陳述すべき義務あるにも拘らず、我國民は其重大なる義務に關し殆んど何等の理解なく、古來より他人の裁判に付ては成るべく懸り合ひとなる勿れとの信念行はれ來たりたるが爲め、此信念は今日尚深く一般國民の腦底に植付けられ居り、何事も知らず存ぜずと答ふるの常套的惡癖あり。之に加ふるに、我國民は情実の爲めに左右せらるる事多く、又感情に制せらるる事少からざるを以て、或は請託に動かされ、或は愛憎の念に驅られて、偽証を爲すの場合甚だ多し。而て、之れ實に我國民の傳統的の欠陥とも云ふべく、之を矯正改善するは至大の難事に屬す、教科書中に証人義務の重大なる事を記載し、教育者をして小國民に之を力説せしむるが如きは、其效驗の実現の前途甚だ遼遠なるのみならず、決して適切の方法にあらず。又今日の証人の宣誓は、証人をして其義務を痛感せむるの手段としては甚だ迂遠なるを以て、尚ほ之を徹底的ならしむるの方法を講ずるの必要ありと信ずと雖も、宣誓の方法如何の如きは、偽証予防の方法としては決して適切のものに非ず。而て、一般國民をして、証人義務の重大なる事を痛感し、偽証を慎ましむべき唯一の有効なる方法は、偽証を起訴し毫も仮借せざるに在り。偽証に対する刑罰は、決して峻酷なるを要せず、其刑は寛大なるを以て足れりとすと雖も、要は偽証の必罰に在り。偽証必罰の主義を徹底し、証人が一たび訟廷に立ち、偽証を爲さば必ず処罰せらるべしとの事実常に直面するに至らば、必ずや知るを知れりとし知らざるを知らざるとし、事実の真相を

述べて裁判の公正に資すべきは一点の疑を容れず。今日裁判の現狀を案ずるに、刑事事件に於ては比較的偽証を見ること少なく又偽証に対する起訴を見ること少なからずと雖も、民事事件に於ては偽証は頻々として行はれ、而も裁判官並に検事は、偽証を以て訴訟当事者の訴訟上の方便なるが如く誤解し、縱令偽証の告訴あるも殆ど其起訴を爲さざるを常とし、其結果勝敗の爲めには手段を拵ばざる当事者は偽証を提出するに躊躇せず、証人も亦偽証を爲して敢て怪まず又恬として恥ぢず。斯くの如くにして、裁判の威嚴が冒瀆せらるるのみならず、事実の真相は偽証の爲めに掩はれて甚だ暗く、判官も亦証言の真否を深く玩味せず、只漫然たる自由心証なるものに依りて空想的に事実を断定し、然る後証言中此予断を助くべきものを採用し其然らざるものは之を措信せずとして排斥す。之が爲めに、裁判は証拠に基かず、判官の予断憶測に依りて証拠の採否が決めらるるが如き順序顛倒の奇觀を呈するに至る。之れ畢竟、裁判所が証言の神聖を確保するの途を採らず、原告被告双方の或者をして各自我田引水の偽証を提出せしむるに任せ、以て証言を輕視するの致す所なり。斯くの如くにして生じたる事実の認定は、事実の真相に遠ざかること甚だ多きに拘らず、事実承審官の事実の認定は、大審院に於て之を攻撃するも其效なきを以て、其結果は偽証に基く事実の誤判は頻々として行はれ、裁判の威信は之が爲めに傷けられ、正義の擁護は之が爲めに妨げらるること甚多し。若し夫れ頻々たる偽証を檢舉せざるを常

とし、唯時として思出したるが如く一、二の偽証を処罰するが如きことあるも、其処刑を受けたる者は一種の災難なるが如く諦めて刑罰の效を奏せず、他に幾多の免れて恥なき偽証者の群をして偽証罪の毫も恐るるに足らざるを冷笑跳梁せしむるは今日の世態なり。是れ今日の選挙界に於て、選挙法違反が殆ど例外なく行はる、にも拘らず、違反者の検挙見るは寥々たる為め、違反罪が公々然として行はれ、違反者は殆ど検挙を予期せざると毫も異る所なし。而て、一般民衆をして偽証を警戒せしめ、此重大なる弊害を矯正するの途は、偽証必罰の外あることなし。全国の民間法曹は、此点に於て其意見全然一致し、裁判所が速に偽証必罰の実行に向て猛進せられんことを希望して止まざるものなり。

(二) 証人は裁判上重大なる任務を有するものなるにも拘らず、今日裁判所に於ける証人の待遇は、甚だ不親切を極むるものと認む。特に、用務多忙なる証人に対し、呼出の時間に訊問を行はず、甚しきに至りては午前九時に呼出したる証人を午後に至りて訊問するが如き例少なからず、此点は大に改善の要を認む。又証人の為めに控所の設けなきが如きは甚だ不可なり、裁判所に於て相当の考慮を望む。又刑事訴訟に於ける証人に対する待遇、特に証人に対する裁判所の言動は今日に比し一層鄭重ならんことを希望す。又証人に対する日当並に旅費の支払に付ては、今日に比し数等便宜なる方法を講じ、証人をして領収証に調印するの外殆ど何等の手段を要せずして旅費日当を受領せしむるの必要ありと認む。

(三) 証人に対する訊問の方法は、成るべく当事者をして直接訊問を為さしめ、判官は当事者の訊問が或は誘導に流れ或は脅迫に傾き或は争点に関係なき場合に於て之を差止むることとし、以て其訊問の公正適切を期せられんことを望む。今日我國の証人訊問方法を見るに、刑事裁判に於ては証人の訊問が事実の真相に触ること多きは、蓋し判官が能く事案を了解せらるること多きが故なるべし。然るに、民事裁判に於ては反之、事実上及び法律上の關係の錯綜せるもの多き為めか、判事が当事者の提出したる証人訊問事項に捉はれ、之に対して「然り」又は「否」の答を求めらること少からず、其訊問事項が甚しく誘導的なる否は殆ど問題とならず。従て当事者は、不知不識其証人訊問事項を甚だしく誘導的ならしむるの傾向を生じ、其傾向を逐はざるものは甚しく不利益を被むるに至れり。殊に、其弊害は囑託尋問に於ける証人訊問事項に於て最も甚し。故に、当事者の提出せる証人訊問事項の記載如何に拘らず、裁判所は誘導的なる訊問を絶対に避け、証人をして係争事実に関し成るべく連続して其見分せる事実を叙話的に陳述せしめ、成るべく之に干渉せず、証人をして其云はんと欲する所を自然的に且連続的に語らしめられたし。之れ即ち、結局は証人訊問の時間を短縮し、且事実の真相を得るの捷徑たり。若し夫れ争点たる事実を簡約に且誘導的に訊問し、之に對し極めて簡単に可否又は有無の供述を得て、以て証人訊問を簡約せんとするが如きは、決して事実の真相を得るの途にあらず、事実の真相

を得んと欲せば、裁判官に於て相当の時間と相当の忍耐を要するものと信ず。

又我国に偽証の多き事は前述の如し。而て、証人の反対訊問は、偽証を暴露し事実の真相を闡明するに付、必要欠くべからざるの方法なり。固より、証人の反対訊問を適切に行ふことは至難の業にして、訴訟代理人の天稟に俟つ所甚だ多し。然れども、反対訊問が縦令多少の適切を欠く場合に於ても、其当事者の訴訟手続上の重大にして且貴重なる権利の行使なる以上は、裁判所は其訊問が脅迫的なるか、或は甚しく誘導的ならざる限りは、縦令其訊問が其証人を申請したる当事者のために為されたる訊問と結局に於て重複する場合と雖も之は許さざるべからず。然るに、今日裁判の実況を案するに、裁判所は多くの反対訊問を拒絶し、且多くの反対訊問に対し夫れは証人が先刻斯く斯くと答へたりと、証人に代て裁判所が代弁せらるる事を見せる場合尠しとせず。固より、其反対訊問が甚だ拙劣なる場合少なからずと雖も、苟くも反対訊問権なるものの存在を認識する以上は、縦令夫れが以前の訊問に對し重複に亘る場合と雖も、判事が之を遮ぎることは甚だ不当にして、而も其干渉を恰も裁判所が事実の真相を探究するに冷淡にして、只管証人訊問の終了の速かならんことを希望するが如き觀を呈す。此の如きは、決して裁判の威信を維持するの途にあらず。此点に於て、我在野法曹は在朝法曹の深甚なる考慮を希望するものなり。

然り而て、証人訊問に關連して在野法曹の痛感する所は、訊問調書の不完全に在り。今日現在の証人訊問調書を觀るに、其不完全なること実に驚くべきものあり。訊問の要点を脱漏すること甚しきのみならず、甚しきに至りては証人の供述を反対に記載したるものあり。如此弊害は、嘱託訊問調書と都会地の裁判所の証人調書に於て最も其多きを見る。而て、其原因を究めるに、嘱託訊問に於ては裁判所が事件の争点を熟知せざることも亦之が原因の一部を成すものの如しと雖も、主たる原因は都会地の裁判所が事務多忙に失すると同時に、都会地は地方に比し多大の生活費を要するにも拘わらず、裁判所書記の俸給が比較的に小額なるため、有能の書記を得ること甚だ困難にして、偶々有能の士を得るも高等試験準備中の者多く、之が為に書記の職務に對し自ら冷淡なるに存するものの如し。故に、此弊害を除去するには、書記の俸給を増加して之を優遇し、有能の士に對しては高等官たるの途を開き、以て其位地に安んじ其職に一生を捧ぐる意氣を有する有能の士を求めざる可らず。如此すれば、書記は民事訴訟法の規定する如く、証人に対して調書の読聞を為し得べく、其結果は調書不完全の弊害を一掃するを得べし。然るに、司法当局は、各裁判所に於て調書の読聞を為さざるにも拘らず、之が読聞を為したりとの虚偽の記載を為しつづあることを熟知し乍ら、而も之が監督を為さず。加ふるに、都会地の裁判所に於ては、判事の更迭頻繁なるものあり。為に事件の進行を遅延し、終局に於て裁判を下すべき判事は

此不完全なる証人調書に依て事実の判断を為さざるべからず。而も、之を為さんとするも事実の真相は殆ど捕捉する能はず、茲に於てか益前述の如き自由心証なる危険極まる独断憶測を以て事案を判断せざる可らざるのみならず、偽証と真実の証言とを鑑別するの途なく、現下証人調不完全の害毒は実に恐るべきものあり。而て、之を救済するの一途は一あるのみ。即ち、書記を優遇して有能の士を得て、以て調書読聞の規定を勵行するに在り。吾人在野法曹は、敢て此点に付き司法当局の注意を喚起せんとするものなり。

(四) 司法事務の改善進歩を図る為め、各地方に判検事及弁護士協議会を設くる事は非常に賛成なり。尚ほ、此種の協議は各控訴院管内に一個、各地方裁判所管内に一個を設けられんことを希望す。

拙者は、右の希望を述べたる後、前記の如く六月六日に決議したる全国弁護士会の決議事項を開陳して、其理由を説明せり。

尚ほ、右の如く全国弁護士会の意見に対しては、司法官側に於ても大体に於て賛成の意を表せられたるを以て、漸次其実行を見むことを希望するものなり。

(注) 「正義」昭和二年七月号には、「昭和二年六月司法官并全国弁護士会長会同の際に於ける総理、大臣、司法大臣の訓示、挨拶」という記事が収録されている。

昭和三(一九二八)年

① 司法官全国弁護士会長合同協議会(公論)第三二卷第八号、昭和三年九月号

司法官と弁護士会長の会同——陪審裁判につき協議——

例年四月に開かるべき、全国司法官定例会同は、本年は特別議会の為め遷延されて居たが、七月二十六日より同三十一日まで五日間、司法省内に於て開かれた。その第三日目は、一つ橋学会館に於て司法官弁護士会長協議会を開き、原法相の挨拶後、左記協議事項を附議し、正午同所に於て原法相の午餐会に臨み、午後引続き協議を為し、午後六時より原法相の帝国ホテルに於ける饗宴あり。弁護士会長との協議は、之にて終了した。

○原法相の挨拶

本年は、事務上の都合に依り斯る炎暑の候に、司法官会同を開くの止むなきに至り、甚だ御迷惑とは存じたるも、例年に倣ひ弁護士会長諸君の御参列を求めました所、全国各地殊に遠く新領土の諸君迄も御多忙の中を御繰合せの上御来会を得ました事は、私の最も欣快とする所、茲に合同協議会を開くに当りまして、私は簡単に所懐の一端を述べて、御挨拶と致したいのあります。

多年の懸案たる陪審法は、其施行令も去廿五日を以て発布せられ、愈々本年十月一日より之が実施を見るに至りました事は、喜に堪へざる所であります。

惟ふに、陪審制度の美果を収むるには、一般国民の自覚に俟つの切なる

ものがあり、各位は従来屢々講演又は文書に依り或は模擬裁判の方法に依り、斯法の趣旨を国民に徹底せしむるに努力せられたのでありまして、其效果の著しきものあるは、私の衷心感謝するところでありますが、今や既に準備の時期を経過して、將に実施の域に到達せんとするに際しまして、朝野法曹の責任は一層重大なるを痛感せざるを得ないのであります。是を以て、私は各位が互に連絡協調を保たれて、此の記念すべき大法典の運用を円滑にし、其精神を発現するに付、一層奮勵努力せられむことを切望する者であります。就中、公判準備手続は、昨年の会同に於ても申述べましたが如く、陪審公判審理の促進を図るに付必要欠くべからざる方法でありますから、此点に付ては、特に各位の協力を煩はさんと欲する次第であります。就きましては、昨年の会同に於て御協議を煩はしました結果、全国各地に朝野法曹の常設協議会の設立を見るに至り、其成績亦頗る良好なるものあるは、私の最も慶幸とする所でありまして、此協議会こそ陪審法運用の円滑を図る上に、大に役立つべきことを信じて疑はないのであります。何卒各位の御尽力に依り、各地の常設協議会が益々発達して十分に其機能を發揮し、当面の急務たる陪審制度の効果を奏するところあるは勿論、宏く司法事務全般の改善進捗に一層大なる貢献を為すあらむこと望むで已まないであります。本年本省より御意見を承りたい事項は、只今次官より御説明申上げますから、何卒腹藏なく御意見を御開陳下されむことを切望します。

#### ○協議事項

- 一、陪審事件の公判準備手続の効果を収むるの方策如何
- 二、陪審事件に付弁護人の重複弁論を避くるの方策如何

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

三、陪審事件に於て弁護人が証人を公判期日に同行するの可否  
○本協会の弁護士会長招宴——日比谷松本楼に於て——

我が日本弁護士協会では、今回の司法官會議に会同せし各地弁護士会長を、去月廿七日正午日比谷松本楼に招待し、町重なる午餐會を催した。この暑中にも拘はらず、左の如く会同に列席せし殆んど全部の諸君が出席し、會員もまた多数の出席を見たのは、近頃になき盛會である。來賓諸君と會員諸君の中には旧知あり、名だけ知つて初見の人あり、知るも知らざるも、同じ道を辿る同職の事として、和氣霽々として談笑に花が咲いた。斯くて、定刻となるや一同は食卓についたが、松本楼の食堂を取巻く公園の鬱蒼たる木立の間から吹いて来る涼風に、主客共に炎熱の暑さを忘れてデザアートコースに入った。此時、協合理事高島晴雄君は主人側を代表し、左の如き挨拶を述べた。

日本弁護士協会は、日頃來賓各位から御厚情を賜つて居り、そのお陰を以つて、協会はますます日に發展し、その目的に邁進して居ります。此機会に厚く御礼を申上ぐると同時に、將來とも一層御指導と御後援を御願ひする次第であります。実はその御厚情に対する微意を表する意味で、諸君と徹宵飲み明し度い機會を作りましたのですが、各位の日程を研究いたしますのに、この午餐會を置いて他に時日がないことを発見しましたので、御着京早々御疲労のところをも顧みず、曲げて御出席をお願いいたしました次第、然るに斯る多数の御出席を得ましたことは、光榮の至りであります。ホンの一杯一餐ではありますが、私達ちの微意を御汲取り下さいまして、時間の許

八六〇 (三五六)

す限り、御綴り御飲談を賜り度いのであります。

仄聞するところに依りますと、今回御会同の協議事項は、十月から実施されんとする陪審制度の運用につき、各位の御考慮を促すにあるといふことです。

我が日本弁護士協会は、過去三十年来これが促進を唱道して参りましたことは、各位の御承知の通りであります。いまや、これが実施されんとして、諸君の会同を見るに至りましたことは、我が司法制度の發達の上に、御同慶の至りであります。由來陪審の制度たるや、素人の陪審員が裁判に参加して、玄人の独断的裁判を避けるにあることは、今更私がこゝに改めて喋々するまでもないことであります。で審理に当りまして、裁判長の主観や予断に依つて、審理に支障を来さない様、此点は慎重にしなければならぬことで、弁護士は弁論の重複といふより、寧ろその根本を極めて、事に當ることを切望して止まない。各位は此点に御留意になつて、御会同の席上腹藏なき御意見を開陳していただき度いのであります。惜越ながら、こゝに日頃の御厚意を感謝し、將來の御厚誼をお願いする為、一言御挨拶を述べた次第であります。

之に對し、長崎の小島相陽君は、來賓一同を代表し、左の如き謝辞（注、省略）を述べられた。

右終つて、東京弁護士会長の猪股淇清君は、左の如き感想を述べた。

今から約十年前の事であり、司法官の会同は毎年あるが、弁護士の会同は一回もない、在朝許りで司法の運用は巧くゆくものではない、朝野相

寄つて協議す可き性質のものであると、極力主張したことがあります。時代の隔りといふものは妙なもので、私達の斯うした主張に對し、時の長老組は突飛だと云つて排斥したのであります。私達は初志を捨てず、上野精養軒に於ける日本弁護士協会の総会にこの事を謀つたところ、満場一致を以つて可決、これを司法省に建議しました、それが今日その実現を見たのはご同慶の至りであります。

それより理事大橋誠一君立つて、出席者一同の爲めに乾杯し、それより有志の感想や意見に移り、板倉中、渡部十寸穂両君の感想談あり、終つて、日比谷公園旧音楽堂の前で記念撮影を行ひ、こゝに意義ある各地弁護士会代表者の招待宴は、盛會裡に終つたのである。

來賓側出席者（注、省略。広島からは松井繁太郎会長出席）、會員側出席（注、省略）

## ②司法官弁護士会長合同協議會（正義）昭和三年九月号）

### 司法官弁護士合同協議會記事

昭和三年司法官会同は、愈々七月廿六日を以て招集せられ、同日午前九時司法大臣の訓示を以て始まり、超えて廿八日司法官弁護士の合同協議會は、陪審実施に関する諸問題の討議を中心として、神田一つ橋学士会館に於て盛大厳肅裡に開會す。

### 第一 提出議案打合せ

全国弁護士会に於て合同協議會に提出すべき議案審議打合せの

ため、廿七日午後三時卅分より、東京会館に於て全国弁護士会長  
及代表者の打合会を開く。

本年度当幹事東京弁護士会長猪股淇清君議長席に就き、開会  
の趣旨を述べ、各地弁護士会提出に係る議案の整理方法を附議す。  
綿野玉次君（盛岡） 米岡規雄君（関東州） 杉山彌太郎君（千葉）  
川上清君（京都） 井上剛一君（静岡） 蔡容默君（咸興） 高橋章之  
助君（京城内地人） 角起夫君（宇都宮） 藤井啓一君（山口） 古澤  
五郎君（秋田） 横山桂一君（名古屋） 吉崎龜之助君（大阪） 秋山  
襄君（第一東京）等より、意見発表あり、結局各代表者は各自提  
案理由を説明したる後、翌日会同協議会に全国弁護士会の名を以  
て提出すべき確定案は、別に小委員会を互選して之を精査選択す  
ることに決し、協議会に於ける確定案の説明は当幹事之に当る、  
但必要ある場合には、提案者之を補足することを得と定め、三十  
七項に亘る提案の説明並に質問応答を了す。

次で、司法大臣の諮問に係る

- 一、陪審事件の公判準備手続の好果を収むるの方法
- 二、陪審事件に付弁護人の重複弁論を避くるの方法
- 三、陪審事件に於て弁護人が証人を公判期日に同行するの可否  
に對し、東京三弁護士会に於て予て協定したる左記答申、即ち
- 一、に對し、（イ）検事は起訴事実を明確にすること、（ロ）弁護  
人は凡ての防禦の方法を明確にすること、（ハ）裁判所は両者の  
主張を充分釈明せしめ争点を明確にすること、（ニ）検事弁護人

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

共必要なる一切の証拠申請を為すこと、（ホ）裁判所は争点に関  
する限り総ての証拠申請を採用すること  
二、に對し、各事件に付弁護人間に於て協議の上重複弁論を避く  
ること

三、に對し、可とす

は満場一致の同意を得たるを以て、別に小委員会に附議せずして、  
全国弁護士会の確定答申と為すべきことに決す。

暫時休憩後、議長は左の通り小委員の氏名を発表し満場拍手。

小委員氏名

（東京控訴院管内） 第一東京弁護士会 秋山襄君、第二東京弁護士会 田  
島朝次郎君、（大阪控訴院管内） 大阪弁護士会 吉崎龜之助君、京都弁護士  
会 川上清君、（名古屋控訴院管内） 名古屋弁護士会 横山桂一君、岐阜弁  
護士会 田中章也君、（広島控訴院管内） 広島弁護士会 松井繁太郎君、岡  
山弁護士会 岡崎綱五郎君、（宮城控訴院管内） 盛岡弁護士会 綿野玉次  
君、仙台弁護士会 新妻胤嘉君、（長崎控訴院管内） 長崎弁護士会 陣内惣  
三郎君、宮崎弁護士会 江川甚一郎君、（札幌控訴院管内） 札幌弁護士  
会 村田不二三君、函館弁護士会 高橋文五郎君、（京城覆審法院管内） 京  
城内地人弁護士会 高橋章之助君、京城朝鮮人弁護士会 李升雨君、（平  
壤覆審法院管内） 平壤弁護士会 金志健君、新義州弁護士会 富永是保君、  
（大邱覆審法院管内） 大邱弁護士会 岸本鋭次郎君、釜山弁護士会 窪田  
梧樓君、（関東州地方法院管内） 関東州弁護士会 米岡規雄君  
小委員会は、直に別室に於て開催、秋山襄君の發議により合同

八五八 (三五四)

協議会に提出すべき確定議案（甲類）の外、別に内閣司法省其他に対し全国弁護士会の名に於て提出すべき議案（乙類）を選択すること、なり、約三時間に亘る慎重審議の末、左記の結果を得たり。

茲に於て議長は、右結果を本会議に報告す、終つて晚餐、談論風発、時候の挨拶、懐旧舒感、外濠の涼風益々興を唆る。

#### 採択議案

#### 甲類

##### 第一、会同問題

(一) 司法官会同には秘密を要する事項の協議にあらざる限り弁護士会長を参加し得せしむべし

(二) 各控訴院に於ける所長検事正の会同には管内弁護士会長を参加せしむる様せられたきこと

##### 第二、陪審問題

(一) 陪審司法官吏を優遇し必要に応じ官制を改正すること

##### 第三、検事局関係問題

(一) 検事局は裁判所の証拠決定に基く不起訴記録の取寄せに應ずる様せられたきこと若し現行法上不可能なりとせば当局は之が規定を設けられたきこと

##### 第四、裁判所構成法関係問題

(一) 裁判所構成法並に弁護士法を朝鮮に実施すること  
(二) 検事局直属の司法警察官を充実設置すること

(三) 専任判検事のなき区裁判所には専任の判検事を置くべきこと  
(四) 裁判所の職員を地方の情況により適宜増員すること  
(五) 司法部下級官吏の待遇改善並昇進の途を開く方針を講じ優秀者の司法部に留まる様すること

##### 第五、弁護士法関係問題

(一) 司法に関する法規の制定改廃並に其運用の实情に関し弁護士会に諮問する範圍を拡張すること

##### 第六、刑事訴訟法関係問題

(一) 刑事訴訟法第三百三条の法意を体し其実行を期すること  
(二) 刑事被告人の上訴権抛棄に関し当該官吏は絶対に容喙せざる件

(三) 刑事訴訟共助事件（証人訊問）に弁護士人会の件

(四) 刑事の普通法廷に於ける弁護人席を陪審法廷と同様改造すること

#### 乙類

##### 第一、国家賠償問題

(一) 法律の誤解又は重大なる事実の誤認に依り起訴せられ無罪と為りたる者に対し国家は其損害を賠償する件

##### 第二、官制問題

(一) 司法省を廃止し裁判機関と檢察機関とを各独立せしむること  
(二) 朝鮮及台湾、関東州其の他未だ施行せられざる地域に訴願

及行政裁判の制度を設けること

### 第三、陪審問題

(一) 陪審法廷に於ける被告人席を繞る木柵は陪審の精神に背き訴訟の原則に悖り寧ろ逆転の感あり速かに改造せられんことを望む

### 第四、裁判所構成法關係問題

(一) 朝鮮弁護士規則に依る弁護士をも判検事に任用する制度を設けること

### 第五、弁護士法關係問題

(一) 内地又は朝鮮の一地域に於て登録を為したる弁護士は他の地域に於ても其職務を行ふことを得せしむること

(一) の法域内に於て弁護士職務を執行し得るものは他の法域内に於ても弁護士職務を行ふことを得)

### 第二 協議会

流石は夏なり、此の向ならば当分与みし易しと思ひしは正に思慮の浅薄、廿八日は合同協議会の当日なり、此日は早朝既に酷暑の予告あり、九時半の定刻を過ぐること二十分にして開会、定刻前より早くも顔を見せたる田中総理大臣は、特に臨席して熱心傍聴、之れ異例なり、吾人は組閣の当初に於て司法権尊重の政綱を大声疾呼せられたるの実を此所にも挙ぐるものとし深甚の敬意を表す。

原司法大臣、徐に口を開き、……(注、原法相挨拶は省略)……、

協議事項の趣旨説明を次官に譲る。

小原司法事務次官は、陪審実施に付ては、裁判所、検事局、弁護士三者の間に極めて緊密の關係を維持するの必要ある所以を力説し、前記三諮問案に付て、詳細説明を加ふところあり、

泉二刑事局長より、主として諮問第三項に付き、本省陪審法実施準備会に於ける討議の経過を説示し討議に入る。

議長は、司法大臣之に當る、議長頻りに意見の発表を促す、第一東京弁護士会の進行発言により、弁護士側当番幹事より前記打合会に於て決定せる答申に付き詳細説明を為す。

和仁東京控訴院長は、裁判所側を代表する意味に非ずと前提して、右弁護士会長側答申に対し大体に於て賛意を表し、第一の公判準備手続に付ては、從來其實蹟の挙げざりしを遺憾とし、将来は在朝在野の法曹協力して真面目に之が実行を期すべきことを希望し、第二の弁護人の重複弁論に付ては、此上共司法事務改善協議会に於て親しく相談致し度く、第三の証人同行問題は、弁護人が公判期日に証人を同行する方法に賛成し敢て詳細説明の要なしと結ぶ。

田中東京地方裁判所長は、弁護士会側答申及東京控訴院長説に賛成すとして、公判準備手続なるものは公判其物である、此公判準備期日は公判期日其物であると云ふ精神の下に、裁判所検事局弁護士三者鼎立協力すべきものにして、従つて公判期日に於て其進行に万遺漏なきを期せんが為め、弁護人が証人を法廷に同行する

は公判手続の効果を収むる良策なり、偽証教唆云々の問題の如きは今日の弁護士諸君の高潔なる道徳心に信頼し懸念考慮すべきことなしと論ず。

今村広島控訴院長は、大体に於て弁護士側の答申に賛し、第一問の（ホ）に関しては多少の違いはあるが、併し準備手続に於て斯様な心組を以て当らなければならぬと云ふことは確かである。裁判所弁護士共に調査を十分にし、期日の指定は篤と之を協定する等、要は実施の際真剣味の協調にあるべく、第二問に付ても、弁護人の重複弁論必ずしも一概に排すべきに非ず、場合に依つては議論の組立を変へて論旨の徹底を計るの要もあらん、或は裁判長に制限権を行使せしむるも亦一方法ならんか、と同控訴院管内所長級会合に於て協議したる旨紹介し、第三問に付ては、最も正しく最も組織立つた意味に於て同行を得たる人を在廷証人に請求するなど無論差支なきことなりとて、田中所長の意見に賛する旨私見附加開陳す。

皆川名古屋控訴院検事長は、第一問答申（ホ）に付き「総ての証拠方法」とあるを「可成総ての証拠方法」と修正すれば、第一問及第二問に対する答申全部に賛成、唯第三問答申に付ては、陪審法廷は判事も検事も弁護士も潔い手段を執り、綺麗な心事で行くことが訴訟の事務的便否以上に必要なり、何も弁護士が疑はれながら証人を同行しなければならぬことはあるまい、寧ろ之を避くることが弁護士の品位を高むる所以、法廷の品位を高むる所以

なりと思料すとして反対す。

秋山第一東京弁護士会長の質問により、但し例外は認む原則として反対するものなりとの釈明あり。

横山横浜地方裁判所長は、矢張り私見を陳べ、第一問答申は、他の諸君と同感、唯（ホ）に付ては皆川検事長の意見に左胆す、第二問答申に付ては、弁論の重複を避ける根本骨子たる一方法は共同弁護士が辛抱して互に他の弁論を終始聴くの習慣を作るに在りと信ず、第三問に付ては、同行可なりと云ふ方に賛成で、乍遺憾皆川検事長に反対を表する次第なり所謂時代的法律の改革に因りて生じたる陪審裁判は余程開放主義に之を行はざるべからず、彼れを惜しみ此を惜んで引込める様な工夫をしてゐては陪審制度の本質を没却するものなりと結ぶ。

川上京都弁護士会長より、同行可能説に賛成あり度希望を縷述す。

茲に於て、議長原法務大臣起ちて、諸君の御意見開陳により、第一問及第二問に付ては原則として多くの異議なく、諸君の間には既に意思の共通ありたるものと認む、今日の目的は改めて之を決議すると云ふにあらず、之れ以上は各地司法事務改善協議会に譲ること、し、又更に細かいことは其事件毎に関係官吏及弁護人諸君の協力に依つて解決せらるべく、第三問も亦可否を予め確定し置くよりは、寧ろ事件毎に双方協議の上便宜定むべきものと信ずる故、御協議の程度は此位に止むとて、各地弁護士会長より提

出せる建議事項の説明を求む。

当番幹事猪股東京弁護士会長より、前記甲類各個条に付き詳細演述するところあり、後を承けて松井広島会長、陣内長崎会長、横山名古屋会長より各所轉控訴院建築問題に付き希望を述べ、川上京都会長は調停和解に付き、此制度は誠に結構なること、喜んでゐるも、当事者は自己の信頼せる人と隔離せられ其の爲め、往々思違を生じ或は巧妙なる御勸を受けて即座に承諾して調停成立して歸つた後、残念がる向少からず、京都の地方裁判所では弁護士が立会ふこと、なつて、成績頗る宜しと紹介したる後、兎に角調停に掛つた以上は必ず之を成立せしむると云ふ様な余りに堅い態度ではが非でも押し通されては困るとて、成績を調停成立の計数のみに置くの非を説いて警告希望するところあり。

議長原司法大臣之に対し、当番会長陳述の司法省及裁判所に対する御希望の中には、或は非常に重大なる事項もあり、余程考慮を要する事案もあり、或は当局に於ても同感にて已に其の用意をしてゐる事柄もあれど、多数の事項は篤と考慮したる上、其の実施すべきや否やを研究せざるべからざること、考ふ、今日は御希望として之を承はつて置くことに止め、又地方的御希望も定めし多々あること、存するが、之は機会を見て各関係当局と相談を為すべく、六ヶ敷いことも沢山ある様なるを以て、諸君よりも亦御相談あり度しとして閉会を宣す。時に午後零時十五分、会議に時を費やすこと僅に二時間と二十分、而かも附議演述の事項は数十項

に及ぶ、炎暑の日其の努力や当に大に多とすべし。

出席員（注、省略）

#### 昭和四（一九二九）年

① 司法官弁護士会長合同協議會（公論）第三三卷第六号、昭和四年六月号）

司法官弁護士合同協議會議事——速記録全文——

司法官弁護士協議會は、五月六日午前九時四十分より司法省の會議室にて、原法相を始め濱田、小原両次官、磯部参与官、泉二松井、長島、各局長等列席の上開會、出席せし司法官並に弁護士會長は左の如し。

司法官側（注、省略）

弁護士側（注、省略。広島からは小野才次郎會長出席）

○司法省提出協議事項

一、準備手続並口頭弁論に於ける審理を迅速円滑ならしむる為裁判所と弁護士との協力を必要とする事項如何

●同上答申 地方裁判所長

第一、裁判所並弁護士は従来の慣行を改め改正民事訴訟法の規定を履行し其の手続の促進に一致協力すること。

第二、国民をして民事訴訟の性質、手続及証人の義務を理解せしむる為協力して適當の方法を講ずること。

第三、訴訟準備を完全にし訴訟資料を整頓すること。

第四、準備書面は簡單明確を旨とし提出時期を怠らざること。

第五、開廷時間を勵行すること。

第六、期日は變更せざることを期し万止むを得ざる場合には速に變更の申請を爲すこと。

第七、準備手続に於ては総ての攻撃防禦の方法を網羅し口頭弁論は一回にて終始するを期すること。

第八、証人訊問の申出書には住所氏名を正確に記載し訊問事項を詳細に記載すること。

第九、証拠の申出期日變更の申請其の他の申立には必ず相当印紙を貼用すること。

第十、証拠調の費用は必ず予納すること。

第十一、其他の細目に付ては各地の協議会に於て協定すること。

●同上答申 弁護士会長

第一、準備手続前に於て当事者互に準備書面を交換し各其の主張の要点を明確に爲すこと但し之が爲め期日を遅延せしめざる様務むること。

第二、口頭弁論及準備手続に於ける最初の期日以外の期日は当事者双方と協議の上協定せらるべきこと。

第三、証拠に付ての申出は準備手続の期日前予め書面を以て相手方へ通知し且内容の知れたる書証に付ては其の謄本又は抄本を添付すること。

第四、訴訟代理人は証人をして期日に出頭せしむる様裁判所と協

力して適當なる手段を取ることを。以上

附帶希望

第一、新法施行後当分の中大都市の地方裁判所に於ては新法に依る事件と旧法に依る事件とは別異の部をして之を取扱はしめらること。

第二、区裁判所に於ても裁判所に於て相当と認められたる場合には期日前互に準備書面を交換し各其の主張の要点を明確ならしめ、証拠の申出に付ても予め書面を以て相手方へ通知し其の書証に付ても謄本又は抄本を添付すること。

第三、裁判所は訴狀を被告に送達するに當り同時に被告をして速に応訴の準備に着手せしむるに適當なる注意書を交付せらるること。

第四、準備手続に於ける受命裁判官の任命に付ては任務の重大なるに鑑み其の選任を慎重にせらるること。以上

●弁護士会長提出協議事項

第一、現行民事訴訟法に関する事項

(一) 小作訴訟事件は社会問題としての重大性を日々濃厚ならしめつつあるにも不拘其の渋滞甚しき現下の趨勢に鑑み其の進行に付き民事上刑事上深甚の注意を払はれたきこと。

(二) 囑託証人調に付き証拠調の目的を達成するに必要な方法を講ぜらるること。其の方法の一例

当該証人調を必要とする争点の概要と立証趣旨とを簡明に記述

せる書面を申請人より提出せしめ之を嘱託裁判所へ送付すること。

本案裁判所に於て予め当事者が立会ふや否やを確め立会を爲す場合に於ては其の旨を嘱託裁判所へ通知し可成当事者の立会を俟て訊問せらるること。

嘱託証拠調期日前証人不参其の他証拠調に支障あることを判明したるときは受託裁判所は当事者代理人に電報を以て其の旨を通知せられたきこと（電報料は証拠調費用予納より支出のこと）  
第二、刑事訴訟法に関する事項

（一）人權尊重の精神に鑑み刑事訴訟法第一百三條の規定の趣旨を徹底せしむる意味に於て已むを得ざる場合の外勾留を更新せざること。

（二）官選弁護士に実費を支給せらるること。

（三）陪審法第九十五條に依る陪審更新の決定を爲すときは特別の事情なき限り裁判所の構成も亦之を変更せらるること。

第三、弁護士法に関する事項

（一）弁護士法改正委員会案を明年度議會に提出せらるること。

第四、登記に関する事項

（一）仮登記の登録税を相当増額し本登記のとき其の登録税に之を通算することに改めらるること。

第五、調停法に関する事項

（一）借地借家調停法第三條の適用を勵行せられたきこと。

第六、朝鮮に関する事項

（一）朝鮮人の親族相続に関する成文法を速に制定せらるること。

○原法務大臣の挨拶（注、省略）

○協議（注、長文のため省略）

○本協会の各地会長招待盛會なりし午餐會（注、省略）

②司法官弁護士会合同協議會（正義）昭和四年五月号）

司法官弁護士合同協議會記事（一）

本年十月一日より施行さるべき新民事訴訟法の運用に付きて、協議すべく招集せられたる昭和四年度司法官会同は、五月三日午前八時より司法省會議室に於て開會

原法相、濱田、小原両次官、磯邊参与官、泉二刑事、松井行刑各局長、牧野大審院長、池田、柳川、須賀同院各民事部長、豊島、板倉同院各刑事部長、小山検事総長、松井朝鮮總督府法務局長、横田同高等法院長、後藤台灣總督府高等法院長、若松同檢察長、其他全国七控訴院長、検事長、五十三裁判所長、検事正等計百二十四名出席

劈頭、原法相より別項の如き訓示あり、続いて小原次官より改正民事訴訟法に関する注意、長島民事局長より同じく指示あつて、一まづ休憩、午後一時再開  
一、改正民事訴訟法の準備手續の効果をあぐるにつき司法行政上考慮すべき点（例へば事件の割振り、部員の配置、書記の配属、

執務上の施設等

二、改正民事訴訟法実施の際における新旧事件の処理方法等を議題として各控訴院ごとに別個に協議したり。

○法相訓示要旨

国家が既に司法の職司の重要なことに鑑み、著々其の待遇の向上を計るについては、之に従事する職員は、益々執務上必要なる諸般の学問的研究を怠らざると共に、人格の修養砥礪に努め、以て司法事務の改善進歩を計り、完全に其の職分を果して、司法部に対する国民の信頼を深からしめ、以て国家の負託に副ふやふに努めねばならぬ。

民事訴訟遅延の弊を、如何にして除くべきかは多年の宿題で、民事訴訟法改正の目的が、主として之を解決するに在ることは、各位の知悉せらるゝ通りである。然れども、法は元來死物で之が運用は人に存するのである。改正民事訴訟法は、訴訟の遅延を防止する為め、各種の規定を設けたが、之が運用宜しきを得ざるときは、畢竟これ等の諸規定は空文に帰して、民事訴訟法改正の目的は遂に達成せられぬ。各位は、改正法の実施を機とし、一大決心を以て従前の行掛を棄て、全然新なる態度の下に事に当る様、部下を督励せられんことを希望する次第である。

昨年六月二十九日公布せられた、治安維持法中改正に関する緊急勅令が、第五十六議會において承諾を与へられ、将来に向ひ法律と同一の效力を保持するに至ったことは、我国治安維持上当然の義と考へるのであるが、将来之が運用に就ては、また専ら担当職司の努力に待つのである。各位は、各關係官庁と連絡協力し、能く改正治安維持法の精神を貫徹し、わが国の治安

維持上遺憾なきを期せられむことを切望する。

刑事裁判に対し、国民の信頼を増し、その効果を全うするには、犯罪事実の認定を誤らざることを前提とすることは勿論であるが、犯人に対して科せらるべき刑罰の適正を得ることが、窮極において最も必要の事柄に属することもまた申すまでもない。しかして、刑罰を量定する確たる準繩は、之を発見すること甚だ困難であるが、要するに一般警戒及累犯の予防見地から、常に刑の裁量の適切なることを期し、形式的硬化の弊に陥らざることが力むることが必要である。近時、殺人強盜放火等重大なる犯罪に対する量定が必ずしも適當でないかの如き世評を耳にすることは、大に注意を要する点で、更に研究を必要とするものがあるのではないかと考へる。もとより、裁判は断じて無稽の世評に動かさるべきものにあらざるは言を俟たぬ所であるが、汎く世上の論議に傾聴し自省戒心して、司法の威信を損ぜざるやう最善の途を尽すべきことは、是亦当然のことである。

陪審事件の審判は、その経験日なほ浅く、今日直にその是非を批評することは早計に失し、寧ろこれを避くるを可とするが、今日までの實際状況に徴すれば、陪審員の出頭率の良好あること、その職務を行ふに熱誠なことが及び大体において判断を誤らざること等、頗る好成績を現して居るといふて宜しいのであつて、新制度の為に祝福を禁ずる能はざる所である。希くは、各位の努力に依つて、今後とも永くこの状況を維持し、わが国司法制度の威信を発揮し度いと思ふ。尤も、これまでの僅かの経験に依つても、實際の手續上更に改良すべき点が少くない様であるから、この点に就ては特に各位の留意を煩はし、速に改善の実を挙ぐることを希望する次第である。

越えて五月六日、司法官弁護士合同協議会は、改正民事訴訟法実施に関する諸問題の協議を中心として、同所に於て開会せられたり。

先是、弁護士側は、司法省諮問事項に対する答申及び提出すべき議案審議打合せのため、五月五日午後三時より上野精養軒に於て、全国弁護士会長及代表者の打合会を開催す。

前年の定めにより、本年度当番幹事は、第一東京弁護士会の順番なるにより、第一東京弁護士会は打合会招集等の手続を運び、且五月四日午後二時より、東京に於ける三弁護士会側の協議会を、第一東京弁護士会館に開きたり。出席者岩田（第一東京会長）、播磨、天野（同上副会長）、關（東京会長）、高田、小池、平林（同上副会長）、花岡（第二東京会長）の八名出席、五日の上野に於ける全国弁護士協議会議案整理方法等準備に関し協議を遂げ、午後四時半完了せり。

#### ○提出議案打合会

愈五月五日定刻前より、主催者側は出席者一同を迎へ、午後三時五十五分開会、本年度当番幹事第一東京弁護士会長岩田宙造君議長席に就き開会の挨拶を述べ、各議案の整理方法を附議し、別記司法省諮問事項及各地弁護士会提出の議案に付、左の通り小委員を互選して精査選択することに決し、同小委員会に於ける慎重審議の結果に付、議長より報告の上、結局別項の採択議案を得たり。

小委員（注、各控訴院、覆審法院、関東州地方管内から二十名選出、省略）

#### 議案

#### ●司法省諮問事項ニ対スル答申案

（注）協議事項「準備手続並口頭弁論ニ於ケル審理ヲ迅速円滑ナラシムル為裁判所ト弁護士トノ協力ヲ必要トスル事項如何」

第一、準備手続ノ期日前ニ於テ当事者互ニ準備書面ヲ交換シ各其主張ノ要点ヲ明確ニ為スコト、但之カ為メ期日ヲ遅延セシメサル様務ムルコト

第二、口頭弁論及準備手続ニ於ケル最初ノ期日以外ノ期日ハ成ル可ク当事者双方ト協議ノ上協定セラルヘキコト

第三、証拠ニ付テノ申出ハ準備手続ノ期日より五日前ニ書面ヲ以テ予メ相手方ヘ通知シ且内容ノ知レタル書証ニ付テハ其謄本又ハ抄本ヲ添付スルコト

第四、当事者ハ其申請ニ係ル証人ヲシテ必ス期日ニ出頭セシムル様適當ナル手段ヲ取ルコト

#### 附帯希望

第一、新法施行後当分ノ中大都市ノ地方裁判所ニ於テハ新法ニ依ル事件ト旧法ニ依ル事件トハ別異ノ部ヲシテ之ヲ取扱ハシメラルコト

第二、区裁判所ニ於テモ裁判所ニ於テ相当ト認メラレタル場合ニハ期日前互ニ準備書面ヲ交換シ各其主張ノ要点ヲ明確ナラシメ、証拠ノ申出ニ付テモ予メ書面ヲ以テ相手方ヘ通知シ其ノ書証ニ付テモ謄本又ハ抄本ヲ添付スルコト

第三、裁判所ハ訴状ヲ被告ニ送達スルニ当リ同時ニ被告ヲシテ速ニ応訴ノ準備ニ着手セシムルニ適當ナル注意書ヲ交付スルコト

●司法官弁護士会長合同協議会提出議案

第一、現行民事訴訟法ニ関スル事項

（一）民事訴訟法ノ答弁書ハ十四日ノ期間内ニ提出スルコトヲ勵行スル事（新潟弁護士会提出）

（二）証拠申請ハ必ス弁論当日ニ提出スルコト（同上提出）

（三）嘱託証拠調期日前証人不參其他証拠調ニ支障アルコト判明シタルトキハ受託裁判所ハ当事者代理人ニ電報ヲ以テ其旨通知セラレタキコト（電報料ハ証拠調費用予納ヨリ支出ノ事）（京都弁護士会提出）

（四）保管金並ニ供託金取扱ノ為メ本金庫ヨリ裁判所内ニ出張員ヲ派遣セラルル様取計ハレタキ事（同上提出）

（五）三者執行防止ノ方法ヲ講セラレタキ事（同上提出）

（六）家屋明渡ノ執行ニ付執達吏カ人身ニ強制力ヲ加ヘル事ヲ得ル様セラレタキ事（同上提出）

（七）小作訴訟事件ハ社会問題トシテノ重大性ヲ日々濃厚ナラシメツツアルニモ不拘其審理ノ渋滞甚シキ現下ノ趨勢ニ鑑ミ其審

理判決ヲ簡潔迅速ニシテ法ノ威力ヲ天下ニ宣示スル様司法大臣ヨリ裁判官一般ニ訓示セラレタキコト（名古屋弁護士会提出）

（八）嘱託証人調ニ付キ証拠調ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル方法ヲ講スルコト（第一東京弁護士会提出）

其方法ノ一例。当該証人調ヲ必要トスル争点ノ大要ト立証趣旨トヲ簡明ニ記述セル書面ヲ申請人ヨリ提出セシメ之ヲ嘱託裁判所ヘ送付スルコト、本案裁判所ニ於テ予メ当事者カ立会フヤ否ヤヲ確メ立会ヲ為ス場合ニ於テハ其旨ヲ嘱託裁判所ヘ通知シ可成当事者ノ立会ヲ俟テ訊問スルコト、証人呼出状ノ不送達、証人不參等予メ知レタルトキハ便宜裁判所ヨリ代理人ニ通知セラ

ルコト

第二、新民事訴訟法ニ関スル事項

（一）改正民事訴訟法ハ実施前更ニ修正ヲ加フル要アルコト（広島弁護士会提出）

第三、刑事訴訟法ニ関スル事項

（一）人權尊重ノ精神ニ鑑ミ刑事訴訟法第百十三條ノ規定ノ趣旨ヲ徹底セシムル意味ニ於テ止ムコトヲ得サル場合ノ外勾留ヲ更

新セサルコト（広島弁護士会提出）

（二）検事局ハ裁判所ノ証拠決定ニ基クノ外起訴記録ノ取寄セニ応スル様セラレタキコト、若シ現行法上不可能ナリトセハ当局ハ之カ規定ヲ設ケラレタキ事（高知弁護士会提出）

（三）官選弁護士ニ実費ヲ支給スル事（千葉弁護士会提出）

(四) 不起訴記録ヲ民事訴訟ノ取寄ニ応スヘキコト(盛岡弁護士会提出)

(五) 検事又ハ司法警察官カ被疑者其他ノ関係人ヲ取調フルニ当リ苛酷ノ行為ナサルコト(同上提出)

(六) 裁判所カ陪審法第九十五条ニ依リ陪審変更ノ決定ヲ為ストキハ特別ノ事情ナキ限り裁判所ノ構成モ亦之ヲ変更スルコト

(第一東京弁護士会提出)

第四、弁護士法ニ関スル事項

(一) 弁護士法案ハ議會提出前更ニ弁護士会ヘ諮問スルコト(広島弁護士会提出)

(二) 六大都市ノ弁護士会長ヲ親任又ハ勅任待遇其他ノ会長ヲ三等官待遇トスル制度ヲ確立スルコト(名古屋弁護士会提出)

(三) 司法大臣並ニ親任及勅任判検事ノ半数ハ原則トシテ弁護士ヨリ任用スルノ制度ヲ確立スルコト(名古屋弁護士会提出)

提案理由

第四ノ(三)及第四ノ(二)ノ議案ハ司法進化ノ基調トシテ先ツ弁護士ノ地位ヲ向上シ其法ノ保護者護正ノ勇士タル本質ヲ国家制度ノ上ニ明ニスルト同時ニ司法内部ニ残存セリ官尊民卑ノ弊風ヲ矯正シ在朝在野法曹ノ対等協調ニ因リテ司法裁判ノ適正妥當ト其他一般司法事務ノ改善ヲ期スルニアリ

第一ノ(七)ノ議案ハ現時経済及思想国難ノ本源タル小作爭議ノ大半ヲ占ムル捻米請求事件ニ於テ原告提出ニ係ル甲号証中成立ニ

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

事ナク且事案主要ノ争点ノ殆ント全部ヲ解決明記セル小作証券ヲ裁判所カ輕視シ之ニ対シ被告ノ反証トシテ提出スル同一又ハ枝葉ノ争点ニ関スル多数ノ反復の人証ヲ無制限ニ許可スルノミナラス被告代理人ノ猫眼の交替方法ニ依ル遅延作戦ヲ看過スル為徒ニ審理ノ複雜遅延ヲ来シ起訴後数年ヲ経過シ而モ此間合意ノ期日變更ナキニモ不拘尚且第一審判決ヲ受クルニ至ラスシテ甚タシク裁判所ノ威信ヲ害シ為メニ益小作人ヲ增長悪化セシメ国家ノ中堅タル農村小地主階級ノ生活ヲ脅威シツツアル悲痛ナル現状ニ照シ速ニ之ヲ救済ノ対策ヲ講シテ国民生活ノ安定ト公安ノ維持トヲ計ルニアリ

第五、裁判所構成法ニ関スル事項

(一) 検事局ヲ分離シ之ニ司法警察官ヲ附置セシムル制度ヲ確立セシムルコト(広島弁護士会提出)

第六、法律案ノ起草ニ関スル事項

(一) 国民生活ニ密接重要ナル関係ヲ有スル法律案ノ起草ニ関シテハ広く地方朝野法曹中ヨリモ調査委員ヲ選任シ其調査起草ニ関与セシムルコト(同上提出)

第七、登記ニ関スル事項

(一) 仮登記ノ登録税ヲ本登記ト同額トシ本登記ノトキ更ニ少額ノ登録税ヲ払フ様改メラレタキコト(京都弁護士会提出)

第八、調停法ニ関スル事項

(一) 調停法第三条ノ適用ヲ厳ニセラレタキ事(同上提出)

八四八 (三四四)

第九、証人鑑定人及び刑事被告人ノ取扱ニ関スル事項

(一) 証人鑑定人ノ控席ハ從來一般公衆控所ト區別セス訴訟關係人ト雜居シタルハ其弊害アルヲ認ムルニ依リ証人鑑定人ニ對シテハ別ニ控席ヲ設ケ特別ノ待遇取扱ヲ為スコトハ緊要ト認ムルニ依リ之カ実現ヲ要望ス(旭川弁護士會提出)

(二) 公判開廷中刑事被告人ノ承諾ナクシテ其素顔ヲ撮影セシムルコトハ不穩當ナリト認ム(徳島弁護士會提出)

理由

未決囚ニ對シテハ網笠ヲ使用セシメ其何人タルヤヲ外聞ヨリ鑑別スルコト能ハサラシメ以テ被告人ノ自尊心ヲ保護ス然ルニ公判ヲ開廷シ網笠ヲ脱シ判事ニ陳述ヲ為シ居ル場合判事ト同列ニ写真機ヲ据ヘ被告ノ素顔ヲ撮影シ之ヲ公表スル如キハ被告人及其親族家族ニ私刑ヲ加フルト同様ノ結果ヲ生シ科刑以上ニ被告人等ヲ苦シムルモノナリト信ス

第十、朝鮮ニ関スル事項

(一) 朝鮮ニ裁判所構成法ヲ實施セラレタキコト

(二) 弁護士法ヲ朝鮮ニ實施スルコト

(三) 裁判所及検事局ノ職員ヲ増加シ其待遇ヲ改善スルコト

(四) 朝鮮ニ訴願法及行政裁判所法ヲ實施セラレタキコト

(五) 朝鮮人ノ親族相続ニ関スル成文法ヲ速ニ制定スルコト  
(以上京城内地人弁護士會提出)

採択議案

●司法省諮問事項ニ對スル答申

第一、準備手續ノ期日前ニ於テ當事者互ニ準備書面ヲ交換シ各其主張ノ要点ヲ明確ニ為スコト、但シ之カ爲メ期日ヲ遅延セシメサル様務ムルコト

第二、口頭弁論及準備手續ニ於ケル最初ノ期日以外ノ期日ハ當事者双方ト協議ノ上協定セラルヘキコト

第三、証拠ニ付テノ申出ハ準備手續ノ期日前予メ書面ヲ以テ相手方ヘ通知シ且内容ノ知レタル書証ニ付テハ其ノ謄本又ハ抄本ヲ添付スルコト

第四、訴訟代理人ハ証人ヲシテ期日ニ出頭セシムル様裁判所ト協力シテ適當ナル手段ヲ取ルコト

以上

附帶希望

第一、新法施行後當分ノ大都市ノ地方裁判所ニ於テハ新法ニ依ル事件ト旧法ニ依ル事件トハ別異ノ部ヲシテ之ヲ取扱ハシメラルルコト

第二、区裁判所ニ於テモ裁判所ニ於テ相當ト認メラレタル場合ニハ期日前互ニ準備書面ヲ交換シ各其ノ主張ノ要点ヲ明確ナラシメ、証拠ノ申出ニ付テモ予メ書面ヲ以テ相手方ヘ通知シ其書証ニ付テモ謄本又ハ抄本ヲ添付スルコト

第三、裁判所ハ訴狀ヲ被告ニ送達スルニ當リ同時ニ被告ヲシテ速ニ応訴ノ準備ニ着手セシムルニ適當ナル注意書ヲ交付セラルル

コト

第四、準備手続ニ於ケル受命裁判官ノ任命ニ付テハ任務ノ重大ナルニ鑑ミ其選任ヲ慎重ニセラルルコト以上

● 司法官弁護士会長合同協議会提出事項

第一、現行民事訴訟法ニ関スル事項

(一) 小作訴訟事件ハ社会問題トシテノ重大性ヲ日々濃厚ナラシメツアルニモ不拘其審理ノ渋滞甚シキ現下ノ趨勢ニ鑑ミ其進行ニ付民事上刑事上深甚ノ注意ヲ払ハレタキコト

(二) 嘱託証人調ニ付キ証拠調ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル方法ヲ講セラルルコト

其方法ノ一例

当該証人調ヲ必要トスル争点ノ大要ト立証趣旨トヲ簡明ニ記述セル書面ヲ申請人ヨリ提出セシメ之ヲ嘱託裁判所ヘ送付スルコト

本案裁判所ニ於テ予メ当事者カ立会フヤ否ヤヲ確メ立会ヲ為ス場合ニ於テハ其旨ヲ嘱託裁判所ヘ通知シ可成当事者ノ立会ヲ俟テ訊問セラルルコト

嘱託証拠調期日前証人不參其他証拠調ニ支障アルコト判明シタルトキハ受託裁判所ハ当事者代理人ニ電報ヲ以テ其旨通知セラレタキコト(電報料ハ証拠調費用予納ヨリ支出ノコト)

第二、刑事訴訟法ニ関スル事項

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

(一) 人權尊重ノ精神ニ鑑ミ刑事訴訟法第百十三条ノ規定ノ趣旨ヲ徹底セシムル意味ニ於テ已ムコトヲ得サル場合ノ外勾留ヲ更新セサルコト

(二) 官選弁護人ニ実費ヲ支給セラルルコト

(三) 陪審法第九十五条ニ依リ陪審更新ノ決定ヲ為ストキハ特別ノ事情ナキ限り裁判所ノ構成モ亦之ヲ変更セラルルコト

第三、弁護士法ニ関スル事項

(一) 弁護士法改正委員会案ヲ明年度議會ニ提出セラルルコト

第四、登記ニ関スル事項

(一) 仮登記ノ登録税ヲ相当増額シ本登記ノトキ其登録税ニ之ヲ通算スルコトニ改メラルルコト

第五、調停法ニ関スル事項

(一) 借地借家調停法第三条ノ適用ヲ勵行セラレタキコト

第六、朝鮮ニ関スル事項

(一) 朝鮮人ノ親族相続ニ関スル成文法ヲ速ニ制定セラルルコト以上

出席員(注、省略)

右協議会は、夜八時半までかゝりて終る。それより少憩の後、主催者側の招待晚餐会開かれ、和氣霽々歛談の裡に宴会を了りたるは十時過なりき。

③ 司法官弁護士会長合同協議会 (正義) 昭和四年六月号

八四六 (三四二)

司法官弁護士合同協議会記事（二）

五月六日の協議会は、午前九時四十分開会、出席弁護士会長及会長代理副会長の総員六十名にして、前日協議決定したる弁護士会長の答申、附帯希望並協議事項は即時印刷に付し、開会に先ち第一東京弁護士会長より、之を当日出席の司法省吏員、司法官及弁護士会長一同へ配布したり。

原司法大臣議長席に就かれ、別項の如き挨拶ありたる後、直に議事に入り、第一東京弁護士会長岩田宙造君より、司法省の諮問事項に対する弁護士側の答申及附帯希望に付き理由を説明し、東京地方裁判所長田中右橋君司法官側の答申趣旨と併て弁護士側の答申に全然賛成する旨を述べられ、更に弁護士側より司法官の答申に対する意見を述ぶる順序なりしも、該答申は後刻其要領を書面に認め配布せらるゝ都合なりしを以て、順序を変更し、続て第一東京弁護士会長より弁護士会長提出に係る協議事項に付き別項の如き説明を為し、更に關東京弁護士会長より第三弁護士法に關する事項に付き補充説明して、午前の會議を閉ぢたり。

休憩中、別項の通り司法官側答申書の配布ありて、午後一時四十五分再開、大阪地方裁判所長荒井操君より、弁護士側提出の答申、付帯希望事項及び協議事項に対し、立法並予算に關する事項を除き、大体賛成の旨を述べられ、次で第一東京弁護士会長より弁護士側を代表し、司法官側の答申に大体賛意を表し、協議を終了したり。

原司法大臣は、協議の結果に付ては夫々適當なる方法に依り、其実現に努力すべき旨を述べて協議会を閉ぢられたる後、最近帰朝せられたる岩松判事の講演あり、弁護士会長は一同司法省玄関前にて記念撮影を為し散会したり。

○原司法大臣の挨拶（注、省略）

○岩田第一東京弁護士会長の答申説明（注、省略）

○岩田第一東京弁護士会長の提出協議事項説明（注、省略）

○司法官答申書（注、省略）

○出席員（注、省略）

○帝國弁護士會  
士會主催  
司法官會同參加の全國弁護士會長招待會（注、省略）

昭和五（一九三〇）年

①司法官弁護士会長合同協議会（公論）第三四卷第七号、昭和五年七月号）

司法官と弁護士会長の會同——六月七日司法省に於て重大案件協議——

昭和五年度司法官會議は、六月六日から九日迄開催されたが、右の内七日を以て、司法官と弁護士会長との會同に當てたが、會議に入るに先立ち、渡邊法相より左の如き挨拶があつた。

○渡邊法相の挨拶

一、改正民事訴訟法の施行に際りまして、朝野法曹各位が互に誠意を以て聯絡協調を執られ、外に対しては新法の趣旨を宣明し、内に在つては訴訟

手続上新法の精神の貫徹に努力されましたことは、陪審制度施行の當時に各位の示されたる熱誠に優るとも劣らないのであります。このことは、司法制度の運用の前途に一大光明を与へたものでありまして、この協調を以てしたならば、如何に困難なる仕事も之を為し遂げ得るのであらうと云ふ信念を抱かしむるに至つたのであります。茲に、各位の御努力に対し、深く感謝の意を表す次第であります。

改正民事訴訟法が施行せられてより、未だ僅かに八月余を経過したるに過ぎぬ今日、其成績を決定的に批判致しますことは早計に失するの諱を免れませぬが、新法実施後訴訟の進行が非常に順調になりましたことは、統計の示す所であります。此点から見まして、新法の大眼目たる訴訟促進の目的は、其一部を達したと申上ぐるに躊躇しないのであります。新法の前途の爲めに、各位と共に御同慶に堪へない所であります。

御承知の如く、改正法の目的とする所は、審判の適正と訴訟の促進であります。旧法時代に於きましては、甚しく訴訟遅延の弊に悩まされて居りましたので、新法は特にこの弊害を除去する爲め、訴訟手続上一大變革を加へたのであります。然しながら、新法は四十年間に亘り慣熟し來つた手続を一新したのでありますから、裁判所側も弁護士諸君も未だ十分に新法に依る訴訟手続に親まれないのでありまして、其運用上彼は齟齬を來すことのありますのは、寔に已むなき次第であります。其爲めに、何となく新法に対する不満の念の生ずるが如きこともないとは限りませぬが、廳がて新法の運用に習熟致しましたならば、斯る不満は全く消散すること、確信しますから、実施後未だ日の浅い今日運用上多少の不便のあるに失望して、徒に

不満を訴ふるが如きことなく、十分之を愛護哺育して其健全なる發達に力を尽されんことを希望致すのであります。

改正法実施の初に當つて創設せられしたる慣行は、やがて將來の訴訟手続を支配するものであります。若し今に於て、改正法の精神に則り從來の慣行を打破して、新なる良慣習の創成に努力致しませぬならば、民事訴訟遲滞の弊は到底之を除去することが出来ないのであります。而して、此の良慣習を創成するに付きましては、幾多の困難に遭遇することもありませうが、撓まず努力致しましたならば、この難事も亦容易に仕遂げ得ることは疑を容れないところであります。

一般国民は、日常の取引に於きまして、万一の紛議の場合に処すべき準備を殆ど欠いて居りまして、一旦紛議が起りますと、当事者は弁護士に對し極めて不完全なる訴訟資料を不秩序に提出するものであります。弁護士諸君が此間に立て、能く新法に依る訴訟手続に適應し、時機に遅れざる行動を採られることの甚だ困難であることは察するに余りある所であります。併し弁護士諸君は、裁判所職員と共に司法機關の一員として、新法の運用に協力すべき重大なる職責を持って居らるゝのでありますから、一般国民に對し新法の趣旨を徹底せしめて、訴訟手続に関する智識を涵養するに務めらるゝと共に、具體的事件に付ては、訴訟当事者を法廷に陪同する等、適當の方法に依つて之を指導し、能く新法に依る訴訟手続に順応せしむる様、御努力あらむことを希望致します。

一、民事訴訟は、前にも述べました通り、改正法の実施と共に朝野法曹の眞摯なる協力に因りまして、余程其の進行が促進されて來たのであります。

刑事訴訟に至りましては、曩に均しく事件処理の迅速をも期して、法律の改正が行はれましてに不拘、依然として進行の遅々たるものがあることは、甚だ遺憾とする所であります。

各位は、何卒民事訴訟に対すると同様、朝野克く協調せられまして、刑事事件に於きまして、手続の進行に一層の努力を尽されん事を、望むで駄まない次第であります。

一、司法に対する国民の信頼を高めますには、その朝に在ると野に在るとを問はず、苟も身を法曹の列に置く者が、居常其の言行を慎み、些少なりと雖も民衆の信頼を毀損するが如きこと無きを要するは、申す迄もないところであります。然るに、不幸にして近時在野の法曹にして、刑辟に触る、行動を為すものが著しく増加したるの傾あるは、甚だ遺憾の次第ありまして、自ら国民の信頼を傷くるに至ること、思ふのであります。

各位は、在野法曹の有力なる方々でありますから、何卒此の点に御留意の上、風紀の革正に御尽瘁あらんことを、切望してやまぬ次第であります。

#### ○司法官、弁護士合同協議会協議事項

改正民事訴訟法実施の実蹟に徴し、更に裁判所と弁護士と協力が必要とする事項如何

#### ●右答申（地方裁判所長）

##### 第一 開廷時間励行のこと

第二 答弁書其他の準備書面の記載を簡明にし其の提出を遅延せざるべしと

第三 証人訊問申出書の記載を正確にし且つ其提出を怠らざるべしと

と、呼出状不送達となりたるときは速に新住所を申出づること  
第四 書証の謄本又は抄本の提出を怠らざること

第五 証拠調の費用予納を怠らざること

第六 証人の出頭率を高むる様努力すること

第七 準備手続には可成当事者本人を同行すること

第八 区裁判所事件に付ても可成準備手続の精神に則り訴訟準備を十分にし審理の集中促進を期すること

第九 口頭弁論期日に当事者双方の不出頭なきやう注意すること

第十 新法の目的を貫徹する為め裁判所弁護士共に更に一層緊張して誠実に事務を処理すること 以上

#### ●司法省諮問事項に対する答申（弁護士会）

第一 区裁判所の判決に付きても当事者をして之を了解せしむるに足る程度に其理由を記載すること

第二 準備手続に於ける受命裁判官の選任に付ては一層慎重にせられたきこと

第三 民事訴訟法第一百五十八條第二項附加期間に関する規定を遠隔の地に居住するもの、為めに活用すること

第四 期日の変更及続行の申請は機械的に之を却下することを避け理由の有無を考量し相当なときは之を許容すること

第五 当事者の一方が闕席の儘結審したる場合に於て其の闕席したることに付き相当の理由あるときは弁論の再開を許す様取計はれたきこと

第六 供託書還付手続は可成之を簡易にし全国的に一定せられたきこと

第七 口頭弁論外に於て採用せられたる証拠調に付きては速に之を当事者に通知せられたきこと

第八 真実発見の爲め必要な証拠調其他の訴訟行為は時期に遅れたるものとして一概に之を却下せざること

第九 改正民事訴訟法施行の結果に徴すれば審理の促進を図る爲め審理不尽に陥るの憾あり適當なる方法を採られたきこと

第十 地方裁判所の民事々々に付き其輕重難易を問はず総て準備手続を行ふの取扱方を改め各事件毎に適當に之を処理せられたきこと

第十一 証拠調は当事者の希望ある場合は可成直接取調を爲し囑託手続によらざる方針に出でられたきこと

第十二 他の判決が訴訟の勝敗に影響を及ぼす場合に於ては弁論延期其他の方法により適當に之を処置せられたきこと 以上

●全国弁護士会長の決議により司法官弁護士会長合同協議會提出事項

第一 陪審法第七十七条の説示に付き裁判長の許可を得て速記せしめたる場合は之を記録の一部に加ふること

第二 刑事訴訟起訴前に於ける強制処分は濫用に陥ることなき様注意せられたきこと

第三 勾留期間は可成更新の決定を爲さざること

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

第四 予審中に於ける弁護人の弁護権は之を尊重し充分活用せしむる様せられたきこと

第五 予審中の被告人に対する接見又は書類の授受の禁止を慎重に考慮し濫用に傾かざる様注意せられたきこと

第六 検事局は裁判所の証拠決定に基く不起訴記録の取寄せに応ぜらるべきこと

第七 偽証に対しては訴追を励行すること

第八 執達吏の執務に付き弊害少なからざるを以て厳重に監督せられたきこと

第九 準備書面には印紙を貼用せざること各裁判所を通じて其取扱を一定せられたきこと 以上

●全国弁護士会長の決議による希望事項

第一 曩に司法省に於ける弁護士法改正委員会成案を第五十九議會に提出せらるゝこと

第二 確定判決を受けたる訴訟物に付ては判決の效力として消滅時効の期間を適當に延長すべき法規を設けられたきこと

第三 小作料其他小作関係の争議に付き訴訟が繫属するときは受審裁判所は職権を以て事件を調停に付することを得との法規を設くること

第四 司法省が各種法律の改正案を弁護士会に諮問せられるゝに際しては相當の期間を与へられたきこと

第五 司法官会同に於ける協議済の事項は差支へ無き限り各弁護

八四二(三三八)

士会に公表ありたきこと

第六 地方裁判所及控訴院の判検事を増員し民刑事事件の促進を期すること

第七 朝鮮に裁判所構成法を速かに実施せられたきこと 以上

○日本弁護士協会主催の会同の全国弁護士会長招待宴

——近頃意義ある会合——

司法官と弁護士会長とが会同する様になつてから、その弁護士会長の上京を機とし、日本弁護士協会にては之を招待し、意見の交換と懇親を図ることは、毎年の恒例となつてゐるが、本年も会同の翌日たる六月八日正午、青葉に煙ぶる九段坂上富士見軒に各会長を招き、支那料理の卓を囲むことになった。梅雨を控えて居る事として、前日迄は雲低く垂罩めた日が続いたが、此日に限つて雲切れて蒼空が帝都を掩ふて、近頃になき好天気、従つて、温度が少し高いが、山の手の青葉を撫で、来る涼風が相当にあるので、何んとなく清々しい。定刻となるや、多数の来賓や会員が続々と詰めかけ、富士見軒三階の大広間もいっぱいになった。斯くして、一同揃つたところで記念撮影（巻頭参照）を為し、次いで食堂を開いた。地方に依つては、余り支那料理が無いことゝて、来賓に相当受けたやうであつた。デザート・コースに入るや、理事吉田三市郎君は協会を代表して一場の挨拶（注、省略）を述べた。

（注） 吉田三市郎に次いで、名古屋弁護士会長加賀喜久治、理事新聞弘

道、理事吉川忠志、東京弁護士会長塚崎直義、平壤弁護士会長呉崇殷のテーブルスピーチが掲載されているが、省略した。

斯くして、宴を閉ち別席にて懇談し、散会したのは午後三時頃であつたが、近頃になき意義ある会合であつた。尚ほ当日出席の来賓並に会員諸君は左の如し。（一記者）

来賓側（注、省略。広島からは土井與一出席）

会員側（注、省略）

②司法官弁護士会長合同協議（「正義」昭和五年七月号）

司法官弁護士合同協議会記事（一）

○提出議案打合せ

「改正民事訴訟法実施の実蹟に徴し更に裁判所と弁護士と協力が必要とする事項如何」の問題に付き、協議すべく招集せられたる昭和五年度司法官会同は、六月六日より司法省に於て開会せられたり。

先是、弁護士会側に於ては、冒頭司法省諮問事項に対する答申及び提出すべき議案打合せの爲め、本年度当番幹事たる第二東京弁護士会に於て、会議招集の手続を運び、司法官弁護士合同協議会議前日たる、六月六日午後二時より、上野精養軒に於て、全国弁護士会長及代表者の打合会議を開催せり。

花岡第二東京弁護士会長議長の下に会議を進行し、前年の例に

倣ひ、議案に付き各控訴院管内より一名乃至二名の小委員を互選して精査一任の結果、小委員会に於て慎重審議を重ねて得たる成案に付、議長より報告し、満場一致を以て別項の如き議案の決定を見た。

右終つて後、主催者側の招待に依る晩餐会を開き、和氣霽々歓談の裡に散会したり。

### 議案

司法省諮問事項に對スル答申（注、省略）

全国弁護士会長ノ決議ニヨリ司法官弁護士会長合同協議會議提出事項（注、省略）

全国弁護士会長ノ決議ニヨル希望事項（注、省略）

### 出席員

（第二東京）会長代理花岡敏夫、幹事後藤重晃、幹事中松淵之助、（東京）會長塚崎直義、副會長大塚春富、副會長三森武雄、副會長小野久、（第一東京）會長岩田宙造、副會長天野弘一、副會長播磨辰治郎、（横浜）會長成瀬復一、（浦和）會長青木洵、（千葉）會長杉山彌太郎、（水戸）會長關根正、（長野）會長小島相陽、（宇都宮）會長藤沼秀、（前橋）會長島岡利二、（静岡）會長中西惣三郎、（甲府）會長藤巻嘉一郎、（新潟）會長松本弘、（大阪）會長中川太郎、（京都）會長寺尾治郎吉、（神戸）會長青木雷三郎、（奈良）會長高瀬包三、（大津）會長信正美雄、（和歌山）會長細見重喬、（徳島）會長高津住胤、（高松）副會長藤本保一、（高知）會長高原伊三郎、（名古屋）會長加賀喜久治、（安濃津）會長鈴木米治郎、（岐阜）會長矢野茂郎、（福

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

井）會長堤重恭、（広島）會長土井與一、（岡山）會長藤田和孝、（鳥取）會長長砂鹿藏、（松江）會長草光久三郎、（松山）會長富田嘉吉、（長崎）會長重藤鶴太郎、（佐賀）會長橋爪勇、（福岡）會長内田茂七、（大分）會長後藤久馬一、（熊本）會長河野新吾、（鹿児島）會長松山長門、（宮崎）副會長齋藤克三、（仙台）會長佐藤長成、（福島）會長星興市、（山形）會長佐藤治三郎、（盛岡）會長綿野玉次、（秋田）大浦千代見、（青森）副會長梅村大、（札幌）副會長芳谷今造、（函館）會長高橋泰、（樺太）會長等力了、（旭川）會長松野七十二、（京城）副會長橋本庄之助、（京城）會長金用茂、（咸興）會長渡邊興、（平壤）會長吳崇殷、（新義州）會長神保信吉、（大邱）會長金宣均、（釜山）會長安武千代吉、（全州）會長大友歌次、（閔東州）會長五泉賢三

### ○全国弁護士会長招待会

帝国弁護士会に於て、今次の司法官会同に参加の爲め上京せられたる、全国各地弁護士会長の招待会を、去る六月八日午後五時より、第一東京弁護士会館に開催したり。各会長を始め原、花井両名誉会員等多数の出席あり、定刻主客食卓に就き、席上、帝国弁護士会理事天野敬一君は主人側を代表して挨拶を述べ、之に對して會長側を代表して名古屋弁護士会長加賀喜久治君の謝辞あり、次で各会長、原、花井両名誉会員等交々起て、別項の如き有益なる卓上演説を試み、和氣藹々の裡に散会を告げたり。

（注）天野敬一、加賀喜久治（名古屋）、綿野玉次（盛岡）、岩田宙造（第

一東京、寺尾次郎吉（京都）、中西惣三郎（静岡）、安武千代吉（釜山）、原嘉道、花井卓蔵、鶴澤総明、濱田國松、松本恭治、宮岡恒次郎による「早上演説」は、省略。

## 昭和六（一九三二）年

### ① 司法官弁護士長合同協議会（公論）第三五卷第六号、昭和六年六月号

司法官と弁護士会長の会同——重要事項を協議す——

昭和六年度の司法官会議は、五月六日より同九日まで、司法省に於て行はれたが、右期間中の第二日目の同七日を、司法省と弁護士会長の会同に当てる事になり、同日午前九時より会議室に於て開かれ、渡邊法相以下各司法大官、全国弁護士会長出席、午前午後に亘り、左記協議事項につき協議したが、協議に先立ち左の如き渡邊法相の挨拶あり、夕景より工業倶楽部に於て司法大臣の招宴があつた。

### ○ 渡邊法相の挨拶

一、改正民事訴訟法が実施せられてから、既に一年半を経過致しましたが、其の間朝野法曹の協力一致に依て、民事訴訟の改善進歩の上に好成績を収むるを得ましたことは、各位の御尽力の結果に因ること大なるものとありと存するのであります、深く感謝の意を表する次第であります。

殊に、旧民事訴訟法は、其実施せられる、こと約四十年の長きに亘り、其の間法の精神に副はぬ様な好ましくならぬ習慣も馴致せられたのであります

けれども、一度習慣となりましたものは容易に改め難きものであるのに拘らず、改正法実施後其の運用の衝に当らる、各位の御努力に依り、例へば準備手続の制度が活用せられて、裁判所も当事者も著しく無駄の手数と時間を省くと共に訴訟は却て迅速且円滑に行はる、等、改正法の精神が次第に徹底して行く様に成りましたことは、我司法界の為欣喜に堪へぬところであります。

斯くして、今後も引続き各位の御努力に依り、良習慣が民事訴訟手続の上に健全に植ゑ付けられて参りましたならば、数年ならずして裁判所の職員に於ても亦弁護士諸君に於ても、何等の苦痛なく此の良い習慣に従ふことが出来るのみならず、進んでは無意識の中に之に従ふ様に成り、民事訴訟法の改正の目的が完全に達成せらるべきことは、極めて明らかであると思ふのであります。

只近時、民事訴訟の取扱の上に於きまして、改正民事訴訟法施行の當時に比し、稍弛緩の徴があるのではないかといふことを聞くのであります、是れは極めて稀なる事例とは思ふのでありますが、仮令僅な事例であつたとしましても、今にして之を改めなければ、不知不識の内に次第に、其の傾向が全般に浸潤して参る様にならぬとも限らぬのであります。左様に相成つては、折角の苦心も水泡に帰し、延いては終に民事訴訟改善の目的が破壊せられて仕舞ふ様な事になりはしないか、と思はれるのであります。実に只今は、我民事訴訟に取りまして、最も重大なる時機と考へるのでありますから、此の期に際し各位の一段の御協力を願ひ、以て国民の権義保全の上に遺憾なからしめむことを、切望するものであります。

一、次に、区裁判所の事務停止及地方裁判所支部の権限の縮小に付て、一言したいと思ひます。

区裁判所の事務停止又は地方裁判所支部の権限縮小が、地方に於ける訴訟等の関係者に不便を与ふる事は誠に明白でありまして、固より希望する次第ではないのであります。只今最近十年間に於ける、裁判事務は約三分の二の増加となり、檢察事務は約二割増加致して居るに拘らず、之に對して職員の増加は毫も之なきのみならず、却て大正十二年大正十四年の両度に亘り、判檢事に於て合計百十五人、書記に於て合計二百人の節減を見、最近又判檢事三十人、書記二百八十二人の人員を減少しなければならぬ事になりました為、已むを得ず今回の処置を採るに立至つたのであります。今後財政の状態が改善致しましたならば、成る可く速に之が復活を得たいと考へて居りますが、出来得る丈関係者の不便を少からしむる為め、便宜適當の措置を講ぜらるゝ様、御列席の各位に於て御配慮あらむことを希望します。

一、先年来、治安維持法、盜犯等の防止及処分に関する法律等制定実施せられました為め、地方裁判所の公判に於ける所謂必要弁護事件の数は従来に比し増加し、従つて又裁判所に於て弁護人を選定するの已むを得ざる場合も多くなつたのであります。其の結果、各地に於て弁護士諸君に御無理を御願ひ致したことも少からざるやに存するのでありますが、私は大に各位の勞を多とし、茲に厚く感謝の意を表するのであります。

治安維持法違反事件が、今日猶根絶致しませぬことは、洵に遺憾に存する次第であります。同法違反事件の公判審理に當り、各地に於て被告人

が徒に事を構へて、法廷の審理を混乱に導き巧に主義の宣伝を為し、以て法廷の秩序を紊るの弊、近時愈著しき事も亦慨嘆に堪へぬ所であります。而して、当局の調査する所に拠れば、彼等の此の種の行動たるや意識的計画的に為さるゝのでありますから、勢ひ裁判所としても彼等に乘ぜられぬ為、対策を講ずるの必要に迫られる事も亦避け難い次第と信するのであります。然り而して、法廷の秩序維持の權能たるや獨り裁判長の專權に属するのであります。之が運用に當つては、弁護人の十分なる諒解あるに非ざれば、円満なる訴訟の進行は期し得られぬのでありますから、各位は裁判所の意ある所を能く諒承せられて、法廷の秩序維持に協力せられむ事を切望する次第であります。

一、申す迄もなく、判事檢事弁護士は、各独自の地位に於て、其の職務を遂行するものであります。此の三者が常に緊密なる連絡協調を保つことが、司法の運用上肝要なことは多言を俟たぬ所でありまして、近時各地に於ける在朝在野の法曹間の協議会其の他の機會に於て、朝野の法曹間に時務の遂行上相互協力の氣運著しきものある事は、司法の向上進歩の為慶賀すべきこと、信するのであります。將來共益此氣風を助長し、司法事務の發展を期せられたいのであります。

#### ○合同協議會議案

一、前回の司法官弁護士合同協議會後に於ける民事訴訟の成績に徴して改正法の精神を徹底せしむる為め裁判所と弁護士と更に協力すべき事項如何

答 申

第一、左の諸点は、昭和五年度の協議会に於て弁護士会長より既に答申せられたる処なれども、尚一層勵行せられたきこと

(一) 区裁判所の判決に付きても当事者をして之を了解せしむるに足る程度に其理由を付すること。(昭和五年度答申第一参照)

(二) 準備手続に於ける受命判事の選任に就きては一層慎重にせられたきこと。(同上第二参照)

(三) 民事訴訟法第百八十五條第二項附加期間に関する規定を遠隔の地に居住する者のために活用すること。(同上第三参照)

(四) 期日の変更及続行の申請は機械的に之を却下することなく理由の有無を考慮し相当なるときは之を許容せられたきこと。

(同上第四参照)

(五) 口頭弁論外に於て採用せられたる証拠調に付きては速かに之を当事者に通知せられたきこと(同上第七参照)

(六) 準備手続後に於ける証拠の申出又はその他の訴訟行為と雖も故意に訴訟を遅延せしめざるものなる限りは真実発見の爲め之を採用せられたきこと。(同上第八参照)

(七) 改正民事訴訟法施行の結果に徴すれば訴訟の促進を図るため審理不尽に陥るの憾あり適當なる方法を探られたきこと。(同上第九参照)

【理由】此項に付きて特に理由を一言すれば、訴訟の迅速を計るは訴訟法の精神なるも、之が爲め必要な証拠調を却下し又は其他の訴訟行為を許容せざるに由り真相を逸すること必らずしも

尠からず。一面審理の迅速を図ると共に、他面真相を把握するは民事裁判の信用を維持する所以なり。

(八) 地方裁判所の民事事件に付き軽重難易を問はず凡て準備手続を行ふが如き取扱を改め各事件毎に適當に処理せられたき事。(同上第十参照)

(九) 証拠調は当事者の希望ある場合は可成直接取調をなし嘱託手続に依らざる方針に出られたき事。(同上第十一参照)

第二、訴訟事件複雑なると否とを予定し開廷時間を可成午前午後に分して証人多数の事件は午後の開廷せられたきこと。

第三、証人調に付きては穩和を旨として証人を安んじて供述せしむる事に務められたきこと。

第四、口頭弁論終結後往々にして数ヶ月判決の言渡を為さず又言渡後判決の送達著しく遅るゝことあるは当事者の不便尠からざるを以て民事訴訟法第百九十条本文及び第百九十二条を勵行せられたきこと。

二、民事裁判の執行を確保するに就き考慮すべき事項如何

#### 答 申

第一、仮差押仮処分決定に付き保証金を軽減し証明方法其他の手續を簡易にすること。

第二、執達吏制度の根本改善を為すこと現在の制度に於ても執達吏の増員監督の勵行、執達吏合同役場の分離、競売場の新設等執行機關に対し適當の改善を加へられたきこと。

第三、仮処分命令は各場合の事態を審査し権利を確保する為め適當なる措置を講ぜられたい。

第四、強制執行に方り暴行又は不正の行為を以て妨害を為す者に對し告訴ありたるときは検事は迅速に之を取調べ相當の処分を為されたいこと。

#### 提出事項

(一) 民事上告事件に於て被告人を呼出ざる場合に於ても上告ありたることを被上告人に通知し及び判決正本を送達せられたきこと。

(二) 刑事裁判に於ては直接に訴訟材料を審理し眞実を発見するを旨とし直接審理主義及公判中心主義を厳守し法律の精神を實現せられたきこと。

(三) 予審中に於ける弁護人の弁護權を尊重し弁護に必要な手續を尽さしめられたきこと。

(四) 刑事訴訟法第三百三十五條を勵行し被疑者及び被告人の訊問を親切にせられたきこと。

(五) 被疑者及被告人の勾留を慎重にせられたきこと。

(六) 刑事公判の囑託証人訊問には弁護人をして立会はしむること。

(七) 告訴事件は弁護士の代理したるものなると否とを問はず迅速に充分なる取調をせられたきこと。

(八) 刑事補償法実施に當り一層人權擁護に重きを置かせられたきこと。

#### 希望事項

(一) 昨年度に於ける希望事項第一の趣旨を勵行せられたきこと。

(二) 民事訴訟法に伴ふ強制執行の規定の改正を促進せられたきこと。

(三) 地方裁判所支部權限縮少及び區裁判所の事務取扱停止を速かに復活せられたきこと。

(四) 裁判官を増員し裁判事務の促進を図ること。

(五) 供託並に還付手續を簡易ならしめられたきこと。

(六) 刑事の上告審に於て原判決を破毀したる場合に事實審理を要するときは下級裁判所に移送して更に審理を為さしむることに法律を改正すること。

(七) 裁判所構成法を朝鮮に實施せられたきこと。

(八) 司法官弁護士會長合同協議会の協議事項は遅くとも一ヶ月前に之を通知せられたきこと。

右協議会に出席した弁護士左の如し。

以上

(東京) 山岡萬之助、(第一東京) 鶴澤總明、(第二東京) 中松盛雄、(横浜) 成瀬復一、(浦和) 村岡禎二郎、(千葉) 杉山彌太郎、(水戸) 關根正、(宇都宮) 藤沼秀、(前橋) 池田光之亟、(静岡) 中西惣三郎、(甲府) 淺川龜太郎、(長野) 小島相陽、(新潟) 松木弘、(京都) 寺尾次郎吉、(大阪) 喜多村桂一郎、(神戸) 青木雷三郎、(奈良) 中西保之、(大津) 山本福丸、(和歌山) 細見重喬、(徳島) 高津住胤、(高松) 宇野長之、(高知) 高原伊三郎、(名古屋) 山田鐵夫、(安農津) 長井源、(岐阜) 佐藤郡八郎、(福井) 辻岡

尚、(金沢) 神保重吉、(富山) 尾崎直能、(広島) 岡田陸藏、(山口) 筒井禎一、(岡山) 波多野隆助、(鳥取) 小山晋、(松江) 大脇熊雄、(松山) 清家俊三、(長崎) 荒木清、(佐賀) 甲斐熊彦、(福岡) 松尾参三郎、(大分) 三橋秀太、(熊本) 大淵朴、(鹿児島) 松山長門、(宮崎) 江川甚一郎、(那覇) 麓純義、(仙台) 門屋直哉、(福島) 星興市、(山形) 佐藤治三郎、(盛岡) 綿野玉次、(秋田) 大浦千代見、(青森) 三上直吉、(札幌) 村田不二三、(旭川) 松村芳幸、(釧路) 松田雄太郎、(樺太) 谷口丈太郎、(京城内地人) 佐久間貢、(京城朝鮮人) 劉文煥、(平城) 韓根祖、(新義州) 李熙迪、(大邱) 韓奎鏞、(釜山) 佐々木清綱

○司法官会同の全国弁護士会長招待

——日本弁護士協会に於て——

我が日本弁護士協会は、去月八日恒例に依り、弁護士司法官会同の爲め上京せる全国弁護士会長を、赤坂山王下「幸楽」に招待して午餐を供しその労を犒った。数奇を凝した会場の前庭には、折柄青葉の間に血の如き真紅の躑躅が燃え盛って一段の興趣を添へた。定刻となるや、記念の撮影を爲して食堂に入ったが、上京以来洋食や支那料理責めに合った来賓は、思ひがけなき日本料理にくつろげられた模様であった。

斯くて、理事猪股淇清君は、協会を代表して一場の挨拶を述べ「……我が協会は、弁護士法改正問題、全国区裁判所事務停止並に支部の格下問題につき、全国弁護士大会を開催せしところ、その都度遠路わざわざ参会されて氣勢を添へられた御熱心に対し、

事の成否を問はず、衷心より感謝する次第であります。今後と雖も斯る場合は、各位の絶大なる御助力を乞ふ次第であります」と述べて、更に遠来の労を犒ひ、

次いで、東京弁護士会々々長山岡萬之助博士は、来賓一同を代表し、当日の招待を感謝したる後「……日本弁護士協会は、常に法曹界の先驅となつて事ある毎に活躍され、以て法曹の權威保持に努力されてゐる。……(中略)……事はすべて大衆の力を以て当たらねばならぬ、全国六千の在野法曹の力を以てせば、何事も遂行し得る事を確信するものである。今後とも我々法曹の爲め、層一層の活躍を切望して止まないものである……」と激励し、

それより、理事中村泰治君の指名に依り各地代表のテーブル・スピーチに移る。

先づ、京都の寺尾治郎吉会長は「……私は今回の司法官会同に出席して心潜かに喜んでゐる事は、私達が生命を賭して闘つてゐる改正弁護士法につき、委員会案同様の法案を提出するといふ司法大臣の言明を得たのであります。併し区裁判所の停止、支部の格下に対しては、地方民の意思に反し之を遂行しつゝ、あるが、私達は飽迄その不当を責め、その回復に努力せねばならぬ。願くば従来通り、日本弁護士協会の御活動を願ふ次第であります」と述べ、

京城の鮮人会長劉文煥君は、「朝鮮が依然として総督政治に禍されて、司法権の独立は侵害されて手の施す道がない……」とて

総督府の圧迫に対し、激越なる語調を以て慷慨して、司法権確立の爲め内地法曹と協会の助力を要望し、

松江の大脇熊雄会長は、今夏松江市に於ける広島控訴院管内の弁護士大会に協会代表の出席を希望し、

第一東京の鵜澤總明会長は、弁護士の使命の立場を立論し「弁護士を尊重しない以上その国の文化は尊重する価値がない」と在野法曹の権威の爲めに強調し、

広島岡田陸藏会長は、「……（中略）……私が痛切に遺憾に思ふのは、同じ使命の下に日本弁護士協会と帝国弁護士会の二つあることである。……（中略）……流れを一つに大海の洋々たるものにして頂き度い、これに在野法曹の勢力を一層強固にする所以であると思ひます……」と主張し、

盛岡の綿野玉次会長は、司法当局の態度につき皮肉を浴せ「司法当局は、常に司法事務を適正に行ひと云ひ、また転任するに際して送別会等の席上、幸にして大過なくと云つてゐるが、私達から見れば何れも当つてゐない事実を発見するのである」と気を吐き、

鹿児島松山長門会長の感想があつて、一応打ち切り、来賓一同並に協会の爲めに乾杯し宴を閉ち、更に別室に入つて懇談し、午後四時散会した。当日出席されたる諸君、左の如し。

来賓側（注、省略。広島からは岡田陸藏出席）

会員側（注、三名の氏名は省略）

広島弁護士会沿革誌（6）昭和戦前編・下

## ②司法官弁護士会長合同協議会（正義）昭和六年六月号）

帝国弁護士会の全国弁護士会長招待会に於ける演説

帝国弁護士会では、過般司法官弁護士合同協議会に出席した、全国弁護士会長の労を犒ふ爲め、去る（注、五月）八日午後五時より同会館に招待し、晚餐会を開催し、中村理事より開会の挨拶を述べ、来賓を代表して山岡東京弁護士会長の謝辞があり、引続き各地弁護士会代表者の所感演説あり、盛会裡に午後八時散会した（「新報」昭和六・五・一五）。

（注）「全国弁護士会長招待会に於ける演説」には、（大阪）喜多村桂一

郎（京都）寺尾次郎吉、（那覇）麓純義、（大邱）韓奎鏞、（京城）

劉文煥、（釜山）佐々木清綱、（福岡）松尾參三郎、（熊本）大淵朴

（鳥取）小山晋、（広島）岡田陸藏、（前橋）池田光之亟、（盛岡）綿

野玉次、検事総長小山松吉、（札幌）村田不二三、名誉会員原嘉道、

（第一東京）鵜澤總明の演説が掲載されているが、ここでは、（広島）

岡田陸藏の演説を収録し、その外は省略した。

「地方弁護士大会には帝国弁護士会より

可成多数の代表者を派遣せられたし」

広島弁護士会長 岡田陸藏 君

私が広島岡田であります。御礼は既に先輩の方から申されましたから、直ちに自分の責任を果して見たいと思ふのであります。既に多数の方から

八三四（三三〇）

色々述べられましたから申上げることがない位に感じますが、責任を果すのに矢張り逃げ尻と云ふことに言はれてはいけませんから、所感を一つ申上げたいと思ふのであります。

私はこの多数の先輩学者諸君のお出になる状況を見まして、同時に一面この多くの先輩並に賢明なる方々が、彼の帝国議場に於てあらゆる暴行、乱脈を極めた人達の拵へた法律を執行するに當つて、侃々諤々の論をせられるのが何だか愉快には感じられぬのであります。是は余り大きいやうな問題になりますけれども、左様な感じを持つ点が多数あるのであります。それで直ちに、今回の会合に付ての私の所感を申し上げますと、鵜澤、山岡両博士が代表して載いて、囂んで含めるが如く司法官の方々、裁判所の方々に向つて御説明下さつて、我々としては実に痛快に感じ、思ひ措くこともない程であります。

ところが、斯くまで多数出しました問題は、矢張り裁判所側の御反省を求めると同時に御緩和を願ふことが多くであつたのであります。最後に、行つて或る控訴院の方並に東京地方裁判所長の方、この方々が交る交る三四の方に依つて、最後まで弁護士の方の怠慢を主とされての御主張が強かつたのであります。それで到頭、弁護士の方は、止めを刺されたやうな形になって、之に対して何等の反駁が出来なかつたのを、私は遺憾千万であつたのであります。怠慢は弁護士にありと云ふ形であつた。此所に盛岡の綿野さんがお出になります。切齒扼腕されたのであります。斯様な感じが致して居りますので、要するにまだ裁判所側として、司法省の或る局長さんの頭として、どこまでも弁護士が怠慢であると云ふやうに考へて居りま

すから、会議は終はりましたが、皆様そのお積りでこの方面に御心配を仰ぎたいと思ふのであります。之を一つの希望と致しまして、お願致して置きます。

次に、地方の各控訴院管内に於きまして大会を開きます。是は、大正十五年かに広島控訴院管内で大会を催しまして、帝国弁護士会と日本弁護士協会の両方に御出席を仰ぐことが出来たのが、確か大正十五年か昭和二年かが初めかと思ふのであります。是は、最初岡山が考へつきまして、御出席を仰いで非常な効果を得たのであります。是までは、田舎の所謂井戸の底の蛙の騒ぎみたやうなことが、どうしても都會に徹底することが出来なかつたのであります。余りに井戸の底が深かつた。ところが、両会の方が見えられ、直接にお聴取り下さいまして、さうして我々の会議を直ちにその筋に御協議を願ふがために、その効果が直ぐ現はれる。一例を申し上げます、我々も常に同意をして居つた、この司法官會議に弁護士を参加させよと云ふことを常に申して居る。是が実現したと云ふことは、矢張りこの両会の方々からお伝へを願つた結果と深く感謝して居るのであります。我々が如何に足掻きましても、控訴院長なり検事長なりが見えたりしても、矢張りその管内で抽出の中に入れられてしまふことが多いやうに思はれる。それが、司法省まで到達することが出来ない憾みがあつたのであります。左様な關係から、両会の方々が三人でも四、五人でも沢山お出下さることを希望致すのであります。費用の点は、差向き出すかと仰つしやつては、確かと御返事は出来ませんが、併し斯うして御招はれることから見れば、何でもなかつたことと考へるのであります。

そこで、来る七月十八日に松江で広島控訴院管内の弁護士の大会を開きます。松江は山陰第一の都会でありまして、皆様も多分粋な方も、粋ならざる方も安来節と云ふものは御承知でありませうが、その情緒を味ひ旁々我々の為にかくお出下さるやうに、お願致すのであります。是は松江の弁護士会長が居りませんけれども、お頼みする考えはあつたらしいのでありますから、私がお取次する次第であります。どうかお願致します。誠に御静聴を煩はしました。

## 昭和七（一九三二）年

### ①司法官弁護士会長合同協議（正義）昭和七年九月号）

#### 司法官弁護士会長合同協議会報告

鵜澤 總明

昭和七年六月二十五日司法省會議室に於て、合同會議を開くこととなつた。是れより先き、第一東京弁護士会は本年度の当番であり、諸般の準備の爲めに彼れ此れ斡旋したのであつた。先づ第一に、全国の弁護士会長に宛て、別項記載の如き司法省の諮問事項に対し意見を求めたのである。又在京三弁護士会は、二十二日に第一東京弁護士会館で協議した。又會議の前日である六月二十四日午後三時から上野精養軒に、上京された全国の弁護士会長（朝鮮の弁護士会長を含む）を招待して総會議を開き、各弁護士会長から提出した答申案や希望案に就いての意見を取纏めることとした。当番たる第一東京弁護士会長が議長席に就き、各控訴院管

内の弁護士会から二名宛の委員、東京には三弁護士会があり、会員数も多いのであるから、常例の二名の外に東京の各弁護士会から一名宛の委員を出すことにした。委員の外弁護士会長も、固より傍聴することは出来ることであつた。委員会は熱心に討議して答申案を決定し、之を総會議に諮つて成案と爲つた訳である。

司法省に於ける合同協議会は、予定の二十五日に行はれた。多少定刻の九時は過ぎたが、準備上已むを得ぬことである。開会の報告があり、先づ小山司法大臣から一場の挨拶と所感を述べられた。會議に入つてから、裁判所、検事局を代表する意見の開陳があつた。之れに次で、第一東京弁護士会長が、全国の弁護士会長を代表して、前日の答申成案に基き各要項を逐一演述した。正午休憩、午後二時から再開、司法当局、裁判所、検事局の代表者の弁護士会長案に対する意見の開陳があつた。裁判所、検事局の答申に対しては、抽象的にその問題の穩当にして実行し得べきものは固より、弁護士会に異存は無いと思ふ。然し、全国弁護士会長間に於て未だ熟議の遑が無かつたから、具体的ことは明年度の合同協議会までには、十分意見の開陳が可能なこと、思ふ、と述べて置いた。朝野法曹間に大体意見の一致を見たことは、合同協議会の有意義なことを示すものであつた。合同協議会は、斯くて和氣霽々の裡に散会を告げたのである。全国弁護士会長の答申成案と之に対する各関係当局の意見は、その極めて簡明な筋だけを別項に掲げる。多少の誤謬は後に速記を得て補正すること、致

したい。

○司法官弁護士会長合同協議会提出事項

第一、民事訴訟ノ現状ニ鑑ミ改善スヘキ点如何

●答申

（一）職員ノ増員法廷ノ増設職員ノ待遇改善等司法機関ヲ整備充  
実シテ訴訟遅延ノ根源ヲ救済セラレタキコト

宇野東京地方裁判所長、此ノ点至極同感ナリ

（二）民事訴訟法第三五九条ヲ削除スルコト

但シ右改正前ハ区裁判所ノ民事判決モ当事者力諒解スルニ足  
ル程度ノ理由ヲ判決理由ニ記載スルコト

宇野所長、法律改正ノ点ハ差控ヘタシ。但書ニ就テハ事件ノ程度ニ依リ  
理由ヲ付セリ成ルベク希望ニ副ヒタシ

（三）民事裁判ノ執行ヲ確實完全ニスル方法ヲ講セラレタキコト  
特ニ

（一）土地明渡又ハ家屋明渡ノ執行ヲ迅速ニスル方法ヲ講ス  
ルコト

（二）不動産競売ノ場合ニ競売ノ妨害ト為ル行為ヲ嚴重取締  
マラレタキコト

宇野所長、当然ノコトデアリ成ルベクソノ趣旨ニ副ヒタシ經濟事情ニ依  
リ職員不足等ノ為メ十分ナラザルハ遺憾ナリ

（四）供託物還付手續ヲ簡單ニスル様法規ヲ改正セラレタキコト  
宇野所長、法規改正ニ関スル故ニ意見ハ差支ヘタシ

（五）民事事件ニツキ輕重難易ヲ問ハス一律ニ準備手續ヲ行フカ  
如キ傾向アルモ之ヲ改メ各事件毎ニ適當ニ處理セラレ度キコ  
ト

宇野所長、異存ナシ

（六）裁判ノ言渡及正本送達ハ遅延セサル様適當ノ方法ヲ講セラ  
レタキコト

宇野所長、同意

（七）裁判ニ関スル書類ノ記載ハ明確ニセラレタキコト

宇野所長、同意

（八）仮差押仮処分其他担保ヲ供スヘキ場合ニ於テ第三者ヲシテ  
供託ヲ為サシメ得ル旨ヲ明ニスル為相當ノ規定ヲ設クルコト

宇野所長、法規改正故差控ヘル

（九）民事訴訟ニ於ケル偽証ハソノ訴追ヲ勵行シ法廷ニ於ケル宣  
誓ノ神聖ナルコトヲ徹底セシムルコト

三木東京控訴院檢察長、檢事側ニ對スル意見ナリト思ヒ一言ス趣旨ハ賛  
成弁護士側ニ細カイコトガアツテハ応ジ難キヤモ知レズ

（十）開廷時間ヲ整理及勵行スルコト

宇野所長、最モ賛成スル所ナリ

（十一）上告又ハ抗告ノ提起アリタル時ハ上告狀又ハ抗告狀ノ副  
本ヲ相手方ニ送達スル事及上告審及抗告審ニ於ケル裁判ノ結  
果ヲ相手方ニ知ラシムルコト

和仁大審院長、此点ハ大審院ノミデナク控訴院ニモ關係アリ抗告ハ宇野

所長ノ述ベラレタルガ如ク手続方法費用等ニ關係アリ未ダ判事諸君ト相談ノ邊ナキモ何レ相談ノ上適當ノ措置ヲ取ルベシ抗告ノコトハ抗告本人ヨリ副本送達費用ヲ納付スレバ希望ニ副フヤウ致シ度シ裁判所ガ之ヲ実行スルハ今日ノ場合或ハ難カラン裁判ノ結果ハ地方ニテハ相手方ニ知ラセズ經費ニ關係ス

(十二) 民事訴訟法第一三五条ヲ勵行スルコトニヨリ訴訟ノ整理促進ヲ計ルコト

和仁院長、当事者ガ本人デ訴訟行為ノ出来兼ねルトキハ代人ニ依ラシムベシ

(十三) 抗告事件取調審理ヲ促進セラレタキコト

特ニ

(一) 不動産競売事件ノ抗告審理甚タ遅延スルヲ以テ之レヲ促進スルコト

(二) 抗告事件カ書面審理ニ移リタルトキハ期間ノ定メナキカ故特ニ遲滯スルヲ以テ其弊ヲ除去スル様セラレタキコト  
和仁院長、御尤ノ提案注意スルコトニ致シタシ

(十四) 控訴審ノ審理ハ十分慎重ニセラレタキコト

和仁院長、異論ハナシ固ヨリ懈怠ノ責任ヲ看過セヨト云フ趣旨ニアラザルベシ審理ヲ慎重ニスルコトハ御尤モト思フ

(十五) 仮執行ニ付担保ヲ要セサル場合ノ標準ヲ定メ民事訴訟法第一九六条ヲ勵行セラレタキコト

和仁院長、前段ハ同意シ兼ねル第百九十六條ノ勵行ハ尤モ至極ト思フ

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

(十六) 改正民事訴訟法施行ノ結果ニ徴スレハ訴訟ノ促進ヲ図ル

タメ審理不尽ニ陥ルノ憾アリ適當ナル方法ヲ採ラレタキコト  
和仁院長、前回ニモ提案アリ適當ニ考慮スベシ

(十七) 訴訟手続中止ニ関スル旧法ノ規定ヲ復活セラレ度キ事

和仁院長、法律改正故ニ意見ハ差控ヘル

(十八) 上告審ノ審理遅延ノ声アリ適當ナル方策ヲ講セラレタキコト

和仁院長、此点ハ幾分認め然シ改正後事件ガ非常ニ増加シタルニモ因ルカト思フ猶詳細ニ件数ノ統計ヲ述ブル所アリタリ

第二、刑事事件ヲ迅速ニ終結セシムル方策如何

●答申

(一) 職員ノ増員法廷ノ増設職員待遇改善等司法機關ヲ整備充実シテ訴訟遅延ノ根源ヲ救治セラレタキコト

宇野所長、賛成

(二) 予審ヲ簡略ニシ刑事訴訟法ノ精神ニ從ヒ公判中心ノ審理ニ重キヲ置カレタキコト

宇野所長、予審ノ取調ヲ簡略ニスルト云フ意味ナラバ直ニ同意シ難シ予審ノ取調ガ不完全デアッタト云フ非難モアリ旁々余計ナ取調ヲ簡略ニスルト云フ意味ナラバ同意ナリ

(三) 予審手続中ニ於ケル弁護人ノ弁護權ハ之ヲ尊重シ充分活用セシムル様取扱ヲ改メラレタキコト

宇野所長、希望ニ副フヤウ致シタシ

八三〇 (三二六)

(四) 勾留期間ノ更新決定及起訴前ノ強制処分ハ其濫用ヲ慎重マレタキコト

三木検事長、起訴前ノ強制処分ハ出来ルダケ控ヘ居レリ出来得ル限り範圍ハ縮少シ居ルガ猶出来得ル限り注意スベシ濫用ハ慎重ザル可ラズ

(五) 勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見禁止ハ最長期ヲ定メ且ツ濫ニ之ヲ為ササル様刑事訴訟法第一一二条ヲ改正セラレタキコト

三木検事長、法規改正ニ付意見ハ差控ヘル

(六) 選挙違反事件ハ許ス限リ手続ヲ簡略ニセラレタキコト

三木検事長、此点検事局ノ関係カト思フ強制処分ト関係スル事項ト為リ強制処分ガ多キナル場合ニハ予審ノ請求ハ少ナクナル從テ強制処分ヲ見合ストキハ予審ヲ求メネバナラヌ場合トモナルベシ成ルベク略式命令ニ依ルコトトシタシ

(七) 開廷時間ヲ整理及勵行スルコト

宇野所長、賛成

(八) 公訴提起後検事ハ刑事訴訟法第二五四条同第二五五条同第三三三条同第三〇七条ノ規定ノ精神ニ反シ捜査ノ範圍ヲ脱シテ証人又ハ被告人ヲ直接取調フル弊アリト認ム爾後其弊ヲ除去スル為メ適當ノ方法ヲ講セラレタキコト

三木検事長、予審ヲ請求シタ事件ニ付テハ其調べタ事項ニ付テハ検事ハ取調べズ其他ノコトニ就テハ取調べテモ仕方ガナイト思フガ注意スベシ

●希望提出事項

(一) 司法ニ関スル立法並ニ既成法律ノ改正案等ハ議會ニ提出スル以前ニ於テ先ツ全国ノ在野法曹即チ弁護士会ニ成案ヲ垂示シ当否ノ意見ヲ諮問ニ付シ其答案ヲ精査シ而ル後決行スル慣例ヲ作ラレタキコト

皆川次官、出来ルコトハ成ルベク御希望ノ如ク致シタシト述べ

(二) 一ノ地域ニ於テ登録シ且ツ弁護士会ニ加入シタル弁護士ハ他ノ地域ニ於テモ個々ノ民刑事件ノ取扱ヲ為シ得ル様共通法ヲ改正スルコト

(三) 朝鮮ニ刑事補償法ヲ実施スルコト

(四) 朝鮮ニ於テ訴願及行政裁判制度ノ実施ノ促進ニ努力セラレタキコト

皆川次官、以上三項ハ管轄ガ違フモ当該官庁ニ移牒スベシ場合ニ依リ本省トシテモ相談ニ与ルベキコトモアルベキカ

○司法官会同に於ける大臣、院長、総長の訓示、演述(注、省略)

②司法官弁護士会長合同協議会(「新報」昭和七・七・五)

帝国弁護士会の全国弁護士会長招待会

帝国弁護士会は、去月二十二日正午同会館大会議室に、折から司法官並に全国弁護士会長協議會議に列席の爲め上京中なる、全国弁護士会長一同の招待会を催した。

同会理事鹽谷恒太郎氏起つて、開会の挨拶に兼ね弁護士職務は国民全体の利害休戚に関する重要な地位に在る、従て「私の地位ではない、国民全体の利害を代表するものであると云ふことを考へて戴きたい」云々と述べ、次で岡山弁護士会長岡本佐市氏は来賓一同を代表して謝辞を述べ、平松市藏氏は「近時の司法権行使の上に考違ひがある。此頃の裁判は、行政化の傾向がある。

先頃の民訴、刑訴改正法案の如きは、裁判の緊縮であると云はねばならぬ。ソナなことは、司法機関としての国民の権利擁護の責任を全ふすることは出来ぬ。経費が不足で人員不足で手が廻らぬと云ふなら、十分に予算を取つて、人をタクサンにしてドシ／＼裁判するやうにして貰ひたい」とて所感を披瀝し、続いて長崎弁護士会長陣内惣三郎氏の挨拶並に京城弁護士会長吉武繁氏は「朝鮮の司法界は内地弁護士より継子扱ひを受けて居る。今後は是非共精神上だけは一致してやるやうにして、朝鮮司法界の爲めにも尽して貰ひたい」との希望を述べ、鹽谷氏の発声で万歳を三唱各自歓談を尽くして散会した。

③ 司法官弁護士会長合同協議会（公論）第三六卷第七号、昭和七年七月号）

恒例に依る司法官弁護士会長合同協議会は、本年度司法官會議の第二日目、即ち六月廿四日午前十時から司法省の會議室に於て行はれた。

例年東京に於ける、東京弁護士会、第一東京弁護士会、第二東京弁護士会の三弁護士会が順番に当番幹事となり、その当番幹事は司法省より諮問された事項につき、各地方弁護士会長一堂の下に会同し協議の上、答申する事につきいろ／＼世話する事になつてゐるが、本年の当番は第一東京弁護士会である。会同の前日たる同廿三日午後三時から、上京の各地弁護士会長、上野精養軒に集合し、左の如き司法省よりの諮問事項につき協議することになった。

一、民事訴訟法ノ現状ニ鑑ミ改善スヘキ点如何  
二、刑事事件ヲ迅速ニ終結セシムル方策如何

右につき慎重審議の結果、満場一致を以て左の答申を為し、合同に臨んだのであつた。

弁護士会長の提出事項（注、省略）

答申（注、省略）

希望提出事項（注、省略）

当日となるや、東京の三弁護士会の会長、乾、仁井田、鵜澤の各博士を始め各地弁護士会長並に各司法官列席、席定まるや小川法相議長席につき一応の挨拶を為したる後、右弁護士側の答申事項につきては、鵜澤給明氏理由の説明を為し、司法省、裁判所、検事局側より答申（省略）せし事項についても、それ／＼手分けして説明するところあつたが、弁護士側の答申事項については、相当意見も出たが、大体に於て賛成の方が多かった。

尚ほ、司法官會議に於ける小山法相を始め和仁大審院長、林檢事總長の訓示を左に紹介することにする。

「国家の負託に背くな」司法大臣小山松吉 (注、省略)

「司法の威信を朝野法曹一致して護れ」大審院長和仁貞吉 (注、省略)

「人格第一主義」検事総長林頼三郎 (注、省略)

○本協会主催の全国弁護士会長招待宴

——近頃になき意義ある会合——

燃ゆる青葉に清々しい風が流れてゐた。こゝは赤坂の山王台下の料亭「幸楽」である。例年の事ながら、司法官弁護士会長合同協議会の為め上京せし全国弁護士会長に対し、我が日本弁護士協会主催となり、招待する記念す可き日である。時は昭和七年六月廿五日正午、前日の鬱陶しいのに引替へ、梅雨晴れの蒼い空には白い雲が浮いて、温度も相当に高く、扇の欲しい日である。定刻となるや協会理事者と相前後して東京の乾、浦和の竹内、高松の古市、千葉の杉山、奈良の川島、鳥取の長砂、岐阜の大道寺、前橋の興田の諸君が続々と詰めかけ、会員もまた多数で、近頃になき盛會である。一時頃となり、出席者の足の止まった頃を見計らつて、口絵の如き幸楽の庭園にて記念撮影を為し、懇親宴に入つた。御馳走は來賓を満ふ可く支那料理である。席定まるや理事駒澤辰明君は協会を代表して、大要左の如き挨拶を為した。

司法制度改善に資する為め、今回の会同協議會に遠路上京せられたる各

位に対し、一席の勞を満ふ可く御招待申上げましたところ、斯くも多数御出席下さいましたことは、衷心より感謝の意を表す次第であります。御承知の通り、今日の司法界は多事多難の時であります。僅か六ヶ月に充たざるに司法大臣が四度も更迭され、之れより來たる司法事務の渋滞は余りにも明かな事実であります。此処に於て我々が野法曹は、司法当局監視を怠らずに居たところ、突如として少額事件上告禁止、判決理由省略の民刑二法案を、臨時議會に提出せんとするのを仄聞したのであります。そこで本協会は卒先して、全国弁護士大会を開き反対の狼火を挙げましたところ、司法当局も与論には抗し難く、遂に握り潰しになつたのであります。これ全く法曹出身議員の努力と全国弁護士各位の御後援の賜であつて、その代表者たる各位に謹んで感謝する次第であります。

今後と雖も、司法制度改善の為め朝野法曹と折衝すること、と思ひます。そこで全国弁護士大会の実行委員は、一先づ茲に解散すること、いたしますが、斯る場合は、今回同様、全国の在野法曹に一致團結的御助力を乞ふ次第であります。尚ほ一言附加へて置きたいことがあります。九州、中国、北海道、東北各地に弁護士大会を開かれ、本協会もその都度、御招待を受けて居りますが、斯かる場合は、適當の代表者を出席せしむる意味に於て、せめて二週間位前に御通告をお願いいたします。

右終つて、各控訴院管内の代表者の挨拶に移ることとなり、理事小山巧君が紹介係となり、出席順を以て、いの一に東京控訴院管内の静岡弁護士会長鈴木源藏君自席に起ち、……(注、省略)……とのべ、

(注) 以下、名古屋弁護士会長長服部經次、大阪弁護士会長黒木逸作、山口弁護士会長長村岡吾一、長崎弁護士会長陳内惣三郎、青森弁護士会長長山壽雄の各挨拶省略。

次いで、朝鮮京城の内地人弁護士会長吉武繁氏は、今回の二法案につき意見を述べてから、本年九月の候を卜して、全鮮弁護士大会を開くことになって居ります。其節は日本弁護士協会も多数御出席下さいまして光彩を添へて戴きたいのであります、とのべ、

次いで、同(注、京城)朝鮮人弁護士会長姜世馨君は、激越なる口頭を以て民事令刑事令といふものがあつて、万事が総督に依つて支配され、司法権の独立といふことは実行されて居ないのは慨嘆に堪えぬことを高調し、更に今回の二法案に対する本協会の努力を感謝し、これを以て、代表の挨拶を終り、有志のテーブルスピーチに移り、東京弁護士会長乾政彦、作間耕逸、猪股清淇諸君の今回の二法案を根拠に感想並に意見を述べ、殊に乾博士は司法当局が今回の二法案を提出するに至つたのは、全く予算のないところから出発してゐるのであるから、此の予算を取る場合は在野法曹も大蔵当局に交渉して司法改善の爲めに計りたい、何れ東京弁護士会は総会を開き、その具体方法を決定する方針であると強調し、岡山の岡本会長から意見があつてから、眞下五朗君は今回日本弁護士協会が卒先して弁護士徽章を制定した動機と理由とを述べ、全国弁護士が挙つて佩用されたと口を極めて勧説し、和

歌山弁護士会長は徽章制定の理由が了解せしを以て私は責任を以て和歌山弁護士会の会員には会の費用を以て之を求め全部佩用させたいと思ふと即座に注文し、前橋会長の佐藤信一君の意見などがあつて、盛会裡に散会したのは四時であつた。

## 昭和八(一九三三)年

### ①司法官弁護士会長合同協議会(正義) 昭和八年六月号)

#### 司法官弁護士会長合同協議会報告

第一東京弁護士会長 堀江專一郎

昭和八年度司法官弁護士会長合同協議会は、四月二十二日司法省に於て開催せらるゝに付き、「各地ノ判検事及弁護士協議会ノ実績ヲ挙クルニ付考慮スヘキ事項如何」との諮問あり、第一東京弁護士会に於ても常議員会の議を経て答申案を作り、同時に提出事項を附加して(提案事項の一部は常議員会に諮り、一部は常議員会閉会後会員より提出せられたるものに付其儘にて提案す)之を本年度の当番幹事第二東京弁護士会に送致したり。

四月二十日午後四時より、東京三弁護士会の会長副会長全員、第二東京弁護士会館に集合し、全国弁護士会より提出の答申案並に提案に付、意見を交換し之を一通の書面に取纏めたり。

同二十一日午後二時より全国弁護士会長並に東京三弁護士会副会長東京会館に集合し、答申案並に提案に付意見を交換し、結局左の如き成案を得たり。

●司法大臣の諮問による協議事項に対する答申案

「各地ノ判検事及弁護士協議会ノ実績ヲ挙クルニ付考慮スヘキ事項如何」(司法省案)

右司法省提出案に対する答申事項

一、協議事項決議ノ際其實行ニ関スル具体的方法ヲ必ス同時ニ決定スルコト

二、決議事項ハ司法官、弁護士ノ各一般ニ告示スルノ外勵行ヲ要スヘキモノハ特ニ各代表ヨリ夫々司法官及弁護士其他必要ト認ムル向ヘ通知スルコト

三、勵行事項ノ施設及其成績ヲ各代表ヨリ次回ノ協議会ニ報告スルコト

四、勵行事項ノ履行ヲ怠ル向ニ対シテハ各代表者ヨリ其ノ履行ヲ勸告スルコト

五、各地ノ判検事弁護士協議会ノ決定事項カ相抵触スルモノハ之ヲ司法官及弁護士合同協議会ノ審議ニ附シ成ルヘク全国的ニ之カ統一ヲ期セラレタキコト

六、各地ノ協議会ノ決定事項ハ其地ノ当番幹事ニ於テ従来ノ決定事項ト共ニ印刷ニ附シ冊子トシテ配付スルコト

七、(イ)東京ニ中央司法事務協議会ヲ設ケ大審院並ニ東京控訴院管内各裁判所検事局並ニ弁護士会ヨリ委員ヲ選出シ事務上ノ協議ヲ行ヒ採用シタル事項ハ全国裁判所検事局並ニ弁護士会ニ通知スルモノトスルコト

(ロ)既存ノ司法事務協議会ハ東京ニ於テハ中央司法事務協議会ト合併シ年二回以上開催スルコト

八、各地ノ裁判所及検事局並ニ弁護士会ヲ單位トシ之ヨリ其実情ニ応シ各若干名ノ司法事務協議会決議事項実行委員ヲ選任スルコト

九、前記実行委員長及ヒ本会共少クトモ毎月一回會合シ実行セラレ居ラサル事項ノ勵行ヲ促シ互ニ誠意ヲ披瀝シ且懇親ヲ図ルコト

十、実行困難ナル事項ニツキテハ其ノ原因ヲ攻究シ其困難ナル原因ヲ除去シ又ハ輕減シ得ヘキ性質ノモノナルヤ否ヤ等ヲ考究シ適當ノ実行方法ヲ立ツルコト

十一、各地方ノ司法事務協議会ニ必要ナル相当員數ノ關係裁判所及検事局書記執達吏並ニ調停委員ヲ参加セシムルコト

十二、各地ノ判検事及弁護士協議会ノ協議事項ハ裁判所ノ都合又ハ事務ノ進捗ニノミ重キヲ置カス訴訟当事者ノ利益ヲ特ニ考慮セラレタキコト

十三、司法事務協議会ヲ委員ノ外ノ判検事弁護士ニ傍聴ヲ許スコト

十四、各控訴院管内ニ於ケル司法官ノ司法事務協議会ニ其管内ノ弁護士代表ヲモ参加セシムルコト

十五、以上ノ事項ニ付各地ノ裁判所及検事局並ニ弁護士会ノ間ニ於テ適宜連絡ノ為メ互ニ報告ヲ交換スルコト

●司法官及弁護士会長合同協議会提案事項

- 一、我國現下ノ非常時ニ際シ裁判ノ國民思想ニ及ホス影響ノ甚大ナルニ鑑ミ其職責ノ更ニ重大ナルヲ自覺シ司法權運用ノ任ニ在ル在朝在野法曹ハ互ニ協力シ此際一層ノ緊張ヲ期セラレタキコト
- 二、司法官及弁護士会長合同協議会ニ於テハ形式ニ囚ハルコトナク腹藏ナキ意見ノ交換ヲ為シタル上一旦決議シタル事項ハ之ヲ朝野各法曹ニ徹底セシメ必ス実行ヲ期セラレタキコト
- 三、司法官及弁護士会長合同協議会ノ協議事項ハ慎重審議ヲ期スルカ為メ成ルヘク相当ノ期間ヲ措キテ各弁護士会長ニ回付セラレタキコト
- 四、民事裁判ニ対スル上訴期間ヲ一ヶ月ニ伸長スルコトニ法規ヲ改正セラレタキコト
- 五、従来ノ司法官及弁護士会長合同協議会ニ於ケル協議事項及希望事項ナル差別ハ之ヲ廃止シ単ニ「協議事項」ト改ムルコト
- 六、司法大臣カ毎年司法省ニ開催セラルル司法官及弁護士会長合同協議会ナルモノハ「各地ノ判檢事及弁護士合同協議会」ト混同セラルル虞アルヲ以テ爾今「全国司法官及弁護士会長合同」ト其名称ヲ一定セラレタキコト
- 七、毎年司法官及弁護士会長合同ニ於テ決議セル事項ハ司法省ニ於テ印刷スル「司法官弁護士合同議事速記録」ノ附録トシテ一目了然タラシムル為ニ特ニ之ヲ揚ケラレタキコト
- 八、陪審制度ノ效果ヲ挙クル為メニ之カ具体的の方策ヲ講セラレタキコト
- 九、予審偏重ノ弊ヲ矯メ其審理ヲ簡捷ニシ刑事訴訟法ノ精神ニ則リ重キヲ直接審理ニ措キ之カ実行ヲ期セラレタキコト
- 十、検事局ハ民事裁判所ノ証拠決定ニ基ク不起訴記録ノ取寄ニ応セラレタキコト
- 十一、偽証事件ニ対スル訴追ヲ勵行セラレタキコト
- 十二、各種調停ノ実績ニ鑑ミ調停委員ニハ成ルヘク弁護士中ヨリ多数選任セラルルヲ可ト信スルニ依リ之カ実行ヲ期セラレタキコト
- 十三、各種調停手續ニ原則トシテ弁護士代理制度ヲ採用セラルル様法規ノ改正ニ務メラレタキコト
- 十四、給付判決ノ效果ヲ減殺スル脱法行為ニ徹底の匡救方法ヲ講セラレ度殊ニ強制執行ニ付實際上ノ效果ヲ収ムル為メ執行回避ノ疑アリト認メラルル質權設定、第三者執行又ハ合資会社設立等ニ対シ適當ナル防遏方法ヲ講セラレタキコト
- 十五、担保取消ニ関スル手續ヲ簡易ナラシムル様民事訴訟法ノ改正ニ務メラレタキコト
- 十六、破産及和議管財人、整理委員、特別代理人、株式会社ノ檢査役、取締代行者及不在者ノ財産管理人等ニ付キ適任者ヲ衡平ニ選任スル方法ヲ講セラレタキコト
- 十七、上訴ヲ許スヘキ判決及決定ニ付テハ民事訴訟法第百七十條

第二項ノ書留郵便ニ付スル方法ニ依ラス（同法第七十二條同第七十三條參照）同法第六十二條ノ送達方法ニヨラレタキコト

十八、民事上告事件ニ付テハ口頭弁論ヲ開カサル場合ト雖モ判決言渡期日ハ予メ之ヲ当事者ニ通知シ且其判決正本又ハ謄本ハ被上告人ヘモ之ヲ送達セラレタキコト

十九、全国枢要地裁判所ニ損害賠償部ヲ特設シ主トシテ工業所有權及傷害等ニ関スル訴訟ニ付迅速且適正ナル審判ヲ為スニ遺憾ナキヲ期スルコト

二十、全国枢要地以外ノ区裁判所ニモ監督判事ハ一層練達シタル人材ヲ配置セラレタキコト

二十一、国税地方税ノ滞納処分ニ因ル不動産公売処分不動産ノ競売申立ト競合スル場合ハ公売手続ヲ中止シ競売手続ヲ進行セシムヘキ適當ナル措置ヲ講セラレタキコト

二十二、従来司法警察官力行政執行法ヲ濫用シテ被疑者ノ自由ヲ拘束シ檢察当局モ亦之ヲ默認シ居レリトノ非難アルニ鑑ミ被疑者ノ身体拘束ノ要アル場合ハ法規ヲ嚴守スヘク当局ヨリ關係官署ニ嚴達セラレタキコト

二十三、口頭弁論開始後ト雖モ証人調等ノ結果必要トナリタル証挹調申請ハ特ニ事件ノ遷延ヲ企図スルニ非サル以上之ヲ許容スルコト

二十四、準備手續調査、口頭弁論調査及其他ノ調査ノ誤謬ナカラ

シムル為メ適當ノ方法ヲ講スルコト

二十五、法律案ニシテ相當重要性アルモノハ議會提出前相當審議ノ時間ヲ与ヘテ諮問セラレタキコト

二十六、団体ノ名ヲ藉リテ徒党ヲ組ミ破産管財人其他裁判所ヨリ任命セラレタル者又ハ執行行為ヲナス場合及法廷ノ内外ニ於テ弁護士ニ対シ強談威迫シ或ハ名誉ヲ毀損スル等惡辣不正ノ手段ニ依リ業務ヲ妨害セントスル者ニ対シテハ進ンテ司法權ノ發動ニヨリ之ヲ根絶ニ務メラレタキコト

二十七、弁護士タルノ資格試験ニ於テ受験者ノ学力並ニ品性ノ考查ヲ嚴ニスルコト

二十八、仮差押仮処分執行事件ニ付執達吏ニ於テ点檢ノ必要アル場合ニハ予メ債權者ニ之ヲ通知シ立会ノ機會ヲ与フルコト

二十九、区裁判所ノ裁判ニモ争点ト為リタル事項ニ対シテハ力メテ理由ヲ示サレタキコト

三十、弁護士ヲ代理人トセル告訴告発ハ速カニ取調ニ着手シ之ヲ取扱ヲ嚴ニスヘキコト

三十一、輕微ナル刑事事件ニ於テ被告人自白シ且逃走並証挹湮滅ノ虞ナキ場合ハ可成保釈ヲ許サレタシ、殊ニ保釈ヲ一種ノ恩典視シ又ハ之ヲ上訴防止ニ利用スルノ傾向ナキニアラス之ヲ避ケラレタキコト

三十二、司法檢察官力自白ヲ強ユル手段トシテ今尚陵虐ヲ加フトノ非難ヲ聽キ而モ其中相當信スヘキモノアリ檢事局ノ注意ヲ促

シ度シ

三十三、妄リニ判決言渡期日ヲ變更セサルハ勿論其正本ノ送達ヲ  
遅延セシメサル様努力セラレタキコト

三十四、上告事件ノ審理頗ル遅延シ居レリ相当改善ノ措置アリタ  
キコト

三十五、金銭債務臨時調停法ニ依ル調停ノ申立ニ対シテハ裁判所  
ハ「誠実ナル債務者」ヲ嚴格ニ解釈スルコト

三十六、行為能力若クハ処分能力ニ対スル制限事由ハ不動産ニ付  
之カ公示ヲ為スヘキ制度ヲ設ケラレタキコト

三十七、訴訟事務ノ進捗ヲ顧念スルコト急ニシテ裁判ノ実質ニ遺  
憾ナル結果ヲ生スル嫌ヒアリ特ニ事案ノ真実發見ニ留意セラレ  
タキコト

三十八、金銭債務臨時調停法ニ依ル調停。裁判上和解。和議。強  
制和議。商事調停。借地借家調停。小作調停ニ於ケル条件履行  
ノ実況ヲ調査セラレタキコト

三十九、裁判所構成法、弁護士法、行政裁判法、訴願法（今期帝  
國議會ニテ採択）四案ニ付其実施促進ノ方策ヲ講セラレタキコ  
ト

四十、共助事件ノ審理ヲ町重ニシ其調書ノ記載ヲ詳密ニセラレ  
タキコト

四十一、檢事ノ不起訴処分ニ対スル抗告ノ審査ハ兎角形式ニ流ル  
ルノ憾ミアリ当局ノ反省ヲ求ム

四十二、執達吏ノ合同役場ハ之ヲ廢セラレタキコト

四十三、司法部ノ要職及判檢事ハ全部弁護士ヨリ採用スルノ制度  
ニセラレタキコト

四十四、刑事々件ニ付無罪ノ判決確定シタル者ニ対シテハ總テ之  
ニ補償ヲ与フルノ制度ニセラレタキコト

四十五、期日ノ變更及続行ノ申出ハ法規の表面ノミニ依リ却下ス  
ルコトナク理由ノ有無ヲ考慮シ許否ヲ決セラレタキコト

四十六、訴訟ヲ業トスルモノノ債權讓受ニ依ル取立請求事件ニ付  
テハ信託法規ノ適用上特ニ注意ヲ払ハレタキコト

四十七、契約解除債權讓渡等通知ノ場合相手方住所不明ノトキハ  
公示送達ノ方法等ニヨル救済規定ヲ設ケラレタキコト

四十八、勾留期間ノ更新決定及起訴前ノ強制処分ハ其適用ヲ充分  
慎重ニセラレタキコト

四十九、予審中ニ於ケル弁護士ノ弁護權ヲ尊重シ充分之ヲ活用セ  
シムル様機會ヲ与ヘラレタキコト

五十、債權者カ供託物取扱規則第五条ニ依リ弁済ノ為メニ為シ  
タル供託金ヲ受領セントスル場合ニハ供託書ノ添付ヲ要スル定  
メナルカ供託書ハ同規則第三条及同条ノ二ニ依リ供託者ニ交付  
シアルヲ以テ債權者カ此ノ供託書ノ交付ヲ受ケントセハ更ニ供  
託者ニ対シ訴ヲ提起セサルヲ得サルノ不便アルニ付供託書ハ供  
託局ヨリ其通知ト共ニ債權者ニ交付セラルル様規則ヲ改正セラ  
レタキコト

五十一、昭和七年度司法官弁護士会長合同協議会ニ於ケル弁護士側ノ答申、提出事項、希望事項中後其一ヶ年間ノ実績ニ徴シ勵行セラレサルモノノ勵行方ヲ更ニ強調セラレタキコト

五十二、訴狀、控訴狀其他裁判所へ提出スル重要書類ニ対シテハ裁判所ヨリ受領書ヲ交付スルカ又ハ其他ノ方法ニヨリテ右受領ヲ証スル方法ヲ講セラレタキコト

五十三、共通法ノ一部改正即チ「一ノ地域ニ於テ弁護士会ニ加入シ現ニ其職務ニ従事シ居ル者ハ個々ノ事件ニ付他ノ地域ニ於テモ其職務ヲ行フコトヲ得」ト改正セラレタキコト

五十四、裁判所職員ヲ予審其他ノ進捗ヲ期スル為メ必要ノ程度ニ増員セラレタキコト

●前年度の司法官弁護士会長合同協議会に於ける諮問事項に付て

第一、民事訴訟の現状に鑑み改善すべき点に付裁判所々長側代表の意見に對しては

(一)につきて

判決ニ於テ當事者間ニ争点トナリタル事項ニ對シテハ之ニ理由ヲ附セサルモノハ當事者ニ於テ心服セサル場合尠ナカラサルヲ以テ裁判ノ威信並ニ上訴ヲ減セシムルノ趣旨ニ於テ民訴第三五九条ノ規定アリト雖モ成ヘク之カ理由ヲ説明セラレタキコト

(十二)に付きて

上告又ハ抗告ノ提起アリタルトキハ上告狀又ハ抗告狀ノ副本ヲ

相手方ニ送付スルコト及其裁判結果ヲ相手方ニ知ラシムルコトハ訴訟ノ進行ニ付當事者ニ頗ル重大ナル利害關係アル事項ナルヲ以テ實際上當事者ハ之ヲ一々裁判所ニ照会スルハ已ムヲ得サル次第ニシテ當事者及裁判所トシテモ事務ノ煩ニ堪ヘサルヘク而モ裁判所トシテハ之カ費用ニ多キヲ要スルモノニアラサルカ故ニ其支出方法ニ付特ニ司法当局ノ考慮ヲ求ム

(十七)に付きて

訴訟手續中止ニ関スル旧法ノ規定ヲ復活セラレタキコトハ所長側代表ノ御意見ノ如ク立法事項ナルニ付法律ノ改正ヲ特ニ考慮セラレタキコト

○司法官弁護士会長合同協議会

四月二十二日午前九時、全国より集まりたる司法官並に弁護士會長一堂に會し、小山法相議長席に就き一応の挨拶ありたる後、會議に入り、右答申案並に提案に付当番幹事花岡第二東京弁護士會長より全部を議題に供せられ度旨陳述し、一時休憩して、其間司法官側に於て意見を纏め、午後再開し、宇野東京地方裁判所長先づ立ちて、左の通り賛否を述べたり。

第一、答申案

第一項乃至第六項賛成、第八項賛成、第九項賛成但シ司法事務協議會ヲ「毎月一回會合シ」トアルヲ「時々」トスル事、第十項賛成、第十一項賛成但シ裁判所検事局書記執達吏並ニ調停委員ノ必然參加ヲ必要ニ応シ參加セシメ得ル趣旨ニ改ムル事、第十二項賛

成但シ多数トアルヲ相当数ト訂正スル事、第十三項賛成、第十五項賛成

次に小原東京控訴院長立ちて、左の如く述べたり。

第七項ハ実行難ニ付賛成難シ

次に和仁大審院長立ちて、左の如く述べたり。

第七項ハ自分一個人トシテハ反対セサルモ大審院ニ於テハ院長一存ニテ答ヘ難キ事情アルヲ以テ部長會議ニ諮リ書面ヲ以テ答申スヘシ

右に対し、花岡第二東京弁護士会長並に余より、本答申は従來の司法事務協議会に大審院を加ふれば可なりと云ふ趣旨に外ならず。故に爾かく難問たり得るものにあらざる旨を敷衍したり。

次に、小原東京控訴院長再び立ちて、左の如く述べたり。

第十四項賛成ナルモ必要アル場合ニ限ル事トシ度シ

次に、宮城東京地方裁判所検事正立ちて、左の如く述べたり。

第七項ハ小原説ニ賛成 第十一項モ同上、第十四項モ同上

次に、宇野所長弁護士側の提案に対し、左の通り賛否を述べたり。

## 第二、提案

第一項、二項賛成、第五項賛成、第八項賛成、第十二項賛成、第十四項賛成、第十六項賛成、第十七項賛成可成希望ニ副フ様考慮セン、第十九項賛成、第二十一項現行法上不可能ナルヲ以テ賛成シ難シ、第二十三項賛成、第二十四項承承適当ナル方法を考慮セ

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

ン、第二十六項賛成、第二十八項、二十九項賛成、第三十一項、三十二項此ノ如キ事実ハ認メサルモ趣旨ニハ賛成、第三十三項賛成、第三十五項賛成、第三十七項、三十八項拝承、第四十項賛成、第四十二項、四十三項考慮セン、第四十五項、四十六項賛成、第四十八項、四十九項賛成、第五十一項賛成、第五十二項賛成副本ニ正本領収ノ印ヲ捺スルガ如キハ適當ノ方法ナラン、第五十四項賛成、

次に、宮城検事正立ちて、左の如く述べ。

第九項賛成、第十項法律上不可能ニ付賛成シ難シ、第十一項賛成、第二十二項此ノ如キ事実ハ認メサルモ趣旨ハ賛成、第二十六項賛成但シ可成捜査ノ端緒ヲ与ヘラレ度シ、第三十項告訴告発ハ公平無私ノ取扱ヲナスヘキモノナルヲ以テ賛成シ難シ、第三十一項、三十二項宇野説ニ賛成、第四十一項此ノ如キ事実ハ認メサルモ慎重ニ考慮スヘシ、第五十四項賛成、

次に、和仁院長立ちて、左の如く賛否を述べ。

第十八項本項ニハ法律上ノ問題アリ研究ノ上書面ヲ以テ答申セン、第三十四項提案ハ至極御尤モト思フモ民事訴訟法改正以来訴訟ノ終結急速トナリタルト上告期間短縮トノ結果上告事件激増シ遅延ハ実ニ止ムヲ得サル情勢ニ在リ共ニ研究スヘキ問題ト信ス

次に、大森民事局長立ちて、左の如き賛否を述べ。

第四項考慮セン、第十三項研究セン、第十五項考慮セン、第二十一項本問ハ大蔵省トモ交渉アルモノナルヲ以テ目下種々考慮研究

中ニ属ス、第三十六項目的ハ可ナルモ方法甚ダ容易ナラスト信ス研究セン、第四十七項是亦目下研究中ナリ、第五十項研究セン、

次に、木村刑事局長立ちて、左の如く賛否を述ぶ。

第四十四項本問ハ慎重ヲ要スルニ付研究セン、

次に、皆川司法次官立ちて、左の如く賛否を述べたり。

第六項、七項趣旨ハ諒トス考慮セン、第二十項賛成、第二十五項法案ノ性質ヲ斟酌シテ可成希望ニ副フ様致スヘシ、第二十七項趣旨ハ賛成但シ品性ノ考查ハ新弁護士法下ノ修習ニ於テナスヘキモノト考フ、第三十九項拝承、

次に、佐々木司法省秘書課長立ちて、左の如く賛否を述べたり。

第三項事情ノ許ス限り希望ニ副フ様勉ムヘシ、

次に、前年度の諮問事項中答申の懸案となり居りたるものに対応する、答申第一の（二）に対しては、司法官側より何等の陳述なく、（十一）に対し和仁院長より法に規定なき事項に付研究の上書面に於て答申せんと述べ、（十七）に対し大森民事局長より研究すべき旨述べたり。

次に、地方裁判所長より、左の如く四個の答申案提出せられたるを以て、弁護士側は左の通り賛否を述べたり。

（一）（二）賛成、（三）司法官側ニ於テモ弁護士同様ニ協定事項ノ徹底ヲ図ルヘキモノトシテ賛成、（四）賛成、

司法官弁護士会長合同協議事項ニ関する答申

（地方裁判所長）

（一）協議会ノ開催ハ新ナル協議事項ノ有無ニ拘ラス定時ニ之ヲ開催スルコトニ務ムルコト

（二）協議会ニハ成ルヘク出席シ協議事項ニ付慎重ニ考慮研究ヲ遂クルコト

（三）協定事項ノ実行ニ付テハ弁護士側ニ十分徹底シ居ラサルヤノ憾アリ各地弁護士会長ニ於テ遺漏ナク之ヲ会員ニ通知シ協力シテ誠意実行ニ努力セラレタキコト

（四）協議会決議ノ実行ヲ助成スル一方法トシテ朝野法曹ノ簡素ナル会食又ハ座談会ヲ開催スルコト

次に、昭和七年度の司法官弁護士会長合同協議会に於ける協議事項に対し、地方裁判所長並に検事正より、左の通り意見書の提出ありたるを以て、弁護士側は後記書面を以て之に応答したり。

昭和七年度司法官弁護士会長合同協議会に於ける評議事項に対する意見

（地方裁判所長提出）

一、民事訴訟ノ現状ニ鑑ミ改善スヘキ点如何

第一、昭和五年六月七日司法官弁護士会長合同協議会ニ於ケル地方裁判所長ヨリ提出シタル協議事項（別紙参照）ノ実行今尚徹底セサルノ憾ミアルヲ以テ互ニ協力シ厳ニ之カ勵行ヲ期スルコト

第二、開廷時刻到レハ当事者又ハ其代理人ノ出頭ナキ場合ニ於

テモ証人又ハ鑑定人ノ訊問ヲ為スコト

## 二、刑事事件ヲ迅速ニ終結セシムル方策如何

- 第一、指定セラレタル公判期日ハ可成延期變更ヲ為サ、ルコト
- 第二、多数ノ弁護人アル事件ニ付少数ノ弁護人差支アルモ之カ為公判期日ノ變更又ハ続行ヲ為スコトハ可成之ヲ避クルコト
- 第三、弁論ハ可成之ヲ簡明ニシ論旨ノ重複ヲ避クルヤウ務ムルコト
- 第四、公判ノ準備手續ヲ開始シタル事件ニ於テハ証拠ノ提出其他ノ準備ハ速ニ之ヲ取運フコト

## 【参照】

- 第一、開廷時間勵行ノコト
- 第二、答弁書其他ノ準備書面ノ記載ヲ簡明ニシ其提出ヲ遅延セサルコト
- 第三、証人訊問申出書ノ記載ヲ正確ニシ且ツ其提出ヲ怠ラサルコト、呼出ノ送達トナリタルトキハ速ニ新住所ヲ申出ツルコト
- 第四、書証ノ謄本又ハ抄本ノ提出ヲ怠ラサルコト
- 第五、証拠調ノ費用ヲ納メ怠ラサルコト
- 第六、証人ノ出頭率ヲ高ムル様努力スルコト
- 第七、準備手續ニハ可成当事者本人ヲ同行スルコト
- 第八、区裁判所事件ニ付テモ可成準備手續ノ精神ニ則リ訴訟準備ヲ十分ニシ審理ノ集中促進ヲ期スルコト
- 第九、口頭弁論期日ニ当事者双方ノ不出頭ナキ様注意スルコト
- 第十、新法ノ目的ヲ貫徹スル為メ裁判所弁護士共ニ更ニ一層緊張シテ誠

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

実ニ事務ヲ処理スルコト

## (検事正提出)

- 一、刑事事件ヲ迅速ニ終結セシムル方策
  - 一、開廷時間ノ厳守ヲ一層勵行スルコト
  - 二、公判準備手續ニ関スル規定ヲ活用スルコト
  - 三、公判期日ノ指定ヲ慎重ニシ一旦指定シタルトキハ容易ニ變更セサルコト
  - 四、公判期日ニ於テ各種議會ノ議員タル職務ト弁護人ノ職務ト抵触ヲ生シタルトキト雖延期ヲ為ササル様考慮セラレタキコト
  - 五、刑事事件ニ付多数弁護人アルトキハ弁論ノ分担ヲ定メ弁論ヲ統制シ務メテ弁論ノ重複ヲ避クルコト
- 昭和七年度裁判所長提出協議事項に対する弁護士会長側の意見
- 一、(民事訴訟ノ現状ニ鑑ミ改善スヘキ点如何)
  - 第一、裁判所長提出ノ協議事項ノ勵行ニ賛同ス但シ弁護士会長提出ノ分ニ付テモ相互の二之ニ留意ヲ求ムルコト
  - 第二、事件ノ輕重事情ノ如何ニ依リ相当考慮ヲ要スヘキ処ナルモ先ツ当事者ノ出揃ヒタルモノヲ前ニシテ其後ニ廻ス等ノ点ニ付キ實際の且合理的の二取計ハル、様考慮セラレタキコト
  - 二、(刑事事件ヲ迅速ニ終結セシムル方策如何)
  - 第一、検事正提出ノ三ニ併合シ其趣旨ニ於テ賛成ス

八一八 (三二四)

- 第二、成ルヘク其趣旨ヲ実行セラル、コトニ賛同ス
- 第三、同前
- 第四、賛同

検事側提出の協議事項に対する弁護士会長側の意見

- 一、相互ニ勵行スルコトヲ原則トシテ賛同ス
- 二、賛同ス
- 三、賛同ス
- 四、考慮ノ趣旨ニ於テ賛同ス
- 五、裁判所長提出二ノ第二第三ノ趣旨ト併合シテ賛同ス

②司法官弁護士会長合同協議会〔正義〕昭和八年七月号）

司法官弁護士会長合同協議会に於ける会長の答申

提案事項に関する大審院の意見

去る六月二十日、和仁大審院長は、堀江第一東京弁護士会長宛書面を以て、本年四月司法省に開催せる司法官、弁護士会長合同協議会に於て弁護士会長側より為したる答申及提案事項中大審院に關係ある部分に付、同院の意見として正式に左の如く通知ありたり。

一、（イ）東京ニ中央司法事務協議会ヲ設ケ大審院並ニ東京控訴院管内各裁判所、検事局並ニ弁護士会ヨリ委員ヲ選出シ事務上ノ協議ヲ行ヒ採用シタル事項ハ全国裁判所、検事局並ニ弁護士会ニ通知スルモノトスルコト（註、東京控訴院管内トハ既存ノ在京各裁判所、

検事局及弁護士会ヲ指スノ意ナリ）

（ロ）既存ノ司法事務協議会ハ東京ニ於テハ中央司法事務協議会ト合併シ年二回以上開催スルコト（昭和八年四月合同協議会ニ於ケル弁護士会長答申事項第七項）

大審院意見

此ノ種ノ協議会ニ大審院判事ヲ参加セシムルコトニ異議ナシ  
二、民事上告事件ニ付テハ口頭弁論ヲ開カサル場合ト雖モ判決言渡期日ハ予メ之ヲ当事者ニ通知シ且其判決正本又ハ謄本ハ被上告人ヘモ之ヲ送達セラレタキコト（昭和八年四月合同協議会ニ於ケル弁護士会長提案事項第一八項）

大審院意見

不同意

三、上告又ハ抗告ノ提起アリタルトキハ上告状又ハ抗告状ノ副本ヲ相手方ニ送付スルコト及其ノ裁判ノ結果ヲ相手方ニ知ラシムルコトハ訴訟ノ進行ニ付当事者ニ頗ル重大ナル利害關係アル事項ナルヲ以テ實際上当事者ハ之ヲ一々裁判所ニ照会スルハ已ムヲ得サル次第二シテ当事者及裁判所トシテモ事務ノ煩ニ堪ヘサルヘク而モ裁判所トシテハ之カ費用ニ多キヲ要スルモノニアラサルカ故ニ其支出方法ニ付特ニ司法当局ノ考慮ヲ求ム（昭和七年合同協議会ニ於ケル答申事項第十一項並昭和八年四月合同協議会ニ於ケル弁護士会長ノ補充説明）

大審院意見

後段ノ上告裁判（抗告ヲ除ク）及取下ノ結果ヲ相手方ニ知ラシムルコトニ同意ス其他ハ不同意

尚參考として左表を送付せられたり。

民事上告事件ノ結果ヲ相手方ニ通知スル場合於ケル取調ノ概要（注、省略）

### ③司法官弁護士会長合同協議会（「新聞」昭和八・五・三）

「帝国弁護士会大森新民事局長及全国弁護士会長招待」

廿三日午後六時より上野精養軒に於て、帝国弁護士会主催となり、這般大審院判事より局長に栄転せる大森洪太氏の祝賀及司法官会共に依つて上京せる全国弁護士会長の招待と、併せて同会の第八回通常総会を開催して、四大決議案を決定した。先づ、横山鑛太郎氏立つて開会の辞を述べ、議長に鹽谷恒太郎氏を推し、高橋昇平氏の事務報告、細川潤一郎氏の会計報告ありたる後、左記四大決議案の議事に入り、第一号議案は鵜澤聡明氏、第二号議案は高窪喜八郎氏、第三号議案は古川朋三郎氏、第四号議案は有馬忠三郎氏からそれぐ説明あり、いづれも満場一致で可決した（注、議案省略）。

かくして宴に入り、卜部喜喜太郎氏より、滔々亦諤々の弁舌を以て、理路整然と懇親、祝賀、招待、歓迎の四意を含んで以て本会を催した所以を述べ、次で大森洪太氏より謝意を述ぶる所あり、花岡第二東京弁護士会長より弁護士会会長を代表する挨拶あり、これ

より東京、長崎、京城、函館、山口、松江、青森、岐阜、横浜等の各地弁護士会長は、理事の指名で続々立つてその所感を述べ、午後九時散会した。

尚 当日理事の半数改選で当選した者並に地方理事は左記（注、省略）の如くである。

因みに、満洲より次官に当たる人を歓迎せしが、差支ありて欠席、又弁護士以外、原嘉道氏、牧野菊之助氏、土方寧氏の顔も見えた。

（注） 帝国弁護士会による全国弁護士会長招待会は、「帝国弁護士会第八回通常総会」（「新報」昭和八・五・五）および「帝国弁護士会第八回通常総会記事」（「正義」昭和八年五月号）中の「全国弁護士会長の意見交換」に収録されている。

### ④司法官弁護士会長合同協議会（「公論」第三七巻第五号、昭和八年五月号）

恒例に依る司法官、弁護士会長合同協議会は、本年度司法官会同の第三日目即ち四月二十二日午前九時より、司法省會議室に於て行はれたるが、右の前日たる二十一日午後二時より丸之内東京會館に全国弁護士会長集合の上、司法大臣の諮問による事項等につき慎重審議の結果、左の答申を決定、同会に臨みたる次第なり。

司法大臣の諮問

各地ノ判検事及弁護士協議会ノ実績ヲ挙クルニ付考慮スヘキ事項如何(司法省提案)

右ニ対スル答申事項(注、省略)

司法官及弁護士会長合同協議会提案事項(注、省略)

前年度ノ司法官及弁護士会長合同協議会ニ於ケル諮問事項ニ

付テ(注、省略)

○司法官会同参加の各地弁護士会長招待午餐会

昭和八年四月二十一日(金曜日)正午、日比谷公園内松本楼に於て、明二十二日司法官並弁護士会長会同に出席のため上京せられたる、各地弁護士会長諸君を招待し、午餐会を開催したり。

当日出席せられたる来賓並会員諸君左の如し。

一、来賓側(注、省略) 広島からは土井與一出席)

二、会員側(注、省略)

全員出席の頃を計り、一同打揃つて記念撮影を為し、直ちに宴に移る。先づ、山岡理事が、主催者側を代表して大要次の如き挨拶を為した。「憎越ながら不肖、協会を代表して御挨拶申し上げます。御繁忙中、かく多数御出席下さいましたことは、主催者側として光栄この上もなく厚く御礼申上げる次第であります。多年の懸案たりし、弁護士法も愈々今議會に於て成立いたしましたことは、誠に御同慶の至りであります。御承知の通り、吾々は弁護士法と法律事務取扱の取締法とを合して単一法として成立することを希望したのであります。それが、二つに法律となりましたことは、遺憾とするところでありますが、施行期日が同一であります

ので、先づ實際上の支障は少ないものと考へるのであります。次に、司法代書人法の改正案が衆議院を通過いたしました。これは弁護士の職務に重大なる關係を持つものであります。本協會は率先して各位と共に之に反対しました結果、貴族院に於て否決と相成りましたことは、是れ亦御同慶の次第であります。」と述べ、続いて朝鮮、台湾、関東州の司法権統一問題、特に朝鮮に於ける司法権の確立に関する本協會の活動を報告したる後、法曹公論の發展、弁護士徽章等につき、会長諸君の御高配を謝し、今後の後援を切望して後、「予て御案内の通り、来る二十三日日本弁護士協會並に東京弁護士会主催の弁護士法改正祝賀には、万障御差繰り御出席を下さいますやう御願ひ申し上げます。甚だ粗末な料理ではありますが、何卒ゆるゆる召上つて頂きたいのであります。一言御挨拶申上げる次第であります。」

第一東京弁護士会長堀江專一郎君来賓を代表して、「大正十一年分離に至る迄は、私も日本弁護士協會の会員であつたのであります。抹消されたる戸籍を有するものであります。本日、先輩多数御出席の中から御指名に依りまして、憎越ながら一言御挨拶を申し上げます。日本弁護士協會は、古く光輝ある歴史を有し、山岡理事の御説の通り、人權擁護、法律制度の改善等幾多活発なる御活躍を為して御られますことは、誠に御同慶の至りであります。現下、弁護士の地位は頗る重大であります。弁護士戦線異常ありと云ふべきであります。国家は、人口の過剰に悩まされて居りますが、弁護士も亦同様の悩みを以て居るのであります。ニューヨークには、一万数千人の弁護士が居ることではありますが、過剰問題は、少しも聞かないのであります。近來、司法当局は弁護士を排斥する如き立法のみを心

懸て居るのは、頗る遺憾とするところで、誠に弁護士を受難時代であります。此処で、大に頑張らざれば、将来は実に心細い次第と考へるのであります。此処に日本弁護士協会存立の意義を持つのであります。今後とも益々御発展の上、弁護士道擁護のため御活動を御願ひ致したいのであります。本日は盛宴を張り、吾々を御招き下さいましたことは、誠に感謝に堪へない次第で厚く御礼申し上げます。茲に日本弁護士協会の万歳を唱へて乾盃いたしたいと存じます。」

一同起つて、日本弁護士協会の万歳を唱和、山岡理事來賓諸氏の健康を祝して乾杯し、続けて理事駒澤辰明君は、「正式の御挨拶は、以上で終ったのでありますが、各地から弁護士会を代表して御出席のことでありますので、この機会に各会長諸氏の御高見を拝聴致したいのであります。」と注文を出すや、

作間東京会長自席から、「これは、平素遠隔の地にあつて声咳に接する機会の少き方面から願ひたい、で先づ長崎からはるばる御上京の本田君を煩はし度いと思ひます。」と述べ、

長崎弁護士会長本田恒之君は、「……平素抱懐する一端を申上で、協会の御高慮を煩はしたいと思ひます。民刑事事件が今日の如く遅延するのは、真に遺憾の次第で、社会の実生活に副はざること甚しいのであります。米大統領狙撃犯人の裁判は既に確定した、然るに東京駅頭に於ける濱口氏狙撃事件の如きは今日に至るも未だ何とも決つて居らぬ状態であります。何とか事件を迅速に片附ける方法にせねば、国民の司法権に対する信頼は、繋ぎ得ないのであると考へます。次に弁護士の信用は日と共に向上しつゝ、あ

りますが、地方巡回の映画などの中には弁護士の品位、信用を害ふが如き筋のものが往々見受けられるのであります。之等は何とか適當の対策を講ぜねばならぬと考へます。協会の如き強大なる力を有する団体の御考慮を御願ひする次第であります。御馳走に預つた上更に御注文をして、甚だ申し訳ない次第であります。これを私の意見として申し上げます。」

右終つて、理事鍛冶良作君が、進行係といった格で、鬼丸名古屋会長は、「私は、近頃あまり事件を取扱つて居ないので、近頃のこととは判りませんから、古い感想を申し上げます。」とて裁判官忌避の規定の活用に関し希望を述べられ、

土井広島会長は、「一言御挨拶申し上げます。日本弁護士協会が凡ゆる司法問題について、偉大なる効果を挙げて居られますことは、誠に感謝に堪へないことであります。特に、毎年会同する都度、御招待の上、種々御指導下さいますことに対し、厚く御礼申し上げます。現下の世相に鑑みまして、今後益々協会の御活躍を御願ひ致す次第であります。」

椎名仙台会長は、仙台第二師団の出征当時並去る三陸地方大海嘯の際は、格別の御好志を給はり、感謝に堪へないと謝意を述べ、続いて高原高知会長の挨拶あり。村上旭川副会長は、新札幌控訴院長長島毅君の赴任に関する札幌管内各弁護士会の当時の情勢を報告し、如斯場合には中央からも適當な注射をして頂きたいと結び、京城会長鄭求瑛君は朝鮮司法権問題につき協会の後援を感謝し、続いて花岡第二東京会長より司法官弁護士会長合同協議会事項説明に次ぎ、最後に北川福島会長の挨拶あり、盛會を極め午後

三時散会したり。

昭和九（一九三四）年

①司法官弁護士会長合同協議会（「新報」昭和九・四・二五）

本年度司法官会同並全国弁護士会長合同協議

本年度司法官会同は、去る四月十六日より十八日まで三日間左の日程により、十九日は全国弁護士会長との合同協議会を開き、左記事項に付協議を遂げ散会した。

四月十六日、午前、小山司法大臣訓示（自九時於会議室）、司法次官注意（大臣訓示終了後引続）、民事局長指示（次官注意終了後引続）、刑事局長指示（民事局長指示終了後引続）、行刑局長指示（刑事局長指示終了後引続）、総理大臣訓示同大臣午餐（自十一時三十分於総理官邸）、午後協議会（自二時於会議室）

同十七日、午前、和仁大審院長演述（自九時於会議室）、検事総長訓示（大審院長演述終了後引続）、池田大審院部長注意（検事総長訓示終了後引続）、泉二大審院部長注意（池田大審院部長演述終了後引続）、金山大審院次席検事注意（泉二大審院部長演述終了後引続）、協議会（金山大審院次席検事演述終了後引続）、御陪食（正午）、午後協議会（自二時於会議室）、法曹会招宴（自五時三十分於帝国ホテル）、司法次官随行員饗応（自五時三十分赤坂山王下幸楽）

同十八日、午前、講演（自九時於会議室）、深澤朝鮮高等法院長

（未定）、古田満洲国司法部総務司長、協議会（自二時於会議室）同十九日、午前、司法官弁護士合同協議会、司法大臣挨拶（自九時於会議室）、協議会（司法大臣挨拶終了後引続）、午後、協議会（自一時於会議室）、司法大臣饗宴（自五時三十分於工業俱樂部、法曹会随行員招宴（自五時三十分上野精養軒）

小山司法大臣訓示、和仁大審院長演述（注、省略）

○全国弁護士会提案事項

打合会に於て決定したる事項及合同協議結果

去る四月十九日、司法官及全国弁護士会長合同協議会に於て附議すべき、弁護士側提案事項に付、去る十八日午後一時より上野精養軒に於て、全国弁護士会長協議会を開き、左記諸氏出席の下に、当番幹事たる東京弁護士会長水野豊氏議長となり、各地弁護士会より提出の議案に付討議を経、取捨選択の結果、左記事項を可決し、該案は其の儘十九日の司法官並全国弁護士会長合同協議会に提議された。同協議会終了後、東京弁護士会の招待による晩餐会あり、各自胸襟を開き欲待し、午後九時散会した。

○全国弁護士会長合同協議会出席者

（東京）水野豊君、近藤親君、濱田三平君、（第一東京）堀江專一郎君、田多井四郎治君、小齊甚治郎君、（第二東京）中松盛雄君、赤井幸夫君、林逸郎君、（横浜）宮森庄太郎君、（浦和）古山貞三君、（千葉）杉山彌太郎君、（水戸）大谷政雄君、（宇都宮）和氣壽君、（前橋）小川彦衛君、（静岡）岡崎伊勢藏君、（甲府）沖田誠君、（新潟）松井郡治君、（京都）若林駒之輔君、

(大阪) 岡上晴重君、(神戸) 日笠豊君、(奈良) 磯田泰三郎君、(和歌山) 榎本隆君、(高松) 宇野長之君、(高知) 高原伊三郎君、(名古屋) 鬼丸義齋君、(安濃津) 山田寛君、(岐阜) 小山市次君、(福井) 土屋四郎吉君、(金沢) 齋藤彌生君、(富山) 中田忠雄君、(広島) 香川秀作君、(岡山) 窪谷逸次郎君、(鳥取) 君野順三君、(松江) 須山貞太郎君、(松江) 榎垣喜太郎君、(長崎) 田邊啓藏君、(佐賀) 内田清治君、(福岡) 立川卯七君、(大分) 後藤義隆君、(熊本) 林晴夫君、(鹿児島) 鮫島宗男君、(宮崎) 江川甚一郎君、(仙台北) 岡本共次郎君、(福島) 北川次男君、(山形) 鈴木茂雄君、(秋田) 加藤定藏君、(青森) 梅村大君、(札幌) 板谷吉次郎君、(旭川) 大塚守穂君、(釧路) 田中一磨君、(樺太) 平敷安亮君、(京城、内地人) 武智弘方君、(京城、朝鮮人) 劉文煥君、(平壤) 金翼鎮君、(新義州) 黒島直篤君、(大邱) 岩元三志君、(釜山) 藤本永吉君、(閔東州) 相川米太郎君、

○司法官弁護士協議会

司法官会同最終日たる十九日は、前記の如く、弁護士会長の合同協議会であったが、同日の出席者は前記各地会長にして、会議は九時三十分より始め、別項の如く、小山法相の挨拶あり、之に次ぎ、水野東京弁護士会長は前例を破り重要提案に付、提案理由を一時間半の長きに亘り詳細に説明し(従来は提案の項目のみに付協議したる結果、理由不徹底の嫌ありし為め)理由を徹底せしめ、正午休憩、午後一時再会、左記各事項に付審議の結果、各項末尾括弧内記載の如く決定し、午後三時半終了した。

小山司法大臣挨拶(省略)

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

●司法省諮問事項ニ対スル答申

(注) 協議事項「弁護士試験修習制度ノ実施ニ付予メ考慮シ置クヘキ事項如何」

- 第一、試験修習に関する費用は国庫の負担とすること
- 第二、修習は弁護士会に於て担当すること、但控訴院管内弁護士会共同にて担当することを得
- 第三、試験指導員は担当弁護士会に於て選任すること
- 第四、指導科目は(一) 弁護士道德の涵養 (二) 裁判実務 (三) 一般法律事務とし、其細目は担当弁護士会に於て之を定むること
- と
- 第五、修習の方法は修養、講習、見学、実務練習等とすること
- 第六、試験は弁護士会に於て之を行ふものとすること
- 第七、試験は指導科目全部に付之を行ふこと(以上東京弁護士会答申)
- 第八、弁護士会は毎年其の試験修習人員を司法大臣に進達すること
- と
- 第九、試験の採用は当該弁護士会の銓衡に依ること
- 第十、弁護士試験の修習並考試は人格を第一義とし、學術を第二義とすること
- 第十一、試験は担当弁護士会の推薦に依り官選弁護訴訟扶助事件

八二一(三〇八)

其他特殊事件を取扱ひ得るの途を開くこと

第十二、高等司法科試験を弁護士試験と判検事試験に分離すること

以上の趣旨により弁護士に司法当局を加へたる委員を設け調査考究せられんことを望む（以上第一東京弁護士会答申）

改正弁護士法第二条第二項の弁護士試験実務修習及考試に関する司法省令は弁護士会会則を定むる前提要件なれば速に制定せられんことを要望す（此項第二東京弁護士会附加）

但此省令は其實行を弁護士会に於て担当するものなるを以て相当期間を措き草案を全国弁護士会に諮問せられたし（此項福岡弁護士会附加）

#### ●司法官弁護士会長合同協議会提出事項

第一、弁護士に対する国家的優遇の途を講せられたき事（考慮）

第二、司法権の拡充及裁判事務の進行を期する為め司法部職員を増員促進を望む（同上）

第三、金銭債務臨時調停法は国家非常時の名を藉りて漫りに司法制度を破壊し国民道德を廢頽せしむ。仍て速に之を撤廢すへし。之と同一趣旨の下に各種調停法の撤廢を求む（不同意）

第四、暴力、詐術等の手段を用ひ或は会社組織に名を藉り又は三者執行等により不正に判決の執行を妨け債務の免脱を図る者に對し刑法第二百四十六条第二項を適用することの単行法を制定せられたき事（考慮）

第五、思想事件其他特種の智識を要する事件の裁判に付ては專任の部門を設けられたき事（同意）

第六、和議成立後不履行の場合簡易に破産手続を進行せしむる様破産法及和議法の一部を改正する事（理由書別紙添付）（理由同意）

第七、司法官及弁護士会長合同協議会に於て決定せられたる事項の実蹟を挙ぐる事に努力すべき事（以上東京弁護士会提出）（同意）

第八、裁判所に於て新聞紙に掲載する為め刑事被告人を撮影し其他耻辱を与ふる行為の行はるる事を防止せられ度事（注意）

第九、会社の合併又は減資の際会社か認めざる債権者の異議に對し債権確定に至る迄担保権の実行を為し得ざる方法を以て担保を供し得る途を講ぜられ度事（民事局賛成）

第十、刑事被告人が刑務所より予審判事又は検事局に提出したる上申書又は召喚願等の書類は記録に添付すること（全部に付ては同意し難し）（以上第一東京弁護士会提出）

第十一、偽証防止に關し左の趣旨を徹底せられんことを望む（同意）

（一）偽証の裁判に及ぼす影響の重大なることを一般民衆に熟知せしむる様宣伝すること

（二）裁判所は宣誓の際宣誓書の意義を平易に説示し且つ偽証罪の重き罪なることを嚴重に諭告せられたきこと

(3) 宣誓書を平易なる文句に改正せられたきこと

第十二、呼出状に關し左の通り取扱はれんことを望む(同意)

(1) 呼出状は一覽の上訴訟關係者本人に還付せらるる様取扱はれたきこと

(2) 呼出状に附記せられたる「出頭の節は此呼出状を差出さるべし」との記載を右趣旨に副ふ様適當に改正せられたきこと(以上京都弁護士会提出)

第十三、弁護士品の位を向上せしむる為弁護士数の統制に關し考慮せられたきこと(同感)

第十四、裁判所の通訳の地位を向上し有能の人を採用せられ度きこと(同意)

第十五、民事訴訟法中の準備手続は必要と認めたる場合に限り開始することに取扱を一定するの件(以上神戸弁護士会提出)(同意)

第十六、証人専用控室設置なき裁判所に於ては可成速に証人控室を設けられたき事(富山)(同意)

第十七、保釈の許可及接見禁止の緩和に關しては昭和八年四月司法官及弁護士会長合同協議會に於て決議せられたるに拘らず未だ実現せざる憾あり其勵行を望む(岡山)(同意)

第十八、朝鮮に裁判所構成法、行政裁判法、訴訟法、弁護士法実施促進の方策を講せられ度きこと(平壤)(考慮)

第十九、公判立會の書記は成るべく老練熟達者をして担任せしむ

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

ること、及之等有為の書記の留任優遇に励めらるる様司法当局に要望すること(同感)

第二十、長期間取調を要する事件存在の爲め著しく他の事件を犠牲にすることなき様適切妥當の方策を樹立せられんことを司法当局に要望すること(同意)

第二十一、改正弁護士法第五条第一項第一号の禁錮以上の刑に處せられたるものとあるを現行弁護士法第五条第一項第一号第二号の制度に改正を行ふ様司法当局に要望すること(考慮)

第二十二、執達吏手数料規則第十八条中「執達吏、自己の役場又は其出張所より一里以上の地に到り職務を行ふとき」と一里毎に云々との間に「鉄道又は汽船を通する水路にありては三等の汽車賃又は船賃とし其他の場合は」の字句を挿入する趣旨に改正を行ふ様司法当局に要望すること(以上大分)(同感)

第二十三、代書人の訴訟事件関与は勿論法律に禁止されたる非訟事件代理に付ては地方裁判所長の嚴重なる監督を求む(字句修正同意)

第二十四、司法警察官の職權濫用(例へば被疑者に対し擅に承諾同行又は承諾留置を強制し加之承諾留置は数ヶ月に及ぶもの多數あり)なき様檢察當局の嚴重なる監督を望む(一層注意)

第二十五、計理士が債權讓渡を受け債權の取立又は訴訟行為を爲すを寧ろ本業とするものあり商工大臣に交渉の上嚴重なる取締あらんことを求む(以上松江)(同意)

第二十六、破産宣告を迅速にすること（同意）

第二十七、刑事訴訟法の勾留に関する規定の精神を励行すること（注意）

第二十八、予審判事を増員すること（以上大阪）（同意）

第二十九、司法警察官検事の聴取書と雖も被告の利益の爲めに証拠となすことを得る様刑事訴訟法及陪審法の改正を為すこと（青森）（考慮）

第三十、拘留場は刑務所より分設し且其待遇は未決拘束の目的たる逃走及罪証隠滅防止以外に及はざる様拘留場の構造及設備待遇の改善を為すこと（趣旨賛成）

第三十一、法曹会同の期間一日は短かきに過ぐ二日若くは三日に延長せられたし（考慮）

第三十二、近時和議法を乱用するの傾向あり不公正なる和議を防止する爲め和議の認可につきては特に慎重審議の上可否を決せられたし（注意）

第三十三、民事訴訟法中第四百三十七條第二項に「但口頭弁論期日迄に債務者が異議を撤回したる時は初めより異議申立なかりしものと見做す」の但書を附加改正せられたき事（考慮）

第三十四、法律事務取扱者取締法実施の準備工作として現行法令による非弁護士取締を速時断行せられんことを望む（檢察賛成）

第三十五、滿洲国に於ける司法官採用に就ては司法省は我国在

朝在野法曹より推薦斡旋せられんことを望む（以上旭川）（考慮）

第三十六、官選弁護人に刑事訴訟記録を謄写交付することに法規改正を司法大臣に建議すること（昭和八年東北弁護士大会決議）（同意）

#### ○全国弁護士会長招待会

日本弁護士協会は、四月二十日午前十一時半より日比谷山水樓に、今回司法官会同参会の爲め上京中であつた全国弁護士会長を招待し午餐会を催した。

一同記念撮影の後開宴、日本弁護士協合理事徳本寛三君会を代表して歓迎の辞に兼ね別項提案の借地借家調停法、小作調停法、商事調停法、金銭債務臨時調停法を廃止し、広く民事訴訟手続法の根本的改正を爲すの必要あること及び現行司法官弁護士合一試験制度の不合理にして之が分離の必要なる所以を述べ、一同拍手喝采、斯くて同理事角田幸吉氏満場異議なく全会一致を以て可決確定の旨を宣言し、次で同理事駒澤辰明氏日滿法曹協会設立の経過並に趣旨を述べて一同の入会協力を希望し、引続き全国弁護士会長の所感演説に移り、先づ濱田東京弁護士会副会長は水野會長不参に付其の代理として出席、一同を代表して謝辞を述べ、次に角田理事の指名の下に、鬼丸名古屋會長は軍民合同裁判並に未決囚待遇改善の必要なる所以を高調、宮本和歌山會長は金銭債務調停法の廃止を力説して之を廃止しなければ金の貸手がなくなり金

融が却て硬塞すると断じ、堀江第二東京弁護士会会長は福岡会会長不参の爲め其の代弁として起ち、徳本理事提議の国家試験分離及び各種調停法廢止に賛成の趣旨を述べ、原告が歓喜の声を挙げて居る一方には被告が悲痛の声を挙げて居る。一方が泣いて居るのに、一方が一杯飲んで居るやうでは、此法律の価値はないと鉄槌を下し、相川関東州会会長は日滿法曹協会の設立を以て頗る有益なりとし、従来の滿洲は支那の領土ではあったが、事實は張学良の私有物であつて、金を出して官を買ふと云ふ状態であつた。従て、統治上不正を免れず、正義を高調し福利を増進する杯と云ふことは夢想だもされず、黄白に依つて裁判が決せられた。幸に日滿法曹協会が正義の使者として滿洲国の司法を完備せしめ、日滿両国の国威を全世界に発揚することに一同努力せられたしと希望を述べ、劉京城朝鮮人会会長は、朝鮮に於ける司法改善の必要なる所以を説きて、裁判所構成法、行政裁判法施行の一日も猶予すべからざるものありとし、之が実現の爲め我々は内地に於て極力之が運動に従事して居るのであるが、日本弁護士協会が常に之に協力後援せられつつあることは、我々の感謝して措く能はざるところである、今後目的達成に一層後援助力せられ、其の実現の日来らんことを切望に堪へぬと述べ、最後に松井新潟会会長は東京弁護士会が三つの会に分離して居ることは、我々の最も遺憾とするところであつて、斯くては我々は常に去就に迷はざるを得ない、三弁護士会が一弁護士会とならんことを切望して止まずとし、斯く一同乾杯の

後、午後三時盛會裡に散會した。

当日の決議並に日滿法曹協会設立趣意書及び日滿法曹協会会則は、左の如くである。

#### △決議

現行各種調停法を全廢し、広く民事訴訟手續法の根本的改正を提議し、全国朝野法曹並に立法院の猛省を促し、其目的の達成を期す。

#### △理由

茲に所謂調停法中には、彼の行政官庁の取扱ひに委ねたる労働爭議調停法並に大正十二年九月関東大震災の直後制定せられたる借地借家臨時調停法を除外するものにして、主として（イ）借地借家調停法、（ロ）小作調停法、（ハ）商事調停法、（ニ）金銭債務臨時調停法に付、之が全廢の緊急事なる所以を高調するものなり。

抑も、我國に於ける調停法制定の動機は、一時盛に地主家主の横暴惡辣を叫ばれたる時代に制定せられたる借地借家法に基因するものなること論を俟たず、若かも其借地借家法自体極めて輕率なる立法にして、一部の惡地主惡家主の所行を抑制せんが爲めに古來我國の伝統たる信義誠實の美風を破壊すると共に、反つて借地借家に関する諸問題を複雑ならしめたるのみならず、引いては國民思想上に極めて憂慮すべき惡影響を与へ、其立法當時の目的と正反對に惡借地人惡借家人に依り、平然として此の法律を惡用せられつつある珍現象を呈するに至りたるものなり。此点に付ては、別に民法法規の改正を求め他面行政取締法規の新設を提案することあるべき

も、今茲には詳説せず。

而して、前記挙示したる各種調停法制定當時の情況を觀るに、所謂杜撰立法時代にして唯だ一時の時流に驅られ我國憲法の眞精神を曲解し経國百年の法禍を顧慮することなく、甚しきは法治國万民に附与せられたる弁護權をも無視せる立法を爲すに至りたるものなり。

夫れ、治國善政の要諦は、先づ國民相互其本分を守り、責務を尽し、然る後附与せられたる權利を完くし得るに在り。然るに、茲に所謂現行各種調停法を觀るに其全ての場合に於て、当事者一方の責務を寛恕せしむる方法の見るべきものあるのみにして、畏くも 明治大帝が憲法發布の御勅語に於て宣下し給ひし「朕は我が臣民の權利及財産の安全を保護し此憲法及法律の範圍内に於て其の享有を完全ならしむべし」、との御聖旨を遵守せざるの法規なりとす。即ち、裁判所構成法上容認せられざる、無資格の集合に成る委員会に、民事訴訟法上よりするも裁判官に非らざれば行使し得ざる權限を附与し、法治國々民に当然選任權ある弁護權を制限し、其他變則的規定のみを羅列し、國民の自由を抑圧する法制を濫設し、聊かも顧慮する所なきものの如し。然るに、他面其隙に乘じ此各種調停法を悪用するの徒輩日々に激増し、善良なる國民の權益は其大半空權に等しきものたらしむるあり。

殊に、金錢債務臨時調停法の如きに至りては、司法当局自体も其杜撰立法なることを是認せるものにして、此法律に規定せる誠実なる債務者を更正せしむる爲ならんには、國家が老幼病者を保護するの法規を制定する場合と同じく、或は特種資金を融通する等公正なる処置に出づるは格別、特定せ

る相手方個人のみを權益を強制的に剝奪するは、断じて不可なり。斯かる法制の存立を適正なりとするに於ては、遂には國民全体に対し、生活余力財産全部の没収をも尚ほ且つ之を許容する法制の出現を提唱するものあるに至らん。

想ふに、如上叙述の各種調停法の欠点と其悪用は、到底一刻の存在をも許し得ざるものにして、彼の労働爭議調停法の如く、当事者各自選定したる委員に依り、短期間内に自由意思に基き、爭議を防止せんとする立法とは、同名異種のものなり。

宜しく、民事訴訟法中に勸解和解仲裁の法条を完備せしめ、徒に他を模倣する新規法制は之を撤廃すべきなり。

尚ほ、民事訴訟法中極めて不当不便の法条の現存するものと共に、彼の借金踏倒法との別名を冠せられある、破産法和議法に付ても、根本的に改正せざるべからざるものあり。

殊に、訴訟の遅延、今日の如き我國に於ては、右法律の改正と共に、司法官の増員並に執務場所の拡張は一日も之を忽にすべからざるものあり。

我法曹常に経國を以て其任と爲し、日々の体験と研鑽の資に賴り、深甚なる真理を闡明し、國民全般の機微を洞察し、時世の進運に適應したる方策の確立を期し、眼前の姑息工作を排斥し、毅然として茲に立ち、其所信の実現を期せんとするに在り。

昭和九年四月 日

日本弁護士協會

◇日滿法曹協會設立趣意書(注、省略)

◇日滿法曹協會会則（注、省略）

②司法官弁護士会長合同協議会（「新聞」昭和九・四・二五）

全国弁護士会の司法省諮問答申及司法官弁護士会長合同協議

——十八日下準備会於上野精養軒——

恒例司法官会同に伴ふ、司法官弁護士会長合同協議会及弁護士の司法省諮問答申に就き、司法官弁護士会長会同の前日たる四月十八日午後一時より、上野精養軒に於て、当番幹事東京弁護士会の幹旋で、右の下準備会を開催し、叙上答申要項並に協議事項に就き、各地弁護士会より持寄りたる提案を概括整理した。本年は、例年より提案数に於て少い方なるが、其の實質に於ては頗る重大性を帯び、従て会議は大に緊張したものであった。殊に金銭債務臨時調停法即時撤廃の叫びは、議案としては東京、松江、福井、佐賀、高知、岡山、神戸、福島、宇都宮、静岡、浦和、旭川、盛岡、松山、水戸、鹿兒島、福岡の十七会より、異口同音に揚げられた位であった。右司法省諮問事項に対する答申及司法官弁護士会長合同協議会提出事項は左の如し。

司法省諮問事項に対する答申（注、省略）

司法官弁護士会長合同協議会提出事項（注、省略）

尚、当日出席の弁護士会代表者の氏名は、左の如し。（注、省略）

○司法官会同日程

十六日（月、午前）司法大臣訓示、司法次官注意、民事局長指示、

広島弁護士会沿革誌（6）昭和戦前編・下

刑事局長指示、行刑局長指示、総理大臣訓示、同大臣午餐（於總理官邸）。（午後）協議会

十七日（火、午前）大審院長演述、検事総長訓示、池田大審院部長及泉二大審院部長注意、金山大審院次席検事注意、協議会、御陪食。（午後）協議会

十八日（水、午前）深澤朝鮮高等法院長及古田滿洲国司法部総務司長の各講演、協議会。（午後）協議会  
十九日（木、午前）司法官弁護士合同協議会、司法大臣挨拶、協議会。（午後）協議会。（夜）司法大臣饗宴（於工業俱樂部）

③司法官弁護士会長合同協議会（「公論」第三八巻第五号、昭和九年五月号）

○司法官弁護士会長合同協議会提出事項

今年度司法官弁護士会長合同協議会は、去る四月十九日午前九時から、司法省大会議室に於て開催されたが、その前日たる十八日午後、弁護士会長側のみ上野精養軒に集合協議の上、司法省諮問事項に対する答申並合同協議会提出事項につき、左の如く決定した。

司法省諮問事項ニ対スル答申（注、省略）

司法官弁護士会長合同協議会提出事項（注、省略）

小山司法大臣訓示昭和九年四月十六日於司法官会同（注、省略）  
和仁大審院長演述昭和九年四月十七日司法官会同席上に於ける（注、

八〇六（三〇二）

省略)

○全国弁護士長招待午餐会

昭和九年四月二十日午前十一時半、麹町区有楽町山水楼に於て、司法官會議参加のため上京せられたる全国弁護士会長を招待し、午餐会を開催したり。当日出席せられたる来賓並会長諸君左の如し。

一 来賓側

東京(副会長濱田三平)、第一東京(堀江專一郎)、浦和(古川貞三)、宇都宮(和氣壽)、前橋(小川彦衛)、静岡(岡崎伊勢藏、甲府(沖田誠)、新潟(松井郡治、神戸(日笠豊)、奈良(磯田衆三郎、和歌山(榎木隆)、名古屋(鬼丸義齋、安濃津(山田寛)、岐阜(副会長小山市次、富山(副会長中田忠雄)、岡山(窪田逸次郎)、松江(副会長須山貞太郎、松山(檜垣喜太郎、佐賀(内田清治)、熊本(副会長林靖夫、鹿児島(鯨島宗雄)、宮崎(江川甚一郎)、盛岡(河野喜藏、秋田(副会長加藤定雄、旭川(大塚守穂、樺太(平敷安亮)、京城(武智弘方、京城(劉文煥、平壤(金翼鎮、新義州(副会長黒島直篤)、大邱(代表岩元三志)、釜山(藤木永吉、関東州(相川米次郎、法律新聞(佐伯復堂、石井敬生)、法律新報(黒澤松次郎)

二 会員側(注、六五名省略)

先づ、山水楼玄関にて一同記念撮影をなし、直ちに食卓につき、宴半となるや、理事徳本寛三君、本協会を代表して、大要左の如く挨拶せられたり。

司法官、弁護士会長合同協議会に御出席のため、全国各地弁護士会長諸君の御上京を機といたしまして、恒例に依り粗宴を設け御案内申上げましたる処、公私極めて御多忙中に不拘御繰合せ多数御出席を得まして感謝に堪へません、厚く御礼申上げます。各地の弁護士大会等の場合、我協会代表が出席いたしまして、御町重なる御饗応にあづかります。折角の御上京故、何等かの風情もと存じましたが、非常に御忙しき時間を御差繰り願ひました次第で、斯く粗末な準備ではありますが、私共の意のあるところを御酌み下さいまして、ゆる／＼と御歓談を願ひ度いのであります。

全国弁護士会長諸君が、斯く多数御集りの機会は今回を措いて他に得難いので……御招待の席で申上げるも如何かと思ふのであります。極めて緊急の事項と考へ、先刻謄写にして差上げましたる通り、法治国々民のため是非共御高慮を煩はさねばならぬ次第で、何卒御帰りの上も各会に於て御協議御決議願ひたいと思ひます。

先づ、調停法廃止の件であります。彼の行政官庁に於て取扱ひます、労働爭議調停法並に關東大震災の直後制定せられたる借地借家臨時処理法の問題に關しては、司法関係の我々は暫らく措くといたしまして、借地借家調停法、小作調停法、商事調停法並に金銭債務臨時調停法の全廢を叫び度いのであります。とて別項提案の理由を詳述せられて後、明日より引續いて、之が全廢に至るまで御努力を願ひ度いと思ひます。就きましては、之が実

際取扱上の具体的事項の御報告と共に、全国各会に於て調停法全廃の決議を為し御通知を煩はし度いのであります。御異論なく御同意を得ば、誠に幸と思ひます。

次に、司法科試験の問題であります。現在判検事弁護士試験を一括して司法科試験となつて居りまして、弁護士志望者も司法官志望者も共に同一試験を経ねばならない。然るに司法官は、志望者中の少数しか採用されず、他の者は自然弁護士になるといふ関係から、司法官の方が弁護士より優れてゐるかの如き誤解を招き、延て弁護士地位にも影響するに至るものと考へますので、司法科試験を判検事と弁護士と各區別する様改正すべき旨決議の方法により御通知を煩はし度いと存じます。

甚だ失礼ながら、他に適當なる機会を得ませんので、この席上で御願ひする次第であります。(以上満場一致決議となる)

#### 駒澤日滿法曹協會委員

私は、日滿法曹協會の委員の一人であります。御承知の如く、昨秋東京弁護士会、日本弁護士協會が代表を満洲国へ特派し、親しく司法制度その他につき調査いたしました。

治安維持の方面に於ては殆ど完全に近き迄になつて居りまして、今後は法制裁判の改善を急務として居る状態ですが、これが一朝一夕の問題でないのであります。

私も、日本弁護士協會特派の一人として出張し、朝野各方面の人士と会談し、満洲国司法権確立と治外法権撤廃のため尽力を誓

ひ、また同国律師諸君も喜んで協力を約したのであります。詳細は、昨年十二月号の『法曹公論』で既に御承知のこと、存じます。代表が帰会しての報告に基づき、日本弁護士協會、東京弁護士会に於て、日滿法曹協會設立の議が起こり、爾來總會、委員会等に於いて慎重協議の結果、先般發起設立となり、近く設立總會を開催する手擧になつて居ります。時恰も、満洲国特使一行が来朝せられましたので、東京、日本両会と聯合し、去る四日歓迎会を開催した次第であります。

満洲国司法制度の改革は、日滿法曹協會の使命であります。これを如何に育て、如何に運用して行くかは、委員一同研究して居るところであります。会則は先程差上げました通りでありまして、今秋頃に總會を開催し役員を選挙し、日滿両国より顧問を推薦する予定になつて居ります。それに就きましては、本日御集まりの全国各会長諸君が一致団結して、御支援下さることを御願ひする次第であります。

經費の点につきましては、日本、東京両会に於て支弁することになつて居りまして、今直ちに会費徴収等のことはないのであります。何卒全国六千の在野法曹擧つて加入せらるゝやう、御尽力をお願いいたします。現に満洲国司法部より古田総務司長が御來朝中でありまして、満洲国司法制度の改善、日滿法曹協會の使命等につき懇談し、種々便宜を願ふことになつて居ります。どうか御帰りの上、全會員に御伝への上、御加入下さる様御願ひする次

第であります。

東京弁護士会濱田副会長（会長代理）

毎年当番幹事が御挨拶する恒例になって居るそうですありますが、会長が観桜会に御召しを受け欠席しましたので、私が代つて御挨拶申し上げます。実は、堀江第一会長に御願ひしたのでありますが、お前がやれとのこと、何か言はねばならぬのですが、本日は遠く御上京の各会長から御話しを聴く方がよろしいかと考へます。本日の御招待に対し、深く感謝いたします。

先刻の各調停法全廃の提議は、昨日も合同協議会に於て論議せられたのでありますが、司法当局では予算等の関係から難色があるやうでありますから、この際一層努力すべきものと考へます。次に、日満法曹協会の件につきましても、勿論異存なきこと、考へます。來賓側を代表して、一言御挨拶申し上げます。

これより、角田協合理事の指名により、各会長諸君より本協会に対する希望意見等を拝承したいと希望し、第一に

名古屋会長鬼丸義齋君

進行係の側に居たので早速所感を云へとのことですが、何を言つてよいやら判らないのであります。只今の各位の御意見には、双手を挙げて賛成いたします。

此の機会に御考慮を煩はし度い問題も種々ありますが、就中五・一五事件につき裁判の統一を欠きたる点であります。朝野法曹の驚き、一般国民への影響実恐るべきで、誠に遺憾の問題で

あります。事件の重大なるに不拘、これに関する識者の声が表面に出ない、同じ日本の法律に於て、軍、民により刑に差異があるとせば、裁判の統制を欠くと称して差支へない、何れの輕重は問はぬが、權衡を失したるは事実である。

と日本弁護士協会の奮起を促すところあり、次で未決勾留期間の長きを語り、無罪免訴となるも当人の名譽は地を払ひ再起不能となる。司法予算の關係から如何とせば、在野法曹として大に叫ばねばならぬと結ぶ。

榎本和歌山会長

折角の御指名故、一言申上度い。今回上京して各会長と談合したが、金銭債務調停法は全廃せねばならぬと考ふるが、大臣始め司法当局の様子では、單なる決議では不可能と考へられる。一層の決意と充分の調査を遂げ、当局に進言する必要がある。就ては、日本弁護士協会の統制の下に大に努力したいと考へる、之れが撤廢の理由として、一つ御考を願ひ度いのは、本法改正の結果として金を貸す者がなくなることである。半額乃至三分の一になつて了つては貸す者がない。即ち金融の梗塞といふことを附加して頂き度い。

次で、江川宮崎、大塚旭川各会長よりも、調停法廢止につき協会の尽力を希望せられ、次に進行係より福岡会長を指名したるも出席なかりし為め

堀江第一会長

福岡会長に代つて申述べると冒頭し、徳本理事の御説は至極御尤ものである。司法科試験を分けるといふ問題は、昨日の合同協議会の諮問事項となり、賛否の結果は未だ判然しない。金銭債務調停法その他調停法は、撤廃すべきである。本法の如何なるかは、論じ尽された問題であるが、最近福岡弁護士会にては、同地方裁判所管内の実績につき周到なる調査をせられた、と福岡弁護士会の調査につき詳説せられた。(注、「公論」第三八巻第五号七六頁参照)

#### 相川関東州会長

満洲国に近く利害の關係も深いので、我々が日滿法曹協會を設立せねばならぬとさへ考へて居たのであります。然るに、理事各位が御視察の結果、設立を見るに至り感謝に堪へない。私が、賛成する理由の一端を申上げてみたいと思ひますとて、満洲国に於ける司法制度、司法官、律師の実状につき説明し、裁判制度改革に努力しつゝ、あるは認むるも、治外法権の撤廃に就ては、外部の形式のみに依り決することは出来ない、この意味からして、内部より改善せねばならぬ。その第一として、司法官の約半数は日本人より採用すること、軍部にて治安を維持し居ると同様、司法部は我法曹を以てせねばならぬが、それには寛大なる心を以て望むべきで、この意味に於て日本が率先して、日滿法曹協會を設立し、日滿提携して司法権の確立が出来れば、國際連盟を脱退したる意味もある次第で、各会長諸氏の御尽力を願ひ度いと思ふ。大連より上京して、一昨日以来朝野先輩の御意見を聴き、啓発を受けま

した。地域は違ひましても、今後皆様の御世話になること多しと考へます、宜敷御願いたします。

劉京城(朝鮮人)会長は、例年全朝鮮弁護士大会に於て決議せらるゝ行政裁判法、裁判所構成法等を朝鮮に施行するの件につき、外務、拓務、総督府等に関係する問題故、之が実現は一朝のことでない、日本弁護士協會の御援助により、飽く迄目的の達成を期すると結び。

#### 河野盛岡会長

調停法撤廃につき、在朝その他の方面の意向は、弁護士職務範圍を侵さるゝから弁護士側が反対するのだといふ様に誤解されて居る。今後反対運動については、この点を考慮して、司法当局、商業會議所その他各方面に根本觀念の徹底を期すべきである。

#### 終りに新潟会長松井郡治君

別段申上げる事もないが、御馳走の代りに少々嫌味を申上げるが、御馳走が不味いからではない。今後我々の仕事は益々重大を加へ、先輩たる東京三弁護士会の諸公を煩はさねばならぬ。私が常に考へ御願ひして居ることは、出来得ることなら三つの会が一ツになつて頂き度い、平常三つの会の御世話になり、三つの会から夫々号令が出る。これに吾々が一致して行くといふことは、誠に迷惑なこと、去就に迷ふ次第である。本日は各会から幹部の方がお出席のやうですが、どうか我を去り給ふて、是非一ツになつて欲しい。このまゝでは何事も力が入らぬ、三会各別では、

今後の重大案件は片附かぬ。先刻私は嫌味を云ふと申上げたが、嫌味でなく衷心より切にお願ひするのである、心から一ツになることを願ひする。

これより別室に移り、歓談時余にして散会したるが、来賓會員共多数出席され極めて盛会であつた。

尚、本席上左の提案を為し、満場一致可決した。

現行各種調停法ノ全廃ト民事訴訟手続法ノ根本的改正ヲ提議シ全国朝野法曹並ニ立法府ノ猛省ヲ促シ其目的ノ達成ヲ期ス理 由 (省略)

昭和一〇(一九三五)年

①司法官弁護士会長合同協議会(「新報」昭和一〇・六・五)

本年度司法官会同及全国弁護士会長との協議

○全国司法長官会議開く

第一日

本年度全国司法長官会同は、五月二十二日午前九時から司法省で開会。小原法相、原、長島両次官、船橋参与官以下各局課長、林大審院長、光行検事総長、皆川東京控訴院長以下各院長、金山東京検事長以下各検事長、豊水、鬼頭民刑東京裁判所長以下各裁判所長、猪股東京地方検事正以下各検事正、増水朝鮮法務局長以下各植民地法院院長並に檢察官長等百三十余名出席、まづ、小原法相から(別項)訓示があつた後、長島次官、大森

民事局長、岩村刑事局長等からそれ〴〵所轄事項につき注意並に指示があり、午前中の議事を終り、午後一時半再開、林大審院長の演述(別項)、光行検事総長の訓示(別項)、三橋、清水大審院部長、木村大審院検事局次長の注意があり、協議に入り、第一日の議事を終り、同六時から工業倶楽部における小原法相招待宴に臨んだ。

第二日

司法長官会同第二日は、二十三日午前九時から開会、午前午後に亘り、左記事項につき協議した。

一、刑事裁判の実績を挙げるため刑事事件の処理に付考慮すべき事項

一、法廷における訊問に付少壮法官を訓練するに適當なる方法  
一、檢察事務の適正なる執行に付考慮すべき事項

天皇陛下には同日正午、宮中豊明殿に出御あらせられ、目下会同中なる各司法官御慰勞の思召により、午餐会を御開催、梨本元帥宮殿下御臨席遊ばされ、小原法相、林大審院長、光行検事総長、皆川東京控訴院長以下約百五十名並に湯淺宮相外、宮内官に御陪食仰付けられ、終つて茶菓を賜ひ、一同光榮に感激して、一時過ぎ宮城を退下した。

第三日

司法長官第三日目は、二十四日午前九時から開会、午前午後には亘り協議事項の協議をなした、正午には首相官邸に於ける岡田首

相の招待宴に臨んだ。

#### 第四日

二十五日午前九時より、司法部長官及全国弁護士会長会同があり、出席者は左の諸氏にて、先づ小原法相の挨拶あり、本年度当番幹事たる第一東京弁護士会会長より別項諮問事項に対する答申及提出協議事項を説明し、午前午後に亘り協議を遂げ、午後六時より東京会館に於ける小原法相の招待会に臨み閉会した。

#### 出席会長

東京（河合廉一）、第一東京（平松市藏）、第二東京（岩本勇次郎）、横浜（兵頭守時）、浦和（磯邊康輔）、千葉（杉山彌太郎）、水戸（師岡廉治）、宇都宮（猪狩満）、前橋（山田岩次郎）、静岡（大庭良平）、甲府（濱口永雄）、長野（小島相陽）、新潟（松井郡治）、京都（前田龜千代）、大阪（梅山恵）、神戸（岩佐權二）、奈良（高瀬包三）、大津（山本福丸）、和歌山（秋月集二）、徳島（高津住胤）、高松（河西善太郎）、高知（高原伊三郎）、名古屋（大野正直）、安濃津（田村稔）、岐阜（森川玉三郎）、福井（荒井關造）、金沢（山本文吾）、富山（今井榮之）、広島（富島暢夫）、山口（古谷判治）、岡山（大野清五郎）、鳥取（青戸辰平）、松江（草光義賢）、松山（松本清三）、長崎（芦塚秀治）、佐賀（橋爪勇）、福岡（日下部政徳）、大分（堤喜代藏）、熊本（平野龍起）、鹿児島（右田利隆）、宮崎（松尾利雄）、那覇（外間現篤）、仙台（宮崎清作）、福島（北川次男）、山形（戸田誠意）、盛岡（河野喜藏）、秋田（大島重明）、青森（氣仙忠治）、札幌（澤田徳右衛門）、函館（溝口久太）、旭川（坂井一治）、釧路（不参）、樺太（等力了）、京城内地人（太宰

#### 広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

明、平壤（三浦虎太）、大邱（柳埤熙）、釜山（杉村逸樓）、関東州（五十村貞俊）

小原司法大臣挨拶、林大審院長演述、光行検事総長訓示要旨（注、省略）

#### ○全国弁護士会会長答申並に提出協議事項

本年度全国司法部長官弁護士会合同協議会に提出せられたる、司法省通達協議事項に対する答申並に全国弁護士会会長提出事項は、左の如くである。

（注）協議事項「改正弁護士法ノ施行ニ付予メ考慮シ置クベキ事項如何」

第一、司法部長官弁護士会合同協議会事項に対する答申  
一、右に付ては、昭和九年度協議事項に対し答申したる左の要旨に依る。

- （一）試補修習に関する費用は国庫の負担とすること
- （二）修習は弁護士会に於て担当すること、但控訴院管内弁護士会共同にて担当することを得べきこと
- （三）試補指導員は担当弁護士会に於て選定すること
- （四）指導科目は（一）弁護士道德の涵養（二）裁判実務（三）一般法律事務とし其細目は担当弁護士会に於て之を定むること
- （五）修習の方法は修養、講習、見学、実務練習等とすること
- （六）考試は弁護士会に於て之を行ふものとする

（七） 考試は指導科目全部に付之を行ふこと

（八） 弁護士会は毎年其の試補修習人員を司法大臣に進達すること

（九） 試補の採用は当該弁護士会の銓衡に依ること

（十） 弁護士試補の修習並考試は人格を第一義とし、學術を第二義とすること

（十一） 試補は担当弁護士会の推薦に依り官選弁護、訴訟扶助事件其他特殊事件を取扱ひ得べく適當の方法を執ること

（十二） 高等司法科試験を弁護士試験と判検事試験とに分離すること

改正弁護士法第二条第二項の弁護士試補実務修習及考試に関する司法省令は弁護士会々則を定むる前提要件なるを以て之か制定の速なることを要望す。但右省令の実行は弁護士会に於て之に任するものなるを以て、之か制定に付ては、予め其草案を全国弁護士会に諮問せられたし。

二、前項の趣旨に基き弁護士及司法当局中適當の人員を以て委員會を設け調査考究の上決定すること

第二、全国弁護士会長提出協議事項

一、司法権尊重の本義及人權擁護の精神に基き正義を顯揚すべく司法制度の改善を期すること

二、司法精神を振作する為め特に司法関係者に対する人格教養の途を講ずること

三、和解調書及認諾調書の正本は判決同様裁判所職權を以て當事者へ送達すべき様民事訴訟法の改正を為すこと

四、民事訴訟記録の符号を各地方裁判所に共通統一せしむること

五、不動産売買価格と登記価格との差甚しきを以て現状に即すべく適當の処置を採ること

六、治外法權撤廃に関し委員を現地及中央に於ける在野法曹の權威者を加入せしむること

七、弁護士制度存在の理由に鑑み弁護の業務を制限する法規を廢し寧ろ進んで弁護士の関与する道を考慮して以て弁護士制度をして意義あらしむること

八、公証人の採用に當りては成る可く多数を弁護士より採用すること

九、内地台灣の司法制度を統一すること

十、從來の会同に於て既に提出したる事項に付ては鋭意實現を期すべく努力せられたきこと、就中左記事項の如きは其最も重要なものなるを以て特に速行せられんことを望む

（一） 金錢債務臨時調停法廢止等に関する件

（二） 各種調停に弁護士の代理權を認むる件

（三） 準備手續に関する件

（四） 民事の判決言渡期日勵行に関する件

（五） 公判中心主義勵行に関する件

（六） 予審に於ける弁護權發揚に関する件

(七) 非現行犯勾禁に関する件

(八) 刑事訴訟法第三十五条の趣旨徹底に関する件

(九) 不起訴記録取寄に関する件

(十) 裁判所と検事局の分離に関する件

(十一) 法律事務取扱者取締に関する件

(十二) 司法官優遇に関する件

(十三) 予審判事増員に関する件

(十四) 各種調停委員に弁護士依嘱の件

(十五) 朝鮮其他に於ける共通法改正の件

(十六) 朝鮮に裁判所構成法、行政裁判法及訴願法を実施の件

○全国弁護士会長招待会

日本弁護士協会並に日滿法曹協会共同主催の本年度全国司法部長官弁護士会長合同協議会に出席のため上京中であった全国弁護士会長招待会は、去る二十五日正午丸の内山水楼に於て開催され、先づ秋草日本弁護士協会理事、山岡日滿法曹協会々長の歓迎の挨拶に次ぎ、富島広島弁護士会長は来賓一同を代表して謝辞を述べ、それより平松第一東京弁護士会長、岩本第二東京弁護士会長、日下部福岡弁護士会長、大野名古屋弁護士会長、柳大邸弁護士会長、北川福島弁護士会長等の所感演説があったが、大野名古屋会長の調停委員間に党派を生じ中間行動の忌むべき弊害があり、弁護士会に於ては之が対策を講究中であるとのことや、柳大邸会長の裁判所構成法実施を希望して、朝鮮では一巡査が十日の拘留が出来る、此法律の立法理由は交通が不便だからと云ふのであったが、今日では其の必要がない、之が為め人権蹂躪が起る、之は一に裁判所構成法が実施されて居ない為めである、斯かる悪法は一日も早く之を廃止して朝鮮に裁判所構成法が実施せられるやう御協力を願ひたいとの希望や、北川福島会長の公証人任命は退職司法官にのみ限られて居り、弁護士に及ばぬ、弁護士にも可成均霑されるやうにしたいとの希望は一同の注意を惹いた。斯くて、平松第一会長の発声で一同乾杯、終つて記念撮影を為し散会した。

○更迭司法官並弁護士会長招待会

帝国弁護士会、第一東京弁護士会共同主催の更迭司法官並全国弁護士会長招待会は、去る二十四日、日比谷三信ビル内東洋軒に於て全国弁護士会長打合会後、午後六時より開催され、先づ平松第一東京弁護士会長の挨拶があり、之に対して林大審院長並梅田大阪弁護士会長の謝辞があり、盛会裡に午後八時散会したが、平松会長は其の挨拶中、在朝法曹に対して、在野法曹界の向上発展の爲めにも充分の御協力が願ひたいと希望を述べ、在朝側も之を諒とし御希望通り努力すべしとして、在朝在野法曹が互に隔意なく歓談を交ふところあったのは、司法界の爲めに喜ばしい次第であった。

②司法官弁護士会長合同協議会〔新聞〕昭和一〇・五・二八、昭和一

〇・五・三〇、昭和一〇・六・二三

○司法官会議開催〔新聞〕昭和一〇・五・二八

昭和十年度司法官会同は、既報の如く、愈々五月廿二日午前九時より司法省会議室に於て開始、会同員は林大審院長、光行検事総長を始め、控訴院長、検事長各七名、所長五十二名、検事正五十一名、朝鮮総督府より増水法務局長、小川高等法院長、岡本京城覆審法院検事長、野村平壤覆審法院長、京城地方法院長、京城地方法院検事正、海州地方法院検事正、台灣総督府より山本法務課長、竹内高等法院長、伊野高等検察官長、古山台北地方法院検察官長、鰐澤台中地方法院長、関東庁より鹿島高等法院長、下田高等法院検察官長、中里地方法院長、南洋庁より石川高等法院長出席、部内参列員としては三橋、清水各大審院部長、井村大審院検事局次長、本省高等官は、小原大臣以下三十名列席、劈頭小原司法大臣の訓示あり、続て長島司法次官の注意、大森民事局長の指示、岩村刑事局長の指示あり、午後は一時半より林大審院長の演述、光行新検事総長の訓示、三橋大審院部長の注意、木村大審院検事局次長の注意あり、終つて協議会に入った。当日の小原司法大臣訓示、林大審院長の演述、光行検事総長訓示要旨は、左の如くである。

小原司法大臣の訓示、林大審院長の演述、光行検事総長の訓示（注、省略）

○司法官会同第二日より最終日迄〔新聞〕昭和一〇・五・三〇）  
司法官会同第二日の二十三日は、午前九時より協議会に入り、

正午より会同司法官一同は、宮中に参内し聖上陛下御親臨のもとに、御陪食の光栄を賜った、更に引続き各長官に対し陛下より司法事務の運用並に事件の進行状況等に付き具さに御下問があつたと洩れ承る。司法省へ引返した後、午後二時半より協議会が續行され、

第三日目の廿四日は、午前午後両度に亘り協議会を開催、正午には岡田首相の午餐会が行はれた。

最後の二十五日は、司法部長官及全国弁護士会長の合同協議会が、午前午後二回亘って行はれ、司法省側からは小原法相以下各長官、弁護士会側からは平松第一東京弁護士会長以下五十七名出席、先づ小原法相から左の如き挨拶あり、終つて別項記載の協議事項を審議した。本年の合同協議会は、極めて平穩無事で、弁護士会長提出の協議事項に対し、司法省は調停法廃止、不起訴記録取寄の件に反対した外、他は大体趣旨に賛成し又は進んで賛意を表するものとあつた。

会同後、弁護士会長一同は午後六時より、小原法相の東京会館に於ける招待会を最後として、十年度の会同の全日程を終つた。

○小原司法大臣挨拶（注、省略）

○司法省通達協議事項に対する答申及全国弁護士会長提出協議事項（注、省略）

○十年度司法官会同出席朝野法曹一覧〔新聞〕昭和一〇・六・三）  
（注、省略）

③司法官弁護士会長合同協議会（「正義」昭和一〇年七月号）

全国弁護士会長司法部長官合同協議会に関する報告書

昭和十年五月二十二日より同二十四日迄三日間に亘り、司法省に於て昭和十年度司法官会同行はれ、引続き二十五日、全国弁護士会長及司法部長官の合同協議会開催せられたり。其經過大要左の如し。

第一 事務

昭和二年以来毎年一回行はる、全国弁護士会長司法部長官合同協議会の協議事項は、司法省より全国弁護士会長に対し、之を通達せられ、且各弁護士会は之れに対する答申と共に、各々希望する協議事項を併せ提出すべき旨を併せて通告せられたり。

右に付、全国弁護士会長は、各自右答申及協議事項の提案を為すに於ては、重複煩雑に渉るを以て、従来之を整理統一して、全国弁護士会の主張を明確にし及之をして權威あらしむる為め、便宜右に付、東京に於ける三弁護士会に其処理を委嘱し、在京三弁護士会は、毎年順次其当番幹事となりて、予め全国弁護士会の答申及提案を取纏め、之を整理したる上、会同全国会長の打合会を開き、答申及提案の統一を為し来りたる慣例あり。

昭和十年度会同に付ては、我第一東京弁護士会が、其の当番幹事たるの順番にありたるを以て、本会会長は従来例に依り、全国弁護士会より答申及提出案の送付を受けて、之を整理したる上に付き全国弁護士会長の打合会を催す事等の労を執りたり。然

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

る所、幸ひにして、全国弁護士会長の意見の統一ありたるを以て、司法省に於ける全国司法部長官弁護士会長合同協議会に於て、全国弁護士会長を代表して答申及提出各案を演述し、及以下記載するが如き経過及結果を以て、本年度の会同事務を終了したり。

第二 申出案及其の整理

全国弁護士会より本会宛送付せられたる案の総数は、答申案に於て二十、会長提出協議事項案に於て四十六に達したるが、之を各控訴院管内別に区別すれば、左の如し。

提出案	答申案	地方名
19	6	東京
8	3	大阪
2	2	名古屋
11	3	広島
0	3	長崎
1	2	仙台
0	1	札幌
3	0	朝鮮
1	0	台湾
1	0	関東州
46	20	計

右に付、予め開催せらる、全国弁護士会長打合会準備の為め、案の整理を為し、特に提出協議事項の整理に関しては、本年申出の案にして既に従前提出せられたるものと、今年新に申出られたるものとを区別すること、其他一、二の原則を定めて左の如く区分整理したり。

全国弁護士会長打合事項案

(注) 以下、広島弁護士会が提出した答申案及協議事項案のみ収録し、

七九六 (二九二)

〈資料〉

その他は省略した。

第一 司法省諮問事項ニ対スル答申案

〔注〕 協議事項「改正弁護士法」施行ニ付予メ考慮シ置クヘキ事項如何

（第十三号案） 広島弁護士会提出

一 新弁護士法第十四条ノ「審議委員会ニ関スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」トアリテ其委員会ノ構成審査方法等ハ勅令規定ニ俟ツヘキハ勿論ナルモ（イ）其委員会ヲ組織スヘキ委員ハ過半数ヲ弁護士中ヨリ任命シ常置ノ機関トナスコト（ロ）委員会ハ事案発生毎ニ予メ當該弁護士会ノ意見ヲ聴クヘキコト

二 同第三十七条「弁護士会ハ弁護士試験ノ実務修習ヲ担当ス、但シ司法大臣別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此ノ限ニ非ラス」トアリテ司法大臣ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケ弁護士会以外ノ者ヲシテ弁護士試験ノ修習ヲ担当セシメ得ヘキモ司法大臣ハ別段ノ規定ヲ設クルコトナク同条本文ノ規定ニ則リ必ス弁護士会ヲシテ試験ノ修習ヲ担当セシムルヲ以テ最良ノ方法ナリトス（第一号ノ二ト同趣旨）、而シテ修習ニ要スル経費ハ全部国庫ノ負担トシ當該弁護士会又ハ修習ノ試験ヲシテ之レカ費用ヲ負担又ハ分担セシメントスルカ如キハ甚タ其宜シキヲ得サルモノナリ（同上ノ二ト同趣旨）

三 試験ノ修習ハ人格識見ノ涵養ヲ主眼トシ実務修習ハ寧ろ第二次のト

修道法学 三六卷 二号

七九五（二九一）

ナス方針ヲ採ルヘキコト（同上十ト同趣旨）

四 右以外試験修習ニ関スル事項ハ同法第二条第二項、同第三十七条、同三十九条ニ依リ弁護士会則ニ於テ之ヲ規定スヘキモノナルカ昭和九年十月十一日付司法省調秘第二二四号司法制度改善諮問ニ対シ同年十二月十三日本会ノ答申（左記摘録。注、省略）ヲ根幹トシ其他各地弁護士会ニ於テ新設セラルヘキ会則ヲ参考資料トシ之ヲ制定セントス

第二 会長提出協議事項案

（イ）新規提出事項

（第五号案） 広島弁護士会提出 高等司法科試験ヲ弁護士試験ト判検事試験ニ分離スルコト

（ロ）従来協議事項中ニ存在スルモノ

（ハ）従前反対ノ協議事項存スルモノ

（ニ）其他ノモノ

（第四十三号案） 広島弁護士会提出（聯合会設立準備ノ件）改正弁護士法第五十二条弁護士会ノ聯合会設立ハ将来弁護士会ノ向上発展ノ為メ最モ緊要ナルモノナルニ付予メ準備工作ヲ為シ置クノ要アリ

追加打合事項案（注、以下内容は省略）

第一 司法省諮問事項ニ対スル答申案

第二 会長提出協議事項案追加

第三 参考書（参考書ノ二）昭和九年度司法省諮問事項ニ対スル答申、

（参考書ノ二）本年度提出案関係ノ従前提出事項参照便覧

第四 全国弁護士会長打合案

第五 決定案

第六 第一東京弁護士会及帝国弁護士会主催全国弁護士会長招待会、栄任司法官祝賀会

第七 全国弁護士会長及司法部長官合同協議会（一）経過、（二）会議ノ内容

第八 残務処理 添附書類（一）昭和十年五月二十四日打合会速記録、（二）同月二十五日司法省協議会速記録

右報告候也

昭和十年六月一日

第一東京弁護士会長 平松市藏  
第一東京弁護士会御中

④司法官弁護士会長合同協議会（「公論」第三九卷第六号、昭和一〇年六月号）

○全国司法部長官弁護士会長合同協議会

昭和十年度全国司法部長官並弁護士会長合同協議会は、去る五月二十五日司法省大会議室に於て開催されたが、この前日たる二十四日午後日比谷三信ビル内東洋軒に弁護士会長集合、協議の結果司法省通達の協議事項に対する答申及全国弁護士会長提出の協議事項は左の如く決定した。

第一、司法部長官弁護士会長合同協議会協議事項ニ対スル答申（注、省略）

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

第二、全国弁護士会長提出協議事項（注、省略）

小原司法大臣挨拶（昭和十年五月二十五日 司法部長官  
弁護士会長 会同に於て）（注、省略）

小原司法大臣訓示（昭和十年五月二十二日司法官会同に於て）（注、省略）

林大審院長演述（昭和十年五月二十二日司法官会同席上に於て）（注、省略）

光行検事総長訓示要旨（昭和十年五月二十二日 検事長  
検事正 会同席上に於て）（注、省略）

○全国弁護士会長招待午餐会（主催日本弁護士協会日満法曹協会）  
昭和十年五月二十五日（土曜日）正午東宝劇場前山水楼に於て、全国司法部長官弁護士会長合同協議会に出席せられたる各弁護士会長諸君を招待し、恒例の午餐会を開催した。此の日は、司法省に於ける協議会の当日で、午後も引続いて会議があり、時間の関係から如何かと思はれたのであったが、秘書課長の御好意で時間の繰り合せが出来、至極好都合だった。その上会長諸君は殆ど全部が拳つて出席されたし、会員諸君も忙しい中から繰り合せて多数出席し、賑やかな午餐会となった。主催者側として、心から感謝せねばならない。午後二時から司法省で会議再開といふので、特に時間勵行、正午に食堂を開いた、極めて和やかな空気である。秋葉愛一君日本弁護士協合理事を代表して起ち「全国弁護士会長各位が、日頃から吾が日本弁護士協会の使命に對し、深き理解と

七九四 (二九〇)

後援を寄せられ、弁護士大会その他各種重要問題につき密接な連絡を講ぜられ、殊に本日忙しき時間を差繰り多数出席せられたるに對し、深く感謝の意を表し、続いて、(一) 司法制度改善の問題、(二) 人權蹂躪事件に對する連絡並に之に對する処置、(三) 金錢債務臨時調停法その他に關する改廢問題、(四) 改正弁護士法實施に對する準備等重要事項につき、日本弁護士協會の態度を述べ、今後一層連絡を密にし、弁護士の地位向上、その他協會の使命達成のため御協力を願ひたい、甚だ不行届きで粗糲ながらゆるく召上られ御懇談願ひ度し」との挨拶があつた。

日滿法曹協會々々長山岡萬之助君は「日滿法曹協會の目的が、日滿両国法曹の親善提携、滿洲国司法制度の改善延て治外法權撤廢に寄与するにある旨を説き、更に本年九月十日前後に滿洲国新京に於て第二回總會を開催する予定の下に、準備委員會を設け着々進捗中なるにつき、之が開催に當つては全国各弁護士会代表者多数出席するやう、予め御尽力を煩はしたい、殊に昨年十一月第一回總會開催に當つては、全国各弁護士会より絶大なる御援助を賜り誠に感謝に堪へない、此の機会に於て厚く御礼申上る、公私御忙しきところを御繰合せを願ひたるも、何の風情もなく誠に粗末ながらゆるく御懇談下されし」と結ぶ。

以上主催者側の挨拶に對し、第二東京弁護士会々々長岩本勇次郎君は、來賓を代表して丁寧なる謝辭を述べられた。進行係として、理事戸田保君の指名に依り、富島(広島)、日下部(福岡)、大野

(名古屋)、柳(大邱)その他各会長から有益なる意見や感想を拝聴し、主催者側として大に裨益するところがあつたが、司法省の午後の會議の關係もあり、記念撮影もあるので、幾分早目ではあつたが、一時半といふに散会したため、來賓全部から卓説を拝聴し得なかつたのは惜しかった。

左に当日の來賓各位の芳名を揚げ謹て感謝を表す。(注、五四名省略)

# 昭和一一(一九三六)年

①司法官弁護士会長合同協議会(「新聞」昭和一一・六・一三、昭和一一・六・一五、昭和一一・六・一八)

## ○司法官会同(「新聞」昭和一一・六・一三)

恒例昭和十一年度司法官会同は、特別議會の爲に後れ、本月八日より司法省會議室に開會、

第一日は、午前九時より林法相の訓示、長島次官の注意、大森民事局長、岩村刑事局長、岩松行刑局長の指示あり、午後二時より池田大審院長の演述、光行検事総長の訓示、前田大審院部長、宇野大審院部長、木村大審院次長検事の注意及協議会ありし後、同五時半より工業俱樂部に於て法曹会主催にて会同員の招宴あり、第二日は、午前九時より引続き協議会ありし後、正午御陪食に列し、午後二時半より引続き協議会ありし後、同六時より工業俱樂部に於て司法次官主催の随行員招待会あり、

第三日は、午前九時より引続き協議会あり、正午総理大臣官舎に於て廣田総理大臣の訓示ありし後、午餐会あり、午後二時より引続き協議会あり、

第四日は、午前九時より司法部長官と全国弁護士会長の合同協議会あり、午後は二時より引続き合同協議会ありし後、五時半から宝亭に於て法曹会主催にて随行員招宴あり、又六時から東京会館に於て法相主催にて司法部長官弁護士会長の招待があつた。

一方、随行員側に於ては、随行員控室にて第一日より第四日まで、四日間午前は九時より、午後は一時半より、随行員と本省属打合会及打合結果整理会あり、第二日の打合会後は、午後六時より工業倶楽部に於て長島司法次官主催の随行員の招待あり、第四日は午後五時より宝亭に於て法曹会主催の随行員招宴があつた。

尚、第三日の廣田総理官邸午餐終了後、司法省会議室に於て、左記二氏の講演があつた。

陸軍省新聞班長 秦彦三郎、外務省情報部長 天羽英二

○全国弁護士会長招待会東京三弁護士会主催〔新聞〕昭和一一・六・一二

司法官会同に出席の爲め上京中の全国弁護士会長を招待して、第一、帝国弁護士会は、六月十日正午上野常磐華壇に於て、第二東京弁護士会は、同日夜五時より上野精養軒にて盛宴を張つた。尚、十二日午後六時より目黒雅叙園に於て、日本弁護士協会及東京弁護士会主催の招待会が催された。何れも人権蹂躪糾弾及調停

法廃止等に就て、在野法曹としての運動方法を協議したる後、懇親会を催した。

○司法部長官弁護士会長合同協議会に於ける全国弁護士会長の答申及提出協議事項〔新聞〕昭和一一・六・一八

全国司法部長官弁護士会長合同協議会は、十一日午前十時より、司法省会議室に於て開催されたが、同協議会の協議事項に対する弁護士会長よりの答申及協議事項左の如し。

第一 全国弁護士会長ノ協議事項ニ対スル答申

〔注〕協議事項「新弁護士法ノ施行ニ当リ裁判所、検事局ト弁護士会ト協力スヘキ事項如何」

一、弁護士試験ノ実務修習ニ付裁判所検事局ハ試験ニ対シテ便宜ヲ与フルコト、特ニ左記事項ニ付キ協力ヲ要ス

イ、民刑事件訴訟記録ノ利用

ロ、裁判所及検事局ノ事務ニ関スル講習

ハ、司法官衙ノ見習

二、裁判所検事局部員及ヒ弁護士会長（又ハ司法官試験補弁護士試験各指導担当者）指導ノ下ニ時々司法官試験補弁護士試験ヲ以テ座談会ヲ催シ見聞知識意見ノ交換ヲ為スコト

ホ、官選弁護士選定ノ場合ニ弁護士会ノ申出ニ依リ試験ヲ特別弁護士ニ許可スルコト

へ、弁護士会ニ於テ実務修習ヲ為サシムヘキ弁護士試験ノ採否ニ付司法省ハ健康ニ関スル調査書類ヲ開示又ハ通知セラレタキコト

ト、弁護士試験ノ実務修習ニ付裁判所及検事局ハ弁護士会長ノ請求ニ依リ差支ナキ限リ民事訴訟非訟事件等諸般事務ノ取扱方ヲ見学セシメ且時宜ニ依リ特別ナル指示ノ下ニ差支ナキ事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ承認セラレタキコト

此方針ハ司法官試験ニモ適用シ将来裁判所又ハ検事局ノ請求ニ因リ弁護士事務ノ見学及差支ナキ限リ事務ノ一部ヲ取扱ハシメ以テ在野法曹ノ事務ノ一班ヲ会得セシムル用意アルコトヲ、弁護士試験ノ講習ニ付テ裁判所及検事局ハ弁護士会長ノ請求ニ依リ判検事ノ中ヨリ講師ヲ嘱託シ得ルコトヲ承認セラレタキコト尚司法官試験ノ為ニ開カルル講習ニシテ在朝在野法曹ニ共通ナル課目ニ関シテハ弁護士試験ニモ参加ヲ承認セラレタキコト

前二項ノ事項ニ付テハ弁護士会ニ於テモ司法官試験ニ対シテ同様ノ用意アルコト

リ、裁判所長検事正弁護士会長（又ハ司法官試験補弁護士試験各指導担当者）指導ノ下ニ時々司法官試験補弁護士試験一堂ニ会シ座談会等ヲ催シ見聞知識意見ノ交換等ヲ為サシメ以テ将来司法機関トシテ協力一致相共ニ国家正義ノ維持ニ献身スル精神ヲ涵養スルコト

二、法律事務取扱ノ取締ニ関スル法律ヲ勵行シ其ノ立法趣旨ノ貫徹ヲ期スルコト、特に左記事項ニ付留意ヲ求ム

イ、弁護士ニ非サル者ノ訴訟代理ノ許可申請ニ付テハ慎重ニ調査シ其拒否ヲ決セラルルコト

ロ、昭和八年法律第五十四号違反ニ関シ弁護士会ヨリ告発セル場合検事局ニ於テ徹底的ニ捜査セラレンコトヲ希望ス

ハ、弁護士会カ事務取扱員ノ雇用認可ニツキ其ノ身元調査ヲ為ス必要アルトキハ検事局ハ弁護士会ノ嘱託ニヨリ調査報告スルコト

ニ、弁護士及訴訟当事者以外ノ者ヨリ訴訟書類ヲ提供シタルトキハ其ノ者ノ権限ニツキ裁判所ハ嚴重ニ調査スルコト

ホ、司法書士ニ訴訟及非訟事件ノ書類提出及非訟事件ノ代理等ヲ嚴重ニ取締ラレタシ

三、弁護士ノ職務執行ニ関シ裁判所及検事局ハ弁護士ノ向上ニ資すスル為メニ希望事項ヲ開示セラレタキコト

四、新弁護士法ノ施行ニ付テハ全国弁護士会ヲ援助シ立法ノ趣旨貫徹ニ務メラレタキコト

五、弁護士法第十二条ニ依リ登録又ハ登録換ノ請求ノ進達ヲ拒絶スヘキヤ否又ハ会員ニ退会ヲ命スヘキヤ否ノ問題及懲戒又ハ風紀ニ関スル事項ニ付テ弁護士会長ノ請求ニ依リ裁判所又ハ検事局ハ書類ノ開示事実ノ通知其他必要アルトキハ特に適當ナル調査ヲ為サレタキコト

## 第二 全国弁護士会長提出ノ協議事項

- 一、司法上ニ於ケル国体明徴ノ具体的実現ヲ期スル為メ朝野法曹ヨリ成ル適當ノ機関ヲ設クルコト
- 二、現下ノ情勢ニ鑑ミ大審院長ヲ 天皇ノ直隸トシ司法權ノ獨立ヲ確保スル制度ノ実現ヲ期スルコト
- 三、選挙罰則違反被告事件ニ付キテハ嚴重ニ偏スルノ譏アルヲ以テ適當ニ考慮セラレタキコト
- 四、司法制度調査会ノ審議ヲ敢行シ從來已ニ為シタル提案ノ趣旨ニ從ヒ速ニ司法制度ノ根本の改善ノ実ヲ挙クルコト
- 五、司法制度ノ改善等ニ関スル調査機関ヲ設置セラルル場合ニハ其委員ヲ在京弁護士会ノ外各地ノ弁護士会員中ヨリモ任命セラレタキコト
- 六、司法当局ハ司法官ノ人事行政ヲ刷新シ其獨立ト權威トヲ保持スヘキコト
- 七、判事及検事ノ各獨特ナル地位並職能ニ付当局ハ勿論国民ヲシテ正確ニ理解セシムヘキ適當ナル方法ヲ講スルコト法廷ニ於ケル弁護人席ト検事席トハ対等ノ位置ニ之ヲ設クルコト
- 八、判事ハ官等俸給等ニ依リ任所ヲ區別スル制度ヲ廢シ大審院以下区裁判所ニ至ルマテ之ヲ共通ニシ専ラ適材適所主義ニ依リテ之ヲ配置スルコト、区裁判所ニハ老練ナル判事及検事ヲ配置スルコト
- 九、事務ノ繁簡及交通ノ便否ヲ標準トシテ裁判所ノ統廃合ヲ斷行

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

シ繁務ノ裁判所ニ判事検事書記ノ増員ヲ行ヒ且ツ増俸優遇ノ途ヲ講スヘキコト

十、司法官ハ総テ七年以上弁護士ノ職ニ在リタル者ヨリ採用スル制度ヲ確立スルコト、但現行制度ノ下ニ於テモ可成多数弁護士ヨリ採用スヘシ

十一、起訴シタル事件ニ関シテ検事カ被告人其ノ他ノ者ノ取調ヲナスコトハ之ヲ嚴禁スルコト

十二、刑事補償法ノ適用ニ当リテハ補償法ノ精神ヲ廣ク活用シ且不服申立ノ途ヲ開クヘク法律ヲ改正スルコト

十三、速ニ小作法ヲ制定シ小作調停法ヲ廢止セラレンコトヲ望ム十四、和議ニ関スル法制ヲ改正シ殊ニ和議認可後ノ履行ヲ確保セシムルコト

十五、関東法院判官檢察官ノ身分保障ニ関スル勅令ノ發布ヲ促進スルコト

十六、司法權ノ威信ノ為メ捜査機關ノ人權蹂躪ノ事實ニ対シ嚴ニ之ヲ戒飭シ復特ニ之レカ矯正ノ方法ヲ講スルコト

從來ノ会同ニ於テ既ニ提出シタル事項ハ其ノ實現ニ努力セラレタキコト、就中左記事項ハ速ニ実行セラレタシ

一、民事訴訟法ニ於ケル準備手続ノ訴訟ヲ遅延セシメツツアル現狀ニ鑑ミ之カ運用ニ留意シ其ノ本来ノ機能ヲ發揮セシムルコト  
二、複雑ナル事件ニ限り準備手續ヲ為スコトニ現行民事訴訟法ヲ改正スルコト

七九〇 (二八六)

三、金錢債務臨時調停法其他各種調停法ハ即時之ヲ廢止スルコト  
四、警察官吏ノ人權蹂躪甚シキモノアリ檢事局ニ於テハ之レヲ調  
査シ処罰スル要アリ

五、被告人ニ過当ナル苦痛ヲ与ヘサル様未決勾留ノ待遇ヲ改善セ  
ラレタキコト

六、保釈責付ハ可成之ヲ許可スル方針ヲ採ラレンコトヲ要望ス

七、予審中弁護人ヲ選任シ得ル法ノ精神ヲ活用シ弁護人ノ權利ヲ  
尊重スルコト

八、裁判所ト檢事局トヲ分離シ司法權ノ獨立ニ對スル國民ノ疑惑  
ヲ一掃スヘク速カニ之カ実現ヲ期スルコト

九、司法官其ノ他所屬官吏ノ優遇ノ途ヲ講スルコト

十、予審判事ノ増員ヲ望ム

十一、司法事務刷新ノ為メニ司法官ノ増員優遇ハ固ヨリ必要ナル  
モ書記以下雇員ノ増員優遇之ニ伴フニアラサレハ刷新ノ実ヲ掌  
クルコト難シ殊ニ書記ニ関シテハ高等官タル裁判所事務官又ハ  
裁判所書記官ノ如キヲ置キ特別任用スルノ途ヲ開キ以テ人材ヲ  
需ムル要アリト認ム（昭和三年度提出第四ノ五參照）

十二、執達吏制度ニ對スル非難多年ニ亘ル速ニ改正セラレンコト  
ヲ要望ス

十三、官選弁護事件ノ記録ノ謄本（若クハ記録謄写ノ費用）ヲ新  
弁護人ニ交付セラレタシ

十四、工業所有權ニ関スル告訴事件及訴訟事件ニ付テハ之ヲ専門

ニ取扱フ掛ヲ置クコト

十五、担保取消、供託物受領ニ関スル手續ヲ一層簡易ナラシメ無  
益ノ費用勞力時間ヲ節約スルコトニ務ムルコト

十六、朝鮮ニ裁判所構成法、行政裁判法及訴願法ヲ実施スルノ件  
及其通法改正ニ関スル件

十七、公証人ハ弁護士ヨリ之ヲ採用スルコト

十八、滿洲國判事、檢察官採用ニ関スル件

十九、治外法權撤廢ニ関スル件

二十、弁護士法第五條第一項第一号ヲ旧弁護士法第五條第一項第  
二号ノ如ク其ノ罪責ニ依リ列挙主義ニ速ニ改正セラレタキコト

尚本會同に出席したる各地弁護士會長左の如し。

（東京）乾政彦、（第一東京）平松市藏、（第二東京）竹内賀久治、（横浜）  
吉住英三、（浦和）會田惣七、（千葉）杉山彌太郎、（水戸）貝塚徳之助、（宇  
都宮）新江寅、（前橋）齋藤秋造、（静岡）中西惣三郎、（甲府）林貞夫、  
（長野）宮澤要次郎、（新潟）松井郡治、（京都）守屋孝藏、（大阪）森下龜  
太郎、（神戸）西見芳宏、（奈良）中西保之、（大津）山本福丸、（和歌山）  
細見重喬、（徳島）菅俣雅光、（高松）河西善太郎、（高知）水野吉太郎、（名  
古屋）大喜多寅之助、（安濃津）伊藤嘉信、（岐阜）大道寺慶男、（福井）辻  
岡質、（金沢）北山八郎、（富山）森田幸太郎、（広島）池田寛作、（山口）  
民繁福壽、（岡山）岡崎綱五郎、（鳥取）近藤守藏、（松江）草光義實、（松  
山）西原義任、（長崎）林泰吾、（佐賀）橋爪勇、（福岡）日下部政徳、（大  
分）工藤日出男、（熊本）大淵朴、（鹿児島）谷山雷、（宮崎）江川甚二郎、

(那覇) 副会長仲井間宗一、(仙台) 渡邊乙郎、(福島) 北川次男、(山形) 佐藤治三郎、(盛岡) 副会長工藤祐造、(秋田) 鈴木小平、(青森) 長山壽雄、(札幌) 村田不二三、(函館) 藤野常三郎、(旭川) 大塚守穂、(釧路) 佐藤忠輝、(樺太) 谷口丈太郎、(京城内地) 佐久間貢、(京城朝鮮) 崔白洵、(平壤) 朴應茂、(新義州) 神保信吉、(大邱) 福田龜之助、(釜山) 金東炫、(光州) 池永九、(全州) 佐竹龜、(台中) 高橋喜又、(閩東州) 小野實雄

②司法官弁護士会長合同協議会(「新聞」昭和一一・六・二〇)

○全国弁護士会長招待会東京弁護士会日本弁護士協会合同主催

司法官会同の爲上京して来た全国各地の弁護士会長は、六月十一日の合同会議を終り、無事重任をはたし、翌十二日午後六時目黒雅叙園に於ける東京弁護士会、日本弁護士協会合同主催の招待会に臨むた。乾東京弁護士会長開会の挨拶を述べ、全国弁護士大会の必要、法曹一元の原則確立の急務を力説し、出席会長の熱烈なる賛成を得、次で猪股洪清氏は、日本弁護士協会を代表して挨拶並に同協会の人権蹂躪問題に活躍せる模様を詳述し、之に対し森下大阪弁護士会長、来賓側を代表して謝辞をのべ、次で各地控訴院管内弁護士会長より、司法制度改革に対する意見の発表あり、中にも神戸弁護士会長の如きは、飛行機を利用して神戸弁護士会より、わざわざ「司法の尊厳と調停法廃止」なるパンフレットを取寄せ、会員に配付する等、内地はもとより、植民地の各会長等の意見の吐露もあり、極めて熱意の溢れた会合であった。

○全国弁護士会長招待会東京弁護士会と日本弁護士協会の共同開催  
主催

這般司法官会同に依りて上京せる全国弁護士会長に対し、東京弁護士会及日本弁護士協会は主催者となり、六月十二日午後五時より目黒雅叙園に於て招待会を開いた。

開会前参会者の出揃ふまで、余興として早川燕平の浪曲一番あり、次で宴席に移りて定坐、劈頭東京弁護士会長乾政彦博士より、一場の開会辞ありたる機会を以て、大要左の如き提議もあつた。多年の宿望たる新弁護士法実施せられて、法人としての新弁護士会設立せられたことに對し、且つは慶賀し且つは記念する意味で、全国弁護士大会を首都東京に開催したいと思ふ。新弁護士法もこの特定目的の爲めに、各弁護士会の一聯合会を組織するを得ることになつてゐる。されども物には順序あり、一朝一夕にはこの目的を達すること困難であると信ずる。そこで、先づ各控訴院管内に各聯合会を起し、逐々全国に波及するやうにしては如何との議もあるが、かゝることは自然的推移に待つべきもので、作為的構成を爲すことは、頗る困難と考へられるから、取敢へず全国弁護士大会を開いて見ては如何かと思ふ。今日まで九州、中国、東北、北門と、それ／＼聯合大会が開かれて居るが、全国弁護士大会が打つて一丸と爲り、全国弁護士大会を開くといふことは、甚だ必要なるに拘らず、未だ曾て実行せられたことがない。昔日本弁護士協会の盛なりし頃は、日本弁護士協会總會を開いた

ことあり、又帝国弁護士会も同様之を開いたこともあつた。但、それは会として一会が行つたことであり、六千五百人を単位とし、各地弁護士会を独立とした全国弁護士会の聯合会と其性質を異にするものである。

然らば、其の全国各地弁護士会を如何に開くべきか、如何なる議題とすべきかといふ段になると、未だ成案がないので、この点は全国弁護士会長上京の機会を以て、これならばよからうと思はるゝ案に落着く外あるまいと考へる。固より、吾人の希望通りに運び行くかどうかも未知数であり、まだ日本弁護士協会、帝国弁護士会に対し、公式に交渉せしことでもないが、幸にこゝには帝国弁護士会側、日本弁護士協会側も列席せられて居るから、御懇談も願はれること、思ふ。尤も、かゝる問題は、三年や五年では完成むづかしからんも、仮するに十年乃至十五年を以てせば、成功期して待つべきこと、考へる。就ては、一刻も早く在野法曹の声として発表して置きたいのである。

今一つ考へて居ることを、この機会を以て申述べる。それは、在野法曹は弁護士経験者中に於ける優秀なるものゝみ採用すること、することである。これは、英国のその如く弁護士十年の経験者中より物色することゝなすものも亦可なりである。ともかく、法曹一元となさねばならぬ。法曹畑は、先づ野に於て開くといふのは余の持論である。元來、畑は野にあるのが原則だ。(笑声起る)しかし、これも短日月を以て実現する可能性なく、大審院長

権限問題と同様、実現には多年を要することであらう。

要するに、先づ現下六千五百の日本弁護士を以て組織する、全国弁護士会聯合会を造つて、弁護士共通の問題を列挙し、其の目的を達成する為に、一致協力し、以て司法部の為に効果ある貢献を為すことは、甚だ必要であると考へる。云々。

この所見陳述は、実に二、三十分に亘りしが、次で日本弁護士協理事務猪股清博士立ち、又主催者側の挨拶を述べ、併せて新弁護士法は非弁護士取締を勵行するに非ざれば何等の意味なしと断じ、更に人権蹂躪問題に移り、人権の擁護はあらゆる司法改革中最も努力せねばならぬ点であるとし、終りに東京弁護士会長乾政彦博士の主張、全国弁護士会の聯合大会を賛襄し、調停法廃止等もかゝる聯合会の問題たるべきものであるとて、例の熱弁を振つた。

かくて、主催者側東京弁護士会副会長の指名で、各控訴院所在地、朝鮮、台湾、等弁護士会長の感想談を需め、各々立つて簡単に其の所懐を発表する所あり、更に随意に立つて所感を述べたる会長に旭川、神戸、新潟等ありしが、其の中新潟弁護士会長は、新潟弁護士会では裁判所より調停委員を依頼せられたるものは全部辞退、又調停事件の代人ともならぬことにした。どうぞ、諸君も御実行ありたいといつてゐた。閉会は同八時三十五分。当日の出席会員は左の如し、(以下省略)

③ 司法官弁護士会長合同協議会（「公論」第四〇巻第七号、昭和二十一年七月号）

○ 全国司法部長官弁護士会長合同協議会

昭和十一年度全国司法部長官弁護士会長協議会は、去る六月十一日司法省会議室に於て開会された。恒例の会議ではあるが、新弁護士法施行第一次の会同であり、提出協議事項は何れも注目すべきもの、みで、会議に於ては非常に熱心な討議が行はれた様子であった。

弁護士会長側は、当番幹事第二東京弁護士会の肝煎で、前日たる十日の午後二時から上野精養軒で協議会を開き、左の如く司法省通達協議事項の答申並弁護士会長提出事項を決定した。

協議事項——新弁護士法ノ施行ニ当リ裁判所、検事局ト弁護士会ト協力スヘキ事項如何

第一、司法部長官弁護士会長合同協議会協議事項ニ対スル答申（注、省略）

第二、全国弁護士会長提出協議事項（注、省略）

司法大臣挨拶（注、省略）

林司法大臣訓示（昭和十一年六月八日  
司法官会合同に於ける）（注、省略）

池田大審院長演述（昭和十一年六月八日  
司法官会合同席上に於て）（注、省略）

光行検事総長訓示要旨（昭和十一年六月八日於て  
検事正 会同席上）（注、省略）

広島弁護士会沿革誌（6）昭和戦前編・下

○ 全国弁護士会長招待会

六月十二日於目黒雅叙園日本弁護士協会東京弁護士会主催

我日本弁護士協会が、長年主張し來つた司法官並弁護士会長の会同が、去る大正十五年四月二十九日、時の法相江木翼氏によつて、始めて試みられてより今年度（六月十一日）会同まで、回を重ねること十一、歳を閲すること満十年、我司法権の運用に貢献したところは、蓋し甚大なるものがあつた。

既に改正弁護士法の施行をみた今年度の会同こそは、全国弁護士会長として、否日本の弁護士にとつて、実に記念さるべきではあるまいか。

我が協会が、毎年会同の都度、各会長諸氏の出席を仰いで招待会を催し、意見の交換と懇親を図り、延いて司法制度の改善に資したことも、亦特筆されねばならぬ。

今年度もこの会長招待会は、夙に計画されてゐたが、特に東京弁護士会も主催者として参加しやうといふことで、新弁護士法に依る弁護士会の改組——設立——を記念する意味も含め、各種の重要な事柄に就いて協議するため、この招待会を機として全国弁護士大会の開催を提唱してみたいといふ希望であつた。もとより、本協会に於ても全々賛成であり、のみならず、各地に於ける類々たる人権蹂躪問題、各種調停法撤廃等重要問題もあるので、両会聯合主催とし、その席上大会開催を提議しやうといふことに決つた。六月十二日午後五時、青葉に煙ぶる目黒の丘「雅叙園」が会場

七八六（二八二）

である。恰も入梅の頃とて、前日まで雲低く垂れこめた空も、今日の此日の為にか雲切れして、帝都は蒼空に掩はれ絶好の招待日和となつた。

来賓の先陣として、大邸の福田会長、続いて細見和歌山、貝塚水戸の各会長を初め、来賓、会員陸続として出席され、定刻少し過ぎる頃には殆ど全員が揃つた。

これより前、主催両会の理事者は、早くも会場に到り、先着の係員を督励して宴席の配置やら、来賓の接待に汗ダクの状態であつたが、混雑の際として不行届の点は誠に恐縮の外なかつた。殊に、折角の集りに記念撮影の機を失したことは、時間がなかつたとはいへ、返す／＼も残念の次第であつた。休憩中に東都浪曲界の新進、早川燕平の熱演「誉の杯」の一曲があり、程なく装ひ成れる宴席に着いた。

窓を訪ふ山の手の清々しい風が、支那料理の卓を撫で、盛り花の香が微かに流れる。

乾会長（猪股協合理事より招待の挨拶（別項）があり、来賓代表森下会長（大坂）の謝辞を始め、各会長より別項の如く真に傾聴すべき意見が開陳されたのは頗る意義深かつた。

来賓も会員も多くは、昔馴染みの間柄であり、未知の諸君にしても何れも同職のこととて、一見旧知の如く、真に和氣藹々、歓談、爆笑互に酒杯の交換を重ねつゝ、暫しは時の経つのを忘れた。折から、嫋々たる竹の音は、会員にその人ありと自他共に許す風

童池田君の妙手である。

かくて、意義深き招待の宴は、いつ果つべきもなく、雅叙園の夜は和やかに更けた。

今夕出席の来賓、会員は左の如くであつた。

来賓（略敬称）（注、三九名省略）

会員（略敬称）（注、六九名省略）

全国弁護士会長招待会席上の挨拶並謝辞

東京弁護士会長乾政彦氏、日本弁護士協合理事猪股淇清氏、大阪弁護士会長森下龜太郎氏、名古屋弁護士会長大喜多寅之助氏（注、以上省略）

広島弁護士会長池田寛作氏

高席でございますが、お許しを願ひます。御指名を受けましたので、簡単に申し上げますが、先程日本弁護士協会代表より縷々お話ししましたが、私思ひますのに、国憲国法によつてその適切なものは、無論我々が野法曹が生命を賭して、国家に御奉公申上げますといふことは論を俟ちませんが、然かもこの努力に對しましては、我々が野法曹の後に、九千万国民全体の援助を求めたいと思ふのであります。（拍手）それが為めには、我々が野法曹は各々自己の住所へ帰り、与論を糾合して以て、その国民の与論を代表し、御当地へ参りまして、御当地の各大弁護士会の各位の一方ならざる御努力の下に、全国的の大会をお催し下さらんとを、願ひいたします。斯の如くいたしましたならば、恐らく

は国民大衆の総意がその儘大会の上に現はれることであらうと考へまして、至極結構な御思ひつきであると存じ、衷心より賛成いたしますので、この際特に十分なる御援助、お引立御幹旋をお願い申し上げます。（拍手）

静岡弁護士会長中西惣三郎氏、宮崎弁護士会長江川甚一郎氏、帝國弁護士会代表田多井四郎治氏、東京弁護士会長乾政彦氏、仙台弁護士会長渡邊乙郎氏、札幌弁護士会副会長澤田徳右衛門氏、京城弁護士会長崔白洵氏、台中弁護士会長高橋喜又氏、旭川弁護士会長大塚守穂氏、神戸弁護士会長西見芳宏氏、新潟弁護士会長松井郡治氏、山口弁護士会長民繁福壽氏、水戸弁護士会長貝塚徳之助氏（注、以上省略）

#### ④司法官弁護士会長合同協議会（「正義」昭和十一年七月号）

司法部長官全国弁護士会長合同協議会に関する報告書

昭和十一年六月八日より同十日迄三日間に亘り、司法省に於て昭和十一年度司法官会同行はれ、引続き十一日司法部長官及全国弁護士会長の合同協議会開催せられたり。其経過大要左の如し。

本年度は、第二東京弁護士会が当番幹事として、従前の慣例に依り、全国弁護士会長より提出したる司法省協議事項に対する答申案及協議希望事項案の整理に当られ、之れに基き全国弁護士会長打合会開催の勞を執られたり。

第一、司法官会同に於ける司法大臣、大審院長、

検事総長の訓示、演述

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

昭和十一年六月八日司法部長官会同席上に於ける司法大臣、大審院長の訓示、演述及検事長及検事正会同席上に於ける検事総長の訓示左の如し。

(一) 林司法大臣訓示、(二) 池田大審院長演述、(三) 光行検事総長訓示（注、省略）

第二、昭和十年度司法部長官全国弁護士会長合同協議会

協議事項の実行に関する結果報告

昨年度司法部長官全国弁護士会長合同協議会協議事項の実行に関する結果に付、昨年度同幹事会たりし平松第一東京弁護士会長は、後記第五項所載の打合会に於て、左記報告書の記載に基き其報告を為したり。

昭和十年度司法部長官並全国弁護士会長合同協議会

協議事項ノ実行ニ関スル結果報告

東京三弁護士会ハ全国弁護士会ヨリ委嘱セラレタル趣旨ニ基キ協力シテ昭和十年度会同ノ決議事項実現ニ務メタル結果左ノ成績ヲ得タリ、仍テ茲ニ之ヲ報告ス。

第一項 司法省通達協議事項ニ対スル答申ニ関スル結果報告

一、答申第一項ノ一号、試補修習ニ関スル費用ハ国庫ノ負担トスルコト。右ハ最も重大ナル事トシテ東京三弁護士会ハ其ノ実現ニ付多大ノ考慮ヲ払ヒ、相協力シテ数次ニ亘リ司法及大蔵当局ヲ歴訪シ説明ニ務メタル結果、司法当局ノ熱心ナル御尽力ヲ得、又大蔵当局ハ従来ノ行掛リヲ一掃セラレ理解アル態度ニ出ラレタル為メ、幸ニシテ過般ノ特別議會ニ於テ

七八四 (二八〇)

（資 料）

弁護士試験修習施行ニ要スル費用予算合計金八千二百十四円ヲ無事通過シタリ。

尚、本年度予算ノ數額ハ新弁護士法施行後ノ弁護士試験採用試験ニヨルモノハ来ル十二月以降トナルヲ以テ、試験修習期間ハ明年一月ヨリ三月迄約三ヶ月トナル、從テ一ヶ年ノ四分ノ一ニ相当スル額トシテ前示ノ如ク金八千二百十四円トナリタリ。

而シテ当局ノ見込ハ大体本年度弁護士試験補人員ヲ百二十五名トシ一人ニ付キ一ヶ年十円ノ割合ヲ以テ予算ヲ計上セラレタルモノノ如シ。

又、考試ニ要スル費用ハ十三年度ヨリ計上セラルルモノナルヲ以テ本年度ニ於テハ之ヲ含マス。

二、答申第一項ノ二號、修習ハ弁護士会ニ於テ担当スルコト。但控訴院管内弁護士会共同シテ担当シ得ヘキコト。

三、答申第一項ノ三號、試験指導員ハ担当弁護士会ニ於テ選定スルコト。

四、答申第一項ノ四號、指導課目ハ（一）弁護士道德ノ涵養（二）訴訟實務（三）一般法律事務トシ其細目ハ担当弁護士会ニ於テ之ヲ定ムルコト。

五、答申第一項ノ五號、修習ノ方法ハ修養、講習、実務練習等トスルコト。

右各号ニ付テハ本年二月七日司法省令第二号弁護士試験実務修習規則ニ於テ何レモ其趣旨ヲ規定セラレタリ。

六、答申第一項ノ六號、考試ハ弁護士会ニ於テ之ヲ行フモノトスルコト。

七、答申第一項ノ七號、考試ハ指導科目全部ニ付キ之ヲ行フコト。

右二案ニ付テハ本年三月三十日司法省令第十一号ヲ以テ弁護士試験考試規則ヲ發布セラレ、考試委員ハ委員長、部長、常任委員及臨時委員ヲ以

修道法学 三六卷 二號

七八三（二七九）

テ組織ス（同規則第二條）。委員長ハ司法次官、部長ハ控訴院長、常任委員ハ四人トシテ司法省高等官及弁護士中ヨリ司法大臣之ヲ命シ又ハ囑託スルコト（同規則第五條）トナレリ。

八、答申第一項ノ第八號、弁護士会ハ毎年其ノ試験修習人員ヲ司法大臣ニ申達スルコト。

右ハ弁護士試験修習規則第七條ニ依リ大体各弁護士会所属會員ノ二十分ノ一ヲ標準トシ試験修習担当ヲ為ス趣旨ヲ定メタリ。

九、答申第一項ノ九號、試験ノ採用ハ該担当弁護士会ノ銓衡ニ依ルコト。

右ハ其旨ノ規則ヲ為サルモ實際上決議ノ趣旨ト同一ニ歸スヘシ。

十、答申第一項ノ十號、弁護士試験ノ修習並ニ考試ハ人格ヲ第一義トシ學術ヲ第二義トスルコト。

右ハ前記省令第二号弁護士試験実務修習規則第一條ニ「弁護士試験ノ修習ハ弁護士タルニ必要ナル人格識見ノ涵養及実務ノ修習ヲ目的トス」ト規定セラレタリ。

十一、答申第一項ノ十一號、試験ハ担当弁護士会ノ推薦ニ依リ官選弁護、訴訟扶助事件其他特殊事件ヲ取扱ヒ得ヘク適當ノ方法ヲ執ルコト。

右ハ弁護士試験実務修習規則第九條ニ「弁護士試験ハ修習期間中其ノ指導弁護士ト共ニ裁判所ニ出廷シテ訴訟手續ヲ見學スル外民事刑事事ニ関スル書類ノ立案其ノ他弁護士タルニ必要ナル実務ヲ習得スヘシ」ト規定セリ。

然ル処本年ノ司法省通達ノ協議事項ハ「新弁護士法ノ施行ニ當リ裁判所、検事局ト弁護士会ト協力スヘキ事項如何」ト言フニ在ルヲ以テ、

之ニ付實際上適當ノ方法ヲ講スヘキモノト認ム。

十二、答申第一項ノ十二号、高等試験司法科試験ヲ弁護士試験ト判檢事試験トニ分離スルコト

右ハ実現ノ運ヒニ至ラス、今後努力ヲ要ス。

十三、第二項、前項ノ趣旨ニ基キ弁護士及司法当局中適當ノ人員ヲ以テ委員會ヲ設ケ調査考究ノ上決定スルコト。

右ハ其趣旨ニヨリ当局ニ於テ改正弁護士法施行準備委員會ヲ設ケ司法部諸員ノ外東京ノ三弁護士會長及大阪弁護士會長並ニ帝國弁護士會及日本弁護士協會理事中ヨリ委員ヲ任命シ、數次會議ヲ重ネ省令ヲ發布セラレタリ。以上

第二項 全国弁護士會長提出協議事項二関スル結果報告

全国弁護士會長提出協議事項二付、其ノ結果ヲ左ノ通大別報告ス。

(甲) 実行サレタルモノ。

一、協議事項第四項、民事訴訟記録ノ符号ヲ各地裁判所ニ共通統一セシムルコト(山口弁護士會提出)。

右ハ昭和十年八月三日司法省民事局民事甲第七三九号ヲ以テ各訴訟記録ノ符号ヲ一定シ昭和十一年一月一日ヨリ之ヲ施行スル旨訓令セラレ、第一東京弁護士會ハ同年八月七日付ヲ以テ其ノ旨各地弁護士會ヘ通知シタリ。

二、協議事項第一項ノ二号、各種調停ニ弁護士ノ代理權ヲ認ムルコト。

三、協議事項第十項ノ十四号、各種調停委員ニ弁護士委嘱ノ件。

右ハ全国ニ於テ實際上其ノ希望ニ副フヘク取扱ハルコトナレリ。

四、協議事項第十項ノ十三号、予審判事増員ニ関スル件。

広島弁護士會沿革誌 (6)昭和戦前編・下

右ハ昨年度ニ於テ予審判事ハ二十名内外増員アリタリ。

五、協議事項第十項ノ四号、民事ノ判決言渡期日勵行ニ関スル件。

右ハ從來ニ比シ多少改善ノ跡ヲ見タリ。

(乙) 実行ノ過程ニアルモノ。

協議事項第一項、協議事項第二項、協議事項第十項ノ三号、協議事項第十項ノ五号、協議事項第十項ノ六号、協議事項第十項ノ七号、協議事項第十項ノ八号、協議事項第十項ノ十一号、協議事項第十項ノ十二号。

右各項ハ当局ニ於テ其ノ趣旨ヲ尊重シ之カ実現ヲ所期シツツアルモノノ如シ、然レトモ未タ満足ナル域ニ達セス、今後充分ナル努力ヲ要スル問題也。

就中、裁判ノ尊嚴及人權擁護ノ問題ニ付テハ、特ニ司法大臣及檢事總長並内務当局等孰レモ適當ノ機會ニ於テ之ヲ高調シ目的ノ達成ニ努メツツアルコトハ之ヲ認ムル所成。

(丙) 全ク実行サレサルモノ

協議事項第三項、協議事項第五項、協議事項第六項、協議事項第七項、協議事項第八項、協議事項第九項、協議事項第十項ノ一号、協議事項第十項ノ九号、協議事項第十項ノ十号、協議事項第十項ノ十五号、協議事項第十項ノ十六号。

右各項ハ実行ノ運ヒニ至ラサルモノナリ。

昭和十一年六月十日

昭和十年度會同幹事第一東京弁護士會長

平松市藏

全国弁護士會長殿

七八二(二七八)

第三、司法省通達協議事項

司法部長官弁護士会長合同協議会に於ける協議事項として司法省より通達せられたる事項左の如し

協議事項

新弁護士法ノ施行ニ当リ裁判所、検事局ト弁護士会ト協力スヘキ事項如何。

第四、司法省通達協議事項に対する第一東京弁護士会

答申案及提出協議事項案

第一東京弁護士会に於て前項司法省通達協議事項及提出協議案に關し、去る六月五日開会の常議員会に於て慎重審議を遂げ、左の如く答申案及提出協議案を夫々決定したり

(甲) 司法省通達協議事項ニ対スル答申案 (乙) 提出協議事項 (注、省略)。

第五、全国弁護士会打合会

在京三弁護士会長は屢々会合し、各地弁護士会より提出せられたる司法省通達協議事項に対する答申及協議希望事項七十余項に亘る各案に付夫々整理を為したる上、六月十日午後二時より上野精養軒に於て全国会長の打合会開催されたり。打合会に出席せられたる弁護士会長左 (注、省略) の如し。

午後二時開会、第二東京弁護士会長は当番幹事として、開会挨拶と共に議事進行の順序に付きて注意をなしたる後、議長を如何にすべきやを諮りたる処、満場一致当番幹事を議長に推し、竹内第二東京弁護士会長議長席に就く。議事に先ち、平松第一東京弁

護士会長は前記第二項所載の昨昭和十年度合同協議会協議事項の実行に關する結果を報告し、終つて議長司会の下に、司法省通達協議事項に対する答申案、全国弁護士会長提出協議事項の順序に依り、逐次協議を進めたり。右協議の結果決定せられたる答申及提出協議事項左 (注、省略) の如し。

第六、司法部長官全国弁護士会長合同協議会

六月十一日午前九時より司法省に於て、司法部長官全国弁護士会長の合同協議会開催、別項の如く (注、省略) 林司法大臣及竹内全国弁護士会長代表の挨拶の後、議事に入り、正午一旦休憩、同省玄關に於て法相以下朝野合同協議会出席者一同の記念撮影を為したる後、食堂に於て昼食を饗せられたり。

午後二時再開、午前に引続き協議を続行し、次で各所管事項に付次官各局長及東京民刑各地方所長検事正の意見陳述あり、同三時丹満裡に協議会を終了したり。其の詳細は、迫て速記録を印刷し之を配付すべし。

更に、司法大臣の丸ノ内東京会館に於ける出席会長及司法部長官招待会は、午後四時半より海軍省提供南洋視察映画の上映を觀賞したる後、午後六時より開宴、席上司法大臣の挨拶あり、之に對し司法部長官を代表して光行検事総長、会長を代表して竹内第二東京弁護士会長の謝辞あり、同九時散会したり、

(一) 司法大臣挨拶 (注、省略)

(二) 竹内全国弁護士会長代表挨拶 (注、省略)

## 第七、在京各弁護士会招待会

本会同に出席したる全国弁護士会会長一同に対し、帝国弁護士会は六月十日正午上野公園常盤華壇に、第二東京弁護士会は同日午後五時同上上野精養軒に、東京弁護士会及日本弁護士協会は同月十二日午後五時目黒雅叙園に右何れも招待を受けたり。

以上

右報告候也

昭和十一年六月十五日

第一東京弁護士会 会長 平松 市藏

第一東京弁護士会 御中

○全国弁護士会会長招待会

去る昭和十一年六月十一日司法省に於て司法部長官、弁護士会長合同協議会開催せられたるを機とし、帝国弁護士会に於ては、同月十日上野公園常盤華壇に於て、右会同参加出席の全国弁護士会会長招待午餐会を開催したり。別項記載の如く、各地会長多数の出席あり、又小川、澤藤両名誉会員を初め会員の出席多く、主客百数十名、頗る盛会を極めたり。午後一時五十分歓談裡に散会、会長各位は同二時より引続き第二東京弁護士会幹事として開催せらるべき、全国会長打合会々場たる同公園内精養軒に向はれたり。

招待会席上主催者挨拶及来賓会長代表謝辞左の如し。

有馬理事主催者挨拶、大喜多全国弁護士会会長代表謝辞 出席来賓氏名  
(注、省略)

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

昭和一二(一九三七)年

①司法官弁護士会長合同協議会(「新報」昭和二・六・一五)

○全国司法長官会同並に弁護士会長合同協議会

司法部の指導精神確立を目的とする全国司法部長官会議第一日は、九日午前九時司法省大会議室に開会、

(本省側) 鹽野法相、長島次官、大森民事、松阪刑事、瀧川行刑各局長以下各課長(大審院側) 池田院長、木村部長、泉二檢事総長、岩村次長(控訴院側) 皆川東京院長以下各控訴院長、吉益東京檢事長以下各檢事長(地方裁判所側) 豐永東京民事地方裁判所長以下各地方裁判所長、徳永東京地方檢事正以下各檢事正(参列員) 増永朝鮮總督府法務局長、中村台灣總督府法務課長、鹿島関東局高等法院長、石川南洋庁高等法院長以下植民地各法官等出席、別項の如き鹽野法相の訓示あつて、長島次官は本省諮問事項を説明、大森民事、松阪刑事、瀧川行刑各局長よりそれ〴〵所轄事項に関する指示を行ひ、正午、首相官邸における近衛首相主催の午餐会に臨み首相の訓示あり、午後は、二時より本省において協議会を開き、池田大審院長の演述、泉二檢事総長の訓示、神谷、遠藤両大審院部長並に岩村大審院次長の注意あつて、協議を遂げた。

### 協議事項

一、司法精神作興に關し、この際特に考慮すべき事項如何(現下挙国一致奉公の至誠を以て時艱を克暗すべき秋に際し司法部においても特に一層司法精神を作興し己を空くして緊張事に當るの要

あり)

二、司法事務に關し、國民の理解及び協力を増進せしむべき方策如何(司法事務を國民生活に即せしめその利便を図ることに留意し例へば窓口事務の如きも親切敏速に事を運び以て國民の司法に對する理解と信頼とを昂め進んで司法協力の風を馴致するの要あり)

三、裁判所書記の素質の向上及び事務の改善に付考慮すべき事項如何

第二日は、十日午前九時より協議に入り、正午、宮中豊明殿に於て天皇陛下出御の上、久邇宮朝融王殿下御臨席の上、鹽野法相、長島次官、池田大審院長、泉二檢事總長、皆川東京控訴院長を始め全国の控訴院、地方裁判所、長官並に朝鮮、台灣外植民地の司法官代表百三十九名に對し午餐の御陪食を仰付けられ、午後二時より再び協議に入り、

第三日は、十一日午前九時司法部長官と弁護士会長の合同協議会として開會「弁護士試補修習の経験に徴し考慮すべき事項如何」の協議事項につき、午後二時迄協議したが、席上鹽野法相は重要左の如き挨拶をなした。

「判事、檢事、弁護士三者は各その司る職務に差異はあるけれども、司法の機関として司法の運用関与は、即ち一であるから、常にこの三者が一体となり、お互に善くその職務を理解して、連絡協議を保つことは、司法の運営を全うすることを得る所以であ

る。従来各地に在朝在野の法曹間には、屢々協議会其の他の会合が催され、互に執務上の協議を遂げられ、司法事務の改善に多大の成績を挙げてゐることは、洵に御同慶の至りである。」

「改正弁護士法の目的とする所は、弁護士の品位向上と、弁護士事務の改善進歩を図るにある。改正法の施行以來既に一年余を経過し、その実施後の経験に照し、この目的を達成致す為、各位の御氣付の事項に付き、本日の協議事項として提出して置きました点に限らず、この際隔意なき御意見を陳べられるやう希望する。」

午後二時より合同協議に入り、午後五時半より帝國ホテルに於ける司法大臣の招待会に臨んだ。

第四日は、十二日午前九時協議会に入り、午後迄引続いた。尚、随行員、本省属の打合會は、九日より十二日迄午前午後二時迄行はれ、「窓口事務等の刷新改善に付、書記課長として考慮すべき具体的方策如何」につき協議した。九日夜は目黒雅叙園に於ける司法次官招待会に臨んだ。

鹽之司法大臣訓示、泉二檢事總長訓示、池田大審院長演述(注、省略)

○東京弁護士会の全国弁護士会長招待会会長會議終、後

本月十一日開かれたる、司法長官及全国弁護士会長合同協議会に出席の全国弁護士会長は、十日午後一時から上野精養軒に於て、提案事項の下協議会を本年の当番たる東京弁護士会司会の下に開

き、別項の通り決定、次で午後五時より同所に於ける東京弁護士会、日本弁護士協会、日滿法曹協会共同主催の招待晚餐会に臨んだが、開宴前別室に於て港屋小柳丸の浪曲、若葉さよ子、富士容子の漫才の余興に先づ頤を解き、宴に移りデザートコースに入るや、大橋東京弁護士会長、岸井日本弁護士協合理事代表、山岡日滿法曹協会長等の各夫々の立場よりせる挨拶に對し、会長側を代表して村野大阪弁護士会長謝辞を述べ、有志のテーブルスピーチに氣勢を揚げ、八時過ぎ散会した。

尚、当日の出席者は左の通り。

(來賓)・(東京弁護士会出席会員) (注、省略)

司法部長官  
弁護士会長 合同協議会協議事項

## (二) 協議事項答申

(注) 協議事項「弁護士試補修習ノ経験ニ徴シ考慮スヘキ事項如何」

一、弁護士試補制度の精神を徹底せしむること。

【理由】本制度は、弁護士試補の品性を陶冶し識見を涵養し実務を修習せしめて、将来優良の弁護士たらしめ、一般弁護士の地位向上に資し、以て司法機關の確立強化を期する極めて重要な制度なり。然るに、朝野共に未だ本制度の重要性に付、充分なる認識を欠けるやの憾みあり、此際本制度の精神徹底に努力せられんことを望む。

二、弁護士会に対する弁護士試補修習費国庫補助金額を増額すること

【理由】弁護士試補の生活問題は、本制度実施以来痛感したる重要問題の一に属す。其境遇に應じ、之に若干の支給を為すにあらざれば、其地位を維持し安んじて修習に従事する能はざるものあり。之を放任するは、弁護士試補をして其志を伸べしむる所以にあらず、又斯くては、朝野多年の要望たる弁護士の素質改良、品位向上を目的とする本制度の期待に副ふ能はざるを以て、此際試補に對する支給を為す為、適當の増額を望む。猶此補助金は、年度の始めに於て、其額を決定せられたし。

三、弁護士試補は指導弁護士と共に出廷し指導者の責任に於て其弁護士の事件を補助し得る規定を設けること

【理由】之れ試補の実務修習上最適有效なる方法を以て、一定の時期を経過し指導者に於て之を相当と認むるときは之を認むるを可とす。

四、法曹一元制度確立するに至るまでの間高等試験令中の司法科試験を判檢事試験と弁護士試験とに分離すること

【理由】弁護士は、判檢事と共に等しく司法權の運用に参加すべきものなりと雖も、其間自ら職責の異なるものあり、仍て受験の当初より其志望を一定せしむべきものにして、現在の如く受験後に於て其志望を選択せしむることは弊害ありと認む。

## (二) 協議事項提案

- 一、司法官の員数を増加すること
- 二、裁判所及検事局職員の待遇を改善すること
- 三、司法警察官と行政警察官とを分離して司法警察署を特設し之を検事に隸属せしむること
- 四、民事訴訟に於て口頭弁論主義を徹底せしむること
- 五、手形に付特別訴訟手続を規定せられたきこと
- 六、遵法精神の貫徹を期すること
- 七、検事の取調に際し司法警察官吏を立会せしめざること、尚検事が取調に着手したる後は其被疑者に対する司法警察官吏の取調を厳禁すること
- 八、行政執行法又は警察犯処罰令其他の法規により勾留する場合は必ず被勾留者の聴取書作成を要件と為すこと
- 九、未決拘留所の改善を望む
- 一〇、刑事事件の判決正本を職権を以て送達すること
- 一一、民事記録は総て其保存期間を十年とすること
- 一二、弁護士審査委員会は各控訴院所在地に置くことに改正せられたし
- 一三、弁護士試験の考試は弁護士会長を以て其の委員長として判事、検事、弁護士を以て陪席せしむることに改定せられたし
- 一四、未決勾留日数を全部本刑に通算することに法規を改正すべし
- 一五、相続の限定承認又は遺産相続の抛棄の申述を裁判所が受理

- したる時は其旨を所轄市町村長に通告して戸籍に記載せしむる様法律を改正せられたき事
- 一六、隠居者が財産保留を為したる場合に於ては隠居後相当の期間内に留保財産なる旨の登記を為さしむる様法令を改正せられたき事
  - 一七、満洲国の治外法權撤廢に伴ひ日滿両国は司法共助に関する相互条約を締結すること
  - 一八、弁護士名簿登録規則第八條弁護士名簿登録請求書添付書類末尾に
  - 一、弁護士法第五條各号の一に該當せず且第二十七條の規程に抵觸せざる旨の証明書とあるを
  - 一、弁護士法第五條各号の一に該當せざる旨の証明書と省令を改正すること
  - 一九、高等試験令中司法科試験の筆記及口述試験科目中に「民事訴訟法及刑事訴訟法」の両法共に必須科目とすることに改正の要ありと認む
- (三) 從來提出したる意見
- 一、庶政一新に際し速かに裁判所を司法大臣の監督下より離脱せしめ、天皇の直隸たらしむること
  - 二、司法官は総て弁護士より採用するの制度を確立すること(司法官は総て十年以上弁護士の職に在りたる者より任用する制度を確立すること)

三、金錢債務調停法の廃止を望む

四、法律事務取扱の取締に関する法律の適用を勵行すること

五、裁判所と検事局とを区分し独立の二庁と為すことの促進を計ること

六、公判中心主義の確立を促進すること

七、被疑事件一度予審に附せられたる以上其同一事件の被疑者に對し檢事取調べを絶対に禁ずること

八、強制処分の実蹟を觀るに判事の訊問は形式に止まり檢事に於て聴取書を作成して事案の取纏めを為し又は面接禁止を求めながら檢事自ら面接取調をなすが如きは強制処分の乱用なり

九、総ての調停法を廃止すること（各種調停法を廃止する為め即時有效適切な処置を講ぜられたきこと）

一〇、裁判（判決、決定、命令等）の執行を確保するが為め其效力を喪失又は妨害するが如き犯罪行為に付き当事者又は執達吏より告訴又は告発ありたるときは検事局に於ては速かに処置を採られんことを望む

一一、犯罪搜查機關の不法なる取扱を絶滅せらるゝ、様留意せられし

一二、弁護士法第五条第一項第一号を旧弁護士法第五条第二号の如く其の罪質に依り列挙主義に速かに改正せられたきこと

一三、強制執行に於ても破産法の詐欺破産罪の如き制裁法規の制定ありたきこと

一四、予審に於ける弁護士は刑事訴訟法の規定する所なり、今後

予審に於ける弁護士を十分尊重し予審の公正明朗ならんことを求む

一五、予審勾留期間短縮、保釈の許可、及接見禁止の緩和を計られたし

一六、官選弁護人に対しては記録謄写及証拠調に要する実費を支給すること

一七、逃走又は証拠湮滅の虞無きに拘らず保釈を許さずして上訴権行使を圧迫するの傾向あり、其の弊を改められたし

一八、違警罪即決例を廃止し判事に依る簡易裁判を創設せられたし

一九、朝鮮に裁判所構成法、行政裁判法及訴願法を施行すること

二〇、一の地域に於て登録したる弁護士は他の地域に於ても執務し得るやう共通法を改正すること但し試験制度を異にするものを除く

二一、内台司法機關の統一を促進すること

二二、弁護士試験に對し官選弁護人に選任せられる道を開くこと

二三、滞納処分により差押を為したる物件に對し競売法  
民事訴訟法競売を許すべき方法を講ずること

(注) 合同協議会において、大橋誠一東京弁護士会長は、答申及提案に就いて、その理由を説明している（「法律新報」昭和二二・八・一五）。

②司法官弁護士合同協議会〔新聞〕昭和一二・六・一三、昭和一二・六・一五、昭和一二・六・一八

○司法官会同及全国弁護士会長合同協議会〔新聞〕昭和一二・六・一

三

恒例司法官会同は、六月八日より同十二日まで、司法大臣官邸に於て開催、第一日は控訴院長及検事長の協議会で、劈頭鹽野司法大臣の挨拶に続いて、協議会が開かれた。第二日以後は、控訴院長及検事長を加へて地方裁判所長及検事正一般の会同、第二日九日は、午前中に鹽野司法大臣の訓示、司法次官の注意、三局長の各指示、午後は一時より池田大審院長の演述、泉二検事総長の訓示、遠藤大審院刑事部長、岩村大審院次長検事の各注意あり、爾後協議会に入つたが、別に司法部第一線に立つ随行員に対しては、窓口事務の刷新改善を議題として實際上に於ける各意見を徴し、従来の非難を一掃する参考とした。この司法官会同に議論せらるゝ事項の要旨は、大体左の如き趣旨である。

尚、第三日、第五日は終日協議会を続行、第四日には司法部長官及全国弁護士会長の合同協議会があつた。(次号記載)

○司法部長官弁護士会長合同協議会と其の協議事項〔新聞〕昭和

一二・六・一五

既報の如く、司法官会同第四日午前九時半より、司法部長官弁護士会長合同協議会開会、例に依り、鹽野司法大臣の挨拶あり、次で大橋東京弁護士会長当番として挨拶終り、松阪刑事局長の注

意ありたる後、大橋東京弁護士会長より全国弁護士会を代表して、かねて与へられたる協議事項「弁護士試補修習の経験に徴し考慮すべき事項如何」に対し、左記の如き文書の答申を爲した。

(一) 協議事項答申(注、省略)

(二) 協議事項提案(注、省略)

(三) 従来提案したる意見(注、省略)

更に上記の事項に就て、一々大橋当番会長より約二時間の長きに亘り説明、同十二時大審院前にて司法部長官と共に記念撮影、昼食、午後三時司法部側を代表して司法次官、民刑両局長より、之に対する答弁があり、同五時頃終了した。

○司法部長官弁護士会長合同協議会記念撮影〔新聞〕昭和一二・

六・一八

司法部長官と弁護士会長の合同協議会は、既報の如く、六月十一日午前九時から司法省構内法曹会館にて行はれたが、同日午前中の鹽野法相を中心に協議を終わつたのを好機として、午後一時朝野法曹の代表者が、裁判所玄関前に集つて記念の撮影を行った。

○全国弁護士会長招待会東京弁護士会等共同主催〔新聞〕昭和

一二・六・一八

六月十日午後五時より上野精養軒に於て、東京弁護士会、日本弁護士協会、日満法曹協会の主催で、司法長官会同の為に上京せる全国弁護士会長を招待した。開会に先ち、しばらく浪曲、漫才の余興あり、同六時に至り一同宴席に就き、大橋東京弁護士会長、

岸井日本弁護士協会理事、山岡日満法曹協会長より、それぐ、挨拶及所感陳述ありたる後、村野大阪弁護士会長より之に対する挨拶ありて、大橋東京弁護士会長、村野大阪弁護士会長より交々立ちて乾盃の礼を行ひ、同九時頃散会、当夜会する者主賓合して百数十名、頗る盛会であつた。

③司法官弁護士会長合同協議会（「公論」第四一卷第七号、昭和十二年七月号）

○本年の司法部会議―六月十一日東京に於て―

司法制度及び司法事務改善の基調を成す弁護士会長、司法部長官合同協議会は、近衛内閣成立の初頭に於て、幾多の基本的革新的な問題を抱擁して、東京に招集された。

全国各地から参集した弁護士会長六十有余人は、昭和十二年六月十日、上野精養軒に予備会議を開き、各弁護士会から予め提出され、東京の三弁護士会に依て整理された原案（別項記載）を終日に亘つて審議し、翌日合同協議会に提出すべき、所謂決定案を作成した。この決定案は『四、第一回からの協議事項一覧』末尾に掲載されてゐる。

一、弁護士会長司法部長官合同協議会

弁護士会長及び司法部長官合同協議会は、予定の通り、昭和十二年六月十一日午前九時、法曹会館楼上大会議室に開会された。先づ、司法大臣と全国弁護士会長代表東京弁護士会長との挨拶の

交換があつて、議事に入つたが、その経過は次の通りであつた。以下は、その速記である。

（本会議速記）（注、省略）

（一）協議事項答申（注、省略）

（二）協議事項提案（注、省略）

（三）従来提出シタル意見（注、省略）

二、弁護士会 予備協議会

茲に揚ぐるものは、昭和十二年六月十日上野精養軒に於ける、全国弁護士会長予備協議会の速記である。

（予備会議速記）（注、省略）

（一）協議事項答申（注、省略）

（二）協議事項提案（注、省略）

三、各弁護士会提出原案

これは、全国弁護士会から提出された議案を、東京の三弁護士会が協議、整理して弁護士会長の予備協議会に提出した原案である。

（原案全文）東京弁護士会提案、第一東京弁護士会提案、千葉弁護士会提案、大阪弁護士会提案、神戸弁護士会提案、名古屋弁護士会提案、岐阜弁護士会提案、金沢弁護士会提案、松山弁護士会提案（注、いずれも省略）

四、第一回からの協議事項一覧

茲に掲載したものは、大正十五年度（第一回）以後本年迄十二

回の弁護士会長及び司法部長官合同協議会に提出した議案の全部である。

因に、大正十五年度は、弁護士会長が合同したる最初の会同で、弁護士会側の提出事項なきは、会長側に於て予備会議を開催打合せをする暇なかりし為である。

(第一回からの協議事項一覽)(注、省略)

○全国弁護士会長招待会

昭和十二年度の司法部長官弁護士会長の合同協議会は、六月十一日司法省で開催された。

我日本弁護士協会は、恒例により同会議出席の全国弁護士会長を招待することに決したが、日取の関係から東京弁護士会、日滿法曹協会も参加して、三会聯合の下に、会議の前日たる六月十日午後五時、上野精養軒に於て招待会を開催した。来賓、会員は左の通り、多数出席され盛会であつた。

会長側(略敬称、出席順)(注、六一名省略)

会員側(順不同)(注、六二名省略)

記念撮影の後、浪花節と漫才の余興があつて、一同宴席に着き、和氣堂に満ちた。デザートコースに入り、左(注、省略)の如き主客の挨拶があり、午後八時半散会した。

続いて、豊島金沢会長、河野大分会長その他から有益なる意見や所感を述べられ、最後に再び村野大阪会長来賓を代表し、主人側三会のため乾杯され、午後八時半散会した。

④司法官弁護士会長合同協議会(正義)昭和二年七月号

合同協議会に関する報告書

昭和十二年六月八日より同十二日迄五日間に亘り、司法省に於て昭和十二年度司法官会同行はれ、其中十一日全国弁護士会長及司法部長官の合同協議会開催せられたり。其經過大要左の如し。

第一、司法官会同に於ける司法大臣、大審院長、

検事総長の訓示、演述

昭和十二年六月九日司法部長官会同席上に於ける司法大臣、大審院長の訓示、演述及検事長、検事正会同席上に於ける検事総長の訓示、左の如し。

(一) 鹽野司法大臣訓示、(二) 池田大審院長演述、(三) 泉二検事総長訓示(注、省略)

第二、司法省通達協議事項

全国全国弁護士会長、司法部長官合同協議会協議事項として司法省より通達せられる事項左の如し。

協議事項

弁護士試補修習ノ経験ニ徴シ考慮スヘキ事項如何。

第三、司法省通達協議事項に対する第一東京弁護士会

答申案及提出協議事項案

第一東京弁護士会に於ては、前項司法省通達協議事項及提出協議案に関し、去る五月二十九日開会の常議員会に於て慎重審議を遂げ、左の如く答申案及提出協議案を夫々決定したり。

(甲) 司法省通達協議事項ニ対スル答申案

第一、高等試験令中の司法科試験ノ判検事試験ト弁護士試験ト二分離スルコト

理由(注、省略)

第二、弁護士試験補制度ノ精神ヲ徹底セシムル事

理由(注、省略)

(乙) 提出協議事項案

第一、民事訴訟ニ於テ口頭弁論主義ヲ徹底セシムルコト

理由(注、省略)

第二、手形ニ付特別訴訟手續ヲ規定セラレタキコト

理由(注、省略)

第四、全国弁護士会長打合会

在京三弁護士会長は、去る六月七日会合し、各地弁護士会より提出せられたる司法省通達協議事項に対する答申及協議希望事項九十余項に亘る各案に付夫々整理を為したる上、本年度は東京弁護士会当番幹事として幹旋の下に、六月十日午後一時より上野精養軒に於て、全国会長の打合会開催せられたり。

打合会に出席せられたる弁護士会長左の如し。

(東京) 会長大橋誠一、副会長上野清城、副会長山崎新一、副会長村田義雄、  
(第一東京) 会長有馬忠三郎、副会長保田久夫、副会長福本謙治郎、(第二東京) 会長竹内賀久治、幹事赤井幸夫、幹事奥山八郎、(横浜) 平川松太郎、  
(浦和) 會田惣七、(千葉) 杉山彌太郎、(水戸) 宇留野義彦、(宇都宮) 小

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

堀文雄、(前橋) 水島治雄、(静岡) 村松藤吉、(甲府) 林貞夫、(長野) 中

澤鷹根、(新潟) 松井郡治、(京都) 我妻武雄、(大阪) 村野義雄、(神戸)

田丸貞顯、(奈良) 中西保之、(大津) 植村善三、(和歌山) 中尾武雄、(徳

島) 菅保雅光、(高知) 高原伊三郎、(名古屋) 永田安太郎、(三重) 松尾終

三郎、(岐阜) 白木英、(福井) 藤井剛士、(金沢) 豊島武夫、(富山) 豊島

慶、(山口) 弘中武一、(岡山) 小脇芳一、(鳥取) 橋谷繁三郎、(松江) 草

光義質、(松山) 井上末光、(長崎) 則元卯太郎、(佐賀) 太田壽一、(福岡)

日下部政徳、(大分) 河野春馬、(熊本) 大淵朴、(鹿児島) 兒玉實良、(宮

崎) 副会長中野和一、(那覇) 仲井間宗一、(仙台) 飯塚千尋、(福島) 北川

次男、(山形) 佐藤治三郎、(盛岡) 河野喜藏、(秋田) 鈴木小平、(青森)

長山壽雄、(札幌) 村田不二三、(函館) 高橋文五郎、(旭川) 大塚守穂、(釧

路) 佐藤忠雄、(樺太) 竹下正雄、(京城) 宮崎毅、(第一京城) 李弘鐘、(平

壤) 姜炳駿、(海州) 藤田幸一、(大邱) 咸升鎭、(釜山) 村上義臣、(関東

州) 湯淺唯二

(注) 広島弁護士会長佐藤五三は、打合会には出席しなかったが、日本  
弁護士協会及帝国弁護士会の招待会には出席した。

午後一時開会、東京弁護士会長は当番幹事として、開会挨拶と共に  
議事進行の順序に付きて注意を為し、慣例に従ひ議長席に就く。  
議長司会の下に、予ねて各弁護士会より提出せられたる司法省  
通達協議事項に対する答申案並提出協議事項案の順序により、東

七二二(二六八)

京三弁護士会に於て取纏めたる整理案を基礎として協議を為し、午後五時に至る迄、熱心なる討議を行ひ、以つて協議事項を左の如く確定す。

(第一) 司法部長官合同協議会協議事項二対スル答申(注、省略)

(第二) 全国弁護士会長提出協議事項(注、省略)

第五、全国弁護士会長司法部長官合同協議会

六月十一日午前九時より、司法省構内法曹会館に於て、全国弁護士会長、司法部長官の合同協議会を開催、別項の如く、鹽野司法大臣及大橋全国弁護士会長代表の挨拶の後議事に入り、正午一旦休憩、司法省玄関に於て法相以下朝野合同協議会出席者一同の記念撮影を為したる後、食堂に於て昼食を饗せられたり。

午後二時再会、午前に引続き協議を続行し、次で各所管事項に付次官、各局長及東京民事地方裁判所長、横浜地方裁判所検事正の意見陳述あり、同四時円満裡に協議会を終了したり。

其詳細は、追て速記録を印刷し之を配付すべし。

更に、司法大臣の帝国ホテルに於ける出席会長及司法部長官招待会は、午後五時より開宴、席上司法大臣の挨拶あり、之に対し司法部長官を代表して皆川東京控訴院長、会長を代表して大橋東京弁護士会長の謝辞あり、同九時散会したり。

(一) 鹽野司法大臣挨拶(注、省略)

(二) 大橋東京弁護士会長挨拶(注、省略)

第六、在京各弁護士会招待会

本回会同に出席した全国弁護士会長一同に対し、左記の通り招待会を開催せられたり。

六月十日午前十一時半 於丸ノ内会館(帝国弁護士会主催午餐会)

同日午後五時 於上野精養軒(東京弁護士会、日本弁護士協会、日滿

法曹協会主催懇親会)

右報告候也

昭和十二年六月十五日

第一東京弁護士会

会長 有馬忠三郎

○全国弁護士会長招待会

帝国弁護士会に於ては、去る六月十日丸之内会館に於て、司法部長官、弁護士会長合同協議会に出席せられたる全国弁護士会長招待午餐会を開催したり。

当日は、旬日に亘る霖雨も霽れて快晴に恵まれ、別項記載の如く、右協議会出席の全国会長各位は殆ど出席せられ、又名譽會員原喜道先生を始め會員多数の出席あり、主客百数十名に上り、頗る盛会を極めたり。

席上高窪理事は、主催者を代表して別項の如く挨拶を為し、永田名古屋弁護士会長は全国弁護士会長を代表して謝辞を述べられ、主客歓談の後、午後一時過ぎ盛会裡に散会し、出席会長各位は引き続き東京弁護士会幹事として開催予定の全国弁護士会長打合会々場たる上野精養軒に向はれたり。

当日の来賓各位左の如し。(注、省略)

高窪理事主催者挨拶、永田全国弁護士会長代表挨拶(注、省略)

## 昭和二三(一九三八)年

①司法官弁護士会長合同協議会(「新報」昭和二三・五・五、昭和二三・五・一五)

○司法長官弁護士会長合同協議事項に新味を加ふ(「新報」昭和二三・五・五)

本年度司法官会同は、去る二日から開かれ、第一日は控訴院長検事長会同で、先づ鹽野法相から訓示あり、左記事項に付協議を遂げ、

一、本年度予算においては、思想取締費と刑務費の増額を見たのであるが、その実施について遺憾なきを期したい。

一、各控訴院管内毎に会同を開く経費を認められたので、新に控訴院長招集の会同を開かれることになった訳であるが、なるべく多くの収獲を得るやう留意されたい。

一、部内の人事刷新に関連し、退職者の整理に万全の考慮を払いたい。

一、司法官試補の修習は、これ迄各地に分散主義をとつたのであるが、真に人材を作るためには、東京において人物養成本意の教育を施した方が良くかとも思ふ、これに対する各位の御意見を拝承したい。

一、司法保護事業の内容を充実するため、全国に保護委員を配置するのであるが、これは各検事正の監督下に属せしめるものであるから、十分なる実績を挙げ得る対策の考究を望む。

一、今次事変のため応召したる部内職員の総数は約五百名で、他に刑務官にして応召したる者約一千名に達して居り、内には殉国の犠牲となった者もある。よつて、この際陸海各軍司令官と部内応召職員に対して感謝決議を行ひ、且つ部内応召職員に対しては慰問品を贈呈することにした。

第二日(三日)は、地方裁判所長、検事正会同に移り、鹽野法相から次号所報の如く訓示あり、岩村司法次官の注意、大森民事局長、松阪刑事局長、瀧川行刑局長の各指示あり、第三日(四日)は、池田大審院長の演述、泉二検事総長の訓示、其他各所官部長の注意あり、第四日(五日)は、正午御陪食あり、第五日(六日)は全部協議、第六日(七日)は、午前午後を通じて全国弁護士会長との合同協議ある筈、協議事項は、左の通りである。

### ●所長検事正会同協議事項

一、司法精神作興の趣旨を徹底せしむる為更に考慮すべき点如何(前回の会同に於て付議したるも現下の時局に鑑み更に一層司法精神を作興し以て国民の信頼を高め司法の威信を發揚するの要あり)

二、司法制度の刷新に関し考慮すべき点如何(国運の進展に伴ひ社会各般の制度に付革新の氣運興るの秋に当り裁判檢察に付て

も刷新改善を要すべきものあるを認む)

●地方所長協議事項

一、改正商法に依り裁判所の権限拡大せられたるを以て之に適応する為め考慮すべき点如何(会社の整理、特別清算に関する規定参照)

●検事正協議事項

一、檢察権の行使に関し此の際特に考慮すべき点如何

△司法長官、弁護士会長合同協議事項

一、遵法週間の実績に鑑み司法に関する理解及協力を増進するに付更に考慮すべき点如何

○全国弁護士会長打合せ(「新報」昭和一三・五・一五)

今回、司法大臣官舎に於て開催の司法長官、全国弁護士会長合同協議会に列席の爲め上京中なりし、全国弁護士会長の司法省諮問案に対する答申並に協議事項に付ての打合会は、去六日午後一時より上野精養軒に於て開催された。

此日、東京三弁護士会長主人側となり、全国各地弁護士会長列席、有馬第一東京弁護士会長議長となり、谷村東京弁護士会長、遊佐第二東京弁護士会長の外、保田、福本第一東京弁護士会副副会長、馬場、大津、春田東京弁護士会三副会長、高木、稻田第二東京弁護士会幹事参加、答申案並に協議事項の協議に入りたるが、有馬議長一々各議案を讀上げて議事に附し、各議案に付、議案提出弁護士会長より提案理由の説明を爲し、議事は極めて厳肅裡に

慎重且つ熱心に行はれた。

第一議題たる「司法省諮問事項の答申案」に付ては、……(注、省略)……協議の結果、第一号議案第一東京弁護士会提出の答申案を可決採用することに決し、

第二議題たる「協議事項案」中(イ)新規提出事項に付ては、

……(注、司法制度等に関する件、裁判所構成に関する件、刑事事件に関する件、雑件について、省略)……、以上可決採用することに決定(ロ)「研究事項」たる……(注、司法制度等に関する件、弁護士会に関する件、民事訴訟に関する件、供託に関する件、雑件について、省略)……、以上各事項は其の採否を東京三弁護士会長の外、研究委員河西善太郎氏(高松)、吉住英三氏(横浜)、三浦強一氏(広島)、長谷川陸郎氏(仙台)、大塚守穂氏(旭川)、太淵朴氏(熊本)の六会長に一任することとし、(ハ)「既定事項」たる(注、裁判所構成に関する件、弁護士に関する件、刑事事件に関する件、調停に関する件、朝鮮に関する件、従来の協議事項に関する件、省略)……、を可決、午後六時過ぎ漸く協議を終った。

それより宴に移り、有馬第一東京弁護士会長の挨拶並に長谷川仙台弁護士会長の代表謝辞、高窪帝国弁護士会理事の所感演説があつてから、有馬会長の発声にて一同乾杯、歓談裡に散会した。

因に、右打合会に於て協議の結果確定し、司法省に提出したる全国弁護士会長よりの答申並に司法長官合同協議事項は左の如くである。

答申並協議事項

●（答申）

（注） 司法省諮問事項「一、遵法週間の実績に鑑み司法に関する理解及協力を増進するに付考慮すべき点如何」

- 一、司法に關与する者、先以て遵法の範を示すことに一層努力し、國民をして司法部に対する、怨嗟、畏怖、嫌惡の念を根絶せしめ、親みて之に信頼せしむるの氣風を馴致すること
- 二、小学校、中等學校等の教科書中に遵法精神の重要性を強調し、且隨時遵法に關する生きたる教材を選択提供し、青少年に對し遵法精神の教養を為すこと
- 三、遵法週間は勿論、常に適當なる行政機關其他教育、産業等の公私各団体との連絡を図り、ラヂオ、講演、講習、座談會、映画、刊行物の配布其他の方法に依り遵法精神の普及を怠らざること

●（提出事項）

- 一、司法制度の改革を斷行する為め、新に設立さるべき司法制度改善に關する調査會には、成るべく多数の在野法曹を委員に選任し協力を求むること
- 二、法規の解釈に關する司法省の訓令、通牒、回答等は、大審院判例を尊重するの方針を採られたきこと

三、司法官は総て弁護士より採用する制度の実現を期する為、之が調査立案を為し、帝國議會に提案せられたきこと

四、区裁判所の出張判事の取扱を廢し常任判事を置くこと

五、捜査官署は、被拘禁者又は其家族の依頼を受けたる弁護士の申出ある時は拘禁の原因を明示すること

前項の弁護士は、何時にても被拘禁者に接見することを得る旨の法規を設くること

六、当局は、新聞社との聯絡を保ち、被疑者又は被告人の名誉が不当に毀損せられざることに努められたきこと

七、捜査權の行使は、公訴提起を以て打切る趣旨の規定を設くること

前項の規定を設くるに至る迄は、公訴提起後に於ては成るべく捜査を差控ふる様、留意せられ度きこと

八、予審に於ける弁護權を拡張する規定を設くること

前項の規定を設くるに至る迄は、予審中に於ける弁護權は努めて之を尊重すること

九、担保取消の申出に付、相手方の同意ありたる場合に於ては、供託物の還付手續を簡易ならしむること

十、長期抗戰の趣旨に鑑み、出征軍人に対し、例へば、民事訴訟法上に於て上訴期間の進行停止、審理の停止の如き、実体法上に於ては債務履行の遲滞を免除し又は強制執行を猶予するが如き、司法上特殊なる保護規定を設くること、出征軍人の遺家族

に対しても其身分上及財産上適當なる保護規定を設けること

十一、司法当局は、司法官候補及び弁護士候補中応募又は出征者に対する第二回試験に関し、相当便宜と恩典等を附与する措置を採られたきこと

十二、司法記念日を深く記念する為め同日を司法部に於ける一般休日と為すこと

●(從來提出したる事項中特に実行を求む可きもの)

一、勅令裁判所職員官等及定員令を改正し、練達堪能なる高級裁判官を事実審の判事に補任する途を拓くこと

二、弁護士職能を拡大し、一面総数定員制を採用する等、弁護士地位向上並品位保持の爲め、此際積極の方針を促進すること

三、時代の趨勢に鑑み、速に朝鮮に裁判所構成法、行政裁判法、訴願法を実施せられたきこと

四、司法警察官と行政警察官とを分離して、司法警察署を特設し、之を検事に隷属せしむること

五、検事の取調に際し、司法警察官を立会せしめざることを、尚検事が取調に着手した後は、其被疑者に対する司法警察官吏の取調を厳禁すること

六、未決拘留所の改善を望む

七、裁判所と検事局とを区分して、独立の二庁と為すことの促進を計ること

八、犯罪捜査機関の不法なる取扱を、絶滅せらるる様留意せられたし

九、予審に於ける弁護士は、刑事訴訟法の規定する所なり、今後予審に於ける弁護士を十分尊重し、予審の公正明朗ならんことを求む

十、司法官は総て弁護士より採用するの制度を確立すること(司法官は総て十年以上弁護士職に在りたる者より任用する制度を確立すること)

十一、金銭債務調停法の廃止を望む

十二、総ての調停法を廃止すること(各種調停法を廃止する為め即時有効適切な処置を講ぜられたきこと)

十三、裁判(判決、決定、命令等)の執行を確保するが為め、其效力を喪失又は妨害するが如き犯罪行為に付き、当事者又は執行吏より告訴又は告発あるときは、検事局に於ては速かに処置を執られんことを望む

十四、強制執行に於ても、破産法の詐欺破産罪の如き、制裁法規の制定ありたきこと

十五、官選弁護人に対しては、記録謄写及証拠調に要する実費を支給すること

十六、民事の判決言渡期日勵行に関する件

十七、行政執行法又は警察犯処罰令の法規に依り勾留する場合は、必ず被勾留者の聴取書作成を為すこと

当日列席の全国弁護士会会長は左の如くであつた。(注、敬称省略)  
(東京) 谷村唯一郎、(第一東京) 有馬忠三郎、(第二東京) 遊佐慶夫、(横浜) 吉住英三、(浦和) 奥田三之助、(千葉) 杉山彌太郎、(水戸) 橋本正男、(宇都宮) 石田仁太郎、(前橋) 大澤愛次郎、(静岡) 中田駿郎、(甲府) 中西松、(長野) 中澤鷹根、(新潟) 松木弘、(京都) 西村藤一郎、(大阪) 片岡誠一、(神戸) 栗岡善一郎、(奈良) 高天房五郎、(大津) 八塚英一、(和歌山) 加藤清、(徳島) 谷原公、(高松) 河西善太郎、(高知) 大西正幹、(名古屋) 岡崎襄、(三重) 森田志馬太郎、(岐阜) 榮壽竹、(福井) 大橋茹、(金沢) 金山又三郎、(富山) 星台三、(広島) 三浦強一、(山口) 千々松安太郎、(岡山) 尾谷恭二、(鳥取) 君野順三、(松江) 桐谷圓藏、(長崎) 藤川悦太郎、(佐賀) 香田廣一、(福岡) 和智昂、(大分) 伊藤鐵雄、(熊本) 大淵朴、(鹿児島) 森藏吉、(宮崎) 溝淵龜澄、(那覇) 不参、(仙台) 長谷川陸郎、(福島) 北川次男、(山形) 縄野貞良、(盛岡) 河野喜藏、(秋田) 鈴木小平、(青森) 中村豊司、(札幌) 村田不二三、(函館) 高橋文五郎、(旭川) 大塚守穂、(釧路) 不参、(樺太) 川守田勤治、(京城) 角本佐一、(第一京城) 徐光嵩、(平壤) 瀧本理、(大邱) 窪田頌、(釜山) 陸順九、(全州) 森永龍雄、(閔東州) 唯有戒心

司法官会同に於ける鹽野司法大臣訓示、司法官会同席上に於て池田大審院長演述、司法官会同に於ける泉二檢事総長訓示(注、省略)

○全国弁護士会会長午餐招待会

東京弁護士会、日本弁護士協会、日滿法曹協会共同主催の司法長官、全国弁護士会会長合同協議会に出席の爲め上京中なりし全国

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

弁護士会会長招待会は、去七日午前十一時より有楽町「山水楼」に於て催された。開演前、各自雑談に花を咲せた後、午餐会に入り、谷村会長「司法部の現状より説き起して、人權擁護の増加、最近立法の趨勢に説及して、国憲蔑視の風ありを慨し、法律擁護の任にある在野法曹は此際、起つて大に法律擁護者としての使命の達成に努力する所なければならぬ、本日は各位御遠来の労を謝し、茲に謹んで各位の御健康を祈る」云々、と開会の挨拶を陳べ、次に日本弁護士協合理事三上英雄氏同協会を代表して「今日は世界的動搖の時代であり、一大転換期に在る。此の稀有なる非常時の影響は、当然法曹の立場に及び、立法並に司法裁判の方面に至大の変化を見るに至つた。例へば、国家総動員法、電力管理法の如き、我国在来の立法に於て未だ曾て見ざる特異なる法律が發布せられ、又之を司法裁判の上より觀るも、民事刑事事件数の減少及び其の態樣の変化、起訴数並に刑務所に於ける囚人人数の減少、執行猶予数の減少等其の影響の極めて大なるものがあり、他面司法精神の作興、在野法曹の待遇問題、人權蹂躪の根絶、予審廃止、公判中心主義、弁護士制度確立等の諸問題の解決せざるべからざるもの多々存在する。我が法曹界の多事多端なる、今日より大なるものなしと云つて宜い。幸に各位の御努力に依りて、此多難時代を救済善導することを得ば、誠に幸甚の至りである」云々と述べ、次で日滿法曹協会会長山岡萬之助氏は、今日の非常時局より論起して、日滿支法曹の一致協力を力説して東洋永遠の平和確立を

七六六 (二六二)

高揚して、各挨拶を終り、之に対して広島弁護士会長三浦強一氏来賓一同を代表して謝辞を述べ、高橋義次氏、吉田三市郎氏等の所感演説があつて後、谷村会長の発声で一同乾杯相互に健康を祈り、一同記念撮影を為し、午後一時過ぎ散会した。

②司法官弁護士会長合同協議会（新聞）昭和二三・五・八、昭和二三・五・一三、昭和二三・五・一五

○司法長官会同（新聞）昭和二三・五・八

本年度司法長官会同は、五月二日より同七日迄六日間、司法大臣官舎或は司法省会議室に於て開催されたが、第一日は、司法大臣官舎において午前は九時、午後は一時より全国控訴院長、検事長の協議会で、先づ鹽野法相立ち座談的に会同の旨を述べ、直に協議会に入り、第二日は、司法省会議室に於て午前は九時、午後一時より全国控訴院長、検事長、地方裁判所長、検事正の協議会で、劈頭、鹽野法相の訓示ありたる後、岩村次官の注意事項、大森民事局長、松阪刑事局長、瀧川行刑局長、井上調査部長の指示事項とつぎに提示あり、午後は一時より四時まで、右会議室に於て協議会続行、又五時半より法曹会館に於て法曹会から会同員の招待あり、第三日も右会議室に於て午前九時より池田大審院長の演述あり、次で泉二樞事総長の訓示ありたる後、大審院民事部長、大審院刑事部長、大審院次長検事の注意事項の提示あり、正午、総理大臣官舎に於て近衛首相の訓示ありたる後、首相の午

餐会に臨み、午後は二時より再び会議室に還り、午後四時まで協議会を開いた。この日は、午後六時より東港園に於て岩村司法次官から随行員の招待があつた。第四日は、右会議室に於て午前九時より協議会続行、正午、会同員に御陪食を賜はつた。午後二時より右会議室に於て協議会続行、午後五時半法曹会館に於て法曹会から随行員招待会があつた。第五日は、午前九時より右会議室に於て協議会続行、午後も一時より協議会続行、第六日は、法曹会館に於て午前は九時より、司法部長官及弁護士会長合同協議会あり、午後も一時より同処にて協議会続行、午後五時半より工業俱樂部に於て、鹽野法相から司法部長官及弁護士会長招待があつた。尚、別に随行員と本省属の事務打合及打合整理、其他見學は、五月三日より同七日まで五日間、刑務協会三階控室に於て毎日、午前九時より、午後は一時より、約七時間開会、この間裁判所側と検事局側と各別に右打合会を開いた。

鹽野法相の訓示及協議事項は左の如し。

鹽野法相訓示（注、省略）

司法官会同協議事項（注、省略）

司法長官、弁護士会長合同協議事項（注、省略）

○全国弁護士会長司法事務協議会第一東京弁護士会司会のもとに（新聞）昭和二三・五・二三

司法長官会議の最終日に行はれた、司法部長官と全国弁護士会長との合同協議に臨むに当り、各地弁護士会より提出せる新規協

議事項及既提出協議事項、並に司法部より提出せる遵法精神に関する答申案等極めて多数にのぼり、大部分は同一の趣旨をのべたものなので、之等の各案を整理するため、其前日即ち五月六日午後一時より上野精養軒に於て、第一東京弁護士会が当番幹事として、会長有馬忠三郎博士が議長となり、東京三弁護士会長を始め、内地五十弁護士会長、外に京城を始め各地会長七名、総計六十六名の弁護士会長列席のもとに、雑報記載の如き協議会を開催した。多数の協議案中、毛色の変つたものを紹介して見ると、

大審院の支部を大阪市内に設置せられたし（神戸弁護士会提出）。大阪は東京につぐ大都市であり、一般国民の便益をはかる上に必要であると云ふ理由であつたが、反対者が現はれて、曰く「現在でも大審院は部に依て反対の結果となる判例を出してゐる有様で、支部は便利かも知れないが、最高法院の判例が更に不統一になるだらう、其心配がないにしても、大審院は矢張り二重橋のもと、桜田門の外に一ヶ所控へてゐるのでよいのだと思ふ」と云ふ事で、此案は消へ去つたが、大審院は結局、その「内容」よりも、建てられた「場所」の方が光つてゐると云ふ意味にもとれた。

今度の協議会を傍聴して感じたことは、全国弁護士会長の殆ど全部が口を揃へて、人權蹂躪の実例を挙げて、檢察当局の態度を非難攻撃してゐた事であつた、現在司法部から提案されてゐる予審制度の廃止は之に伴ふ検事の権利の拡張とも思はれるのである。予審廃止問題は、非常な難産にぶつつかるだらう。今実現は、

六ヶ敷いだらうと思はれた。幸か不幸か、予審制度廃止問題に関する意見は協議会席上には現はれなかつた。（詳細記事参照）

○全国弁護士会長合同協議会（新聞）昭和二三・五・一三

五月七日午前九時より、司法省構内法曹會館に於て開催された、全国弁護士会長及司法部長官の合同協議会の開催に先んじ、五月六日午後一時上野精養軒に於て第一東京弁護士会が、当番幹事として会議を進める事となり、会長有馬忠三郎博士が議長となり、東京三弁護士会長を始め左の各地弁護士会長（注、省略）列席のもとに、各地弁護士会より提出せる司法省通達事項に対する答申案が、弁護士会長提出の協議事項案について互に意見の交換があり、結局遵法週間に対する答申案は、第一東京弁護士会提出の第一号議案に含まれてゐるとの事で、意見の一致を見て協議を終り、続いて、協議事項に移り、各項目について有馬議長之を朗読し、提案者たる各地弁護士会長より説明ありて協議をなし、続いて、新規提出事項及既提出事項の審議あり、何れも無事に終了し、研究事項として、司法制度改善に関する件として提出した広島、名古屋、旭川、岐阜、大分、長野、大阪、高松、松江、第二東京弁等の案中急を要せざるもの等あり、協議の必要上左の委員を選定した。

河西善太郎氏（高松）、吉住英三氏（横浜）、三浦強一氏（広島）、長谷川陸郎氏（仙台）、大塚守穂氏（旭川）、大淵朴氏（熊本、外に東京三弁護士会長は、別室に於て協議の結果、左の如き、答申

並協議事項の成立を見た上、別室にて宴会を開き、盛会裡に閉会した。

司法長官、全国弁護士会長合同協議会答申並協議事項（注、省略）

○司法部長官全国弁護士会長合同協議会に於ける鹽野法相挨拶

〔新聞〕昭和一三・五・一三

司法官会同六日目は、七日午前九時、司法省構内法曹会に於て、司法部長官弁護士会長合同協議会が行はれて、席上鹽野法相は左の如き挨拶をなし、終つて、別項記載の如き提出案について、有馬会長より説明があつて、午前中の会議を終り、裁判所前にて記念撮影を行ひ、十二時日比谷山水樓に於ける午餐会に出席、午後二時より協議を続開した。

鹽野司法大臣挨拶

本日司法部長官弁護士会長の会同を開催致します為、会長各位の御参集を煩はしましたところ、御多忙中に拘らず、遠近より多数打揃ひ御臨席を頂きましたことは、私の深く欣快に存する所であります。

今次事変勃発以来、皇軍の武威愈々振ひ、着々として東洋永遠の平和の基礎が築かれて居りますことは、寔に御同慶の至りであります。此は申す迄もなく、御稜威に依る所でありますが、亦皇軍将士の尽忠報国と、挙国一致の統後支援とに負ふものでありまして、此の機会に各位と共に感謝の意を披瀝致し度いのであります。

扨て、本年の協議事項は、例年と多少其の趣を異にして居ります關係上、其の提出理由を略説致しまして、御協議の御参考に供し度いと存じます。

昨年、内閣に於て国民強化運動方策が決定しました際、之に基き十月一日の司法記念日より向ふ五日間を、遵法週間として指定せられたのであります。此の遵法週間は、国憲国法の尊重、遵法精神の涵養に付、宣伝啓発を行ふのみならず、更に広く司法に対する国民の認識を深め徹底せしむることを目的とするものであります。

由來、司法は最も基本的な国務の一であり、国家の隆替は偏に之に繫ると云ふても敢て過言ではないのであります。國民は兎角此の職司の重大であることに付其の認識を欠き易く、一般助長行政に対するが如き関心を払はないのであります。加之、從來裁判檢察の第一線事務、殊に所謂窓口事務に対する國民の不平反感は、相當に強かつたのであります。例へば、訴訟の遅延、取調時間の不正確等が、時に止むを得ない事情に基くものであつても、國民には其の事情が判然と分つて居りませぬが爲に、司法に対し同情と理解とに欠くる所があつたのであります。又、司法部自身も世間より超然として、敢て司法に対する國民の理解を深め、進んで裁判、檢察は固より、一般司法行政に対し國民の協力を求むることに付て、殊に熱意が足りなかつたと云はれても、致し方がない実情であつたのであります。

此の積年の情弊が、國民をして遂に、司法部は善良なる國民には關係のない役所であると感ぜしめ、裁判所が只当該事件の処理に當るのみならず、其の処理に依つて延て以て、国家社会の安寧秩序を維持するが爲に裁判をするものであること、従て裁判に依つて國民各自が生命、身体、財産の安全を保障されて居ることを、認識しない憾もあるのであります。斯の如く、國民は司法の本質に関する理解が乏しい為、訴訟關係人となつた場合に於

ても、民刑を問はず只徒に掛り合ひを虞れて、事実を黙秘したり、誤った義侠心より偏頗な陳述をして、裁判の公正に悪影響を及ぼすことも有り得るのであります。

此の積弊を芟除する為、私は就任以来、二の方面に鋭意努力を重ねて居ります。其の一は、第一線事務の刷新改善であり、他の一は、司法に対する官民相互の啓発運動であります。司法部が其の本来の使命を完全に遂行し、国家の負託に酬ひる為には、一面國民をして目前事件を通じ、司法官庁と關係は無くとも、司法は國家正義の最後の支柱であり、之れ有るが為各自は安んじて其の日を送ることが出来るといふ感謝信頼の念を持つやうに、司法を理解すると共に、進んでは司法協力の氣風を馴致するやう努力することが必要であります。

此の趣旨の下に、昨秋各弁護士会の御協力を得て、遵法週間運動を全国一斉に行ひましたところ、相当の効果を挙げ得たやうに承つて居るのであります。然し、何分最初の試ではあり、我司法部は斯の如き宣伝啓発には不馴のこともありますから、所期の目的を達成するが為には、前回の実績に倣し、尚幾多批判改善を加ふべき余地があること、信じます。殊に、明年は裁判所構成法施行五十周年に相当致しますから、此記念事業実施準備と致しましても、此際弁護士会長各位の腹藏なき御意見を拝聴して、他日の参考に供し度いと存する次第であります。(了)

○全国弁護士会長招宴東京三弁護士会主催（新聞）昭和二三・五・一五

恒例司法部長官全国弁護士会長会同協議会出席の為上京せる、

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

全国弁護士会長一同を東京弁護士会、日本弁護士協会、日滿法曹協会の三会主催で、五月七日正午日比谷山水樓に於て招饗した。例年は夜の招宴たりし為か、折角の開催も出席者少き憾みありしが、本年は午餐会としたる者か、近年稀なる多数の出席で、主賓合して百数十名、就中弁護士会長は左の如く（注、省略）である。

正刻、東京弁護士会を代表して谷村会長、日本弁護士協会を代表して三上理事、日滿法曹協会を代表して山岡会長と交々立つて、主催者側の挨拶を懇述し、且つ自会の使命と自己の所懐を吐露する所あり、之に對し各地弁護士会長を代表して広島三浦会長立ち招饗を感謝し、併せて在野法曹に立脚する意図と期待とを要説し、又東京弁護士会の論客吉田三市郎氏立ち、日本弁護士協会の機関雜誌「法曹公論」の為に投稿を翼望した。次で、法曹代議士高橋義次氏立ち、衆議院議長官舎に設けられたる法曹懇話会を紹介し、今後各控訴院別に一層氣脈を深密にして、活動する方法を建てたるを以て協力せられんことを要望し、之に就て福島北川会長より、先づ以て在野法曹の分立不統一を難じ、その帰趨する所を得しむる必要を力説し、高橋氏は再び立つて之に答弁する所あり、こゝに東京弁護士会の谷村会長立ちて、各位の健康を祝する為に乾盃の礼を挙げたいと賛意を求め、一同之に和して乾盃、東京弁護士会事務主任の案内にて、同様玄関先に於て記念撮影して散会した。于時午後一時過。

七六一（二五八）

③司法官弁護士合同協議会〔公論〕第四二巻第六号、昭和三年六月号

○司法官会と司法部長官弁護士会長合同協議会

昭和十三年度司法官会同は、去る五月二日より五日間に亘り司法省に於て開催された。二日は、司法大臣官舎にて控訴院長、検事長の協議会、三日は、省会議室にて大臣訓示、次官注意、各局長の指示、四日は、大審院長演述、検事総長訓示、大審院民、刑部長、次長検事の注意があり、五、六の両日は、所長、検事正の協議会が開かれた。次で、翌七日は、午前九時から法曹会館で、司法部長官と弁護士会長の合同協議会が開催されたが、先づ、司法大臣より左の如き挨拶があり、次で、弁護士会長からは別項の如き答申と協議事項を提出し、午前午後に亘って協議したが、正午には、日本弁護士協会、日滿法曹協会、東京弁護士会主催の山水樓に於ける午餐会（会長側）に臨み、午後五時から工業クラブの司法大臣招宴に出席した。

鹽野司法大臣挨拶（昭和十三年五月七日司法部長官弁護士会長合同協議会に於ける）（注、省略）

昭和十三年度司法長官全国弁護士会長合同協議会 答申並協議事項（注、省略）

鹽野司法大臣訓示（司法官会同に於ける）（注、省略）

池田大審院長演述（昭和十三年五月四日司法官会同に於ける）（注、省略）

泉二検事総長（昭和十三年五月四日検事長検事正会同に於ける）（注、省略）

○全国弁護士会長招待会

昭和十三年五月七日東京弁護士会、日滿法曹協会と共同し、司法部長官弁護士会長合同協議会に出席せられたる会長諸氏を招待し、日比谷山水樓に於て午餐会を開催す。出席せられたる会長各位（略敬称）左の如し（注、省略）。

定刻開宴、席上左の如き主客の挨拶が交はされた。

谷村東京弁護士会長挨拶、三上日本弁護士協合理事挨拶、（注、省略）  
來賓代表三浦広島弁護士会長謝辞

甚だ僭越至極で御座るますが、此の席に御招待を頂きましたる全国弁護士会長を代表しまして、私より、東京弁護士会、日本弁護士協会、日滿法曹協会に對しまして、一言御礼の言葉を申し上げたいと存じます。本日午前の司法部長官、弁護士会長合同協議会に於きまして、我々弁護士会長は在野法曹の総意に基きて決定致しましたる司法の刷新向上に関する建築を司法当局に致し、午後の會議に於きまして、当局の意見回答を求むる段取りと相成りましたのであります、謂はゞ我々は為すべきを為し、尽すべきを尽しまして、こゝに寛ろぎのひと時を得ました次第であります。この時に於きまして、東京弁護士会、日本弁護士協会、日滿法曹協会に於かれましては、六千の全国在野法曹の代表者たる全国弁護士会長を一堂の下に御招きに相成、大内山、松の緑を渡る薫風爽かなる此のところに、在野法曹水入らずに、歓談和楽の一席を御与え下さいましたのであります。誠に感激に堪えません。私共の感銘は永く脳裡に蔵しますと同時に、広く各自会の會員に報告し、此の歡びを頒ちたいと存じます次第であります。東京弁護士会、日本弁護士協会、日滿法曹協会に於かせられましては、他の在京二

弁護士会及帝国弁護士会と共に在野法曹の中枢部たるの存在であり、心臓部たるの地位を有せられ、常時且つ不斷に極めて熱心に有形無形多大の犠牲にも拘はらず、或は司法の刷新向上に関し、或は人權の伸張擁護に関し、或は弁護士の利害問題に関しまして、御奮闘御努力を下さいます。我々地方在野法曹は、之に依つて在野者としての職分を完うすることとなり、之に依つて面目を維持してゐるものでありまして、我等は常に左様な御奮闘御努力に對し日夜感謝措く能はざる次第であります。今日此の席に、全国弁護士会長一堂の下に打揃ひましたる此の席に於きまして、私共は更めて深厚なる敬意と深甚なる謝意を表しまする次第でございます。現下の非常時局に付きましては、申し上げるまでもなく、輒近に於きまする国家の動向推移、社会の変遷發展のもたらしめまする結果と致しまして、諸般の法律的現象の上に、在野法曹の感覺を刺戟するもの、漸次滋きを加えんと致して居るのであります。斯くの如き事態に對処致しまして、能く在野法曹の職分を遂行し、能く在野法曹の地位を確保するの方策如何、私共は之を先づ全国在野法曹の一致団結の力に俟たなければならぬと信するのであります。全国六十の弁護士会、六千の在野法曹、打つて一九となり、連絡を固うし、氣脈相通じ、依つて以て結成せらるゝところの団結的力を以ちまして、法律報国の努力を致さなければならぬと信するのであります。在野法曹の団結に関する方式に関しましては、昨日上野精養軒の予備協議会に於きまして、屢々問題に上りましたのでありまして、地方弁護士会は夙に、この事の自覚を有するあります。又夙にこの事の用意を有するのであります。東京弁護士会、日本弁護士協会、日滿法曹協会に於かせられましては、他

の在京二弁護士会と帝国弁護士会と御共力御協調の下に、此の在野法曹の聯合聯盟の問題に関しまして、此の上ながら御尽力御配慮下さいますやう、今日此の席に、全国弁護士会長一堂の下に打揃ひましたる此の席に於きまして、更めて御願申し上げまする次第であります。今日は御龍招を蒙り、一言の御礼を申し上げんと存じまして、却て十言の御願を申し上げたのであります。田舎者札に倣はず誠に恐縮汗顔であります。しかし乍ら、私共全国弁護士会長の意の存するところ、志の有るところ御奉納を下さいますならば、幸甚至極でございます。終に臨みまして、東京弁護士会、日本弁護士協会、日滿法曹協会の彌々御隆昌にして益々、国家の爲め御健闘あらんことを祝福致します。甚だ蕪雜なる言葉をつらね重ねて恐縮に存じますが、これをもちまして謝辭に代へる次第で御座います。

以上を以て主客の挨拶を終り、來賓各位から所感を述べられたが、就中中央各弁護士会の団結を要望する声が特に強かつたのは注目に値するものであった。尚、席上吉田理事から「法曹公論」の使命を説いて、全国から原稿を頂き度と希望するところあった。

#### ④司法官弁護士会長合同協議会（正義）昭和十二年六月号

全国弁護士会長司法部長官合同協議会に関する報告書

昭和十三年五月二日より五月六日迄五日間に亘り、司法省に於て昭和十三年度司法官会同行はれ、引続き七日全国弁護士会長及司法部長官の合同協議会開催せられたり。其の経過大要左の如し。

#### 第一 事務

全国弁護士会長及司法部長官合同協議会の協議事項は、司法省より全国弁護士会に対し之を傳達せられ、且各弁護士会は之に対する答申と共に各々希望する協議事項を併せ提出すべき旨を併せて通告せられたり。右に付全国弁護士会長は、各自右答申及協議事項の提出を爲すに於ては重複煩雜に渉るを以て、從來之を整理統一して全国弁護士会の主張を明確にし及之をして權威あらしむる爲め、便宜右に付東京に於ける三弁護士会に其の処理を委嘱し、在京三弁護士会は毎年順次其の当番幹事となりて、予め全国弁護士会の答申及提案を取纏め、之を整理したる上、会同全国会長の打合会を開き、答申及提案の統一を爲し来りたる慣例あり。

昭和十三年度会同に付ては、我第一東京弁護士会が当番幹事たるの順番にありたるを以て、本会会長は從來の例に依り、全国弁護士会より答申案及提出案の送付を受けて之を整理したる上、之に付き全国弁護士会長の打合会を催す事等の労を執りたり。然る所、幸ひにして全国弁護士会長の意見の統一ありたるを以て、司法省に於ける全国司法部長官弁護士会長合同協議会に於て、全国弁護士会長を代表して答申及提出各案を演述し、及下記載するが如き経過及結果を以て、本年度の会同事務を終了したり。

## 第二 申出案及其の整理

全国弁護士会より本会宛送付せられたる案の総数は、答申案に於て二十四件、会長提出協議事項案に於て四十五に達したるが、之を各控訴院管内別に区別すれば左の如し。

(注) 「地方名・答申案・提出案」の順に表示すると、「東京、五、一三」、「大阪、六、九」、「名古屋、二、七」、「広島、三、八」、「長崎、五、三」、「仙台、一、〇」、「札幌、一、三」、「朝鮮、一、二」、「台湾、〇、〇」、「関東州、〇、〇」、「合計、二四、四五」

右に付予め開催せらるゝ、全国弁護士会長打合会準備の爲め、案の整理を爲し、特に提出協議事項の整理に関しては、本年度申出の案にして新に申出られたるものと、研究を要す可きものと、既に従前提出せられたるものと、会同に関するものとを区別すること、その他一、二の原則を定めて左の如く区分整理したり。

## 第三 全国弁護士会長打合事項案

### 第一 司法省諮問事項ニ対スル答申案

#### ○諮問事項

一、遵法週間ノ実績ニ鑑ミ司法ニ対スル理解及協力ヲ増進スルニ付更ニ考慮スヘキ点如何

(注、第一号案ノ第六号案、第八号案ノ第二十四号案省略)

(第七号案) 広島弁護士会提出

一 遵法週間ニ於ケル行事ハ尚一層汎ク大衆ノ理解ニ訴ヘ得ベキ方法

(司法展覧会、司法映画ノ如シ) ヲ考慮セラレタキコト

二 遵法週間中ニ青年団、婦人会、方面委員其ノ他団体ノ指導者又ハ教育者等ニ対シ新法令ノ解義其ノ他法律生活ノ正當ナル理解ヲ得シムル爲メ短期性講習会ヲ開催セラレタキコト

三 遵法精神ト遵法週間ノ旨趣トニ関シ小学校高学年教科書ニ「遵法精神」ノ一課ヲ採録スベキ手配ヲ講ゼラレタキコト

四 遵法週間ニ関スル行事ハ弁護士会及弁護士ト共同ノ下ニ実施セラレタキコト

五 司法ノ理解及共力ノ為メ司法部ガ民間実業家等ヨリ寄附金其ノ他物質の援助ヲ受クルガ如キ事ハ成ルベク之ヲ避ケラレタキコト

## 第二 会長提出協議事項案

(イ) 新規提出事項(注、第一号案ノ第十一号案省略)

(ロ) 研究事項(注、第十三号案ノ第二十四号案、第二十七号ノ第二十九号省略)

(第十二号案) 広島弁護士会提出「司法制度等ニ関スル件」

輓近頻リニ司法々規ノ改廃制定ヲ見ルモ法旨国風民情ニ副ハズ又法文難解ニシテ庶民ノ実生活ニ即セザルモノアリ特に立案上留意セラレタキコト「理由」司法々規ノ改廃制定ハ専ラ国民実生活上真ノ要請ニ基クモノタルコトヲ要シ単ニ外国立法ノ模倣机上考察ノ所産タルガ如キコト無キヲ期スベク、之ガ立案ヲ為スニ付キテハ在野法曹ノ如キ實際社会生活ニ経験豊富ナル者ヲ招致シテ之ガ講究調査ニ当ラムシムベク、(昭和三年度第五号、同七年度第一号、同八年度第二十五号、同十一年度第五号、弁護士会長提出議題参照)其ノ法章ノ構成ノ如キ平易ニシテ民衆ノ実用ニ適セシムルコトヲ努メ以テ法規ノ真ノ整備ヲ期シ運用ノ円滑適正ニ資セシメラレムコトヲ要望スル次第ナリ

(第二十五号案) 広島弁護士会提出「雑件」

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

出征軍人及其ノ遺家族ノ身分上及財産上ニ適當ナル保護ノ為メ特別法ヲ考慮セラレタキコト「理由」出征軍人及其ノ遺家族ノ為メニ身分異動ニ関スル事項ノ便宜迅速ヲ図リ、其ノ資産状況ニ依リテ公私法律關係ニ於ケル支払猶予其ノ他ノ特典ヲ与フル等適當ナル保護ヲ与ヘ、出征者ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムル為メ立法ノ考慮ヲ要望スル次第ナリ

(第二十六号案) 広島弁護士会提出「雑件」

事変關係軍人及遺家族ニ対スル賜給金等ニ関シ受給者側ノ紛争ノ予防及解決ノ為メ弁護士ノ機能ヲ活用セル特別制度ノ急施方考慮セラレタキコト「理由」事変關係賜給金ニ関シ一家同族ニ紛議ヲ生ズルガ如キハ御下賜又ハ給与ノ御趣旨ニ対シ遺憾ノ事ナレバ極力之レガ予防妥當円滑ナル解決ヲ必要トスベク現在全国各地ニ此ノ要求ニ応ズベキ企図行ハルルモノアリト雖モ区々ニ涉リ且ツ不完全ナルガ故ニ此ノ目的ヲ達センガ為メニハ法律の知識ト實際社会生活ノ経験ニ豊富ナル在野法曹ノ機能ニ俟ツベク、從來調停制度ノ運用ガ素人ノ調停委員ニ依リテ只管片付主義ニ偏シ法律生活ノ正シキ軌道ヲ考慮セラレザルノ弊尠カラザルニ鑑ミ識見才能アル弁護士ヲシテ主任者トシ(昭和八年第十二号弁護士会長提出協議案参照)軍關係者及地方有識者等ヲ以テ解決委員會ヲ組織シ、之ヲ裁判所ノ監督下ニ置クガ如キ特別制度ノ急施ヲ要望スル次第ナリ

(ハ) 既提出事項(注、第三十号ノ第三十四号、第三十六号ノ第四十一号省略)

(第三十五号) 広島弁護士会提出「弁護士ニ関スル件」

弁護士ノ職能ヲ拡大シ一面総数定員制ヲ採用スル等弁護士ノ地位向上並

七五八 (二五四)

ニ品位保持ノ為メ此ノ際積極の方針ヲ促進スルコト（参考昭和九年度第十三号、同十年度第七号）「理由」輓近ノ司法及行政法令ハ公共の方面ニ於テ弁護士ノ職能ヲ狭ムルニ傾キ在野法律家ノ活用ヲ為サズ反對ニ法律正義ニ暗ク又ハ活動力ナキ者ヲシテ濫リニ法律的事項ニ参与セシメ遂ニハ民衆ノ法律生活ニ対スル觀念ヲ紊乱スルノ結果ヲ招ク虞アリ又一面弁護士ノ現在員數ハ稍固定的状況ノ下ニ在ルガ故ニ此ノ際定員數ヲ制定シテ弁護士ノ品位保持、經濟確立ノ途ヲ講ズル等制度ノ發展向上ヲ策スベキ好機ナリトス依テ司法省ハ消極的取締方針ニ止マラズ此ノ際進ンデ弁護士ノ保護助長ノ積極的方策ヲ樹立シ其ノ講究調査ニ着手セラレムコトヲ要望スル次第ナリ

（二）追加（注、第四十二号案、第四十三号案省略）

（ホ）会同二関スル件（注、第四十四号案、第四十五号案省略）

#### 第四 全国弁護士会長打合せ

前記の各案に付き、昭和十三年五月六日午後一時より上野精養軒に於て、全国弁護士会長の打合せ開催せられたり。右打合會に出席せられたる弁護士会会長左（注、省略）の如し。

午後一時半開催、本会会長は担当幹事として、之より從來の例に倣ひ打合會を開く旨の挨拶を為し、一応打合會の性質を説明し、且つ各會提出の案を整理したる方法を解説したる後、協議進行の順序につきて注意し、議長を如何にすべきや諮りたる處、満場一致當番幹事を議長に推挙し、議長は先づ答申案より協議を進むる旨を述べ、討議に入りたり。討議に先立ち、有馬議長より昭和十

二年度會同會長提出事項中賛成のものにして実行されたる事項に付報告す。

#### 報告

一、民事記録ハ総テ其保存期間ヲ十年ト改正スルコト

参照（昭和十三年四月十二日司法省民事局民事申第四二六号）

大正七年六月三日法務局庶第七号民刑訴訟記録保存規定中左ノ通改正ス

右訓令ス

第十条 事件力裁判ニ因ラスシテ完結シタル場合ニ於テハ記録ノ保存期間ハ其ノ完結ノ日ヨリ五年トス但シ本令ニ之ヨリ短キ保存期間ノ定アル

モノニ付テハ其ノ定ニ從フ

#### 附則

本令ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年四月三十日以前ニ保存期間ノ進行ヲ開始シタル書類ノ保存ニ付テハ仍従前ノ規定ニ依ル

二、滿洲國ノ治外法權撤廃ニ伴ヒ日滿兩國ハ司法共助ニ関スル相互条約ヲ締結スルコト

参照（日滿司法事務共助法律第二十六号「昭和十三年三月二十五日公布」）

右報告後答申案並に協議事項案に付討議したり。

前記第一の各号議案は、趣旨に於て同第一号案の各項目中に包含する故に、本年度司法省通達に係る諮問事項に対する答申案は、第一号案各項を以て決定案としたり。

第二の中(イ)新規提出事項第一号乃至第十二号案に付、提出各弁護士会長より提案理由の説明在り討議を為し、後記決定案(二)の一乃至十二の如く決し、更に同(ロ)研究事項第十二号案乃至第二十九号案に関し、各弁護士会長より種々意見の開陳あり、結局研究事項審査に関する特別委員若干名を選任、全体の総意に基き採否を決すること、し、右委員選定方法は議長一任に決す。

依而有馬議長は、谷村東京弁護士会長、遊佐第二東京弁護士会長と協議に上、左記六名の特別委員を指名したり。

(横浜) 吉住英三、(高松) 河西善太郎、(広島) 三浦強一、(仙台) 長谷川陸郎、(旭川) 大塚守穂 (注、敬称省略)

右審査特別委員は、打合会終了後、別席に於て東京三弁護士会長と共に右特別委員会を開催の上、(ロ)第十二号案乃至第二十九号案は、一括審議せざることをしたり。

同上(ハ)既提出事項中第三十号案乃至第四十一号案並に(追加)第四十二号案乃至第四十三号案に付、各提出弁護士会長より理由の説明あり、後記(三)の如く決定したり。

(会同二閑スル件) 第四十四号案、第四十五号案は、聴き置くこととし採決せざりき。

以上により、打合会の全部を無事終了したり。時に午後六時十五分なり。尚、右会議の結果は、別紙添附速記録に詳なるを以て之を援用して茲に重説せず。

## 第五 決定案

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

(一) 答申(注、省略)

(二) 提出事項(注、省略)

(三) 従来提出シタル事項中特ニ実行ヲ求ム可キモノ(注、省略)

## 第六 第一東京弁護士会及帝国弁護士会主催

全国弁護士会長招待会

右打合会終了後、午後六時半より上野精養軒に於て、第一東京弁護士会及帝国弁護士会の主催にて、全国司法部長官弁護士会長会同のため上京中の弁護士会長の招待会を開催したり。

同夜来賓として出席せられたる弁護士会長並帝国弁護士会名誉会員及主催会員氏名左(注、省略)の如し。

午後六時三十分一同着席、席上有馬第一東京弁護士会長は、主催者側を代表して別項(注、省略)の如き挨拶を為し、之に対し長谷川仙台弁護士会長は、各弁護士会長を代表し別項(注、省略)の如き謝辞を述べ、最後に主人側より来賓各位の健康を祝して乾盃し、一同歓を尽して午後八時半散会したり。

## 第七 全国弁護士会長及司法部長官合同協議会

(一) 経過

五月七日午前九時半より司法省構内法曹会館に於て、全国弁護士会長及司法部長官の合同協議会開催せられ、午前十一時一旦休憩。此の間、大審院玄関に於て司法大臣以下朝野合同協議会出席者一同の記念撮影を為したる後、全国弁護士会長は正午日比谷山水楼に於ける東京弁護士会、日本弁護士協会及日滿法曹協会主催

七五六 (二五二)

の全国弁護士会長招待午餐会に出席したり。

午後二時より協議会を再開、午前に引続き協議を継続し、午後三時半極めて円満裡に協議会を終了し、更に午後五時半より出席会長一同は、工業倶楽部に於ける司法大臣の招待会に出席し、午後九時散会したり。

## (二) 会議の内容

合同協議会の内容詳細は。別紙添附速記録の如し、今其大要を記述すれば左の如し。

一、開会劈頭、鹽野司法大臣は、左(注、省略)の挨拶を為したり。  
二、有馬第一東京弁護士会長は、全国弁護士会長を代表して、司法大臣に対し左(注、省略)の挨拶をなしたり。

三、次で、鹽野司法大臣は、議長席に着き、協議事項に付会議を開くべき旨を宣し、次で有馬代表会長より、前掲全国弁護士会長打合会決定案の第一記載の答申案並第二記載の弁護士会提出の各協議事項に付、順次詳細なる理由を演述し、之に対する司法省、裁判所、検事局等の意見は午後に譲り、一旦休憩したり。

四、午後二時会議を再開し、官庁側は岩村次官、大森民事局長、松阪刑事局長、瀧川行刑局長、豊水東京民事裁判所長、中野検事正より、各其所管事項に付、代表的意見の開陳あり、最後に鹽野司法大臣の挨拶ありて、会議を終りたり。

## 第八 残務整理

会長打合会及全国弁護士会長司法部長官合同協議会に関する速

記録は、夫々会議の模様を明らかにし、前例により記念写真と共に関係希望者に対し、之を配布する事とし、全国弁護士会に対し其の手續を為したり。又右会同に関する記録は、全部之を整頓し本会事務所に備付けた。

## 添附書類

一、昭和十三年五月六日打合会速記録 一部  
二、同月七日司法省協議会速記録 一部(注、実際には「正義」本号には添付されていない。)

以上

右報告候成

昭和十三年六月一日

第一東京弁護士会

会長 有馬忠三郎

第一東京弁護士会 御中

昭和十四(一九三九)年

①司法官会同(「新報」昭和十四・五・二五)

○全国弁護士会長打合会全国弁護士聯合会結成案成る

全国弁護士会長司法部長官合同協議会提出議案竝に司法省の諮問事項に対する答申決定のため、五月十九日午後二時から、上野公園内精養軒に於いて、第二東京弁護士会長小林俊三氏司会の下に、全国弁護士会長打合会を開催。小林氏座長となり、全国弁護

士会より提出された多数議案を協議の上、次の如く取纏め、翌廿日司法省で開催の司法部長官との合同協議会に提出、更らに司法省の諮問案に対しての答申も次の如く決定し、次いで特別協議事項として、第二東京弁護士会提案の「全国弁護士会聯合会結成案」を議題とし協議の結果、更らに進んで弁護士法第五十二条による全国在野法曹を一九とする強力な全国弁護士聯合会を結成することになり、近く委員を挙げて準備に着手することになり、多年の懸案であつた全国弁護士会の大同団結も、愈々茲に急速具体化することになった。

当日出席の全国弁護士会会長は、次の如くである。

(第二東京) 小林俊三、幹事緒方茂夫、幹事加藤晃、(東京) 清瀬一郎、副会長桑名邦雄、副会長渡邊好人、副会長猪股淇清、(第一東京) 山内確三郎、副会長吉岡秀四郎、副会長石井清、(横浜) 室伏敬治、(浦和) 奥田三之助、(千葉) 副会長田中丑藏、(水戸) 市毛哲夫、(宇都宮) 石田仁太郎、(前橋) 上原早朗、(静岡) 村松甚一郎、(甲府) 原團次郎、(長野) 中澤鷹根、(新潟) 松木弘、(京都) 青山暢性、(大阪) 木村教諦、(神戸) 平野廉太郎、(奈良) 川島常三郎、(大津) 山本福丸、(和歌山) 島本哲郎、(徳島) 谷原公、(高松) 河西善太郎、(高知) 大西正幹、(名古屋) 菅武時、(三重) 長井源、(岐阜) 平岩忠次郎、(福井) 金井博、(金沢) 榎谷幾藏、(富山) 星臺三、(広島) 高木茂、(山口) 吉賀徳太郎、(岡山) 家本爲一、(鳥取) 長砂鹿藏、(松江) 難波督、(松山) 原田光三郎、(長崎) 岩松繁篤、(佐賀) 香田廣一、(福岡) 和知昂、(大分) 豊田孝知、(熊本) 大淵朴、(鹿児島) 松尾榮一、

#### 広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

(宮崎) 副会長砂山博、(那覇) 富山徳潤、(仙台) 椎名興作、(福島) 北川次男、(山形) 縄野貞良欠席、(盛岡) 副会長長井三郎、(秋田) 鈴木安孝、(青森) 川口榮之進、(札幌) 副会長長藤田作次、(函館) 高橋泰、(旭川) 大塚守穂、(釧路) 飯島安三郎、(樺太) 平敷安亮、(京城) 李升雨、(大田) 田中忠見、(咸興) 申泰益欠席、(清津) 赤木輝夫欠席、(平壤) 崔鼎默欠席、(新義州) 欠席、(海州) 鄭順錫欠席、(大邱) 孫致殷欠席、(釜山) 朴雨潤、(光州) 金在千、(全州) 久永麟一、(台北) 長尾景德欠席、(台中) 小室興欠席、(台南) 芝沼榮作欠席、(閩東州) 松谷竹三郎、

#### 提出事項

##### 一、提出事項

一、試補制度ヲ統一シ試補ハ司法官弁護士双方ノ職務ヲ修習スルコト

二、現行各種ノ調停立法ヲ統一シ民事訴訟法中ニ帰一セシメ以テ裁判ノ威信ヲ確保スルコト、但之カ実現ニ至ル迄ノ間ハ現行各種調停法ノ運用ニ付本文ノ趣旨ニ即応スル様細心ノ留意ヲ為スハ勿論一層遵法精神ニ徹底セラレンコトヲ要望ス

三、不動産ノ競売ニ於テ土地及建物ノ所有者ヲ異ニシ其ノ一方ヲ競売スル場合ニ於テハ競売ニ附セサル不動産ノ所有者ヲ利害関係人トスル規定ヲ設ケラレタキコト

四、目的物ノ価額千円未満ノモノニ関スル公示催告ノ公告ハ新聞紙ニ掲載スルコトヲ要セサル旨ノ規定ヲ設ケラレタキコト

五、檢察、警察ノ職務ヲ行フ官吏ノ犯罪ニ対スル起訴機關ヲ特設

スルコト

六、予審制度ヲ改革シ専ラ公判準備ノ手續トナシ審理ノ迅速適正

人權ノ尊重弁護權行使ニ遺憾ナキコトヲ期スルコト

七、偽証罪ニ付専任檢事ヲ置キ事案ヲ急速適切ニ処理セラレタキ  
コト

八、刑事補償法第四條第二項及第三項ヲ削除シ且行政執行法ニ依  
ル不法執行ノ場合ニ於テハ國家ノ補償制度ヲ設クルコト

九、弁護士ヨリ一般高等文官ニ任用セラルル途ヲ開クコト

十、確定判決ヲ經タル事件ニ付債務調停申立ヲ許可セラレサル様  
取計ハレタキコト

十一、改正商法会社編及有限会社法ノ規定ニ依リ裁判所ノ選任ス  
ヘキ檢査役、整理委員、監督員及管財人ニ並ニ清算人、各種代  
行者ハ總テ弁護士ヲ採用スヘキ方針ヲ確立セラレタキコト

十二、司法省ヨリ裁判所ニ通達セラルル法令ノ理由書等ハ弁護士  
會ニモ通達セラルルコト

十三、地方裁判所支部所在地ニハ必ス被疑者ヲ拘留スル拘禁所ヲ  
設ケラレタキコト

十四、在野法曹力滿洲國及新支那ノ官吏ニ採用セラルル途ヲ講セ  
ラレタキコト

二、從來提出シタル事項中特ニ実行ヲ求ムヘキモノ

一、大審院長ヲ 天皇ノ直隸トシテ司法權ノ獨立ヲ確保スル制度  
ノ実現ヲ期スルコト

二、裁判所ト檢事局トヲ分離シ司法權ノ獨立ニ對スル國民ノ疑惑  
ヲ一掃スヘク速ニ之カ実現ヲ期スルコト

三、司法官ハ總テ弁護士ヨリ採用スル制度ヲ確立スルコト

四、司法警察官ト行政警察官トヲ分離シテ司法警察署ヲ特設シ之  
ヲ檢事ニ隸屬セシムルコト

五、朝鮮ニ裁判所構成法行政裁判法及訴願法ヲ實施スル件及共通  
法改正ニ關スル件

六、一ノ地域ニ於テ登録シタル弁護士ハ他ノ地域ニ於テモ執務シ  
得ル様共通法ヲ改正スルコト、但シ試験制度ヲ異ニスルモノヲ  
除ク

七、強制執行法ノ改正ヲ促進スルコト

八、不動産ノ競売並取去手續ニ關スル手續促進ニ規定ヲ設クルコ  
ト

九、和解調書認諾調書各種調停調書ハ何レモ判決ト同様ノ效力ア  
ルモノナルヲ以テ其成立ト同時ニ当事者ノ申請ヲ俟タス職權ヲ  
以テ調書ノ正本ヲ双方ヘ送達セラルル様手續法ノ改正ヲ要望ス  
十、上告審ニ於テ口頭弁論ヲ開カス書面審理ノ儘上告ヲ棄却スル  
場合相手方ニモ判決ノ送達ヲ為ス規定ヲ設クルコト

十一、和議ノ成立ニ對シ其實效ヲ確保スル為メ適當ノ措置ヲ講ス  
ルコト

十二、各種調停委員ハ可成弁護士中ヨリ選任スルコト

十三、弁護士代理ニヨル告訴事件ニ付テハ迅速慎重ニ取調ヲセラ

レ度キコト

十四、官選弁護人ニハ実費及相当ナル日当ヲ支給スル様取計ハレ  
タシ

十五、共助事件ニ於ケル証拠調期日ハ常ニ弁護人ニ通知シ立会の  
機会ヲ与フルコト

十六、毎年採用又ハ補充スル司法官ノ多数ヲ弁護士ヨリ採用スル  
コト

十七、時局ニ鑑ミ直ニ裁判所書記及雇傭員ノ優遇方法ヲ講スルコ  
ト

十八、執達吏役場ヲ分設シ委任事件処理ノ改善迅速ヲ図ルコト

十九、公証人ノ欠員補充竝ニ新設充員ノ場合ハ弁護士ヲ採用セラ  
レンコトヲ要望ス

二十、訴訟事務ノ進捗ヲ顧念スルコト急ニシテ裁判ノ実質ニ遺憾  
ナル結果ヲ生スル嫌ヒアリ特ニ二事案ノ真実発見ニ留意セラレタ  
キコト

二十一、仮差押仮処分執行停止命令ノ担保額ニ付テハ成ルヘク事  
件ノ性質ニ照シ其ノ大小ヲ定ムルコト

二十二、国家又ハ公共団体ヨリ租税滞納処分ノ執行トシテ差押ヲ  
為シタル不動産ニ対シテハ更ニ民事訴訟法又ハ競売法ニ依ル競  
売手続ヲ進行シ得ルノ制度ヲ設クルコト

二十三、行政執行法ヲ犯罪捜査ニ利用セサルコト

二十四、司法法規ノ制定ニ関シテハ先ツ其ノ草案ヲ弁護士会ニ示

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

シ広ク其ノ意見ヲ徴セラレタキコト

答 申

(注) 司法省提出諮問事項「一、弁護士試験ヲシテ訴訟ニ関与セシムル  
可否並ニ若之ヲ可トスルモノトセハ其限度如何」

弁護士試験ハ之ヲ左ノ限度ニ於テ訴訟ニ関与セシムルヲ可トス

第一種答申 弁護士試験ハ訴訟当事者又ハ弁護人ヲ選任シタル  
者ノ承諾アリタルトキハ其ノ指導弁護士ニ随伴シ其ノ指導ノ  
下ニ訴訟行為ヲ為シ得ルコト

第二種答申 弁護士試験ハ其ノ指導弁護士ノ許可アルトキハ其  
ノ担任事件ニ付単独ニテ訴訟代理人又ハ弁護人タルコトヲ得  
ルコト

第三種答申 弁護士試験ハ其ノ指導弁護士ノ許可アルトキハ其  
ノ担任事件ニ付訴訟復代理若クハ共同弁護人若ハ弁護人代理  
トシテ訴訟代理人又ハ弁護人ノ職務ヲ行フコトヲ得ルコト

弁護士試験ハ左ノ限度ニ於テ官選弁護人タリ得ルコト

第一種答申 弁護士試験ハ官選弁護人タル指導弁護士ニ随伴シ  
其ノ指導ノ下ニ弁護人タリ得ルコト

第二種答申 弁護士試験ハ独立シテ官選弁護人タリ得ルコト  
○司法部長官會議

控訴院長、検事長會議は、十五日午前九時から法相官邸で開會、

七五二 (二四八)

鹽野法相、岩村次官以下各局部長、泉二大審院長、木村検事総長、霜山東京控訴院長、吉益検事長を始め六院長、六検事長出席、

「司法研究所規定（訓令）制定に関する件」を議題とし、吉田調査部長、佐藤人事課長より「司法研究所は、七月一日開設の予定で、目下法制局で官制案審議中であるが、此れが細則を訓令によりたい、即ち第一部は試補の教養訓練、第二部は任官後四、五年後の判検事の訓練教養、第三部は任官後八、九年後の判事検事中より銓衡を経たるものの教養を分掌せんとするものである」と、本省案を説明、各長官より意見の交換あつて、此れを可決、少憩後午後一時再開。

裁判所構成法施行滿五十周年記念事業の件を附議、これまた意見の交換あつたが、原案通り可決して、日程第一日を終り、十七日から三日間協議会を続行、二十日午前九時から法曹会館で司法部長官と全国弁護士会長の合同協議会を開いたが、協議事項は次の如くであつた。

司法官会同協議事項

● 地方裁判所長、検事正協議事項

一、経済統制事犯ノ処理ニ付裁判並ニ檢察上考慮スベキ事項如何  
二、司法保護事業法ノ実施ニ付考慮スベキ事項如何

● 地方裁判所長協議事項

一、人事調停法ノ実施及其ノ準備ニ付考慮スベキ事項如何  
● 検事正協議事項

一、軍後ノ治安確保ノ為檢察上特ニ考慮スベキ事項如何

司法部長官、弁護士会長合同協議事項

一、弁護士試補ヲシテ訴訟ニ関与セシムルノ可否並ニ若之ヲ可トスルモノトセバ其ノ限度如何

②司法官弁護士会長合同協議会（新聞）昭和一四・五・二〇、昭和一

四・五・二八、昭和一四・五・三〇）

○司法長官会同（新聞）昭和一四・五・二〇）

昭和十四年度司法長官会同は、五月十五日より同月二十日まで、毎日午前九時より、午餐時間一時間を除き、午後四時過まで開会された。第一日（十五日）は、午前午後とも司法大臣官舎で控訴院長、検事長の協議会あり、第二日（十六日）より地方裁判所長、検事正まで会同、司法省会議室で、午前司法大臣訓示、司法次官注意、民事局長指示、刑事局長指示、行刑局長指示、調査部長指示あり、正午一同御陪食の光榮に浴し、午後二時より同会議室で大審院長演述、検事総長訓示、大審院民事部長注意、大審院刑事部長注意、大審院次長検事注意あり、第三日（十七日）は午前商工大臣演述ありし後、協議会あり、正午より総理大臣官舎で総理大臣訓示を受け、同大臣の午餐会に参じ、午後二時より同会議室で協議会あり、同六時より赤坂幸楽で司法次官の随行員招待あり、第四日（十八日）は、同会議室で午前中、午後は一時より協議会あり、第五日（十九日）も同会議室で午前中、午後は一時より協

議會あり、第六日（二十日）は、法曹會館で午前は九時半より司法部長官、弁護士会長合同協議会あり、午後は二時より同會館に於て引き続き合同協議会が行はれた。当會同に於ける會同員は左（注、省略）の如くである。

鹽野司法大臣訓示（注、省略）

泉二大審院長演述・木村檢事總長訓示（「新聞」昭和一四・五・二三）（注、省略）

（注）十八日は、日程を変更して、午前九時より青木企画院總裁の現内閣に於ける企画の大体を演述したが、午後は二時より石渡大藏大臣は時局財政に関し略々左（注、省略）の如く演述した（「新聞」昭和一九・五・二五）。

○司法部長官弁護士会長合同協議会（「新聞」昭和一九・五・二五）  
司法會同最終日に當る五月二十日午前九時、全国各地より招集された司法部長官及弁護士会長の一行は、司法省構内法曹會館協議室に參集、定刻九時三十分鹽野法相は一場の挨拶をなし、続いて第二東京弁護士会長小林俊三氏は全国弁護士会長を代表して、答申案及協議事項を朗読した。之に対する司法長官側と弁護士会長との協議は、午後二時より再開すること、なり、一旦休憩。一同鹽野法相を中心に裁判所玄関前に於て記念撮影をなしたる後、全国弁護士会長の一行は、東京弁護士会、日本弁護士協會、日滿

法曹協會合同主催の午餐歡迎会に出席、二時再び法曹會館に於て午前中に引き続き協議を続行、同四時閉會となり、六日間に亘る會同を終了した。

○全国弁護士会長打合せ會全國弁護士會聯合會準備委員會設立（「新聞」昭和一九・五・二八）

全國弁護士会長と司法部長官との合同協議會に出席するに當り、全國弁護士会長は、五月十九日帝國弁護士會主催の神田長生殿の午餐會に臨み、終つて、第二東京弁護士會は當番幹事として、午後一時より上野精養軒に於て各案の整理が行はれた。

何分にも、全国各地より提出せる答申案は卅四、及び協議事項新規提出卅七、既提出卅四、總計百五件にして、中には主旨を同一にせるもの又は字句の不完全なるもの、或は更に研究を要するもの、若くは急を要せざるもの等あり、之等の答申案及協議事項を整理する為、五月十九日午後一時より上野精養軒に於て、全國弁護士会長の協議會を開催した。

本年度は、第二東京弁護士會が當番幹事に當るので、小林第二東京弁護士会長が議長となり、司法省提出協議事項に対する答申案及び全國弁護士会長より提出した協議事項に対し協議をなせる結果、左の如き案が成立し、續て特別協議事項、即ち東京三弁護士會はもとより全国各地の弁護士會を打つて一九となす、別個の團體を組織すべき案が、第二東京弁護士會の名に依つて提出された。

果然、各地弁護士会長より質問又は賛成意見の開陳があり。曰く「東京には既に三弁護士会があり、ソレ／＼会長がある、又日本弁護士協会、帝国弁護士会がある、更に此上に全国的の会を設ける事は、頭ばかり増加するだけで、言葉は悪いが政友会の様な形になる」、又他の会長は「既成の会を其のまゝとして、全国的の会を作っても結局、弱い団体になるに過ぎない」等の意見があつたので、第一東京弁護士会長山内博士は、「毎年一回行はれる弁護士会長合同会合があるのだから、各地弁護士会の意思を発表する組織は既に出来てゐる、若し全国弁護士会を打つて一丸とする会を必要とし、又之を強力なるものにするには、新弁護士法に依る法規に依て定められた団体となすべきで、左様致すには、更に充分研究を必要とするであらう」と答へたので、第二東京弁護士会長は、直に立つて山内氏の案に賛成を表したので、結局設立準備委員を設けて、法規による全国弁護士会聯合会を新設すべく、一日も早く在野法曹の単一化をはかることとし、多年の懸案であつた弁護士会合同の氣運に向つた事は、何と云つても本年度全国弁護士会長協議会に於ける一大功績であり、第二東京弁護士会長小林俊三氏の努力を多とすべきである。

全国弁護士会長は、二十日午前と午後に亘り、合同協議会に臨み、正午虎門晚翠軒に於ける日本弁護士協会、東京弁護士会、日滿法曹協会の招待宴に臨んだ。

○司法官会同統報（「新聞」昭和一四・五・二八）

最終日第六日の司法長官、弁護士会長会同列席者は、左（注、省略）の諸氏である。

定刻開会、先づ鹽野司法大臣より左の挨拶があつた。

「本日、司法部長官と弁護士会長との会同を開催致す為、各位の御参集を煩はしましたところ、御多忙中にも拘らず御臨席を得ましたことは、私の深く欣快とする所であります。

支那事變勃発以来、皇軍の武威益々振ひ、著々として戦果を収め、究極の目的に向つて邁進しつゝ、あることは、誠に御同慶の至りであります。是れは申す迄もなく、皇室の御稜威の致す所でありますが、又皇軍將兵の忠勇義烈と、國民一致の支援に負ふものであります。此の機会に於て、各位と共に深甚なる感謝の意を披瀝致し度いと思ひます。

今や帝國は、東亜新秩序建設の為、国の総力を挙げて、一路邁進せねばならぬ秋であります。此の非常なる時局に際しまして、軍後に於ける国内の秩序を維持し、國民の権義を保全することを任務とする司法の使命は、誠に重且大なりと申さねばなりません。苟も司法の事務に關与する者は、在朝在野を問はず、齊しく其の職責の重大なるに鑑み、各々其の職分に從ひて励精し、以て司法の威信を發揚すると同時に、今次聖戰の目的達成に全力を傾注せねばならぬと存じます。

國民をして司法に対する信頼を持続せしめするに就ては、民事、刑事を問はず、裁判の事務が絶対公正であると同時に、之が処理を迅速にして、其の時機を失せざるの注意が肝要であることは、勿論の義であります。事件処理の迅速と言ふことは、司法当局の常に苦心致して居る所ありますが、

これはどうしても在野法曹各位の各段の御協力を俟たねばならぬのであります。各位に於かれまして、此の点特に御研究御配慮を煩はし度いと存じます。

申す迄もなく、判事、検事、弁護士は各独自の地位に於て、其の職務を遂行するのでありますが、此の三者は所謂唇齒輔車の關係に在るのであります。司法の使命を達成致しますには、相互に克く理解し、緊密なる連絡協調を保つことが肝要であります。従来各地方に於て、在朝在野の法曹間に屢々司法事務協議会等が催されまして、相互協力を為されて居りますことは、司法の向上発展の爲真に慶賀に堪へませぬ。何卒今後も益々同心戮力、司法の運用を全うすることに各位の御尽瘁を切望致し度いのであります。尚本年は、裁判所構成法施行以來五十年目に当りますので、今秋其の記念式典を盛大厳肅に挙行し、大に司法精神の作興に資すると同時に、国民の間に遵法の精神を涵養普及せしむべく、目下其の準備中であります。其の節は、特に各位の御協力に預り度く、予め御願致す次第であります。

本日諮問事項と致しまして、弁護士試験の制度に関する問題を提出したのでありますが、弁護士試験の教養に就ては、各位各段の御尽力により、其の成績の見るべきものあり、国家の爲慶賀に堪へない次第であります。此の制度に関しまして、最近幾多の改正意見も生じ、現に改正法律案等も議院に提出された様な状態ではありますが、弁護士試験の制度は、弁護士の素質を向上し、其の信用を篤からしめんとする理想に基き、周到なる調査研究の上、制定せられたものでありますから、之を改正するに就ても、極めて慎重なる態度を取らねばならぬと存するのであります。何卒腹藏なき御意

## 広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

見を開陳せられんことを望む次第であります。之を以て御挨拶と致します。」右終つて、司法省提出協議事項に対する答申及全国弁護士会長提出協議事項の協議に入り、弁護士側より左の答申及協議があつた。

司法省提出協議事項、弁護士会長提出協議事項（注、省略）

○帝國弁護士会主催の全国弁護士会長招待会（「新聞」昭和一四・五・三〇）

司法部長官と全国弁護士会長との合同協議会のため上京した、各地弁護士会長の一行は、十九日正午神田明神境内、長生殿に於ける帝國弁護士会主催の招待会に出席した。席上主催者側を代表して鶴澤總明博士の挨拶あり、來賓を代表して木村大阪弁護士会長の謝詞あり、一時閉会した。当日の出席会長は、左の如くであつた（注、省略。広島からは高木茂出席）。

③司法官弁護士会長合同協議会（「公論」第四三卷第六号、昭和一四年六月号）

司法部長官弁護士会長合同協議会

○於司法部長官合同協議会——答申と協議事項——

昭和十四年度合同協議会は、去る五月二十日開会せられたが、司法省提出協議事項に対する弁護士会長の答申並弁護士会長側より提出せられたる協議事項は、左の如くであつた。

司法省提出協議事項及答申、弁護士会長提出協議事項（注、省略）

答申標準案

第一案 弁護士試験補カ指導弁護士ニ随伴シテノミ訴訟行為ヲ為シ得ル点ヲ主眼トスル答申案

一、弁護士試験ハ訴訟当事者又ハ弁護士ヲ選定シタル者ノ承諾アルトキハ其ノ指導弁護士ニ随伴シ其ノ指導ノ下ニ訴訟行為ヲ為シ得ルコト

二、弁護士試験ハ官選弁護士タリ得ルコト

備考(1) 一定ノ修習期間經過ヲ必要トスルモノアリ、「〇〇月以上修習ヲ為シタル」弁護士試験云々、「(2) 共ニ出廷ス」云々トアルハ随伴ト同趣旨ト解ス、「(3) 指図、指揮、監督」ハ何レモ指導ト同趣旨ト解ス、「(4) 官選弁護士タリ得ル項ハ総テノ案ニ念ノ為メ附加シ置キタリ

右ノ案ニ同趣旨ノ答申ヲ提出シタル弁護士会 第二東京、第一東京、静岡、新潟、京都、高松(但シ区裁判所ヲ除ク)、名古屋、岐阜、広島、山口、福岡、大分、熊本、札幌、  
第二案 弁護士試験カ一定ノ制限ノ下ニ全ク独立シテ訴訟行為ヲ為シ得ル点ヲ主眼トスル案

一、弁護士試験ハ其ノ指導弁護士ノ許可アルトキハ其ノ担任事件ニ付単独ニテ訴訟代理人又ハ弁護士タルコトヲ得ルコト

二、弁護士試験ハ官選弁護士タリ得ルコト

備考(1) 一定ノ修習期間ノ經過ヲ必要トスルモノアリ、第一案ノ備考(1) 参照、「(2) 区裁判所ニ於テ為スヘキ訴訟行為

二限り」ナル制限ヲ附スルモノアリ

右ノ案ニ同趣旨ノ答申ヲ提出シタル弁護士会 東京、横浜、高松、鳥取、松江、佐賀、秋田、鹿児島(但人事訴訟其ノ他ノ特別代理人等)、光州(但刑事ニ限ル)

第三案 弁護士試験カ一定ノ制限ノ下ニ特定ノ地位ニ於テ訴訟行為ヲ為シ得ル点ヲ主眼トスル案

一、弁護士試験ハ其ノ指導弁護士ノ許可アルトキハ其ノ担任事件ニ付訴訟復代理人若クハ共同代理又ハ共同弁護士人若クハ代理人代理トシテ訴訟代理人又ハ弁護士ノ職務ヲ行フコトヲ得ルコト

二、弁護士試験ハ官選弁護士タリ得ルコト

備考(1) 一定ノ修習期間ノ經過ヲ必要トスルモノアリ、第一案ノ備考(1) 参照、「(2) 特別ノ地位ト解ス

右ノ案ニ同趣旨ノ答申ヲ提出シタル弁護士会 横浜、長野、大阪、神戸、福井、岡山、宮崎、那覇、旭川、大田、光州

鹽野司法大臣訓示(昭和十四年五月十六日)(注、省略)

全国司法部長官  
弁護士会長会同  
に於ける司法大臣挨拶(注、省略)

泉二大審院長演述(昭和十四年五月十六日)(注、省略)

木村検事総長訓示(昭和十四年五月十六日)(注、省略)

○全国弁護士会長招待会

昭和十四年度司法部長官弁護士会長合同協議会に出席せられた

る全国弁護士会長招待会は、恒例の通り、本協会並に東京弁護士会、日滿法曹協会連合主催に依り、五月二十日（土曜）正午芝区虎ノ門晚翠軒に於て開催、來賓会長諸氏も、主催者側も多数出席され、極めて盛会であつたが、出席せられたる來賓各位（敬称略）は、左の諸氏（注、省略）であつた。

会長各位は、午後にも会議を控へてのこと故、特に時間を励行して、正午開宴、午餐を共にしつゝ、歓談を交し、一時半頃解散した。席上に於ける挨拶は、左の如くであつた。

高橋日本弁護士協合理事挨拶、長野日滿法曹協会副会長挨拶、來賓代表小林第二東京弁護士会会長謝辞（注、省略）

（注）「公論」（第四三卷第六号、昭和一四年六月号）には、広島弁護士会員三浦強一が日本弁護士協会に提出した「全国弁護士会聯合会に關する卓見」という論文が掲載されている。

④司法官弁護士会長合同協議会（「正義」昭和一四年六月号・七月号、九月号）

○全国弁護士会長招待会（「正義」昭和一四年六月号）

帝国弁護士会は、去る五月十九日午前十一時半より神田明神境内長生殿に於て、司法部長官、弁護士会長合同協議会に出席せられたる全国弁護士会長招待午餐会を開催したり。全国会長各位は殆ど全員出席せられ、会員亦多数出席し主客約百名に及び盛会な

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

りき。

席上鵜澤理事主催者側を代表して、別項の如き挨拶を述べ、來賓各位の健康を祝して乾杯、木村大阪弁護士会長來賓側を代表して、別項の如き謝辞を述べられ、主客歓談一時間半、最後に昔名古屋弁護士会長一同の健康を祝福し乾杯して散会したり。

散会后、出席会長各位は、引続き第二東京弁護士会幹事として、開催予定の全国弁護士会長打合会々場たる上野精養軒に向はれたり。

鵜澤理事主催者挨拶（注、省略）

木村全国弁護士会長代表謝辞（注、省略）

当日出席せられたる、各地弁護士会長各位左（注、省略）のごとし。

○司法部長官  
弁護士会長 合同協議会に於ける答申並に協議事項（「正義」昭和一四年七月号）

昭和十四年度司法部長官、全国弁護士会長合同協議会は、去る五月二十日法曹会館に於て開催せられたが、司法省諮問事項に対する弁護士会長の答申並に弁護士会長側提出協議事項は、左の如くであつた。尚、右に關する詳細なる報告は本誌九月号に附録として掲載の予定である。

又昭和十四年度司法長官会同に於ける司法大臣訓示、大審院長演述、検事総長訓示及司法部長官弁護士会長合同協議会に於ける司法大臣挨拶を参考の爲め別項に掲載す。

七四六（二四二）

司法省提出諮問事項・答申(注、省略)

弁護士会長提出協議事項(注、省略)

鹽野司法大臣訓示(昭和十四年五月十六日司法官会同に於ける)(注、省略)

泉二大審院長演述(昭和十四年五月十六日司法官会同に於ける)(注、省略)

木村検事総長訓示(長検事正会同席上に於ける)(昭和十四年五月十六日検事官会同に於ける)(注、省略)

鹽野司法大臣挨拶(昭和十四年五月二十日司法部長官弁護士会長会同における)(注、省略)

○全国弁護士会 合同協議会に関する報告書「正義」昭和十四年九月  
長司法部長官号)

昭和十四年五月十五日より同十九日迄五日間に亘り、司法省に於て昭和十四年度司法官会同行はれ、同二十日法曹会館に於て、全国弁護士会長及司法長官の合同協議会開催せられたり。其の経過大要左記の如し。

第一 司法官会同に於ける司法大臣、大審院長、

検事総長の訓示及び演述

昭和十四年五月十六日司法官会同に於ける司法大臣の訓示、大審院長の演述及検事長検事正会同に於ける検事総長の訓示は、「正義」第十五卷第七号記事欄に掲載済に付参照せられたし。

第二、司法省諮問事項及び同諮問事項に対する

第一 東京弁護士会答申案並に提出協議事項

諮問事項、諮問事項ニ対スル答申案、提出協議事項案(注、省略)

第三、全国弁護士会長打合せ

在京三弁護士会長は、去る五月九日会合し、各地弁護士会より提出せられたる司法省諮問事項に対する答申及び協議希望事項百余项に亘る各案に付夫々整理したる上、本年度当番幹事たる第二東京弁護士会幹旋の下に、五月十九日午後一時より上野精養軒に於て、全国会長の打合せ開催せられたり。

打合会に出席せられたる弁護士会長左(注、省略)の如し。(敬称略)

午後一時開会、第二東京弁護士会長は当番幹事として、開会挨拶と共に議案の整理及び議事進行の順序に付き解説注意を為し、慣例に従ひ満場一致の推挙により同会長議長席に就く。議長司会の下に、予ねて各弁護士会より提出せられたる、司法省諮問事項に対する答申案並に提出協議事項案の順序により、東京三弁護士会に於て取纏めたる整理案を基礎として協議を為し、午後五時に至る迄熱心なる討議を行ひ、答申案及び協議事項案を左の如く決定す。

右案は、「正義」第十五卷第七号記事欄に掲載済なれば参照せられたし。

特別協議事項

一、全国弁護士会聯合会結成の件

特別協議事項として、第二東京弁護士会より提出せられたる右「試案要項」に付、各地弁護士会長は賛否に付意見を開陳せられたるも、結局第一東京弁護士会長の私見に基く質問に満場期せずし

て共鳴し、遂に東京弁護士会長の緊急動議となり、茲に満場一致、法律に依る（弁護士法第五十二条参照）聯合会を設置する事に決し、一応「全国弁護士会聯合会期成準備委員会」を設けること、なりたり。

斯くして各控訴院所在地の弁護士会長を準備委員と為し、右委員会を組織、直に結成準備に入ること、したり。

#### 第四 全国弁護士会長司法部長官合同協議会

五月二十日午前九時より司法省構内法曹会館に於て、全国弁護士会長司法部長官の合同協議会を開催、別項の如く、鹽野司法大臣及び小林全国弁護士会長代表の挨拶の後、議事に入り、正午一旦休憩、大審院玄関に於て司法大臣以下朝野合同協議会出席者一同の記念撮影を為したり。

午後二時再開、午前に引続き協議を続行し、次で各所管事項に付、次官、各局長及び東京民事地方裁判所長、検事正の意見陳述あり、同四時円満裡に協議会を終了したり。

会議の内容詳細は、別紙添附速記録の如し。

更に、司法大臣の日本工業倶楽部に於ける、弁護士会長及び司法部長官招待会は、午後五時半より開宴。席上司法大臣の挨拶あり、之に対し司法部長官並に会長を代表して、泉二大審院長の謝辞あり、同九時散会したり。

鹽野司法大臣挨拶、小林第二東京弁護士会長挨拶（注、省略）

#### 第五 在京各弁護士会招待会

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

本会同に出席したる全国弁護士会長一同に対し、左記の通り招待会を開催せられたり。

五月十九日正午 於神田長生殿 帝国弁護士会主催午餐会

五月二十日正午 於虎ノ門晚翠軒 東京弁護士会、日本弁護士協会、日

満法曹協会主催午餐会

添附書類（注、「正義」には添附されていない。）

一、昭和十四年五月十九日全国弁護士会長打合会速記録 一部  
二、五月二十日弁護士会長司法部長官合同協議会速記録 一部

右報告候也

昭和十四年五月二十五日

第一東京弁護士会

会長 山内 確三郎

昭和一五（一九四〇）年

①司法官弁護士会長合同協議会（「新報」昭和一五・五・五）

○司法部長官会同

司法省に於ては、四月廿二日午前九時より、全国司法部長官会同に先立つて、全国控訴院長検事長會議を開催、司法行政の根幹となる人事行政の問題を中心議題として協議し、木村法相及び三次次官の新方針により、左記の通り決定した。

一、司法行政の能率を向上せしめる為には、司法研究所を活用して司法官の人材養成に努めると共に、部内人事の交流を円滑なら

七四四（二四〇）

しめる事が絶対に必要である。然しながら、司法官はその転任に就いても、本人の承諾を要する事になってゐるので、従来はとかく人事交流を阻まれがちであつたが、上級裁判所及び大都市の裁判所に勤務してゐる司法官の地方転出を容易ならしめる為に、今後は本省が自発的に転任記録簿を設け、それに転任の際の条件を記録して、約束の期限が到来した際には必ず呼戻すやうにする。

二、時局の影響をうけて、各大学卒業生の争奪が行はれてゐるが、司法官はその本質に鑑み、人物最も重厚なる事を要するので、高等学校時代より将来司法官となる志望を抱かしめる為に、各高等学校並に大学の聯繫を保つて、司法官志望者の誘導に努める。

四月廿三日午前九時法曹会館において、司法長官会議第一日開催、(本省) 木村法相以下兩次官、局部課長、(裁判所側) 泉二大審院長、岩村検事総長、その他、(会同員) 霜山東京控訴院長以下各院長、松阪東京検事長以下各検事長、佐々木東京民事、島東京刑事両地方裁判所長以下各地方裁判所長、池田東京検事正以下各検事正、その他朝鮮、台湾、関東局、南洋庁、満洲国等司法官等出席。

先づ、木村法相より別項の訓示あり、次いで三宅次官の注意、坂野民事、黒川刑事、秋山行刑各局長、中島調査部長より所管事項につき指示あり、正午一同、宮中における御陪食に参列の後、午後三時会議再開、泉二大審院長の演述、岩村検事総長の訓示あり、次いで大審院民刑各部長、大審院検事より所轄事項につき注

意事項の説明があつた。

会同第二日目は、廿四日午前九時法曹会館にて開会、竹内企画院総裁より物資と物価関係の説明を聴取し、同十一時より協議事項を議題として意見交換を重ね、午後五時散会。尚正午は、首相官邸における米内首相主催の午餐会に出席した。

会同第四日目は、廿六日午前九時より、法相官舎において開会、裁判所側と検事正側に分れて協議会を開き、

裁判所側は、一 戸籍事務の監督につき考慮すべき点、一人事調停法施行の実績に徴し考慮すべき点の二項目に就て意見を交換し、

検事正側は、一 現下の経済情勢に鑑み経済事犯の処理に付考慮すべき点如何、を議題として検討を重ねたが、各検事長並に検事正より開陳せられた意見の中、特に注目すべきものは、左の如くである。

(イ) 時局に鑑み、経済統制の必要なること勿論であるが、経済統制の現状をみれば、そこに無理があることを痛感する。即ち、配給機構を整備するにあらざれば、経済事犯を根本的に防止することは出来ない、行政的措置によつて、抜本塞源の策を講じて貰ひたい。

(ロ) 罰則が、最高五千元の罰金では、軽きに失する嫌ひがある、之を適度に改正し、また不正利得額は追徴によつて没収する規程を設けるのも一つの方法であらう(この問題に就いては、極度の刑罰加重は経済統制を整備した上で行ふべきであるとの意見も出た)。

(ハ) 経済事犯を、適正迅速に処理する事に就いては、各地方檢察当局が緊密な連絡をとり、且つ課刑の標準も成るべく一定にする必要がある。

(ニ) 経済事犯を誤りなく処理する為には、檢察当局に経済界の事情調査機関を設け、之によつて得たる的確な判断資料を、基礎として処理する事が必要である。

(ホ) 経済警察官の指導訓練を行ふことも同時に必要である。

(ヘ) 係官の増員を行ふ必要がある。

(ト) 政府が公定価格を決定してから、実施までの間に期間を置くために、品物の供給が止り、これに起因して起る犯罪も多い。

(チ) 産組の進出が、経済事犯を醸してゐる傾向も認められる。

(リ) 産組自体が、営利本位に走つて、惹起する違反事件も相当数に達してゐる。

(ヌ) 檢察当局が、経済事犯を検挙して、最も悩みを感じすることは、業者の營業中断によつて、一時品物の配給が中絶することである。

(ル) 府県によつて、統制の程度を異にするのは、違反発生の原因ともなり取締上困る。

なお、岩村検事総長より「各地方との連絡協議を保つためにも、経済違反事件の報告は、なるべく速かに提出して貰ひたい」旨を希望したが、前記各長官から披瀝された意見は、今後経済統制を運用するに當つて、基本的に考慮さるべき事項として、木村法相より正式に閣議報告事項として、政府に傳達することになった。

木村司法大臣訓示(司法官会同第一日に於ける)、泉二大審院長演述

(司法官会同第一日に於ける)、岩村検事総長訓示(司法官会同第一日に於ける)(注、省略)

#### ○招待会懇親会

帝国弁護士会、第一東京弁護士会は連合して、四月二十五日午後上野精養軒に於て、当日表敬式を挙行した第一東京弁護士会先進五会員の祝賀会、司法部高官、全国弁護士会長の招待会並に一般会員の懇親会をかねて、盛大に開催せられ、鶴澤博士は主催者として挨拶を述べ、長島大審院部長の懇篤なる謝辞あり、次いで山内確三郎、丸山長渡、松澤九郎先進諸氏の興味深き所感懷古談あり、主客乾杯を交して、八時半散会。

当日は、司法大臣、大審院検事総長、司法長官招宴の爲め出席されし外、三宅行政裁判所長官、星島政務次官、長島大審院部長、三宅司法次官、織田大審院部長、其の他司法部、裁判所高官の外に、全国弁護士会長の出席あつて、近來稀なる盛会であつた。

#### ○日本弁護士協会、日滿法曹協会の招宴

日本弁護士協会、日滿法曹協会主催のもとに、司法部長官と会同のため上京中の全国弁護士会長を、四月二十七日午前十一時比谷山水樓に招待して、一大懇親会を開催した。

当日は、両会役員の外多数の会員の出席があつた。山岡日滿法曹協会長は、主催者側を代表して、遠地より上京せられたる各会長の労をねぎらひ、時局下にあつて在野法曹の責務重大なるを説き、司法部刷新改善のため、相協力して進みたい、尚目下設立中

の興亜法曹協会に対する後援を求め、招待の挨拶を述べ、次いで坂田大阪弁護士会長、来客一同代表して、時局下に於ける在野法曹の進路を指摘し、全国弁護士会長聯合会に於ける議決の趣旨に言及し、在野法曹の時局担任の決意とその任務の重大とを高調し、答礼の挨拶を述べ、次いで、樺太、函館、名古屋、岡山、大邱、新義州、福島、土佐、宮崎、福井、岐阜等の弁護士会長の所感演説に在野法曹の意気大にあがった、午後二時半散会。

○大日本弁護士会聯合会定時総会

四月廿六日午前九時より、上野公園内精養軒に於て、大日本弁護士会聯合会定時総会開催。猪股東京、山内第一東京、眞野第二東京、坂田大阪の各常務理事弁護士会長初め全国弁護士会長出席の下に、猪股常務理事開会を宣し、一同、宮城遙拝、英霊黙禱の後、猪股常務理事議長席に着き、別項司法省答申事項、同提出事項、議案の多数を各会長共熱心に審議し、和衷協同の精神の下に定刻に議了し、全国弁護士会聯合会第一回総会として、一糸乱れざる歩調を示したことは、欣賀に堪へぬ次第である。

当日の出席会長（注、省略。広島からは副会長林美一が出席）

尚、当日大日本弁護士会聯合会においては、午後六時より上野精養軒において、司法省、大審院、同検事局首脳、各控訴院長、同検事長、全国地方裁判所長、同検事正、其の他を招待し、大懇親会を催ふした。猪股常務理事は、主催者を代表して、極めてうちとけた一場の挨拶を述べ、大日本弁護士会聯合会の整備状況を

説いて、在野法曹の時局担当の用意とその決意に言及すれば、木村法相は、これをうけて、この非常時局突破、朝野法曹の協力提携の要を高調して答礼の辞を結び、主客乾杯を交し、全国弁護士会長と全国司法部長官との交歓が行はれ、意義ある宴会であつた。後八時半散会。

（当日答申事項及提出事項は、司法部長官及弁護士会長会同概要につき省略、その他の議了したる事項左（注、省略）の如し）

○司法部長官及弁護士会長会同に於ける協議の概要

昭和十五年度に於ける、司法部長官及弁護士会長会同は、四月二十七日午前九時より、法曹会館楼上の大会議室に於て開催せられた。此の日、在野法曹は、木村司法大臣を初めとし、本省側より星島政務次官、三宅事務次官、坂野民事局長、黒川刑事局長、秋山行刑局長以下各課長列席し、裁判所側より泉二大審院長、古川、豊水外各大審院部長、霜山東京、鈴木大阪、大森名古屋、鬼頭宮城、草野長崎、細野広島、日高札幌の各控訴院長及び佐々木東京民事、島東京刑事以下各地方裁判所長列席し、検事局側よりは岩村検事総長、松阪東京、金山大阪、和田名古屋、岩松長崎、徳永札幌、中野広島の各控訴院検事長及び池田東京以下各地方裁判所検事正が列席した。

次に、在野法曹側は、猪股東京、山内第一東京、眞野第二東京、坂田大阪以下内地、朝鮮、台湾の各地弁護士会長が出席した。茲に、何れも在野法曹の一粒攢りが集まって、それぐの立場

から意見を開陳し、互に切磋琢磨し、相共に我国司法の改善に資するところあらんとする、洵に意義ある会同が始まらんとしてゐる。

時しも、窓外は驟雨沛然として来り、樹々の若葉を叩く頃、室内は水を打ったやうな静肅の中に、木村司法大臣は壇上に立つて平素の通り明快な口調を以て、別項の如き挨拶を述べられた。

そして、木村司法大臣は其儘議長席に着き、本年度の協議事項たる「現下の時局に鑑み訴訟審理の促進を図る為考慮すべき事項如何」といふ問題について、協議に入つた。最初、裁判所側を代表して佐々木東京民事地方裁判所長、前記協議事項に対し、次のやうな答申を陳述した。

#### 答 申

一、朝野法曹ハ時局ノ認識ニ徹シ一層緊密ナル連絡協議ヲ保チテ  
民事訴訟ノ適正迅速ナル処理ニ努メ以テ司法報國ノ実ヲ挙ク  
ルコト

二、従来中央及地方ニ於ケル司法官弁護士ノ会同又ハ協議会ニテ  
訴訟ノ進捗ニ関シ協定シタル事項ヲ一層履行スルコト、就中訴  
訟ノ民事タルト刑事タルト問ハス期日ノ延期変更ハ努メテ之  
ヲ為サス開廷時間ヲ厳守シ尚民事ニ在リテハ訴状答弁書準備書  
面ノ記載ヲ簡明ニシ之等ノ書面ハ勿論証拠申請書書証ノ写等ノ  
提出並費用ノ予納ヲ遅滞セス又刑事ニ在リテハ弁論ノ重複ヲ避  
クルコトヲ得ハ訴訟ハ著シク促進セラルヘシ朝野法曹ハ相協力

シテ之カ実践ニ一段ノ努力ヲ払フコト

三、右ノ一方法トシテ控訴院並地方裁判所ト弁護士会トニ夫々少数委員ヲ民刑各別ニ常置シ絶ヘス相互ニ連絡協調ヲ保チテ訴訟  
遅延ノ防止ヲ図ラシムルコト

四、民事訴訟ニ於ケル争点ヲ整理シ真ニ争ハサルヲ得サルモノニ  
限りテ争フノ風ヲ馴致スルコト

検事局側は、協議未了の理由を以て答申を午後には譲ること、  
なつたので、在野側の本年度の当番猪股東京会長は立つて、曩に  
東京三弁護士会に於て各地弁護士会の答申を整理し、而して昨二  
六日の大日本弁護士会聯合会の第一回定時総会に於て満場一致を  
以て議決したる、左記答申事項及提出事項につき、適宜必要な説  
明を補足しつゝ、演述をなした。

#### 大日本弁護士会聯合会

協議事項 現下ノ時局ニ鑑ミ訴訟審理ノ促進ヲ図ル為考慮スヘ  
キ事項如何

#### 右答申

一、精神総動員ノ趣旨ニ基キ職員ノ氣組ヲ根本的ニ改ムルコト。  
民事訴訟ノ遅延ハ判決内容ノ実生活遊離ト相俟チテ著シク社会  
ノ要求ニ背馳シ随所ニ司法裁判所不信ノ声ヲ聞ク。正義顕揚ト  
秩序保持ヲ目的とする司法ノ使命ニ照シ寔ニ寒心ニ堪エサルモ  
ノアリ。司法職員ハ上下心ヲ一ニシテ此緊迫セル現状ヲ直視シ  
覚醒奮起、積弊ノ打開ヲ策スルニアラサレハ司法ノ威信將ニ地

ヲ払フニ至ラントス、徒ラニ事務過剰ニ藉口スルコトナク不撓不屈ノ勇猛心ヲ振ヒ、日二月ニ新タナル面目ヲ工夫シテ速カニ窮通ノ途ヲ拓キ時艱ヲ克服スルノ覚悟ナカルヘカラス。此信念ト努力ヲ以テセハ訴訟遅延ノ積弊緩和是正スルコト決シテ可能ニアラス。之ニ反シ此覚悟ト工夫ナキ職員ハ此危機ニ当リ到底重任ヲ担当セシムルニ適セサルヲ以テ速カニ之ヲ淘汰シ俊敏有能ノ材幹ヲシテ之ニ代ラシムヘシ、而テ在野法曹モ亦之ニ順応シ、自肅自戒、積弊ヲ一掃シ、面目ヲ改ムルニ最善ノ努力ヲ期スヘシ。

二、裁判官ハ宜シク不羈独立ノ気魄ヲ以テ事業ニ莅ミ時ノ政治情勢ニ超越シテ行動スルコト

三、人的設備拡充ノ件

(一) 判事及書記ヲ増員充実シ且ツ物価高騰ノ時局下ニ於テ生活ノ不安ナカラシムルト同時ニ一般のニ之カ優遇方法ヲ實現シ裁判所ノ職員ニ対シテ特別手当(住宅料等)ヲ支給シ以テ優秀ナル人材ノ吸收ヲ図ルコト

(二) 物的設備ヲ拡充シテ執務ノ能率ヲ増進シ判事ノ自宅執務ヲ廃止スルコト

四、当局ハ宜シク人材ヲ簡拔シ法曹一元ノ趣旨ヲモ酌ミテ在野ニ於ケル有能ノ士ヲ採リ、以テ適材ヲ適所ニ配シ訴訟審理ノ衝ニ当ラシメ真実ノ発見ニ遺漏ナキヲ期シ実生活ニ即シタル裁判ヲ為サシムルト共ニ書記雇ニ付テモ優秀者ヲ配置シテ事務ノ進捗

正確ヲ図ルコト

五、特別ノ事情ナキ限り判事ハ一裁判所ニ相当年限在勤セシムル方針ヲ取り以テ其地方ノ諸般ノ事情ニ精通セシムルト共ニ担任事件ノ審理及ヒ判決ニ対スル責任感ヲ深カラシメ訴訟審理促進ノ效果ヲ上クルコト

六、判檢事力開廷日ニ於ケル開廷前私ノ教職ニ従事シ又ハ研究会其他会合ヲ開催スル向キアルモ斯ル風習ハ速カニ改善シ且ツ執務時間中ノ歓送迎等ヲ廃止セラレタキコト

七、連続弁論主義ヲ採用スル件

担任事件ノ全部ヲ同時ニ並行シテ案配審理スルコトナク一定数ヲ区分シテ逐時之ヲ処理シ口頭弁論ヲ連続シ続行期日ヲ短縮シテ終結ノ迅速ヲ期スルコト

八、準備手続運用改善ノ件

(一) 準備手続ハ計算事件又ハ特ニ複雑ナル事件及当事者双方カ特ニ必要トシテ要望スル事件ノミニ付キ之ヲ為シ、其他ノ事件ハ直ニ口頭弁論ヲ開始シ訴狀ニ付キ釈明又ハ補遺ヲ要スル事項ハ口頭弁論期日前期間ヲ限り之ヲ為サシムルコト

(二) 準備手続ヲ開始シタル事件ハ原則トシテ裁判長之ニ当リ事件ノ要領ヲ補足シ枝葉末節ニ徒ラニ手数ヲ累ヌルノ弊害ヲ戒ムルコト

(三) 準備手続ヲ終結シタル後ハ第一口頭弁論期日前ニ文書ノ取寄、調査囑託、証人鑑定人ノ呼出、囑託等ヲ実施スルコト

九、欠席判決制度ヲ復活スルコト但シ各審級ニ於テ一回ニ限り故障ノ申立ヲ許スモノトスルコト

十、予審手續ヲ可及的迅速ニ終結スル為メ拘留ノ更新ハ三回以上之ヲ為サルコトトシ長期ニ亘ル拘留ノ弊ヲ除クト共ニ嚴ニ公判中心主義ノ徹底ヲ図ラレタキコト

十一、現下時局ニ鑑ミ朝野法曹共ニ協力シテ開廷時間ノ勵行、訴訟準備ノ整備等審理促進ニ努ムルト共ニ期日ノ指定ニ當リテハ午前ト午後ト二分チ証人調其他ノ事情ニヨリ審理ニ長時間ヲ要スルモノト認メタル事件ハ可成之ヲ午後ニ指定セラレタキコト  
十二、判決ノ言渡ハ指定ノ期日ニ言渡ヲ勵行シ且ツ正本送達手續ハ之ヲ迅速ニスルコト

十三、民事訴訟法第百三十九条、第二百四十三条、第二百五十二条及第二百五十三条ヲ勵行セラレタキコト

十四、現行制度ヲ改善シテ地方裁判所以上ノ訴訟行為ハ必ス弁護士ヲ訴訟代理人ニ選任スヘキコト

十五、借地借家調停法及商事調停法中「訴訟ヲ中止ス」トアルヲ「中止スルコトヲ得」ト改正スルコト

十六、民刑事共期日ヲ指定スルニ當リ訴訟代理人又ハ弁護士ト協定ノ上期日ヲ指定セラレ度キコト

十七、民事訴訟ニ於ケル証拠調ハ当事者ノ希望アル場合ハ可成直接取調ヲ為シ囑託手續ニヨラサル方針ニ出テラレタキコト

十八、証人ニ対スル送達不能三回以上ニ及フトキハ原則トシテ右

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

証拠採用ヲ取消スコト

十九、訴訟審理ニ付時局ニ適應スル改善刷新ヲ行フト共ニ既ニ合同協議會ノ議ヲ經テ而モ未タ実行ニ移ササル事項ハ速ニ之カ勵行ヲ期スルコト

提出事項

一、時局ニ鑑ミ裁判權ノ獨立ニ対スル國民信賴ノ念ヲ益々厚カラシムルニ努メ殊ニ裁判ノ行政化ノ弊ニ陥ラザル様充分ノ考慮ヲ払ハレタキコト

二、經濟統制違反者ニ対スル画一的檢査及嚴罰方針ヲ改メ其檢査処罰ニ関シテハ慎重ナル考慮ヲ払ハレタキコト

三、司法省ハ弁護士會ト共同シテ統制法令ノ普及徹底並ニ統制違反ノ防遏ニ関スル施策ノ急施方ニ付キ講究セラレタキコト

四、裁判ノ公正ニ対スル疑惑ヲ一掃スル為メ判決ニ対スル檢事控訴事件及予審免訴ニ対スル檢事抗告事件ト區別シテ事件ノ分配ヲナスコト

五、檢事ハ公訴提起シタル後被告人ノ取調ヲ為スヲ得サルモノトスルコト

六、保釈又ハ責付ノ裁判ヲナスニハ檢事の意見ヲ求ムル要ナキモノト規程ヲ改正スルコト

七、偽証ヲ絶滅シ裁判ノ公正ヲ期スル為

(イ)宣誓書ノ文言ハ宣誓者ヲシテ其趣旨ヲ理解シ易カラシムル為平易ナル文言ニ改ムルコト

七三八 (二三四)

(ロ) 宣誓ニ際シテハ裁判長ハ宣誓前ニ厳肅且明確ニ宣誓ノ趣旨ヲ諭示シ偽証ノ罰ヲ警告スルコト

(ハ) 宣誓ノ朗読ハ宣誓者ヲシテ各別ニ之ヲ為サシムルコト

(ニ) 宣誓ノ方法ニ関スル刑事訴訟法ノ規定ハ民事訴訟法ノ規定ノ通改正統一スルコト

(ホ) 民事訴訟ニ於ケル偽証ノ告発アリタル場合ハ迅速ニ取調ヲ為スコト

八、人事ノ紛争ノ調停ヲ裁判所ニ非サル機関ニ於テ取扱フコトハ適當ナラサルヲ以テ總テ裁判所ノ人事調停手續ニヨリ処理セラルル様取計ハレタキコト

九、近時民事裁判ノ執行力債務者ノ不正手段ニ依リテ其效果ヲ拏ケ得サル場合尠カラス当局ハ相当ノ処理ヲ講シテ其弊ノ一掃ニ力メラレタキコト

十、和解事件又ハ調停事件ノ解決条項ノ履行力期限付又ハ条件付ナル場合ニ於ケル執行保全ノ為適當ナル規定ヲ設クルコト

十一、共助事件(証人訊問ノ囑託等)ニ付往々ニシテ数ヶ月ヲ費スモノアリ迅速ニ処理セラルル様努メラレタキコト

十二、予審中弁護届ヲ提出シアル弁護人ニ対シ終結決定書ヲ送達セシムル様司法大臣ヨリ訓令セラレタキコト

十三、仮処分ニ依リ未成年者ノ法定代理人又ハ法人ノ代表者等カ其職務ヲ停止セラレ代行者力選任セラレタル場合ニ代行者ノ公示方法ノ規定ヲ設ケラレタキコト、右代行者ニ対シ仮処分裁判

所ニ於テ其報酬ヲ決定スヘキ規定ヲ設ラレタキコト

十四、既提出事項中特ニ実行ヲ求ムヘキモノ

(1) 大審院長ヲ 天皇ノ直隸トシ司法権ノ独立ヲ確保スル制度ノ実現ヲ期スルコト

(2) 裁判所ト検事局トヲ分離シ司法権ノ獨立ニ対スル国民ノ疑惑ヲ一掃スヘク速ニ之カ実現ヲ期スルコト

(3) 司法警察官ト行政警察官トヲ分離シテ司法警察署ヲ特設シ之ヲ検事ニ隸屬セシムルコト

(4) 司法警察官ノ犯罪捜査ニ関シ行政執行法ノ濫用を嚴禁スルコト

(5) 司法権ノ威信ノ為メ捜査機関ノ人權蹂躪ノ事實ニ対シ嚴ニ之ヲ戒飭シ速ニ之カ矯正ニ関スル適切ナル方法ヲ講スルコト

(6) 各種調停法ヲ適當ニ改正シ之ヲ民事訴訟法中ニ取入レルコト

(7) 司法官ハ總テ弁護士ノ職ニ在ル者ヨリ採用スル制度ヲ確立セラレタキコト

(8) 弁護士ノ職ニ在ル者ヨリ内地外地ノ一般高等官ニ任用スルノ途ヲ開ケラレタキコト

(9) 司法官試補及弁護士試補ノ兩制度ヲ統一シ試補ハ司法官及弁護士双方ノ職務ヲ修習セシムルコト

(10) 裁判所ニ於テ選任セラルヘキ破産及和議管財人、整理委員、特別代理人、不在者財産管理人及改正商法会社編有限責任会社

法ニ基ク検査役、整理委員、監督員、管理人並清算人各種代行  
者等ハ、総テ弁護士ヲ採用シ其選任ニ当リテハ情実ヲ排シ公平  
適正ニスルコト

(11) 被拘禁者又ハ其家族親族ノ依頼ヲ受ケタル弁護士ノ申出アル  
トキハ拘禁ノ原因ヲ明示シ且何時ニテモ被拘禁者ニ接見スル  
コトヲ得ヘキ様取扱ハレタキコト

(12) 弁護士ノ代理セル告訴事件ハ動モスレハ輕視セラルル嫌ヒア  
リ普通事件ト同様迅速ニ取調ヲ為スコト

(13) 法律事務取扱ノ取締ニ関スル法律ノ徹底的勵行ヲ図ラレタ  
キコト

(14) 弁護士ノ職務地域権限拡張ニ関スル共通法改正ノ件 「共通  
法ヲ左ノ如ク改正ス 第二十条 一ノ地域ニ於テ弁護士ノ登録  
ヲ受ケ且ツ弁護士会ニ加入セル者ハ箇々ノ事件ニ付他ノ地域ニ  
於テモ弁護士ノ職務ヲ行フコトヲ得」

(15) 朝鮮ニ裁判所構成法ヲ速ニ実施セラレタキコト

(16) 朝鮮ニ訴願法ヲ速ニ実施セラレタキコト

(17) 予審判事ハ事件終結以前ト雖モ事情ノ許ス限り可成急速ニ  
保釈ヲ許容セラレタキコト

かくて、十一時四十八分會議を一時中止し、午後続行するこ  
ととなり、一同裁判所正面大玄関に至り、幸にも雨の晴間に恵ま  
れて記念撮影を行った。

午後は二時半より會議を再開し、検事局側を代表して池田東京

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

検事正は、昨秋裁判所構成法施行五十周年記念日に当り、最高法  
衙に行幸あらせられたる際賜はりたる勅語の御趣旨に遵ひ、司法  
の職に当る者は在朝たると在野たるとを問はず、各々自肅自戒恪  
勤精勵すべき旨を答申した。尋で、午前中答申事項の外に在野側  
より提出した所謂提出事項に対し、夫々の關係事項について、  
佐々木東京所長、池田東京検事正、三宅次官、板野民事局長及び  
黒川刑事局長より、簡單ながら答弁を述べ、最後に木村司法大臣  
は、一同に対し午前午後に亘る長時間に亘り熱心に協議せられら  
る勞を謝し、午後四時前閉会となった。かくて、一同少憩の後  
夫々、午後五時半から日本工業俱樂部に於て催された、法相の会  
同關係者招待会に臨んだ。

木村司法大臣挨拶(注、省略)

②司法官弁護士会長合同協議会(「新聞」昭和一五・四・二八、昭和一  
五・五・三)

○司法官会同(「新聞」昭和一五・四・二八)

十五年度司法官会同は、四月二十二日は大臣官舎に於て、同二  
十三日より二十七日まで五日間は司法省會議室、若くは法曹會館  
會議室に於て開催された。

第一日(二十二日)は、午前は九時より正午まで控訴院長検事  
長の協議会、午後は一時より同じく協議会の続行で終了。第二日  
(二十三日)午前九時より法曹會館會議室に於て、司法大臣訓示、

七三六 (三三二)

司法次官注意、民事局長指示、刑事局長指示、行刑局長指示、調査部長指示あり、この日の正午は会同員一同御陪食の光榮に浴し、午後は二時より法曹会館會議室に於て、大審院長演述、検事総長訓示、大審院民事部長注意、大審院刑事部長注意、大審院検事注意あり、第三日（二十四日）午前は九時より、法曹会館會議室に於て協議会を開き、午前十一時総理大臣官舎に於て首相の訓示あり、続いて午餐の饗応を受け、午後は二時より法曹会館會議室に於て、午前に引続く協議会あり、同五時半より紅葉館に於て司法保護協會の招待会に臨み、第四日（二十五日）は午前九時より約一時間企画院総裁の演述あり、午後は一時より司法省會議室に於て前日の協議を続行し、五時半より法曹会館に於ける法曹会の招待会に臨み、第五日（二十六日）午前は九時より、午後は一時より司法省會議室に於て、前日の協議会を続行し、第六日（二十七日）午前は九時より法曹会館會議室に於て、司法部長官、弁護士会長合同協議会あり、午後も二時より、その続行を為し、五時半より工業俱樂部に於て司法大臣招待会に臨み、全部終了した。

尚、右会同員の随行員及本省属の事務打合会も、同二十三日より二十六日まで、刑務協会三階に於て行はれ、その中二十五日の午後は、打合会を休み、靖国神社に随意参拝、六時より目黒雅叙園に於て司法次官の招待会に臨み、又二十七日は午前中見学、午後は五時半より法曹会館に於て法曹会の招待会に臨んだ。

協議事項とその順序は、左如し。

一、二十四日 所長、検事正会同  
午前及午後「管下職員の指導監督を一掃有效ならしむる方策如何」

二、二十五日 所長、検事正会同

午後一時「左記事項に關し刑事訴訟法改正の要否如何」

（一） 捜査機關の強制捜査權

（二） 検事の不起訴処分に対する不服申立

「現下の經濟事情に鑑み下級職員の待遇に付考慮すべき点如何」

三、二十六日 所長会同・検事正会同

（一） 所長会同（午前及午後）「人事調停法施行の実績に徴し考慮すべき点如何」、「戸籍事務の監督に付考慮すべき点如何」

（二） 検事正会同（午前及午後）、「現下の經濟情勢に鑑み經濟事犯の處理に付考慮すべき点如何」

四、二十七日 司法部長官、弁護士会長会同

司法大臣挨拶に引続き、午前午後ともに協議

「現下の時局に鑑み訴訟審理の促進を図る為考慮すべき事項如何」

今回の会同員及び参列員は左（注、省略）の如し。

四月二十三日司法省会同に於ける木村法相及岩村検事総長の訓示左（注、省略）の如し。

○司法部長官弁護士会長合同協議会（新聞）昭和二五・五・三

昭和十五年度司法官会同最終日、四月廿七日の司法部長官、弁

護士会長合同協議会は、既報の如く、午前は九時より十二時まで、午後は二時より五時まで、法曹会館会議室に於て行はれた。当日出席した全国弁護士会会長は、左の諸氏である。

(東京) 猪股淇清、(第一東京) 山内確三郎、(第二東京) 眞野毅、(横浜) 中村弘、(浦和) 山本角太郎、(千葉) 田中丑藏、(水戸) 大谷政雄、(宇都宮) 石田仁太郎、(前橋) 鈴木幸四郎、(静岡) 岩田實、(甲府) 厚多彦六、(長野) 宮澤要次郎、(新潟) 長谷川寛、(京都) 鍋島徳太郎、(大阪) 坂田實雄、(神戸) 原田鹿太郎、(奈良) 福本一、(大津) 滋賀房次、(和歌山) 細谷馨、(徳島) 谷原公、(高松) 河西善太郎、(高知) 大西正幹、(名古屋) 來多席榮、(安濃津) 岡村耕二、(岐阜) 矢野茂郎、(福井) 松代刈夫、(金沢) 重山徳好、(富山) 沼田勇三郎、(広島) 林美一、(山口) 藤井啓一、(岡山) 軸原憲一、(鳥取) 近藤守藏、(松江) 桐谷圓藏、(松山) 木村秀太郎、(長崎) 小山清彦、(佐賀) 堤政一、(福岡) 和智昂、(大分) 中村守、(熊本) 大淵朴、(鹿児島) 中尾勝臣、(宮崎) 江川甚一郎、(那覇) 不参、(仙台) 伊丹榮三郎、(福島) 北川次男、(山形) 佐藤治三郎、(盛岡) 河野喜藏、(秋田) 鈴木安孝、(青森) 梅村大、(札幌) 村田不二三、(函館) 高橋泰、(旭川) 大塚守穂、(釧路) 不参、(樺太) 若泉小太郎、朝鮮弁護士会(京城) 丸山敬次郎、(平壤) 金弼應、(新義州) 峰山一郎、(大邱) 岸本鋭次郎、(釜山) 栗原良哉、(光州) 松岡秀典、(全州) 久永麟一

劈頭、木村司法大臣の挨拶あり(下記、直に当会同に於ける司法省諮問案「現下の時局に鑑み訴訟審理の促進を図る為考慮すべき事項如何」といふ問題に對して、大日本弁護士会聯合会に依っ

て作成せられたる全国弁護士会長の答申は、左の如くである。

答 申、木村司法大臣挨拶(注、省略)

③司法官弁護士会長合同協議会(「公論」第四四卷第五号、昭和一五年五月号)

○大日本弁護士会聯合会第一回総会

司法部長官  
弁護士会長 合同協議会協議事項等を決定

大日本弁護士会聯合会は、今年度司法部長官弁護士会長合同協議会に臨む態度決定の爲、昭和十五年四月二十六日午前九時、上野公園精養軒に於て第一回の総会を開催し、午前午後及び慎重審議の結果、左記事項を協議決定の後、決議並規約改正の件を可決、午後五時より全国弁護士会長並朝野法曹関係者を招待し、盛大なる晩餐会を催し、九時過ぎ散会した。

協議事項右答申、提出事項(注、省略)

決 議

一、国民精神総動員本部ノ中央及ヒ地方ノ機構ニ大日本弁護士会聯合会長及ヒ弁護士会ノ代表者ヲ参加セシムルコトヲ首相並其他ノ当局ニ要望スルコト

二、規約改正ノ件

(一) 第八条ヲ左ノ如ク改ム

理事ハ控訴院所在地ノ弁護士会長及ヒ毎年四月一日現在ニ於テ會員壹百名以上ヲ有スル弁護士会長並ニ各管内其ノ余ノ弁護士

会中ヨリ輪番ニ互選セラレタル一名之ニ当ル

(二) 第六条中「九名」トアルヲ「若干名」ト改ム

(三) 左ノ規定ヲ第二十一条第二項トシテ加フルコト

常務理事ハ定時総会ニ於テ會計ノ報告ヲ為シ承認ヲ求ムベシ

三、現行調停制度ノ代案タル民事訴訟法中改正法律案ヲ本聯合会

ニ於テ作成スルコト

右作成委員ハ各控訴院管内ノ弁護士会ニ於テ之ヲ選任ス但シ委

員ノ員数ノ決定ハ常務理事ニ一任ス

四、大日本弁護士会聯合会ト其ノ所属会員トノ協力ニ依ル共済組

織ノ採否ヲ研究スルコト右研究ニ付各控訴院管内ノ弁護士会ヨ

リ委員ヲ選任スルコト但シ員数ノ決定ハ常務理事ニ一任ス

○全国弁護士会長招待会

昭和十五年度司法部長官弁護士会長合同協議会に出席中の、全

国弁護士会長招待会は、日滿法曹協会と連合主催にて、新緑の四

月二十七日(土曜日)正午より、日比谷山水楼にて開催す。来賓

会長諸氏並主催会員側も多数出席し、盛会であつた。当日出席せ

られたる会長各位は左の諸氏(注、省略)である。(略敬称)

先づ、主催両会を代表し山岡萬之助君より挨拶あり、来賓側を

代表して大阪会長坂田實雄君より町重なる謝辞ありて宴に入り、

次で各地会長の自己紹介、所見抱負等の開陳あり、和氣満つる裡

に、記念撮影を了し、散会したのは二時三十分なり。

④司法官弁護士会長合同協議会(正義)昭和十五年六月号

弁護士会長司法部長官合同協議会報告書

昭和十五年四月二十二日より四月二十六日まで五日間に亘り、

司法省に於て昭和十五年度司法官会同行はれ、引続き二十七日全

国弁護士会長及司法部長官の合同協議会開催せられたり、其の経

過大要左の如し。

司法官会同に於ける司法大臣、大審院長、検事総長の訓示及

演述(注、省略)

弁護士会長、司法部長官会同協議事項(注、省略)

全国弁護士会長打合会、大日本弁護士会聯合会総会

昭和十五年四月二十六日午前九時より、上野精養軒に於て打合

会を兼ね、大日本弁護士会聯合会第一回総会を、左記順序により

開催されたり。

午前九時開会

一、宮城遙拝

二、黙 禱

三、議 事(一)協議事項、(二)提出事項

正午休憩 午餐

一、午後一時 大日本弁護士会聯合会理事會

二、午後二時 大日本弁護士会聯合会総会

閉 会

午後五時半 懇親會

尚、出席せられたる会長左（注、省略）の如し。

決定案（注、省略）

全国弁護士会長司法部長官合同協議会

四月二十七日午前九時より、司法省構内法曹会館に於て、全国弁護士会長及司法部長官の合同協議会開催せられ、午前十一時一旦休憩、此の間大審院玄関に於て司法大臣以下朝野出席者一同の記念撮影を為したる後、午餐会に出席、午後二時より協議会を再開、午前に引続き協議を継続し、午後三時半円満裡に協議会を終了し、更に午後五時半より出席会長一同は、日本工業倶楽部に於ける司法大臣の招待会に出席し、午後九時散会したり。

木村司法大臣挨拶（昭和十五年四月二十七日司法部  
長官弁護士会長合同に於ける）（注、省略）

右報告候也

昭和十五年五月一日

第一東京弁護士会 会長 山内 確三郎  
第一東京弁護士会 御中

（注）全国弁護士会長招待会については、「帝国弁護士会第十五回通常  
総会記事」（「正義」昭和一五年五月号）中の「宴会 祝賀会・招待  
会・会員懇親会」欄に収録されている。

昭和 一六（一九四一）年

①司法官弁護士会長合同協議会（「新報」昭和一六・六・五、昭和一

広島弁護士会沿革誌（6）昭和戦前編・下

六・六・一五、昭和一六・七・五）

○時局下の司法部長官合同（「新報」昭和一六・六・五）

——二十六日より六日間開催とる——

全国司法部長官合同は、五月廿六日より卅一日まで六日間、本省大会議室並に刑務協会、法曹会館等に於て開催された。此の会同参加者は、柳川法相、三宅次官以下各局長課長（以上本省側）、長島大審院長、岩村検事総長、霜山東京控訴院長、松阪検事長以下全国控訴院長、検事長、所長、検事正等であるが、合同は左の如き日程を以て行はれた。

五月廿六日の第一日は、午前九時大臣官舎階上に於て、控訴院長、検事長協議会、午後は午前同様協議会。五月廿七日は、刑務協会に於て、午前九時会同員全員に司法大臣訓示、三宅次官の注意事項、各局長部長の指示等あり、正午は近衛首相官邸に於て、首相の訓示後午餐会、同三時再び刑務協会に於て、長島大審院長の演述、岩村検事総長の訓示、大審院部長、大審院検事の注意等あり、同日午後五時法曹会主催の会同員招待が法曹会館に開催された。五月廿八日は、午前中協議会、正午は会同員全員に対し、畏き思召を以て、宮中に於て天皇陛下の御陪食を賜った。五月廿九日は、各別の協議会を大臣官邸に於て開かれ、午後も続行。五月三十日は、司法部長官全国弁護士会長の合同協議会開催、同夜は柳川法相の招待を工業倶楽部に受け、司法部長官弁護士会長等全員出席したが、五月卅一日会同最終日は、本省会議室に於て

七三二（二三八）

各著名士の講演を聴き、新法律施行に付緊張裡に会同は終了した。因に、会同に於ける柳川法相訓示として、左（注、省略）の如くなした。

○大日本弁護士会聯合会定時総会（「新報」昭和二六・六・五）

——全国弁護士会長打合会開催——

大日本弁護士会聯合会第二回定時総会は、五月廿九日午前九時より丸の内中央亭に於て、全国弁護士会長六十九名出席の下に、今年度当番幹事第一東京弁護士会長松本烝治氏の開会挨拶によつて開会、先づ全員厳肅に宮城遙拝、次いで英霊に対し感謝の黙祷を捧げて、議事に移った。かくて、井本常任幹事の事務報告、松本常務理事の決算報告があつて後、明年五月に挙行せられる弁護士法制定五十年記念祝典に関する件を協議して総会を終った。

引続いて午前十時半より、全国弁護士会長打合会を開催。松本常務理事より、三十日午前九時より法曹会館に於て開催せられた、司法部長官全国弁護士会長合同協議会に付議すべき答申並に提出事項の整理採択すべき旨を述べ、各会の答申案二十五項並に各会の提出事項第一号乃至第十九号及各会の既提出事項中特に実行を求むべきもの等に就いて協議したが、福島、岐阜、新潟、横浜、神戸の各弁護士会長より質疑あり、結局常任幹事四名外九名の小委員を挙げ、小委員会を開催して審議する事に満場一致を以て決し、午前十一時十五分一旦休憩に入り、午後三時半再開、小委員会に於て決議された議案（別項）を満場一致可決して協議を終つ

た。かくて、午後五時半より司法部長官を招待して懇親会を開催、柳川法相以下百四十余名一堂に会し、晚餐を共にして歓談し、午後八時半盛況裡に散会した。

尚、決定した答申並に提出事項は、次の通りである。

●答申

（注）協議事項「弁護士制度ノ改正ニ付考慮スヘキ事項如何」

現行弁護士法ノ制定以来日尚浅キヲ以テ此ノ際慎重研究ヲ為サスシテ輕々ニ之レカ改正ヲ試ミルカ如キハ俄ニ賛同スル事能ハサル所ナリト雖モ政府ニ於テ弁護士制度ノ改正ニ着手セラルル場合ニ於テハ左ノ諸点ニ付考慮セラレンコトヲ望ム

一、弁護士制度ノ改正ニ関シ官民合同ノ調査研究機関ヲ設クルコト

二、現下法令ノ頒発ト其ノ範域ノ拡大ニ伴ヒ弁護士ノ職能ヲ拡充シ各般ノ法令ノ制定及実施ニ參画セシムル様具体的の方策ヲ講スルコト

三、朝野ノ法曹ニ通シテ其ノ資格教習等ノ画一ヲ計リ以テ弁護士ト司法官トノ間ノ差別ヲ撤廃セシムル様法制ヲ定ムルコト

●提出事項

第一、租税滞納処分（之二準スルモノヲ含ム）ノ為ニスル不動産及不動産ノ差押及公売ニ付テハ民事訴訟法ニ依ラシムル規定ヲ設

クルコト

第二、調停ハ一事件毎ニ原則トシテ弁護士ニシテ委員タル者一名以上ヲ委員ニ指定スル規定ヲ設クルコト

第三、民事、刑事ヲ通シテ公判ニ於テ記録ニ録取セラルヘキ事項ニ付速記ヲ為サシメタキ申出アルトキハ特別顯著ナル事情ナキ限り之ヲ拒絶セサル様執計ハレタキコト

第四、民事訴訟、人事訴訟及非訟事件ノ代理行為ハ弁護士以外ノ者ニ於テ為スコトヲ得サル規定ヲ設ケラレタキコト

第五、經濟統制違反ニ関スル被告事件ノ檢査並ニ求刑ニ付全國のニ公平ナル統制ヲ図ルコトニ顧慮セラレタキコト

第六、犯罪防止及保護觀察事務ニ弁護士ヲ參画セシムルコト

第七、時局下司法モ亦万民其所ヲ得セシムヘキ重大使命ヲ有スルコトニ鑑ミ被告人当事者其他利害關係人ニ対シ更ニ一層誠実懇切ナル態度ヲ採ラルルヤウ此ノ際其ノ方針ノ徹底ヲ期セラレンコトヲ要望ス

第八、鉱業登録ニ関スル不正防止ノ為メ登録義務者ノ印影照合確認ノ手續ヲ講セラルル様司法大臣ヨリ商工大臣ニ交渉方要望スルコト

第九、裁判所及ヒ檢事局ヨリ当事者、關係人、証人等ニ発セラルル各種ノ呼出狀ハ努メテ之ヲ平易ニシ併セテ適切ナル注意事項ヲ明示サレンコトヲ望ム

第十、判事又ハ檢事タリシ者ノ入会ニ関シ弁護士会側ニ適當ノ制

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

限ヲ設ケントスル場合ニハ之ヲ認メラレタキコト

第十一、支部並ニ裁判所ノ廢合ニヨリ能率速進ヲ計ラレタシ第十二、現行訴訟救助ヲ擴大シ貧困者ノ訴訟代理ニ関シテハ其ノ費用ハ凡テ國家ノ負担トスルコト

●既提出事項中特ニ実行ヲ求ムヘキモノ

第一、大審院長ヲ 天皇ノ直隸トシ司法權ノ獨立ヲ確保スル制度ノ實現ヲ期スルコト

第二、司法警察官ト行政警察官トヲ分離シテ司法警察署ヲ特設シ之ヲ檢事ニ隸屬セシメルコト

第三、裁判所ト檢事局トヲ分離シ司法權ノ獨立ニ対スル國民ノ疑惑ヲ一掃スヘク速ニ之ヲ實現ヲ期スルコト

第四、人事紛争ノ調停ハ總テ裁判所ノ人事調停手續ニヨリ処理セラルル様取計フコト

第五、各種調停法ヲ改正シテ民事訴訟法ニ取入ルルコト

第六、司法官ハ弁護士ノ職ニ在ル者ヨリ採用スル制度ヲ確立セラレタキコト

第七、弁護士ノ職ニ在ル者ヨリ内地、外地ノ一般高等官ニ任用スルノ途ヲ開カレタキコト

第八、事情ノ許ス限り可成急速ニ保釈ヲ許容セラレタキコト

○全国司法部長官  
弁護士会長  
会同員を帝國弁護士会にて招待（「新報」昭和一六・六・一五）

先般廿六日司法省に於て開催された、全国司法部長官会同員並

七三〇（二二六）

に司法部長官全国弁護士会長合同協議は、三十日法曹会館大会議室に於て開催されたが、此の日正午に帝国弁護士会主催の下に日比谷松本楼に是等会同員を招待した。席上第一東京弁護士会長松本丞治氏は、左の如き挨拶をなした。

今回司法省に於ける諮問に答申案を全国弁護士会より御提出戴きましたが、その内容等は非常にその意を得たもので、私より感謝の意を表しますと語ったに際し、全国弁護士会長代表として名古屋野々山会長は招待者側に対し謝辞を述べたる後、弁護士制度の改正等については、官民合同の委員会の如きものを制定し、一部の支配階級の指導原理に偏した立案にならぬよう在朝諸官の一考せられたき旨を述べて、一同談笑裡に一時半散会した。

#### ○司法部長官全国弁護士会長合同協議会

提出決議案に対する当局の意向を打診（「新報」昭和一六・七・

#### 五）

過日、司法省に於て全国司法部長官、同弁護士会長合同協議会は、既報の如く行はれたが、全国弁護士会長打合会議に於て決議された司法省へ提出決議案に対し、司法省は、「その主旨は全面的に賛成である」と答へ、全国提出されたもの、又既提出事項に関しては、成るべく実現するよう努力すると言明した。更に、今回提出事項の一乃至十二に対する司法省の解答要旨は、左の如し。

#### （事項前号参照）

提出事項の一は、此の主旨は賛成であるが、成るべく実現出来

得るように努力する。二、規定を設けることは考慮すべきだが、実際の運用に於ては提出事項内容の如きに一致したものを採用している。三、四、五、六、充分考慮する。七、全面的に賛成する。八は、勿論司法省としては賛成であるから、商工省と早速交渉する。九、此れも充分考慮し、実現に努力する。十、此の問題は、その事情を調査研究して行くべきで、考慮する必要があるので、即答は出来ない。十一、も賛成するが充分研究する。最後の第十二は、此の問題は仲々実現は困難なることで即答は出来ず、大いに研究考慮するはするが、只今どう斯うの具体的解答は出来ない、板野民事局長は答へてゐるが、第一、事項の問題は税務署関係で強制執行の差押或ひは競売処分等に関する事情を持つものである。その二は、地方独特の調停方法、詰り調停委員は所謂有力者を以て当てる。是れは、裁判所長の囑託でやれることであるのが、東京などは佐々木所長は、成るべく弁護士をして此の委員に当てるので、非常に好結果を挙げてゐる。第四、是れも、勿論地方独特のもので、民事訴訟、人事訴訟、非訟事件の代理行為であるが、地方では今でも三百代言と云ふような種類のものが、他人間の紛議等に関係する。此れは、法律事務取締規則に基き、弁護士以外は事件に関係せしめないと云ふのである。第六の件も、既に東京では弁護士を以て保護観察所の事務に参画せしめてゐる。唯問題なのは、第十、並に第十二であるが、第十は「判事又は検事たりし者の入会に関し、弁護士会則に適當の制限

を設けんとする場合は、之を認められたきこと」とあるが、此の問題は弁護士会としても、地方的に多少左右されることで、一例を見ると、大阪、名古屋、神戸などに在つては、相当重要視されてゐる。即ち、此の地方に於て、退官者が弁護士を開業した場合紛議事件等に関し、ある特別事情があつたためとされてゐるので、此の点特に司法省に於ても考慮すべきだと云ふ意見にある。

②司法官弁護士会長合同協議会（新聞）昭和一六・六・一、昭和一六・六・五、昭和一六・六・一〇）

○司法長官会同局に対応して（新聞）昭和一六・六・一）  
司法省では、五月二十六日より三十日まで五日間、司法大臣官舎階上又は刑務協会三階若くは法曹会館二階に於て、全国より招集せる控訴院長、検事長、地方裁判所長、検事正及弁護士会長を種別に会同して、時局下に於ける司法部諸問題を協議した。

第一日（五月廿六日）は、午前午後を通じて控訴院長、検事長の協議会を開き、第二日（五月廿七日）の午前は、冒頭柳川司法大臣の訓示（下記）、次で三宅司法次官の注意、民事、刑事、行刑、保護各局長、調査部長の指示あり、正午は近衛総理大臣より総理官舎で午餐の饗応があつた。午後は、長島大審院長演述、岩村検事総長訓示、この他大審院部長、大審院検事の注意あり、五時半より法曹会館で法曹会招待宴が開かれた。第三日（五月廿八日）は、午前中協議会（協議事項は下記）あり、正午は柳川法相以下

会同に参列中の司法長官等、宮中に参内、御陪食を賜はり、午後には協議会を開いた。第四日（五月二十九日）も前日同様、午前午後を通じて、協議会を開き、第五日（五月三十日）は、午前午後とも、全国司法長官弁護士会長の合同協議会（協議事項は下記）を開き、午後五時半より工業クラブに於て、一同柳川司法大臣の招待宴に臨んだ。尚、三十一日は、午前九時より司法省大会議室に於て、会同員に対し、時局に関する講演会が行はれた。

当会同に於ける会同員は、控訴院長七名、検事長七名、地方裁判所長五十二名、検事正五十一名、大審院長、検事総長当等合計百六十一名で、参列員は大審院より判事二名、検事一名、朝鮮総督府より判検事九名、台湾総督府より判検事六名、関東局より判検事三名、満洲国より判検事二名、合計二十三名であつた。

協議事項は左の如し。

司法長官会同協議事項

地方裁判所長、検事正協議事項

一、時局下に於て司法の機能を益々發揮する為、特に考慮すべき事項如何。

例へば、(1)職員の仕事負担、(2)職員の能率の増進、(3)事務の簡素化、(4)判事補、検事補制度、(5)其の他

地方裁判所長協議事項

一、強制執行の実績を挙ぐる為、制度、法令の改正に付考慮すべき事項如何

二、各種経済統制法令の実施に關し、民事事務取扱上特に考慮すべき事項如何  
検事正協議事項

一、檢察指揮權の確立に付、此の際特に考慮すべき事項如何  
二、少年犯罪の現状に鑑み之が対策に付、特に考慮すべき事項如何

司法長官、弁護士会長合同協議事項

一、弁護士制度の改正に付考慮すべき事項如何

聖慮畏し司法長官に法況御下問、柳川司法大臣訓示（注、省略）

○朝野法曹大懇親会第一東京弁護士会の主催で「新聞」昭和一六・

六・五

大日本弁護士会聯合会の常務理事である第一東京弁護士会では、去る五月二十九日午後五時半から、司法長官会同列席の爲め上京した、各長官並に各地弁護士会長を丸の内中央亭に招待して、大懇親会を開催したが、柳川法相始め司法部各長官、弁護士会長等百三十名の出席あり。主催者として第一東京弁護士会長松本丞治氏の挨拶について、東京刑事地方裁判所長島保氏、大阪弁護士会長福島武之助氏より夫々謝詞あつて、薫風駘蕩たる裡に一同歡を尽して七時半散会した。

○帝国弁護士会主催の全国弁護士会長招待会（「新聞」昭和一六・六・一〇）

司法部長官弁護士会長合同協議会のため上京した全国弁護士会

長は、五月三十日午前十一時、裁判所前玄関に於ける記念撮影の後、帝国弁護士会主催の全国弁護士会長招待会に出席した。席上主催者側を代表して岩田宙造博士の挨拶あり、之に対し來賓側を代表して、京都弁護士会長榎木義雄氏の謝詞あり、一時半終了し、一同は午後二時から法曹会館二階で再開される司法部長官弁護士会長の合同協議会へ臨んだ。

○司法部長官弁護士会長合同協議会（「新聞」昭和一六・六・一〇）  
既報、五月三十日午前九時より午後五時まで（正午より二時間休憩）法曹会館二階会議室に於て、司法部長官と弁護士会長が合同、司法省諮問案「弁護士制度改正につき考慮すべき事項如何」に關して協議会を開いたが、開催劈頭柳川司法大臣は左記（注、省略）の挨拶を述べた。

右了つて、直に協議に入ったが、結局左の答申並に提出事項を提出して閉会した。

答申、提出事項、既提出事項中特に実行を求むべきもの（注、省略）

③司法官弁護士会長合同協議会（「正義」昭和一六年七月号）

弁護士会長司法部長官合同協議会に関する報告書

昭和十六年五月二十六日より五月二十九日迄四日間に亘り、司法省に於て、昭和十六年度司法官会同行はれ、引続き三十日全国弁護士会長及司法部長官の合同協議会開催せられたり。其の経過大要左の如し。

司法官会共に於ける司法大臣、大審院長、検事総長の訓示及演述

柳川司法大臣訓示（昭和十六年五月二十七日）  
（司法官会共に於ける）（注、省略）

長島大審院長演述（昭和十六年五月司法官  
会同席上に於ける）（注、省略）

岩村検事総長訓示（昭和十六年五月二十七日検事  
長検事正会同席上に於ける）（注、省略）

一、弁護士会長、司法部長官会同協議事項

（一） 弁護士制度ノ改正ニ付考慮スベキ事項如何

二、第一東京弁護士会答申並提出事項（昭和十六年五月二十日）  
（常議員会ニ於テ決定）

（一） 答申

弁護士制度ノ改正ハ此際必要ナキモノト認め

（二） 既提出事項中特ニ実行ヲ求ム可キモノ（注、省略）

第一、事務

全国弁護士会長及司法部長官会同協議会の協議事項は、司法省より全国弁護士会に対し之を通達せられ、且各弁護士会は之に対する答申と共に各々希望する協議事項を併せ提出すべき旨を併せて通告せられたり。右に付、全国弁護士会長は、各自右答申及協議事項の提案を為すに於ては重複煩雑に渉るを以て、従来之を整理統一して全国弁護士会の主張を明確にし及之をして權威あらしむる為、便宜右に付東京に於ける三弁護士会（聯合会常務理事）に其の処理を依頼し、在京三弁護士会は毎年其当番幹事となりて、予め大日本弁護士会聯合会事務所に於て全国弁護士会の答申及提

広島弁護士会沿革誌（6）昭和戦前編・下

出案を取纏め、之を当番会に於て整理したる上、会同全国会長の打合会を開き、答申及提案の統一を為し来りたる慣例あり。

昭和十六年度会同に付ては、我第一東京弁護士会が其の当番幹事たる順番にありたるを以て、本会会長は、従来慣例に依り、大日本弁護士会聯合会より全国弁護士会の答申案及提出案の一括転送を受けて之を整理したる上、之に付全国弁護士会長の打合会を催す等の労を執りたり。然る所、幸ひにして全国弁護士会長の意見の統一ありたるを以て、司法省に於ける全国司法部長官弁護士会長合同協議会に於て、全国弁護士会長を代表して答申及提出各案を演述し及以下記載するが如き経過及結果を以て、本年度の合同事務を終了したり。

第二、申出案及其の整理

全国弁護士会より聯合会宛に送付せられたる案の総数は、答申案に於て二九、会長提出協議事項案に於て八に達したるが、之を各控訴院管内別に区別すれば左の如し。

地方名	東京	大阪	名古屋	広島	長崎	仙台	札幌	朝鮮	台湾	関東州	計
提出案	1	2	2	1	1	0	1	0	0	0	8
答申案	9	3	3	4	4	0	2	2	1	1	29

右に付、予め開催せらる、全国弁護士会長打合会準備の為め、

七二六（二二二）

案の整理を為し、特に答申案の整理に関しては、別項（注、省略）の通り二五項目に分類し、提出協議事項に付ては、新に申出られたるものと、既に従来提出せられたるものと、聯合会に対する希望とに區別整理したり。

第三、全国弁護士会長打合事項

一、答申案

（分類一覧）（注、省略）

第一、職域拡張二関スルモノ

十五、弁護士ノ職域ヲ拡張スルコト、（ト）弁護士ノ関与セル裁判外ノ和解並ニ私法上ノ契約ニ一定ノ公力ヲ附与スル制度ヲ設クルコト

（広島）（注、その余は省略）

（職域拡張ノ事項別）

（一）弁護士代理主義 チ、弁護士訴訟主義ノ徹底（広島）

（四）破産等二関スル事務 ハ、和議整理委員、和議管財人、破産管財人、監査委員並各種代行者ニ任スルコト其他弁護士法律奉仕ノ職能ヲ拡充シ之ヲ法制化スルコト（広島、札幌）

（六）公私法人ノ法律顧問事務 ホ、弁護士ヲシテ公、私人ノ法律顧問タルコトヲ法制化スルコト（広島）

（七）官庁ノ委員 ホ、弁護士ニ別ニ法律委員ナル資格ヲ附与シ各種法律事務ニ参画セシムルノ制度ヲ樹立スルコト（広島）

（九）監査役、検査役、監査機関 ニ、商事関係法規ヲ整備シ監査役検査役並合名会社、合資会社ニ新タニ監督機関ヲ設ケ之カ機関ニ任スル

コト（山口、広島、札幌）。ホ、民事関係法規ヲ整備シ法人ノ監事並後見監督人及不在者ノ財産又ハ相続人曠欠若クハ不明ノ相続財産ノ管理人ニ任スルコト（山口、広島、札幌）（注、その余は省略）

第二、弁護士ノ名称二関スルモノ

一、弁護士タル名称ヲ改称スルコト（新潟）

第三、弁護士ノ定員制二関スルモノ

九、弁護士定員制ノ確立（広島）

十、弁護士登録制限制（広島）（注、その余は省略）

第四、弁護士事務所二関スルモノ（注、省略）

第五、弁護士会二関スルモノ

四、弁護士会機構及弁護士員数の統制（一）弁護士会ヲ單一化シ全国ヲ一弁護士会トシ各地ニ支部ヲ設置スルコト（広島）（注、その余は省略）

第六、共済制度二関スルモノ

一、共済制度ノ新設（長野）

第七、判事、検事タリシ者ト弁護士資格トノ関係

二、司法官カ野ニ下リテ弁護士ヲ開業スル場合ニ於テ一ヶ年以内ハ其ノ最後ニ在職セシ裁判所ヲ管轄スル控訴院管内ニ於テ開業スルコトヲ得サル規定ヲ置カレタキコト

（理由）司法官ヨリ弁護士ニ転スル場合ニ於テ其ノ事前ニ在リテハ後日開業ノ意図ニ因リテ職務遂行ノ完璧ヲ望ミ得サルヤノ感アリ、事後ニ在リテハ在官中ノ因縁ヲ業務上ニ利用スルノ弊ナキニ非ス少クトモ其ノ事態ヲ惹起スヘキ虞アルヲ免レスクテハ司法ノ尊嚴ヲ害スルコト

大ナリト言フヘシ仍テ或程度ノ制限ヲ加ヘテ禍根ヲ断ツノ要アリト信ス（大阪）（注、その余は省略）

第八、弁護士ノ国家的表彰制度

一、弁護士ニ対スル国家的表彰制度ヲ設クルコト（長野）

第九、弁護士試験ニ関スルモノ（注、省略）

第十、弁護士報酬ニ関スルモノ（注、省略）

第十一、弁護士ノ職域ノ制限ニ関スルモノ

一、訴訟ノ促進ヲ図ル為メニ弁護士ノ職務地域ヲ其所属控訴院管内ニ限定スルコト（佐賀）

第十二、弁護士ノ風紀ニ関スルモノ（注、省略）

第十三、弁護士ノ生活安定ニ関スルモノ（注、省略）

第十四、司法制度ノ一元化ニ関スルモノ（注、省略）

第十五、内外地ニ共通スル弁護士制度ヲ設クヘシト為スモノ（注、省略）

第十六、弁護士制度ノ公共性ヲ強化スルコト

一、弁護士制度ノ公共性ヲ強化スルコト

（理由） 弁護士ハ国民ノ正当ナル権義ヲ擁護シ裁判ノ適正ニ行ハルル為司法権ノ運営ニ協力スルモノニシテ其ノ対象タル個人ノ權益ハ又一面社会秩序ノ一環ヲ為シ之ヲ社会ヨリ観レハ公益タリト言フヘク法治国ニ於ケル法律秩序維持ノ一部門ヲ担当スヘキコトノ機関ナルカ故ニ其ノ本質ニ鑑ミ業務ノ営利化ニ墮セサル様弁護士ノ品位向上事務処理ノ完璧、報酬ノ合理化及一般社会人ノ事件依頼ニ関シ弁護士ニ対スル認識

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

ノ是正等ヲ期シ以テ弁護士ノ自由主義的傾向ヲ排シ其ノ生活圈ニ於テ自戒自肅減私奉公ノ時局線ニ沿ヒ司法ニ協力スルノ実ヲ挙ケ以テ其ノ機能ノ真価ヲ高揚セントスルニ在リ（広島）

第十七、弁護士停年制（広島）

第十八、弁護士再教育制度の創設

（理由） 弁護士ノ公的性質ヲ拡大強化シ護法遵法ノ本義ニ基キ弁護士ヲシテ法律奉仕ノ職責ヲ全カラシムル為メ民刑事訴訟事務ノ外各種法律事務ノ畛域ニ進出セシメ法律指導ノ精神ヲ發揮シ其崇高ナル天職ヲ尽サシムルト共ニ弁護士ノ統制化ヲ図リ其ノ生活圈ヲ擁護シ弁護士ヲシテ安シテ其ノ職ニ在ラシメ更ニ之ニ後進ノ途ヲ開キ尚常ニ修養ヲ為サシメ社会ノ師表トシテ其ノ地位ノ向上責任ノ加重ヲ期シ弁護士制度ノ發達ニ資セントスルモノナリ（広島）

第十九、弁護士ノ在野法曹タル独立不羈ノ地位ヲ堅持スルコト

（福岡）

第二十、弁護士タル資格及弁護士会入会ノ要件（注、省略）

第二十一、弁護士職服ハ之ヲ廃止スルコト（札幌）

第二十二、弁護士制度ノ改正ト関係ナキモノ

四、弁護士ノ干渉セル裁判外ノ和解並ニ私法上ノ契約ニ一定ノ效力ヲ附与スルノ制度ヲ設クルコト（山口、広島）（注、その余は省略）

第二十三、新体制又ハ大政翼賛ト関係セシメタルモノ（注、省略）

第二十四、聯合会ノ決議ト同様トナスモノ（注、省略）

第二十五、弁護士制度ノ改正ニ直接触レサルモノ（注、省略）

七二四 (二一〇)

二、提出事項

第一、朝野法曹ノ修養及研究ニ関スル国家ノ統一の施設ヲ確立スルコト（大阪）（注、「理由」省略）

第二、各地方裁判所区域毎ニ朝野法曹ノ協議会ヲ設ケ司法ノ進歩、發展ニ不斷ノ努力ヲ為スヘキ施設ヲ為サレタキコト（大阪）（注、「理由」省略）

第三、不動産競売ニ際シテハ執達吏ノ外執行係判事ヲ立会セシメ裁判所ノ予メ定メタル最低競売価格ニテ競売人ナキトキハ其ノ競売期日ニ於テ或程度迄最低競売価格ヲ引下ケ競売スルコトヲ得ル規定ヲ設クルコト（大阪）（注、「理由」省略）

第四、租税滞納処分（之ニ準スルモノヲ含ム）ノ為ニスル動産及不動産ノ差押及公売ニ付テハ民事訴訟法ニ依ラシムル規定ヲ設クルコト（大阪）（注、「理由」省略）

第五、一審ノ弁論終結シタル事件ニ付テハ調停ノ申立ヲ許ササルコトノ規定ヲ設クルコト（大阪）（注、「理由」省略）

第六、調停ハ一事件毎ニ弁護士ニシテ委員タル者一名以上ヲ委員ニ必ス指定スル規定ヲ設クルコト（大阪）（注、「理由」省略）

第七、民事、刑事ヲ通シテ公判ニ於テ記録ニ録取セラルヘキ事項ニ付速記ヲ為サシメタキ申出アルトキハ特別顯著ナル事情ナキ限り之ヲ拒否セサル様執計ハレタキコト（大阪）（注、「理由」省略）  
第八、民事訴訟、人事訴訟及非訟事件ノ代理行為ハ弁護士以外ノ者ニ於テ為スコトヲ得サル規定ヲ設ケラレタキコト（大阪）（注、

「理由」省略

第九、經濟統制違反ニ関スル被告事件ノ檢挙並ニ刑ノ量定ニ付キ全国的ニ公平ナル統制ヲ図ルコトニ顧慮セラレタキコト（大阪）（注、「理由」省略）

第十、法令告示ノ制度改廃ニ弁護士ヲ参画セシムルコト（名古屋）

第十一、公共団体ノ權利義務ニ関する行政官庁ノ委員会ニ弁護士ヲ参与セシムルコト（名古屋）

第十二、犯罪防止及保護觀察事務ニ弁護士ヲ参画セシムルコト（名古屋）

第十三、計理士ガ其職務タル會計ニ関スル事務以外ノ法律事務ヲ取扱フ実状ニ対シ司法省ニ於テ之カ絶止ノ方法及交渉ヲ当局ニ為サレ度キコト（名古屋）

第十四、（追加）時局下司法モ亦万民其所ヲ得セシムヘキ重大使命ヲ有スルコトニ鑑ミ被告人当事者其他関係人ニ対シ更ニ一層誠実懇切ナル態度ヲ採ラルルヤウ此ノ際其ノ方針ノ徹底ヲ期セラレンコトヲ要望ス

近時時局愈々重大性ヲ加ヘ高度国防国家体制ノ確立強化ニ邁進スヘキノ秋ニ当リ經濟違反日ニ続出シ頗ル寒心ニ堪ヘサルモノアリ当局之カ撲滅ヲ期シ其取締ヲ嚴ニシ護法遵法ノ徹底ヲ図ルノ急ナル為メ之等被告人ニ対シ非国民的の取扱ヲ為ス嫌ナキニ非サルノミナラス民事事件ニ於テモ亦或種ノ制肘ヲ加ヘテ權利ノ主張ニ不安ノ念ヲ抱カシムル傾向アリ固ヨリ建訟濫訴ノ弊ハ之ヲ排スヘキモ斯クテハ引イテ国民思想ノ悪化ヲ招来スルノ虞アリ時局ニ鑑ミ此際更ニ一層懇切ナル態度ノ徹底ヲ要望する次第

ナリ（広島）

第十五（注、省略）

三、既提出事項中特ニ実行ヲ求ムベキモノ

第一（注、省略）

第四、全国弁護士会長打合会、大日本弁護士会聯合会第二回  
定時総会

昭和十六年五月二十九日午前九時より丸の内中央亭に於て大日本弁護士会聯合会第二回定時総会を、左記の順序により開催せられたり。

大日本弁護士会聯合会第二回定時総会

一、開会 午前九時

一、宮城遙拝 二、黙禱（英霊） 三、議事（一）事務報告、（二）会計報告（決算）、（三）議案審議

一、閉会

昭和十六年度全国弁護士会打合会

一、開会 午前十時

（一）協議事項、（二）提出事項

一、正午（午餐） 休憩

一、閉会

懇親会 午後五時半

尚、出席せられたる会長、副会長、左の如し。（敬称略）

（第一東京）常務理事松本恭治、副会長・幹事井本常作、副会長・幹事小林

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

一郎、（第二東京）常務理事小野田靜、幹事・幹事澤柳淳、幹事・幹事原暉三、（東京）常務理事乾政彦、副会長・幹事水野東太郎、副会長・幹事栢原語六、副会長・幹事長野國助、（横浜）理事兒玉正五郎、（浦和）柳澤傳吉（千葉）一瀬房之助、（水戸）鈴木周、（宇都宮）副会長君島貞一、（前橋）太田義雄、（静岡）中田驥郎、（甲府）青柳孝、（長野）水津靜吉、（新潟）舟崎仁一、（京都）理事榎木義雄、（大阪）常務理事福島武之助、（神戸）理事西川誠、（大津）理事八塚英一、（和歌山）副会長眞田重二、（徳島）岡林一美、（高松）長尾秀太郎、（高知）井上熊兄、（名古屋）理事野々山藤重、（三重）阿坂久雄、（岐阜）片桐孝之助、（福井）副会長長橋本太一、（金沢）理事重山德行、（富山）深井龍太郎、（広島）理事森田恪藏、（山口）原田市之進、（岡山）小脇芳一、（鳥取）副会長上原準三、（松江）難波督、（松山）理事宇和川濱藏、（長崎）理事陣内惣三郎、（佐賀）堤政一、（福岡）理事鶴田英夫、（大分）理事古本春藏、（熊本）石坂繁、（鹿児島）中尾勝臣、（宮崎）福澤文夫、（仙台）理事佐々木幸助、（福島）理事北川次男、（山形）佐藤治三郎、（盛岡）工藤祐造、（秋田）鈴木安孝、（青森）梅村大、（札幌）副会長理事代理藤田作次、（旭川）大塚守穂、（樺太）菅沼寛太郎、（京城）大山光高、（大田）林昌洙、（咸興）清原格晩、（平壤）木島文市、（大邱）李愚益、（釜山）八橋容、（台北）長尾景德、（台中）渡邊彌徳、（関東州）寺島由松

大日本弁護士会聯合会第二回定時総会閉会后、午前十時より打合会を開く。本会松本会長は、当番幹事として、従来の例に倣ひ開会の辞を述べ、且つ各会提出の案を整理したる方法を解説した

七三二（二八）

る後、協議進行の順序につき注意し、議長を如何にすべきかを諮りたる処、満場一致当番幹事を議長に推挙し、議長は先づ答申案（協議事項）より協議を進むる旨を述べ、討議に入りたり。答申案並議事進行等に付、各弁護士会長より種々意見の開陳あり、兒玉横浜弁護士会長は、時間の関係上本会議を一旦休憩し、其の間整理採択に関する小委員約十名内外を選定し、該小委員会に於て各会提出の意見全部に付慎重審議の上、綜合的大綱意見を採決せられ度き旨の緊急動議を提出す。松本議長は、右を満場に諮れば、一同異議なく、小委員の選定方議長一任に決したり。

依而、松本議長は乾東京、小野田第二東京、福島大阪弁護士会長と協議の上、左記の通り、小委員を指名したり。

小委員氏名（敬称略）（第一東京）松本蒸治、（第二東京）小野田靜（東京）乾政彦、（大阪）福島武之助、（横浜）兒玉正五郎、（京都）樫木義雄、（神戸）西川誠、（名古屋）野々山藤重、（広島）森田恪藏、（長崎）陣内惣三郎、（福岡）鶴田英夫、（仙台）佐々木幸助、（札幌）会長代理藤田作次

議長は一旦打合会の討議を打ち切り、午後三時半まで休憩する旨を述べ、小委員会を別室に於て開会。同小委員会に於て、各会提出意見に付慎重逐条審議、別項の通りの案を得たるを以て、午後三時半打合会を再開、該案に付満場に諮りたる処、満場一致原案通り採決したり。

以上により、打合会の全部を無事終了したり。時に午後四時十

分なり。

決定案（注、省略）

懇親会

右打合会終了後、午後五時半より中央亭に於て、当番幹事主催にて会同の爲上京中の全国司法部長官、及弁護士会長の招待会を盛大に開催したり。出席者は柳川司法大臣以下百三十名なり。

（敬称略）

松本会長挨拶（注、省略）

第五、全国弁護士会長及司法部長官合同協議会

経過

五月三十日午前九時より、司法省構内法曹会館に於て、全国弁護士会長及司法部長官の合同協議会開催せられ、午前十時半休憩。此間大審院玄関に於て大審院長以下朝野合同協議会出席者一同の記念撮影を爲したる後、全国弁護士会長は、正午日比谷松本楼に於ける帝国弁護士会主催の全国弁護士会長招待午餐会に出席したり。

午後二時より協議会を再開、午前に引続き協議を継続し、午後二時四十分極めて円満裡に協議会を終了し、更に午後五時半より出席会長一同は、工業倶楽部に於ける司法大臣の招待会に出席し、午後八時散会したり。

会議の内容

合同協議会の会議の内容は、司法省速記録の如し、今其の概要

を記述すれば左の如し。

柳川司法大臣挨拶（注、省略）

次で、柳川司法大臣は、議長席に就き、協議事項に付会議を開くべき旨を宣し、劈頭佐々木東京民事地方裁判所長、池田検事正より、意見開陳あり、続いて松本代表会長より前掲全国弁護士会長打合会決定案答申並協議事項に付順次詳細なる理由演述し、右に関連し三宅司法次官の意見開陳後、司法省裁判所検事局等の意見は午後に譲ること、し、一旦休憩したり。

（柳川司法大臣は開会挨拶後、同大臣の都合により退場せられたるに付、三宅次官議長席に就き、議事を進行したり）

午後二時会議を再開し、官庁側は岩村検事長、三宅次官、板野民事局長、秋山刑事局長、森山保護課長、石田会計課長、佐々木東京民事裁判所々長、池田検事正より、各其所管事項に付、代表的意見の開陳あり、司法部長官側は、提出各事項全部に対し、何れも趣旨に於て賛成、異議なき旨を述べられ、最後に三宅次官の挨拶ありて、円満裡に会議を終りたり。

右報告候也

昭和十六年六月一日

第一東京弁護士会

会長 松本 烝治

第一東京弁護士会 御中

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

昭和一七（一九四二）年

①司法官弁護士会長合同協議会（「新報」昭和一七・五・二五、昭和一七・六・五）

○全国司法長官会同（「新報」昭和一七・五・二五）

——大東亜建設対処の心構強調——

全国司法長官会同は、別項日程の通り、二十五日より十日まで六日間、司法大臣官舎に於て開催せられるが、第一日の二十五日は、午前九時司法省大会議室に於て開会、本省側は岩村法相、大森次官以下各局部課長、裁判所側、長島大審院長、松阪検事総長、霜山東京控訴院長以下全国各院長、秋山東京検事長以下全国各検事長、佐々木東京民事地方、島東京刑事地方以下全国各地方裁判所長、金澤東京検事正以下全国各検事正、その他外地司法長官等百四十名出席、先づ、岩村法相の訓示があり、次いで大森次官の注意、各局部長の指示があり、正午一同官中に参内、午後三時再び本省に於て協議を続行、「大東亜戦争に即応して職員気風を一層緊張せしむるため考慮すべき事項」につき協議、午後五時半より法曹会館に於ける法曹会長招待晩餐会に臨んで第一日を終った。

法相訓示要旨（注、省略）

司法官会同協議事項

地方裁判所長、検事正協議事項

一、大東亜戦争に即応して職員の気風を一層緊張せしむる為考

七二〇（二一六）

慮すべき事項如何

地方裁判所長協議事項

一、登記制度の運用の改善に付考慮すべき事項如何

二、選挙法違反事件の適正敏速なる処理に付考慮すべき事項如何

何

検事正協議事項

一、戦時犯罪に対する檢察を一層有效ならしむるに付考慮すべき事項如何

二、書類の作成に関し司法警察官吏の訓練上考慮すべき事項如何

何

何

会同日程

五月二十五日 午前中、司法大臣訓示、司法次官注意、各局長・部長指示（自九時於大会議室）、正午、御陪食、午後、協議会

（自三時於大会議室）、法曹会長招待晚餐会（午後五時半於法曹会館）

五月二十六日 午前、大審院長演述、検事総長訓示、大審院部長注意、大審院検事注意（自九時於大会議室）、総理大臣訓示、午餐（正午於総理官舎）、協議会（自二時於大会議室）

五月二十七日 各別協議会（自九時於大臣官舎階上）、各別協議会（自二時於大臣官舎階上）

五月二十八日 司法部長官弁護士会長合同協議会（自九時於法曹会館二階）、同上協議会（自二時於法曹会館二階）、司法大臣招

待晚餐会（午後五時半於工業クラブ）

五月二十九日 講演（奥村情報局次長）（自九時於大会議室）、協議会（各別）（自二時於大臣官舎階上）

五月三十日 控訴院長検事長協議会（自九時於大臣官舎階上）、同上協議会（自二時於大臣官舎階上）

書記長協議会

司法長官会同と併行して、刑務協会三階に於て開催せられる書記長協議会の日程は、次の通りである（注、省略）。

○司法部長官弁護士会長合同協議会（「新報」昭和二七・六・五）

—— 提出事項は要望に副ふ様考慮 ——

司法部長官弁護士会長合同協議会は、大日本弁護士会聯合会定時総会開催の翌廿八日午前九時より、法曹会館二階に於て開催せられ、司法部より岩村法相は臨時議会出现の爲め欠席以外は、大森司法次官以下司法省各局部課長外高等官及長島大審院長、松阪検事総長、霜山東京控訴院長、秋山東京検事長以下全国司法部長官並朝鮮、台湾、閩東局、南洋庁、満洲国、蒙古聯合自治政府外地司法官百四十余名、全国各弁護士会長全員出席、大森次官議長をつとめて、和氣溢る、霽開氣の中に議事を進行、大日本弁護士会聯合会当番幹事仁井田第二東京弁護士会長より前日の定時総会に於て決定せる答申並提出事項の趣旨を敷衍説明し、午後も引き続き協議を続けたが、司法当局では諮問案に対する答申に付ては全面的に満足賛意を表し、提出事項に付ても提出の意を諒し、出

來得る限り要望に副ふ様考慮する旨を明かにした。かくて、午後四時合同協議会を終り、五時半より工業俱樂部に於て司法大臣招待の晚餐を共にし、同八時盛會裡に散會した。

大日本弁護士會聯合會の答申並提出事項は次の通り。

### ●答申

(注) 諮問事項「大東亞戰爭下ニ於テ遵法精神昂揚ノ必要一層緊切ナルモノナリト認ム之ニ付考慮スヘキ事項如何」

- 一、法ハ国体ノ本義ヲ顯現スルモノナルコトヲ明徴ニシ法ニ遵由スルハ即チ皇國道義ノ実践ナル所以ヲ宣揚スルコト
- 二、特ニ大東亞戰爭下ニ於テハ從來ノ誤レル個人主義的權利思想ヲ是正シ國民ノ義務觀念ヲ一層昂揚スルニ努ムルコト
- 三、朝野合同ノ機關ヲ設ケ学校教育教材ノ提供、講演、放送、新聞、雜誌等ノ利用其ノ他適切ナル方法ヲ講シ前記各項ノ趣旨ノ達成ヲ図ルコト
- 四、特ニ新法令ノ制定公布ノ場合ニ於テハ前項ノ方法ヲ活用シ其ノ趣旨ヲ一般大衆ニ周知徹底セシムルコト
- 五、法令特ニ統制法規ノ整備統合、簡易平明化ヲ図リ且解釈ヲ統一シ其ノ運用ニ際シテハ各關係官庁間ノ連絡ヲ緊密円滑ナラシメ指導ニ重点ヲ置キ事務ノ処理及質疑ニ対スル応答等ハ努メテ懇切迅速ヲ期スルコト

広島弁護士會沿革誌 (6)昭和戦前編・下

六、統制法規等ノ運用ニ関シ官民合同ノ組織アル相談所ヲ各地ニ設クルコト

七、各種調停ニ当リテハ法ノ精神ヲ毀損セサル様留意スヘキコト  
八、局ニ当ル者ニ於テ率先遵法ノ範ヲ垂示スルコト

### 提出事項

### ●新提出事項

- 第一、大戦下ニ於ケル法曹ノ本分ヲ果ス為法律學者、司法官、弁護士中ヨリ各適任者ヲ選定シテ委員會ヲ設ケ主トシテ緊急ノ要務タル左記事項ヲ考究及指導セシムルコト
- 一、司法制度ノ予防主義的指導主義的展開ヲ實現スルコト
- 二、大東亞ノ建設及大戦下ノ時局推進ニ関スル企画運営等ノ各局面ニ付法曹力不斷ニ協力スヘキ方法ヲ講スルコト
- 第二、時局ニ鑑ミ民刑事件ノ迅速ナル処理ヲ痛感スルモ審理ハ飽迄慎重ヲ期シ以テ司法尊重ノ念ヲ喚起スル様特ニ留意セラレンコトヲ要望ス
- 第三、戦時刑事特別法等ニ依リ弁護士ノ選任期間ノ定メアルモノニ付テハ被告人又ハ其ノ親族ヲシテ選任ノ機ヲ失セシメサル様適當ナル方法ヲ講セラレ度キコト
- 既提出事項中特ニ実行ヲ求ムルモノ
- 第一、大審院長ヲ 天皇ノ直隸トシ司法權ノ獨立ヲ確保スル制度ノ實現ヲ期スルコト
- 第二、司法警察官ト行政警察官トヲ分離シテ司法警察署ヲ特設シ

七二八(二四)

之ヲ検事ニ隸属セシムルコト

第三、裁判所ト検事局トヲ分離シ司法権ノ独立ニ対スル国民ノ疑

惑ヲ一掃スヘク速ニ之カ実現ヲ期スルコト

第四、司法権ノ威信ノ為捜査機関ノ人權蹂躪ノ事実ニ対シ厳ニ之

ヲ戒飭シ速ニ之カ矯正ニ関スル適切ナル方法ヲ講スルコト

第五、犯罪捜査ニ関シ司法警察官ノ行政執行法ニ基ク検束処分ニ

依リ人權蹂躪ノ弊風アルニ鑑ミ之ヲ防遏スル為メ検事局直属の

司法警察官ヲ設ケラレタキコト

第六、司法警察官カ刑事々件ノ被疑者ヲ行政執行法ニ依リ長期ニ

亘リ拘禁スル者アリ之ヲ改善スル様司法大臣ニ於テ内務大臣ト

協議ノ上内務大臣ヨリ府県知事ニ通達スル方法ヲ採用セラレン

コトヲ求ム

第七、犯罪捜査ノ任ニ当ル警察官ヲシテ人權擁護ノ思想ヲ更ニ涵

養セシムル様常ニ顧慮セラレタキコト

第八、一ノ地域ニ於テ登録シ且弁護士会ニ加入シタル弁護士ハ他

ノ地域ニ於テモ箇々ノ民刑事事件ノ取扱ヲ為シ得ル様共通法ヲ改

正セラレタキコト

第九、朝鮮ニ裁判所構成法、訴願法、行政裁判所法ヲ速カニ実施

セラレタキコト

第十、刑事訴訟法上保釈ノ規定ヲ適當ニ運用スルコト

第十一、法規ノ立案等ニ当リテハ密ニ司法省関係ノ分ノミナラス

他省ノモノニ付テモ在野法曹ヲ委員ニ選任シ若クハ其ノ意見ヲ

徴セラレタキコト

第十二、司法部職員ノ官位ヲ高クシ職名ヲ變更スル等精神的優遇

ノ途ヲ講シ之ニ対スル尊崇ノ念ヲ昂揚スルト共ニ物質的待遇改

善モ考慮シテ一層人材ノ登用ヲ計ラレタキコト

○日弁聯定時総会弁護士名簿作成に決定(「新報」昭和一七・六・五)

大日本弁護士会聯合会の定時総会は、五月廿七日午前九時より、

上野精養軒に於て開催せられ、本年度当番幹事第二東京弁護士会

長仁井田益太郎氏議長となつて開会、同氏議會へ出席のため、奥

山八郎氏代つて議長となり、協議に入り、司法部長官弁護士会長

会同協議事項等九議案を附議して、それぐ次の通り決定した。

一、司法部長官弁護士会会長会同協議事項審議の件——答申並提出

事項共に原案通り(別項司法部長官弁護士会同欄記載)可決

二、昭和十六年度事務報告の件(承認)

三、昭和十六年度決算報告の件(承認)

四、式典經費分担の件(可決)

五、本会に於て全国弁護士名簿を作成するの件は、審議の結果次

の通り決定。

1、本会に於て全国弁護士名簿を作成すること

2、名簿は毎年五月一日現在を以て作成すること、但昭和十七

年度に限り六月一日現在とする。

3、全国各弁護士会は毎年五月十五日迄に其の所属会員の氏名、

事務所、住所、電話番号、出身地等を本会事務所に通知し、

同時に購入部数の申込をなすこと、昭和十七年度は六月十五日迄に前記の通知をなすこと

4、各会の記載順序は司法省の記載順序によること

5、其他の事項は常務理事会に一任する

六、諮問事項等の接受答申に関する件は原案通り可決、即ち

司法省の全国弁護士会に対する諮問事項若は協議事項の接受答申は大日本弁護士会聯合会を経由するものとすること、但司法大臣の司法部長官全国弁護士会長会同招集の通知は従前通り各会長宛に発送のこと  
右の通り決定を見た。

七、税務代理士法に関する件は、第五議案と共に今回の総会に於ける重要議案として、大阪弁護士会提出の「税務代理士法ニ基キ其資格ヲ有スル弁護士ヨリ許可出願ヲ為シタルモノニ対シテハ当局ニ於テ原則的ニ税務代理タルノ許可ヲ与ヘラレンコトヲ望ムトノ決議ヲ為シ該決議ヲ大蔵大臣ニ建議スルノ件」に基き、特に慎重に討議せられ、別項「弁護士の職務制限——税務代理士法の解釈——」記載の如き司法当局との折衝経過の説明等もあったが、結局留保研究といふ事になり、常務理事会に一任して、弁護士は弁護士法第一条に依つて当然税務代理士の事務を行ふ事が出来得るとの解釈をなす様考究し、且若し右様の解釈をなし得ない場合は、同法の改正をなす様研究を継続することになった。

八、本会機関雑誌発行の件——留保して常務理事会に於て研究する

九、本会規約改正の件——第一号案規約第十条及第十九条の改正及第二号案規約第九条中の但し書削除の件共に留保して理事会に於て研究する

○各地弁護士会の答申内容（「新報」昭和一七・六・五）

司法部長官弁護士会長会同に於て協議さるべき諮問事項「大東亜戦争下ニ於テ遵法精神昂揚ノ必要一層緊切ナルモノアリト認ム之ニ付考慮スヘキ事項如何」に対する答申は、別項の如く、決定答申されたが、之を各地弁護士会別に観ると次の通りである。

第一、遵法の本義を明確にすることに關するもの 第二東京（一）

（二）、東京（二）、京都（一）

第二、法令の周知徹底に關するもの 第二東京（四）、千葉（一）、奈

良（二）、福井（二）、広島（一）、山口（三）、松江（二）、大分（三）、

仙台（一）、京城（二）、台北（一）

第三、遵法精神の昂揚並に法令周知の具体的方策に關するもの

第二東京（三）（五）、東京（二）（三）、第一東京（四）（五）、横浜

（四）（五）（六）、浦和（二）（三）（四）、静岡（三）、京都（二）、大阪

（二）、徳島（二）、高知（二）（三）、長崎（一）、佐賀（三）、福岡（二）、

熊本（一）、仙台（二）（三）、札幌（一）、函館（二）、旭川（二）、大邱

（一）、台北（二）

第四、法令解釈の統一に關するもの 第二東京（六）、東京（二）、京

都 (三)

第五、法令の整備統合に関するもの 第二東京 (一六)、東京 (四)、第

一東京 (二)、横浜 (二)、京都 (二)、福井 (二)、仙台 (二)

第六、法令制定の方法に関するもの 第一東京 (二)、高知 (二)、大分 (二)

第七、法令の平明簡易化に関するもの 京都 (二)、名古屋 (二)、福

井 (二)、鳥取 (二)、佐賀 (二)、大分 (二)

第八、質疑応答の迅速に関するもの 第二東京 (一六)、京都 (四)、奈良 (二)

第九、各種調停法規の運用に関するもの 静岡 (二)、奈良 (四)、福

岡 (二)、大分 (五)、熊本 (二)、秋田 (二)

第十、遵法の垂範に関するもの 第一東京 (三)、横浜 (二)、千葉

(二)、静岡 (二)、長野 (二)、奈良 (三)、徳島 (一)、高知 (二)、名

古屋 (二)、山口 (二)、佐賀 (二)、福岡 (三)、大分 (四)、

青森 (二)、京城 (二)

第十一、その他 横浜、神戸、名古屋、三重、松江、福岡、熊本、台北等提出の十件

②司法官会同〔新聞〕昭和一七・六・五、昭和一七・六・一〇)

○司法長官会同戦時犯罪檢察の対策を協議〔新聞〕昭和一七・六・

五)

恒例の全国司法部長官会同は、五月二十五日から同三十日迄司

法省大会議室、法曹会館等で六日間に亘つて、別紙協議事項を議題として審議が行はれた。

第一日、二十五日は、本省側岩村法相、大森次官以下各局部課長、裁判所側長島大審院長、松阪検事総長、霜山東京控訴院長以下各院長、秋山東京刑事地方裁判所長以下各地方裁判所長、金澤東京検事正以下各検事正、其他外地司法長官等百四十余名列席。

先づ、岩村法相は、〔前略〕戦時下に於ける社会情勢の急激なる変化に伴ひ、各種の法令が相尋いで制定せられ、其の公布を見て居りますことは、御承知の通りであります。此等の法令は、孰れも国家総動員法の必要に出づるものと云ふも過言ではありません。而して、此等法令の多くは民事刑事の事件に関連して裁判所の解釈を俟たなければならぬのであります。

然しながら、此等の法令は既成の実体法規と異り、其の解釈にはかなり困難を伴ふものと存するのであります。直接其の負担を課せられた各位の辛勞は十分推察致すのであります。殊に、各種統制法令は其の制定の形式上より申しまでも、また其の實質的内容より申しまでも、頗る複雑多岐に亘り、一層其の感を深くする次第であります。法の解釈適用は司法部本来の使命でありますのみならず、之が適正を欠くときは、国民は其の帰趨に迷ふわけでありますから、各種法令の解釈に付しましては、十分注意を払はれ度いのであります〔下略〕旨訓示し、

次で、大森次官の注意、各局部長から各指示事項の説明あり、正午、法相、大審院長、検事総長、以下司法官会同に参集中の司

法長官百四十余名は、宮中豊明殿に於て畏くも 天皇陛下に御陪食を仰付けられ、御宴ののち 陛下には千種の間に御出、畏くも長島大審院長、松阪検事総長、霜山東京、鈴木大阪、鬼頭名古屋各控訴院長、柴広島、徳永長崎、石塚宮城、戌亥札幌各控訴院検事長、増永朝鮮総督府高等法院検事長、中村台湾総督府法務局長、堀部関東州高等法院長等に順次拝謁仰付けられ、各管内の情況奏上を御熱心に御聴取、種々有難き御下問を賜ひ、各長官は恐懼奉答、畏き聖慮に感泣しつゝ、宮中を退出した。一同、宮中を退下、午後協議を続行した。

第二日、二十六日は、前日に引続き、司法長官の全体議會を本省大会議室で続開、長島大審院長の演述あり、次で、松阪検事総長は、検事長検事正一同に対し、米英等の敵国は武力戦に於て到底我国に敵対し難きを自覚し、今後一層思想謀略に全力を傾注し、国内攪乱を策謀すること必至と認められるので、克く部下を督励し思想謀略事犯の取締に最善の努力を払ひ、国内治安の確保に付万違算なきを期せられたい旨を述べ、更に經濟事犯の取締につき、左の如く訓示した。

〔前略〕經濟統制は、其の範圍極めて広汎、法令亦多岐なるのみならず、当初に於ては捜査官も、未経験なる為、其の労苦は洵に察するに余りあるものがあつたのであります。然るに、最近漸く捜査に習熟し、事件の処理亦概ね妥當を得るに至りましたことは、之れ偏に各位の御努力に負ふところ大なるものありと存じ、私の深く多とするところであります。戦近の違反情況

を観まするに、一時の如き激増の傾向は止みましたが、未だ減少を来したとは申されないものであります。一面、累犯者、法令の適用を免れんとして作為する者、洗職、文書偽造等の犯罪を伴ふもの等、次第に多きを加へんとする趨勢に在ることは、特に注意を要する現象であります。又従来統制の重点が低物価政策に置かれ、從て捜査上価格違反が重要視せられたることは当然でありまして、其の惡質重大なるものを、嚴罰せんとする方針には何等変化を加ふるの要を認めないのであります。最近物資の不足に伴ひ、不正の利益を得る目的を以て売惜を為し、密かに公正なる価格を超えて之を販売せんとする傾向漸く著しきものあり、又勞務の不足と資金の需要益々多きを加へたるとに因り、此等の統制に關する法令に觸るる行為を敢てする者の出づることも亦警戒しなければならぬところであります。今後は、此等の法令違反に付ても、亦十分に注意を払はれ度いのであるます。(下略)

正午、一同東条首相招待の午餐会に臨み、午後は別項協議事項全部につき、一般協議を行ひ、二日に亘る司法長官の全体會議を終つた。

第三日、二十七日には、各控訴院管内別に裁判所側、検事局側と別れて、各別協議を行ひ、戦時立法の運用、選挙法違反事件の適正敏速処理等を審議した。

第四日、二十八日は、法曹會館に於て、司法長官弁護士會長合同協議会を開き、

第五日、二十九日は、司法長官一同、本省大会議室で、奥村情報局長の時局講演を聴き、午後法相官舎で協議会を開いた。

第六日、三十日は、控訴院長、検事長会議を法相官邸で行ひ、前後六日間に亘つた本年度司法長官会同を終了した。

本年の司法官会同に於ける協議事項は、左（注、省略）の通り。

○全国弁護士会長協議会（新聞「昭和一七・六・一〇」）

——司法大臣に対する答申並に提出事項を議決——

大日本弁護士会聯合会主催の全国弁護士会長昭和十七年度の定時総会は、五月廿七日午前九時二十分上野精養軒に於て開催せられた。当日は、聯合会当番会の仁井田第二東京弁護士会長、奥山柴田両副会長、松本第一東京弁護士会長、佐藤東京弁護士会長始め、大阪、名古屋、宮城、広島、長崎各控訴院管内弁護士会長並に各地弁護士会長等七十三名が出席した。本総会は、五月廿八日法曹会館で開かれた、司法部長官、全国弁護士会長合同協議会に提出する協議事項並に弁護士法施行五十年記念式典挙行に関する式典経費分担の件等を議題とし、奥山議長（仁井田議長代理）司会の下に開会。左記大日本弁護士会聯合会に於て司法大臣諮問事項に対する答申並提出事項を決議して、正午散会した。尚ほ、同日決議した答申並に提出事項は直ちに司法大臣に提出した。

答申、提出事項（注、省略）

（注）「司法部長官弁護士会長合同協議会の諮問事項と東京弁護士会の回答意見」〔新聞〕昭和一七・五・二〇）参照

③司法官弁護士会長合同協議会（公論）第四六卷第七号、昭和一十七年七月号）

○日本弁護士協会東亜法曹協会主催全国弁護士会長招待会  
去る五月二十八日、司法部長官弁護士会長合同協議会出席のため上京せられたる、全国各弁護士会長各位を日比谷山水楼に招待し、午餐会を開催した。来賓会員多数出席、甚だ盛会であつた。  
当日出席せられた来賓各位（敬称略）は、左の通りである。

弁護士会長（帝國弁護士会）木村篤太郎（東京 佐藤博、（第二）松本  
丞治、（横浜）澤田洪憲、（浦和）山崎弘道、（千葉）一瀬房之助（水戸）  
長塚忠策、（宇都宮）矢野慎治、（前橋）川野邊四郎、（静岡）井上剛一、（長野）唐澤長十、（新潟）副会長伊藤龜久二、（京都）栗山精一、（大阪）松本  
静史、（神戸）山本登、（奈良）副会長丹波貞三、（和歌山）中村愛三郎、（徳島）岡林一美、（高松）長尾秀太郎、（高知）井上熊兄、（名古屋）浦野三好  
（三重）辻喜兵衛、（岐阜）渡邊清、（福井）堤敏恭、（金沢）副会長吉井政  
治、（富山）深井龍太郎、（広島）柳田勘四郎、（山口）木村信一、（岡山）  
吉岡榮八、（鳥取）太田英雄、（松江）吉岡亥市、（松山）岡田玄治郎、（長崎）陣内惣三郎、（佐賀）安永澤太、（福岡）江口繁、（大分）池田吾十、（熊本）林靖夫、（鹿児島）松山長門、（宮崎）江川甚一郎、（那覇）前上門昇、  
（仙台）会長代理篠塚宏、（山形）鈴木茂雄、（盛岡）工藤祐造、（秋田）鈴木  
木安孝、（青森）三上直吉、（札幌）村田不二三、（函館）佐々木文治、（旭  
川）大塚守穂、（釧路）佐藤忠輝、（樺太）等力了、（京城）永島雄藏、（大  
田）副会長豊山兢植、（咸興）上野常一、（平壤）盧鎮高、（新義州）松原榮

徴、(大邱) 岩本三志、(釜山) 金山峻源、(関東州) 木原鐵之助、(広島支部代表) 樽谷稔

名誉会員 司法次官大森洪太、大審院長長島毅、東京帝国大学名誉教授牧野英一、東京控訴院長霜山精一

新聞記者 岡崎源一、石井敬生、石井彰

席上主催者側を代表して本協合理事、東亜法曹協会常務顧問作間耕逸君立って、先づ来賓各位の御多忙中を繰合はせて出席されたるに對し深甚の謝意を表し、時局下益々法曹の一致協力戰域奉公に邁進せんことを強調すれば、これに對し長島大審院長、木村帝国弁護士会理事長、松本大阪弁護士会長、東大名譽教授牧野博士、佐藤東京弁護士会長、松本第一東京弁護士会長の諸氏交々立って、謝辭に併せて感想談あり、いとも和やかに時の過ぐるを忘れさせたが、纏て午後一司法官弁護士会長合同會議再開の時刻も迫ったので、午後一時半一同記念撮影の後、散会した。

○司法部長官弁護士会長合同協議会に於ける司法大臣挨拶

司法大臣訓示

(昭和十七年五月二十五日司法官会合同に於ける)

(注、省略)

司法大臣挨拶

(昭和十七年五月二十八日司法官弁護士会長合同に於ける)

司法官会合同を機と致しまして、恒例に依り、本日茲に司法部長官と弁護士会長との合同協議会を催しましたところ、弁護士会長各位には御多忙の折柄にも拘はらず、遠近各地より打揃ひ御参集下さいましたことは、私の深く感謝するところであります。

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

大東亜戦争開始以来、大御後威の下、忠勇なる皇軍の嚮ふ所敵なく、史上に比類なき赫々たる戦果を収め、東亜に於ける米英制覇の拠点は、挙げて尽く之を我が制圧の下に置き、広大なる占領地域に於ける新建設が既に着々と進捗して居りますことは、皇国の為洵に慶賀に堪へないところであります。司法部に於きましては、大東亜の治安の為に、多数有為の判検事を送つて、大業翼賛に些の遺漏なき様、懸命の努力を捧げる用意を致して居る次第でありまして、此等は遠からずして漸次実現することに相成りませうが、其の節は人事の問題に関し、弁護士会長各位の各段の御援助を煩し度いと存ずる次第であります。

然し乍ら、今までは緒戦とも申すべきでありませう。即ち戦は正に今後に在るのでありまして、敵を完膚なきまでに膺懲し、大東亜永遠の平和を確立するが為には、官民一途、固き協同の下に尽忠報国の至誠を尽くし、征戦完遂に精進致さなければならぬであります。之が為には、国家総動員の一条紊れざる体制を堅持し、国内の治安を大盤石の安きに置くを要するのでありまして、此の事たるや一億臣民相携へて遵法に徹し、秩序の維持全きに依りて、初めて達成せられるのであります。今回、合同協議会の協議事項として、之に関する問題を提出致しました所以も、全く此の念願に由るに外ならないのであります。申す迄もなく、遵法精神の普及徹底の責任は、我等法曹の双肩に懸つて居るのでありまして、法曹先づ遵法に徹して其の範を示し、之に依つて民衆を指導することを要するは言を俟たざるところであります。各位に於かれましては、多年の経験と蘊蓄とを傾けられまして、腹藏無く御所見を開陳せられ、本協議会が十分の効果を挙ぐることに

七二二(二〇八)

を得るやう、折角の御配慮を仰ぎ度いのであります。

尚、序乍ら一、二希望を申述べて置きますが、今回戦時立法に依りまして、調停の分野が拡大せられたのであります。調停の実績は、弁護士会長各位の不断の御支援に負ふところ頗る大なるものがあるのであります。此の機会に於て、篤く御礼を申し上げます。司法省と致しましては、徒に件数を多くして其の成績を誇ると云つたやうな考へは毛頭ございませぬ。全く堅実にして健全なる発達を希望して居るのであります、此の趣旨に於て、更に一層の御援助を、お願い致す次第であります。

次に、司法保護事業に付まして、弁護士会長各位より常々多大の御尽力を忝くして居りますことは、是れ亦感謝に堪へませぬ。此の事業に對しましては、曩に少年保護及思想犯保護に於て囑託保護司の制度を採り、国民各層の参加を求めて参りましたが、更に先年其の趣旨を拡張して、司法保護委員制度を法制化し、幸に其の実績に見るべきものがあるのであります、多数の弁護士諸君に右の囑託保護司及司法保護委員を委嘱して居るのであります、今後共各段の御協力あらむことを希望致します。又少年保護制度の全国化は、本年一月を以て漸く之が実現を見るに至つたのであります、弁護士会長各位の御尽力に依るところ大なるものがあるのであります。何卒此の部門に於ても、一層の御支援を与へられ度いのであります。以上を以て私の御挨拶と致します。

④司法官弁護士会長合同協議会（「正義」昭和一十七年七月号）  
 弁護士会長司法部長官合同協議会に関する報告書

昭和十七年度五月廿五日より五月卅日に至る六日間に亘り、司法省に於て昭和十七年度司法官会同行はれ、全国弁護士会長及司法部長官の合同協議会は、五月二十八日開催せられたり。其の経過大要左の如し。

岩村司法大臣訓示（昭和十七年五月二十五日）（注、省略）  
（司法官会合同に於ける）

長島大審院長演述（昭和十七年五月二十六日）（注、省略）  
（司法官会合同席上に於ける）

松阪検事総長の訓示（昭和十七年五月二十六日）（注、省略）  
（長検事正会合同席上に於ける）

○弁護士会長、司法部長官会同協議事項

一 大東亜戦争ノ下に於て遵法精神昂揚ノ必要一層緊切ナルモノアリト認ム之ニ付考慮スベキ事項如何

第一東京弁護士会答申並提出事項

答 申、提出事項（注、省略）

○全国弁護士会長打合会、大日本弁護士会聯合会總會

弁護士法施行記念五十年記念式典

昭和十七年五月二十七日午前九時より、上野精養軒に於て、大日本弁護士会聯合会第三回通常總會を兼ね、打合会を、一、国民儀礼、二、議事（イ、協議事項、ロ、提出事項）の順序により開き、続いて挙行の聯合会總會付議事項審議終了後、正午（午餐）後、一旦休憩、同三時より聯合会飛行機等献納資金に関する委員会總會を開催、委員長たる本会松本会長の経過報告及六月八日（大詔奉戴日）献金実行の件及全国弁護士会釀出参拾貳万貳百参

拾参円五拾参銭也を折半陸海軍省に献金の事等の議事を可決し、同三時半より引続き大日本弁護士会聯合会主催に依る弁護士法施行五十年記念式典を（一）国民儀礼、（二）常務理事祝辞、（三）皇軍に対する感謝決議、（四）国防献金に関する経過報告、（五）弁護士五十年勤続者表彰、（六）来賓祝辞、（七）閉会の辞の順序を以て挙行、同六時より祝賀を兼ね盛大なる懇親会を催したり。

#### 決定案

答 申、提出事項（注、省略）

○全国弁護士会長及司法部長官合同協議会

五月二十八日午前九時より、司法省構内法曹会館に於て、全国弁護士会長及司法部長官の合同協議会開催せられ、午前十一時一旦休憩、此間大審院玄関に於て司法大臣以下朝野出席者一同の記念撮影を為したる後、午餐会に出席、午後二時より協議会を再開、午前に引続き協議会を継続し、午後三時五分円滑裡に協議会終了し、更に午後五時半より出席会長一同は、日本工業倶楽部に於ける司法大臣の招待会に出席し、午後八時半散会した。

岩村司法大臣挨拶（昭和十七年五月二十八日司法部長官弁護士会長合同に於ける）（注、省略）

右報告候也

昭和十七年六月一日

第一東京弁護士会会長 松本 丞治

第一東京弁護士会 御中

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

昭和一八（一九四三）年

①司法官弁護士会長合同協議会（新報）昭和一八・五・一五

○全国司法部長官会同

全国司法部長官会同は、五月三日より六日まで司法大臣官舎に於て開催せられた。

第一日は、午前八時半より大会議室にて開会、本省より岩村法相、大森次官以下各局課長、長官側長島大審院長、松阪検事総長、霜山東京控訴院長以下七院長、秋山東京検事長以下七検事長、その他全国五十二地方裁判所長、五十一検事正及朝鮮、台湾、関東州、南洋庁等外地関係長官出席して、直ちに日程に入り、劈頭岩村法相より「行政簡素化に伴ふ事務取扱及裁判所構成法戦時特例其他戦時特別法の実施に関する注意、経済事件、思想事犯の防遏、官紀肅正、勤労少年の輔導」等に付訓示があり、次いで長島大審院長の演述、更に松阪検事総長より思想運動、国家革新運動等に対する検挙に万全の措置を講じ、国防保安法並改正戦時刑事特別法、経済事犯、洩職事犯検挙の徹底、少年犯罪に対する原因の究明等に関する訓示あり、終つて岩村法相以下各長官打揃つて宮中に参内、天皇陛下に拝謁仰付られ、御陪食の栄を賜つた。午後二時聖恩に恐懼感激して宮中を退下、午後三時より再び司法省大会議室に於て日程に従ひ、所長検事正協議に入り、「時局下司法行政事務ノ刷新改善ニ付考慮スヘキ事項」につき協議を行った。第二日（四日）は、午前八時半より大会議室にて開会。協議に

七二〇（二〇六）

先立ち、池田刑事局長より戦時刑事特別法中改正法律に関し詳細なる説明があり、その運用についての質疑応答をなし、正午首相官邸に於ける首相招待午餐会に出席、席上別項の如き首相挨拶あり（星野書記官長代読）午後二時より会同日程の地方裁判所協議事項（「時局下経済事犯ノ処理」二関し裁判上考慮スヘキ事項如何）、検事正協議事項（「時局下経済事犯ノ処理」二関し檢察上考慮スヘキ事項如何」につき討議した。

第三日（五日）は、午前八時より大臣官舎各控室に於て、所長検事正各別協議会を開催、長島大審院長、松阪検事総長を夫々議長に推して協議を進め、戦時刑事特別法中改正法律及経済事犯の処理等につき質疑応答を行ひ、同十時三日間に亘る会同協議を終った。かくて、同十時半より法曹会館に会場を移して、弁護士会長との合同協議に入り（別項）、午後も引続き協議した。

第四日の院長、検事長会議は、午前九時大臣官舎に於て開会、午後も続行した。

東条首相挨拶並岩村法相訓示、長島大審院長演述、松阪検事総長訓示は次の通り（注、省略）。

#### ○司法部長官弁護士会長会同

司法部長官弁護士会長会同は、五月五日午前十時半より、司法省構内法曹会館会議室に於て開催。全国司法部長官並に田坂（東京）名川（第一東京）河邊（第二東京）竹田（大阪）杉原（京都）平田（名古屋）各会長以下全国弁護士会長出席、岩村法相より弁

護士の使命と弁護制度の運用につき別項の通り挨拶があつて後、協議に入り、「時局下に於ける弁護制度の運用に付特に考慮すべき事項如何」に対する、答申並提出事項を中心に午前午後に亘つて協議をなした。弁護士会側の答申並提出事項は、次の通りである。

#### ●答 申

- 一、時局ニ即応シテ審理ノ進捗ニ協力シ司法ノ目的ト弁護ノ使命ニ反セサル限リ裁判ノ敏速簡捷ニ務ムルコト
- 二、判事、検事、弁護士ハ一体トシテ相協力シ相克ノ弊ヲ排シテ皇道ノ本義ト憲法ノ精神ニ基キ司法目的達成ニ努メルコト
- 三、戦時下特ニ裁判ヲ適正ニシ被告人ヲ心服セシメ国民ノ信倚ト裁判ノ威信ヲ保持スルハ司法ノ本義ナルヲ以テ此趣旨ニ基キ弁護制度ノ尊重ヲ期スルコト
- 四、特ニ控訴ヲ許ササル事件ニ付キテハ審理ヲ懇切ニシ速カニ保釈ヲ許シ証拠ノ提出ヲ充分ナラシムルコト
- 五、公判中心主義ヲ徹底セシムルコト
- 六、予審ニ於ケル弁護制度ヲ有効ニ運用スルコト
- 七、司法警察官ノ作成シタル文書ヲ偏重スルノ弊ヲ避ケ捜査ノ段階略式手続ニ於テモ証拠ノ提出ヲ自由ナラシムルコト
- 八、弁護人選任届期間ニ付キ被告人又ハ親族ヲシテ其ノ機ヲ失ハシメサル様注意ノ徹底ヲ期シ且戦時刑事特別法第二十条但書ヲ活用スルコト
- 九、区裁判所ニ練達ノ司法官ヲ置キ且ツ重大ナル事件ハ地方裁判

所ニ起訴スル方針ヲ実行スルコト

一〇、刑事訴訟法第百十三条ヲ勵行スルコト

一一、時局ヲ名トシテ正式裁判ノ申立ヲ阻止スル如キ傾向ナカラシムルコト

### ●新提出事項

一、司法制度及其運用ニ関スル事項

一、時局下人材ヲ要スルトキ弁護士ノ職域ヲ拡張シ全国六千ノ人の資源ヲ動員シテ各種団体ノ監事、監查役、公私法人ノ諮詢顧問機關、紛議調停、仲裁、扶助及保護事業等適所ニ之ヲ配置シ戰時体制ニ即応シテ活用セシムル方途ヲ講スルコト

二、司法警察官積年ノ因習ヲ打破シ其ノ心理ヲ根本的ニ改ムル目的ヲ以テ其ノ資格、採用方法、待遇、訓練等ニツキ一太改革ヲ斷行シ、所屬ヲ司法部ニ移管スルコト

三、司法省ニ於ケル法律ノ制定及改廢ニ就キ委員會等ヲ設備スル場合ハ其ノ委員中ニ大日本弁護士會聯合會ノ推薦シタル者ヲ加フヘキ制度ヲ確立セラレタキコト

四、現下ノ重大時局下ニ処スル爲司法官ノ質ヲ低下セシメサル様考慮セラレタキコト

五、時局ニ鑑ミ全国弁護士ヲ動員シテ法規違反ノ行為ヲ事前ニ防止スル積極的方法ヲ確立施行スルコト

六、法令周知、統制法規ノ運用ニ関シ官民合同ノ常置機關ヲ設置スルコト

広島弁護士會沿革誌 (6)昭和戰前編・下

七、法令ノ解釈運用等ニ関シ司法省ヨリ直接間接ニ裁判所及檢事局ニ対シテ發セラルル通牒等ハ各弁護士會ニモ通知アリタキコト

八、皇國傳統ノ精神文化ヲ基礎トスル日本固有ノ法制ヲ確立スヘク現行法規ヲ速カニ改正整備セラレンコトヲ望ム

二、民事ニ関スル事項

九、各種調停ノ申立ニ付時效中斷ノ效力ヲ認ムルノ制度ヲ定メラレタシ

一〇、昭和十七年法律第六十六号不動産登記法中改正法律施行前ニ登記シタル建物ノ登記簿ニ家屋番号ノ記載ヲ要スル旨ノ規定ヲ改正セラレ度キコト並ニ其ノ改正前ノ臨時ノ措置トシテ登記簿ノ表示ト家屋台帳ノ表示ト一致セサル場合ニ於テモ同一性ヲ認識シ得ル限り表示更正ノ登記ヲ要セサルコトニ取扱ヲ改メラレ度キコト

一一、裁判執行ノ適正ヲ期シ、ソノ威信ヲ保持スルタメ執行機關タル執達吏ヲ強化拡充セラルル様緊急措置ヲ講セラレタキコト  
一二、和解又ハ調停法輕視ノ弊尠ナカラス之レカ除去ニ留意アリタキコト

○大日本弁護士會聯合會總會

大日本弁護士會聯合會の本年度定時總會は、五月四日午前十一時より、上野精養軒に於て開會、国民儀礼に次いで、本年度當番會東京弁護士會田坂會長を議長に推して議事に入り、

七〇八 (二〇四)

ハ資料

- 第一号議案——司法部長官弁護士会長合同協議事項審議の件  
第二号議案——昭和十七年度収支決算承認の件  
第三号議案——弁護士報酬規定制定の件  
第四号議案——規約一部改正の件

を討議、第一号議案司法省協議事項「現下重大時局ニ於テ弁護士制度ノ運用ニ付特ニ考慮スヘキ事項如何」等に対する答申案三十二件並各弁護士会長提出協議事項案三十件を審議の結果、別項の通り答申は十一項、提出事項は新提出事項として、司法制度及其運用に關する事項八件、民事に關する事項四件及既提出事項中特に実行を求むべきもの四件等を討議整理し、次いで五月三日の規約改正委員會に於て決定せる改正案に基き同会の公的活動を展開しうる様目的を拡張し、組織を変更する規約改正案を討議した。改正による組織は、次の通り。

組織（役員及ソノ権限）

- イ、本会ハ常務理事、専務理事、理事ヲ置ク  
ロ、理事ハ控訴院所在地ノ弁護士会長及會員百名以上ヲ有スル弁護士会ノ会長並各控訴院管内其余ノ弁護士会長中ヨリ輪番ニ互選セラレタル一名之ニ当ル  
ハ、専務理事ハ會員三百名以上ヲ有スル控訴院所在地ノ弁護士会ヨリ各二名其ノ他ノ各控訴院所在地ノ弁護士会及會員百人以上ヲ有スル弁護士会ヨリ夫々一名ヲ選任ス  
ニ、常務理事ハ控訴院所在地ノ各弁護士会長之ニ当ル

修道法学 三六卷 二号

七〇七（二〇三）

- ホ、常務理事ハ本会ノ常務ヲ執行ス  
ヘ、専務理事ハ本会ノ事業ヲ執行ス  
ト、本会ヲ代表スル理事ハ理事会ニ於テ之ヲ定ム

②司法部長官弁護士会長合同協議会〔新聞〕昭和一八・五・一〇、昭和一八・五・一五

○司法長官会同並に司法部長官  
弁護士会長合同協議会〔新聞〕昭和一八・五・

一〇）

五月三日から六日迄司法省會議室で、司法官大異動に續いて、司法官会同が開催され、第一日目三日は、長島大審院長、松阪検事総長、霜山東京控訴院長外各控訴院長、秋山東京控訴院検事長以下各地控訴院検事長、佐々木、島東京民刑所長以下各地方裁判所長、一木東京刑事地方検事正以下各検事正、外に參列員として久保田、矢部両大審院部長、黒川大審院検事、朝鮮、関東局、南洋庁、滿洲国の各司法關係官出席

午前八時半、別記の如き岩村法相訓示、大森次官注意、長島大審院長の演述、松阪検事総長より、別項記載の訓示等あり、午前中の日程を終り、正午御陪食を仰せ付けられ、三時から所長検事正の協議会を開催、

- 一、時局下司法行政事務の刷新改善に付考慮すべき事項  
一、時局下經濟事犯の処理に關し裁判上考慮すべき事項如何  
一、時局下經濟事犯の處理に關し檢察上考慮すべき事項如何

の協議事項を審議、

翌四日は、池田刑事局長から、今議会で議論の的となった戦時刑事特別法中改正法律の詳細な説明あり、正午、一同首相官邸に赴き首相の午餐会に臨み、午後は前日同様の協議事項を議題に会議を続行した。

五月五日午前十時から法曹会館二階で、司法部長官弁護士会長の合同協議会が開催され、

#### 諮問事項

一、現下重大時局に於て弁護士制度の運用に付考慮すべき事項如何に対する全国各地弁護士会長よりの答申を、本年度当番幹事である田坂東京弁護士会長から上程され、司法部長官と出席の全国各地弁護士会長との間に意見の交換が行はれ、午後四時閉会した。

最後の六日は、控訴院長、検事長の協議会が開かれ、同日三時会同を終了した。

岩村司法大臣訓示要旨、松阪検事総長訓示要旨（注、省略）

○司法部長官弁護士会長合同協議会（「新聞」昭和一八・五・一五）

司法官会同三日目に当る五月五日、司法省構内法曹会館に於て、岩村司法大臣、長島大審院長、松阪検事総長、其他司法部長官と全国各地の弁護士会長合同協議会が開かれ、（前号記事参照）本年度の当番幹事として東京弁護士会長田坂貞雄氏から「現下重大時局に於て弁護士制度の運用に付特に考慮すべき事項如何」なる

司法大臣の諮問に対する、別記大日本弁護士会聯合会の答申並に提出事項を提出した。

是より前き、全国各地の弁護士会から提出された答申案は、約八十種類のものであったが、其内には同一主旨で意味の重複するもの、或は尚ほ研究を必要とするもの等があり、前例に従って五月四日（合同協議会へ出席の前日）上野精養軒に全国弁護士会長が集まり、案を整理した結果、協議会に提出した答申は、十一件、新提出事項は十二件、刑事に関する事項四件、合計二十七件で、答申の要旨を綜合すると（一）時局に即応して裁判を助け事件の簡捷敏速なる処理に協力する必要を認むるもの、（二）戦時体制下と雖も寧ろ戦時下なるが故に司法の本義に基き弁護の慎重を期し裁判の適正に一層協力するを必要とするもの等であった。答申並に提出事項左の如し。

答 申（注、省略）

提出事項（注、省略）

#### （一）新提出事項

一、司法制度及其運用に関する事項

二、民事に関する事項

三、刑事に関する事項

#### （二）既提出事項

一、司法制度及其運用に関する事項  
一、既提出事項中特に実行を求む可きもの

1 大審院長を 天皇の直隸とし司法権の独立を確保する制度の実現を期すること

2 司法警察官と行政警察官とを分離して司法警察署を特設し之を検事に隷属せしむること

3 裁判所と検事局とを分離し司法権の独立に対する国民疑惑を一掃すべく速に之が実現を期すること

4 司法権の威信の為捜査機関の人権蹂躪の事実に対し厳に之を戒飭し之が矯正に関する適切な方法を講ずること

二、大東亜共栄圏の確立に遺憾なきを期する為弁護士をして新占地域に於ける指導的任務に就かしむる方途を講ずること

三、調停委員は原則として弁護士を以て之に当らしむること

四、共通法中「弁護士職務執行の共通に関する法規を追加改正するを促進せられたきこと」主旨理由は昭和十一年六月の會議に京城弁護士会提出のものを引用す

### ③司法官弁護士会長合同協議会〔正義〕昭和十八年六月号

#### ○全国弁護士会長招待午餐会

帝国弁護士会は、去る五月五日開催の司法部長官弁護士会長會同に参加せられた全国弁護士会長各位を招待し、同日正午より日比谷松本楼に於て、午餐會を開催した。出席者主客併せて百余名、頗る盛會であつた。

席上井本理事本會を代表して挨拶を述べ、之に対し全国會長を

代表して竹田大阪弁護士会長の謝辞があり、歓談裡に午後一時五十分散會、會長各位は法曹會館で午後二時續會せられる司法部長官との協議會に臨まれた。

当日出席せられた會長外關係來賓、左の如し。(敬称省略)

(第一東京) 名川侃市、副會長田中平治、副會長伊勢勝藏、(第二東京) 河邊久雄、(東京) 田坂貞雄、(横浜) 須々木平次、(千葉) 一瀬房之助、(水戸) 増田弘、(宇都宮) 副會長安原忠孝、(前橋) 高井紹興、(静岡) 村松甚一郎、(甲府) 保坂政治郎、(長野) 野溝弘、(新潟) 田中正名、(京都) 杉原喜典人、(大阪) 竹田省、(神戸) 山本登、(奈良) 高椋正次、(大津) 副會長北川正夫、(和歌山) 副會長中谷義衛、(徳島) 副會長秋田彰一、(高松) 長尾秀太郎、(高知) 大西正幹、(名古屋) 平田央、(三重) 横井孚一、(岐阜) 山田丈夫、(福井) 橋本太一、(金沢) 村井清造、(富山) 山本三次、(広島) 神田静雄、(山口) 岩本憲二、(岡山) 吉澤周一、(鳥取) 副會長青戸辰午、(松江) 難波督、(松山) 松本清三、(長崎) 陣内惣三郎、(佐賀) 安永澤太、(福岡) 江口繁、(大分) 安東吉郎、(熊本) 林靖夫、(鹿児島) 中馬新之助、(宮崎) 副會長福澤文夫、(福島) 副會長松本忠雄、(山形) 副會長古澤久次郎、(盛岡) 山田欽治、(秋田) 鈴木安孝、(青森) 中西西藏、(函館) 島村鋭郎、(旭川) 大塚守穂、(釧路) 佐藤忠輝、(京城) 松川求瑛、(大田) 伊東用燮、(咸興) 平川元三、(平壤) 李學泉、(大邱) 張元基相、(釜山) 小西恭介、(閔東州) 杉野耕三郎、(日本弁護士協會) 代表理事作間耕逸、(法律新聞社) 石井敬三郎

## 六 おわりに

### 1 「広島弁護士会沿革誌」明治・大正・昭和戦前編編集の経緯

筆者は、平成一五（二〇〇三）年二月中旬、東京から生まれ故郷の広島に帰り、第二東京弁護士会から広島弁護士会に登録換した同年三月登録換が認められた際に、広島弁護士会から手渡されたのが、『広島弁護士会史』（会史編集委員会編・広島弁護士会発行・一九八六年七月）である。しかし、その内容は戦後編であり、附録の資料編に戦前の弁護士や物故会員の思い出についての座談会が収録されているが、戦前編は編纂の予定はないという。椎木緑司「広島弁護士会小史」（広島弁護士会「会報」第三〇号、一九八一年二月）でも、戦前の広島県出身著名弁護士や先進物故会員の紹介はあるが、戦前の広島代言人組合・広島弁護士会の活動については言及していない。

そこで、第二次世界大戦前の広島 of 代言人組合・弁護士会およびその組合員・会員の活動を、復元しようと思い立ち、『広島新聞』、『芸備日報』、『芸備日日新聞』、『中国新聞』などに掲載された記事などの関係資料を、約二年間かけて調査・収集した。

そして、平成一七（二〇〇五）年九月、その第一弾として、「広島法律学校沿革誌 附、講法館・広島法学校・法学講習所・尾道法律学校」（『修道法学』第二八巻第一号、二〇〇五年九月）を発表した。次に、平成一八（二〇〇六）年二月、「広島代言人組合沿革誌 附・広島始

審裁判所の官許代書人」（『修道法学』第二八巻第二号、二〇〇六年二月）を編集した。

その間も、『中国法律新報』、『日本弁護士協会録事』、『法曹公論』、『正義』、『法曹会雑誌』、『法律新聞』、『法律新報』、『官報』などについても調査を行いながら、「広島弁護士会沿革誌 明治・大正・昭和戦前編」の編集に入り、明治編・大正編・昭和戦前編と順次発表した。

また、それと並行して、広島控訴院管内における陪審裁判に関する資料の調査も進めて、広島・山口・岡山・松江・鳥取・松山の各地における陪審裁判について編集・発表していった。

『広島弁護士会史 戦前編』は、広島弁護士会自身が、「広島代言人組合沿革誌」、「広島弁護士会沿革誌」明治・大正・昭和戦前編などに集録した資料を用いて、広島代言人組合・広島弁護士会および広島代言人組合員・広島弁護士会員の活動を歴史の中に位置づけて叙述し、その意義を問いながら編集して欲しい。

「沿革誌」を編集する過程で、広島における代言人・弁護士に関する資料の収集も行ったので、それらの資料により「広島における代言人・弁護士列伝」を編集したいと思っている。しかし、「広島控訴院管内における陪審裁判」に続いて、「大阪控訴院管内における陪審裁判」の調査研究も終りに近づき、その編集も最終段階を迎えて、次の「東京控訴院管内における陪審裁判」など全国の陪審裁判の予備調査に入ったので、「列伝」は、いつ編集に着手で

きるか判らない。

(注) 高橋武夫弁護士については、次男の高橋一起氏が、『父の遺した三十一文字。』(作品社・二〇〇八年五月)を発表された(注、一起氏には、私が収集した資料も提供した)。そして、同弁護士の妻についても、一起氏により、『二度死んだ母のこと。』(作品社・二〇〇九年五月)が続いて刊行されている。

## 2 「増田修著作目録」

筆者の経歴については、ゲスト増田修・聞き手羽崎靖宏「この人に聞く」(広島弁護士会『会報』第八四号、二〇〇八年二月)を参照されたい。『現代日本人名録』4(日外アソシエーツ・二〇〇二年一月)では、筆者を「弁護士・考古学者」と紹介しているが、現在は、日本法制史研究者でもある。

筆者の「法律関係著作目録」および「古代史関係著作目録」は、以下の通りである。

### (1) 古代史関係著作目録

① 「九州年号を拾う(1)・(2)」(『市民の古代研究』19・26、市民の古代研究会・一九八七年・一九八八年)。後に、斉藤隆一「九州年号」目録(『市民の古代』11、市民の古代研究会・一九八九年)、『市民の古代研究』合本・第1巻(新泉社・一九九二年)に収録

修道法字 三六卷 二号

七〇三(一九九)

② 「多胡碑研究の問題点」(『市民の古代研究』22、市民の古代研究会・一九八七年)。後に、『市民の古代研究』合本・第1巻(新泉社・一九九二年)、増田修「多胡碑―その外観の変遷と「羊」の解釈について―(上)・(下)」(『古代の風』44・45、市民の古代研究会・関東・一九九八年)に収録

③ 「建長寺年代記」中の古代年号に関する調査速報(『市民の古代研究』30、市民の古代研究会・一九八八年)。後に、『市民の古代研究』合本・第1巻(新泉社・一九九二年)、丸山晋司「古代年号の謎―古写本『九州年号』の原像を求めて―」(アイビーシー・一九九二年)に収録

④ 「古代の楽器二題(1)・(4)」(『市民の古代ニュース』57・60・61、市民の古代研究会・一九八八年)

(注) この「古代の楽器二題」で取り上げた「伝・埴を吹く埴輪」については、柴田南雄「古代の楽器遺産」(岩波講座「日本の音楽・アジアの音楽」5・音の構造、岩波書店・一九八九年)に紹介された。

⑤ 「多胡碑の外観」(市民の古代研究会・関東・編「多胡碑と羊太夫伝説をめぐる旅 報告集」、市民の古代研究会・関東・一九八八年)。後に、増田修「多胡碑―その外観の変遷と「羊」の解釈について―(上)・(下)」(『古代の風』44・45、市民の古代研究会・関東・一九九八年)に収録

⑥ 「多胡碑の『羊』と羊太夫伝承」（『市民の古代』10、新泉社・一九八八年）。後に、『合本市民の古代』第3集（新泉社・一九九一年）に収録

⑦ 増田修・柳川美紀子・横山妙子・共著「多胡碑と羊太夫伝説に関する文献目録」（『市民の古代』10、新泉社・一九八八年）。後に、『合本市民の古代』第3集（新泉社・一九九一年）に収録  
「古代の琴―正倉院の和琴への飛躍―附・古代の琴に関する収集文献目録」（『市民の古代』11、新泉社・一九八九年）

（注） この論文は、RILM日本国内委員会・編輯発行『音楽文献要旨目録』18（一九九〇年）の文献目録に採録された。

⑨ 増田修・横山妙子・共著「常陸国風土記研究文献目録」（『市民の古代』12、新泉社・一九九〇年）。後に、『常陸国風土記の探究』編集委員会・編『常陸国風土記の探究―紀行・論文・文献目録・写本―』（市民の古代研究会・関東・一九九五年）に収録

（注1） この「文献目録」は、植垣節也「風土記」（『全国大学国語国文学会・編『文学・語学』131・特集・平成二年国語国文学界の展望Ⅰ、桜楓社・一九九一年、志田諄一「風土記の研究史と課題」（『常陸国風土記』と説話の研究、雄山閣・一九九八年）、増尾伸一郎「神仙の幽り居める境」（井上辰雄・編『古代東国と常陸国風土記』、

雄山閣・一九九九年）および荊木美行「風土記研究の課題」（植垣節也・橋本雅之・編『風土記を学ぶ人のために』、世界思想社・二〇〇一年）において紹介された。

（注2） この「文献目録」は、次の「解説」と共に、木沢直子「文献解題」（茂木雅博・編『風土記の考古学』1・常陸国風土記の巻、同成社・一九九四年）の参考資料とされた。

（注3） この「文献目録」と次の「解説」は、『常陸国風土記の探究』に収録した際、国文学研究資料館・編『国文学年鑑』平成7年（国文学研究資料館・一九九七年）、富士原伸弘・松田信彦・編「研究年表―平成七年―」（古事記学会・編『古事記年報』39、古事記学会・一九九七年）および万葉七曜会・編「上代文学研究年報一九九五年」（万葉七曜会・編『論集上代文学』22、笠間書院・一九九八年）の文献目録に採録された。

⑩ 「解説 常陸国風土記研究文献目録」（『市民の古代』12、新泉社・一九九〇年）。後に、『常陸国風土記の探究』編集委員会・編『常陸国風土記の探究―紀行・論文・文献目録・写本―』（市民の古代研究会・関東・一九九五年）に収録

⑪ 「常陸国風土記」に現われた楽器 附・古代の琴・瑟・笙・鼓・柀に関する収集文献目録」（『市民の古代』13、新泉社・一九九一年）。後に、『常陸国風土記の探究』編集委員会・編『常陸国風土記の探究―紀行・論文・文献目録・写本―』（市民の古代研究会・関東・一

九九五年）に収録

採録された。

〔注1〕 この論文は、駒木敏「上代歌謡」（全国大学国語国文学会・編『文学・語学』136・特集・平成三年国語国文学界の展望Ⅱ、桜楓社・一九九二年）に紹介された。

〔注2〕 この論文は、『常陸国風土記の探究』に収録した際、植垣節也「新刊書紹介」（『風土記研究』22、一九九六年）で紹介された。その後、植垣節也・校注『風土記』新編日本古典文学全集5（小学館・一九九七年）において、「建借間の命の計略」については私見を採用され、「天の鳥琴・天の鳥笛の形状」についての私見を紹介された。

なお、志田諄一「建借間・命の説話」（『常陸国風土記』と説話の研究、雄山閣・一九九八年）は、「建借間の命の計略」についての私見を批判しているが、荊木治恵「信太郡の郡名」（上代文献を読む会・編『風土記逸文注釈』翰林書房・二〇〇一年）は、私見を採用している。

〔注3〕 この論文は、『常陸国風土記の探究』に収録した際、国文学研究資料館・編『国文学年鑑』平成7年（国文学研究資料館・一九九七年）、富士原伸弘・松田信彦・編「研究年表―平成七年―」（古事記学会・編『古事記年報』39、古事記学会・一九九七年）および万葉七曜会・編「上代文学研究年報・一九九五年」（万葉七曜会・編『論集上代文学』22、笠間書院・一九九八年）の文献目録に

〔12〕 「倭国の律令」筑紫君磐井と日出処天子の国の法律制度」（『市民の古代』14、新泉社・一九九二年）

〔注〕 この論文は、万葉七曜会・編「上代文学研究年報一九九二年」（万葉七曜会・編『論集上代文学』21、笠間書院・一九九六年）の文献目録に採録された。

〔13〕 「結縄刻木」管見（1）・（2）」（『市民の古代研究』53・67、市民の古代研究会・一九九二年・一九九四年）

〔14〕 「邪馬壹国は筑前中城である―古田武彦氏の物証論―」（『邪馬壹国』徹底論争』第3巻、新泉社・一九九三年）

〔15〕 「隋書」にみえる流求国―建安郡の東・水行五日にして至る海島―」（『市民の古代』15、新泉社・一九九三年）

〔注〕 この論文は、山里純一「『隋書』流求伝研究の論点」（『古代日本と南島の交流』、吉川弘文館・二〇〇〇年）において、「主に流求国の方位・行程から沖繩説を支持したものであるが、その中で、何蚩らが崑崙人から流求についての知識を得ていたとか、唐代にも流求との交渉があったとする指摘は傾聴に値する。」と紹介された。

⑬ 『隋書』にみえる流求国―建安郡の東・水行五日にして至る海島―  
〈流求国の風俗〉(『続日本紀』を読む会論集) 2、市民の古代  
研究会 関西・一九九四年。後に、『古代の風』189、市民の古代研  
究会・関東・二〇一〇年三月号に収録

⑭ 『古代東国への仏法伝来―古墳のなかの仏教文物を中心として―  
附・『古代東国への仏法伝来』に関する文献目録』(『古事記・日本  
書紀』を読む会論集) 2、市民の古代研究会・関西・一九九四年。  
後に、『古代東国への仏法伝来 附・文献目録―古墳のなかの仏教  
文物を中心として―』崙書房ふるさと文庫(崙書房茨城営業所・二〇  
〇〇年)に収録。(注)「文献目録」は、横山妙子と共著

⑮ 「倭国の暦法と時刻制度」(『市民の古代』16、ビレッジプレス。  
一九九四年)

(注) この論文は、細井浩志「日本古代の宇宙構造論と書記陰陽寮技術  
の起源―特に蓋天説と漏刻をめぐって―」(『東アジア文化還流』  
1-2、「東アジア文化還流」研究会・二〇〇八年)において紹介さ  
れた。

⑯ 『常陸国風土記』にみえる律令用語「解」と「容止」(『常  
陸国風土記の探究』編集委員会・編『常陸国風土記の探究―紀行・  
論文・文献目録・写本―』、市民の古代研究会・関東・一九九五年)

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

(注1) この論文は、国文学研究資料館・編『国文学年鑑』平成7年(国  
文学研究資料館・一九九七年、富士原伸弘・松田信彦・編『研究  
年表―平成七年―』(『古事記学会・編『古事記年報』39、古事記学  
会・一九九七年) および万葉七曜会・編『上代文学研究年報一九  
九五年』(万葉七曜会・編『論集上代文学』22、笠間書院・一九九  
八年)の文献目録に採録された。

(注2) この論文は、植垣節也「『解』か『解す』か『解し申す』か―  
『常陸国風土記』冒頭の問題―」(太田善磨先生追悼論文集刊行  
会・編『古事記・日本書紀論叢』、群書・一九九九年)で紹介され  
た。

⑰ 「古代の琴・瑟・笙・鼓・杵に関する文献目録」(『常陸国風土記  
の探究』編集委員会・編『常陸国風土記の探究―紀行・論文・文献  
目録・写本―』、市民の古代研究会・関東・一九九五年)

(注) この「文献目録」は、国文学研究資料館・編『国文学年鑑』平成  
7年(国文学研究資料館・一九九七年)、富士原伸弘・松田信彦・編  
『研究年表―平成七年―』(『古事記学会・編『古事記年報』39、古事  
記学会・一九九七年) および万葉七曜会・編『上代文学研究年報・  
一九九五年』(万葉七曜会・編『論集上代文学』22、笠間書院・一九  
九八年)の文献目録に採録された。

七〇〇(一九六)

- ⑲ 増田修 横山妙子・共著『「ささら」に関する参考文献目録」  
『古代の風』41・別冊付録、市民の古代研究会・関東・一九九七年。後に、『常総の歴史』22（崙書房茨城営業所・一九九九年）に収録

- （注1） この「文献目録」は、次の「解説」と共に、河内将芳「紹介」『芸能史研究』140、芸能史研究会・一九九八年）で紹介された。  
（注2） この「文献目録」は、『常総の歴史』22に収録した際、次の「解説」と共に、小川博・編「雑誌論文目録」（日本歴史学会・編『日本歴史』640、吉川弘文館・二〇〇一年）に採録された。

- ⑳ 「解説『ささら』に関する参考文献目録」（『古代の風』41・別冊付録、市民の古代研究会・関東・一九九七年）。後に、『常総の歴史』22（崙書房茨城営業所・一九九九年）に収録

- （注） この解説は、『常総の歴史』22に収録した際、音楽文献目録委員会・編『音楽文献目録』27（RIILM日本国内委員会・一九九九年）に採録された。

- ㉑ 「多胡碑—その外観の変遷と「羊」の解釈について—（上）・（下）」『古代の風』44・45、市民の古代研究会・関東・一九九八年）

- （注） この論文は、小川博・編「雑誌論文目録」（日本歴史学会・編『日本歴史』621、吉川弘文館・二〇〇〇年）に採録された。
- ㉒ 「研究史・『琴歌譜』に記された楽譜の解説と和琴の祖型—附・『琴歌譜』研究・参考文献目録—」（『芸能史研究』144、芸能史研究会・一九九九年）。（注）「文献目録」は、横山妙子と共著

- （注1） この論文は、音楽文献目録委員会・編『音楽文献目録』27（RIILM日本国内委員会・一九九九年）、国文学研究資料館・編『国文学年鑑』平成11年（国文学研究資料館・一九九九年）および万葉七曜会・編「上代文学研究年報・一九九九年」（万葉七曜会・編『論集上代文学』25、笠間書院・二〇〇二年）の文献目録に採録された。

- （注2） この論文は、荻美津夫「日本・古代七・芸能」（『史学雑誌』109—5・一九九九年の歴史学界—回顧と展望—」号、山川出版社・二〇〇〇年）において紹介された。
- （注3） この論文は、豊永聡美「中世の天皇と音楽」（吉川弘文館・二〇〇六年）において紹介された。

- ㉓ 「『古代東国への仏法伝来 附・文献目録—古墳のなかの仏教文物を中心として—』崙書房ふるさと文庫（崙書房茨城営業所・二〇〇〇年）。（注）「文献目録」は、横山妙子と共著

〔注1〕 この著書（新書版）は、F・I「著書紹介」（『茨城の民俗』39、茨城民俗学会・二〇〇〇年）で紹介された。

〔注2〕 この著書は、大館真晴・千賀万左江・編「研究年表―平成二一年―」（古事記学会・編『古事記年報』44、古事記学会・二〇〇二年）、国文学研究資料館・編『国文学年鑑』平成12年（国文学研究資料館・二〇〇二年）、史学会・編「文献目録・日本史Ⅱ」（『史学雑誌』11―4、山川出版・二〇〇二年）および小山利彦「『東国文学』研究文献目録抄」（『国文学解釈と鑑賞』67―11、至文堂・二〇〇二年）に採録された。

②6 増田修・横山妙子・共著「『常陸国風土記』研究・参考文献目録」（『常総の歴史』特別号『常陸国風土記』研究・参考文献目録、崙書房茨城営業所・二〇〇一年）

〔注1〕 この「文献目録」は、H・I「書籍紹介」（『茨城の民俗』40、茨城民俗学会・二〇〇一年）および飯澤文夫「『地方史研究雑誌』次速報」（『地方史情報』40、岩田書院・二〇〇一年）で紹介された。

〔注2〕 この「文献目録」は、史学会・編「文献目録・日本史Ⅴ」（『史学雑誌』112―11、山川出版社・二〇〇三年）に採録された。

②7 「『常陸国風土記』の探究(1) 葦穂山と大神駅家の比定地の再検討」（『常総の歴史』26、崙書房茨城営業所・二〇〇一年）

広島弁護士会沿革誌 (6)昭和戦前編・下

〔注1〕 この論文は、野尻忠「日本・古代三・地方行政・支配」（『史学雑誌』11―5・二〇〇一年の歴史学界―回顧と展望―）号、山川出版社・二〇〇二年）において紹介された。

〔注2〕 この論文は、史学会・編「文献目録・日本史Ⅳ」（『史学雑誌』11―8、山川出版社・二〇〇二年）に採録された。

②8 「『常陸国風土記』の探究(2)『西野宣明の閲歴』研究の現状と課題」（『常総の歴史』27、崙書房茨城営業所・二〇〇二年）

〔注〕 この論文は、史学会・編「文献目録・日本史Ⅰ」（『史学雑誌』112―3、山川出版社・二〇〇三年）に採録された。

②9 「『常陸国風土記』の探究(3)『西野宣明の著作』研究の現状と課題―『常陸風土記鈔』の紹介と『風土記概論』の翻刻―」（『常総の歴史』28、崙書房茨城営業所・二〇〇二年）

〔注〕 この論文は、史学会・編「文献目録・日本史Ⅳ」（『史学雑誌』112―8、山川出版社・二〇〇三年）に採録された。

③0 「解説・西宮秀著『落葉の日記』（『水戸史学』70、水戸史学会・二〇〇九年二月号）

六九八（二九四）

〈資料〉

(2) 法律関係著作目録

- ①「明治初年のある公事師の貸金取立旅日記」上原和兵衛『陸奥紀行』(明治四年十月十四日～明治五年五月九日)の紹介」(『修道法学』第二六卷第二号・二〇〇四年二月)
- ②「甦る広島法律学校」文書館・図書館が所蔵する新聞紙・統計資料から復元」(『広島県立文書館だより』第二六号・二〇〇五年七月)
- ③「広島立志舎の創立とその活動」山田十畝・編『演説会誌の葛藤』(『広島新報』明治十三年一月二十七日～同年四月四日)を中心として」(『修道法学』第二八卷第一号・二〇〇五年九月)
- ④「広島法律学校沿革誌 附・講法館・広島法学校・法学講習所・尾道法律学校」(『修道法学』第二八卷第一号・二〇〇五年九月)
- ⑤「広島代言人組合沿革誌 附・広島始審裁判所の官許代書人」(『修道法学』第二八卷第二号・二〇〇六年二月)
- ⑥「広島における陪審裁判」昭和初期の芸備日日新聞・中国新聞の報道ならびに刑事判決原本を中心に見る陪審裁判」(『修道法学』第二九卷第二号・二〇〇七年二月)。注、緑大輔・加藤高・紺谷浩司と共編
- ⑦「広島における陪審裁判」(二)「昭和初期の芸備日日新聞・中国新聞の報道ならびに刑事判決原本を中心に見る陪審裁判」(『修道法学』第三〇卷第一号・二〇〇七年九月)。注、緑大輔・加藤高・紺谷浩司と共編
- ⑧「山口における陪審裁判」(1)「予審終結決定書・陪審公判始末簿および刑事判決書を中心に見る陪審裁判」(『修道法学』第三一卷第一号・二〇〇八年九月)。注、加藤高・紺谷浩司・矢野達雄と共編
- ⑨「広島弁護士会沿革誌」(1)明治編 附・代書人取締規則」(明治三六年広島県令第一〇二号)に基づく代書人組合」(『修道法学』第三二卷第一号・二〇〇八年九月)
- ⑩「山口における陪審裁判」(2)「防長新聞・関門日日新聞および馬関毎日新聞を中心に見る陪審裁判」(『修道法学』第三三卷第一号・二〇〇九年九月)。注、加藤高・紺谷浩司・矢野達雄と共編
- ⑪「広島弁護士会沿革誌」(2)明治編・続 附・代書人取締規則」(明治三六年広島県令第一〇二号)に基づく代書人組合」(『修道法学』第三三卷第一号・二〇〇九年九月)
- ⑫「広島弁護士会沿革誌」(3)大正編」(『修道法学』第三三卷第一号・二〇一〇年九月)
- ⑬「岡山における陪審裁判」陪審公判始末簿・説示・問書・上告審判決ならびに新聞報道を中心に見る陪審裁判」(『修道法学』第三三卷第一号・二〇一〇年九月)。注、加藤高・紺谷浩司・増田修・矢野達雄と共編
- ⑭「松江における陪審裁判」陪審公判始末簿・刑事判決書ならびに松陽新報・山陰新聞の報道を中心に見る陪審裁判」(『修道法学』第三三卷第二号・二〇一一年二月)。注、居石正和・加藤高・紺谷浩司・矢野達雄と共編
- ⑮「広島控訴院管内における陪審裁判」実証的研究のための資料採究」(『修道法学』第三三卷第二号・二〇一一年二月)

修道法学 三六卷 二号

六九七(一九三)

①⑥「広島控訴院管内における陪審裁判―実証的研究のための資料探求―」〔法制史研究〕60・二〇一一年三月

①⑦「広島における陪審裁判（三）補遺―問書、説示、司法省陪審宣伝各地法況および陪審制度実施の感想から見る陪審裁判―」〔修道法学〕第三四巻第一号・二〇一一年九月

①⑧「広島弁護士会沿革誌（4）昭和戦前編・上」〔修道法学〕第三四巻第二号・二〇一二年二月

①⑨「究めたい！研究の現場から 大阪における陪審裁判―実証的研究のための資料探究―」〔JLF NEWS〕50・公益法人日弁連法務研究財団・二〇一二年二月

②⑩「広島控訴院管内弁護士大会沿革誌―明治中期の中国状師会から現在の中国地方弁護士大会に至る道程―」（中国地方弁護士会連合会ニュース「かがやき」33・二〇一二年六月）

②⑪「鳥取における陪審裁判―因伯時報・鳥取新報・大阪朝日新聞ならびに予審終結決定書・説示・刑事判決書に見る陪審裁判―」〔修道法学〕第三五巻第一号・二〇一二年九月。注、加藤高・紺谷浩司・矢野達雄と共編

②⑫「広島弁護士会沿革誌（5）昭和戦前編・中」〔修道法学〕第三五巻第二号・二〇一三年二月

②⑬「松山における陪審裁判―刑事判決書ならびに海南新聞・伊予新報・愛媛新報・大阪朝日新聞（愛媛版）を中心に見る陪審裁判―」〔修道法学〕第三六巻第一号・二〇一三年九月。注、居石正和・紺谷浩司・矢野

達雄と共編  
②⑭「広島弁護士会沿革誌（6）昭和戦前編・下」〔修道法学〕第三六巻第二号・二〇一四年二月

以上